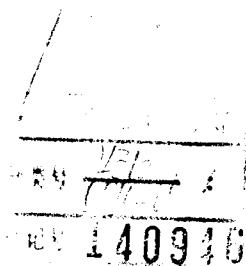


中國第一歷史檔案館編

光緒朝上諭檔

第三四冊（光緒三四年）

廣西師範大學出版社



第三四冊

《光緒朝上諭檔》編輯委員會

主任：徐藝圃 副主任：秦國經

委員（按姓氏筆畫為序）：牛平漢 李國榮 徐藝圃

秦國經 陳鏘儀 葉志如 趙雄 盧經

總主編：葉志如 陳鏘儀 趙雄 牛平漢

本冊主編：趙雄

本冊編輯：李守郡

凡例

一、本書所輯為中國第一歷史檔案館所藏清代光緒朝上諭檔，一年一冊，按原檔影印編輯出版。

二、本書所輯上諭檔基本維持檔案形成的月日順序，以諭旨頒發先後為序，依次編排，一般調整祇在同日檔案文件之中進行。

三、本書對原檔諭旨時間的處理原則：（一）凡原檔標明頒發諭旨時間者，以頒發時間為序編排；（二）凡未標明時間或時間有誤之諭旨，均進行必要的考證查出；（三）個別無法查考時間之諭旨，採用此前一件之時間。第（二）（三）項均在「校勘表」中註明。

四、本書對各類非諭旨性文件，不作時間考證。

五、本書對此類文件作了考證調整：原檔同日内之文件（包括奏摺、奏片、交片、咨文、名單、清單及所錄本日以前諭旨等），凡內容上有內在關係，但按原排列順序卻被相互隔離開的，經考證調整到一起。調整後諭旨在前，所屬附件在後。同一諭旨有兩件以上附件者，按其原有先後順序排列。另，對原檔冊中存在的錯序、錯位、錯頁者，亦分別糾正和調整。凡調整件，均於「校勘表」註明。

六、本書對原檔考證調整的主要依據，是我館所藏清代當時形成的

『隨手登記檔』。

七、本書對同日内奏報的秋審朝審名單等附件，均視為單一文件，依照原有順序歸併於同日相關論旨之後，編一個文件順序號。

八、本書對於原檔中天頭處出現的「硃」、「硃圈」及論旨左下方的「吏部摺」、「禮部片」、「摘鈔交總理衙門」、「×月×日」等字樣，以及論旨行文中間改動添加的各種字樣，均一律保留。

九、本書對原檔上後人打印的阿拉伯頁碼號、原檔夾縫處原標的漢字頁碼號、原檔天頭處所附的紙籤簽、地角處所圈劃的符號，在編輯過程中一律刪除。

十、本書對於原檔中存在的錯字、衍字、簡化字、異體字、古體字等，均不作改動和糾正。

十一、本書將編者經過調整、校勘、考證的結果，以「校勘表」形式說明之。「校勘表」自右往左豎寫，各著錄項自上而下依次登記：順序號、頁碼號、原檔頁碼號、校勘內容。校勘內容和使用符號：（一）無時間（或時間有誤）之論旨，標明據「隨手登記檔」查到的時間；（二）某件論旨時間暫未查出，標用此前一件之時間，以「*」標明；（三）凡經過調整順序的文件，一律註明「調整」字樣；（四）檔案原件殘破缺損者，均註「殘缺」；（五）墨迹霉變污染遮蓋一個字以上者，註明「污跡」字樣，並將所能辨識者的文字標出。

十二、本書所有文件統一編號，各冊序號獨立。

光緒朝上諭檔 第三四冊 目錄

光緒三十四年(戊申 公元一九〇八年)

正月	
初一日	(一)
初二日	(二)
初四日	(四)
初六日	(四)
初七日	(五)
初八日	(六)
初九日	(八)
十一日	(九)
十二日	(一一)
十三日	(一一)
十四日	(一二)
十五日	(一三)
十六日	(一三)
十七日	(一三)

二月	
初一日	(一二)
初二日	(一二)
初三日	(一二)
初四日	(一三)
初五日	(一四)
二十日	(一五)
二十二日	(一五)
二十三日	(一六)
二十四日	(一六)
二十五日	(一六)
二十六日	(一七)
二十七日	(一九)
二十八日	(一九)
二十九日	(二〇)

初六日	(二四)
初七日	(二四)
初八日	(二七)
初九日	(二九)
初十日	(三〇)
十一日	(三一)
十二日	(三三)
十三日	(三四)
十四日	(三四)
十五日	(三四)
十六日	(三五)
十七日	(三五)
十九日	(三六)
二十日	(三六)
二十一日	(三七)
二十二日	(三八)
二十三日	(三八)
二十四日	(三八)
二十六日	(四〇)
二十七日	(四一)
二十九日	(四一)

三月		
初一日	(四二)
初二日	(四三)
初三日	(四四)
初四日	(四五)
初五日	(四九)
初六日	(五〇)
初七日	(五〇)
初八日	(五一)
初九日	(五四)
初十日	(五五)
十一日	(五五)
十二日	(五五)
十三日	(五六)
十四日	(五六)
十五日	(五七)
十六日	(五八)
十七日	(五八)
十八日	(六二)
十九日	(六三)

四月

二十日	(六三)
二十一日	(六三)
二十二日	(六四)
二十四日	(六五)
二十五日	(六五)
二十六日	(六五)
二十七日	(七三)
二十八日	(七三)
初一日	(七七)
初二日	(七八)
初三日	(八〇)
初四日	(八〇)
初五日	(八三)
初六日	(八三)
初七日	(八五)
初八日	(八七)
初九日	(八七)
初十日	(八七)
十一日	(八八)
十二日	(八八)

五月

十三日	(八九)
十四日	(八九)
十五日	(九〇)
十六日	(九一)
十七日	(九一)
十八日	(九二)
十九日	(九三)
二十日	(九四)
二十一日	(九四)
二十二日	(九五)
二十三日	(九五)
二十四日	(九五)
二十五日	(九六)
二十六日	(九八)
二十七日	(九九)
二十八日	(一〇〇)
二十九日	(一〇一)
三十日	(一〇一)
初一日	(一〇三)
初二日	(一〇三)

初三日	(一〇四)
初四日	(一〇六)
初五日	(一〇六)
初六日	(一〇七)
初七日	(一〇七)
初八日	(一〇七)
初九日	(一〇八)
初十日	(一一二)
十三日	(一一二)
十四日	(一一三)
十五日	(一一六)
十六日	(一一七)
十七日	(一一八)
十八日	(一一八)
十九日	(一一九)
二十日	(一二一)
二十一日	(一二二)
二十二日	(一二二)
二十三日	(一二五)
二十四日	(一二五)
二十五日	(一二五)

六月

初一日	(一三三)
初二日	(一三三)
初三日	(一三四)
初四日	(一三五)
初五日	(一三六)
初六日	(一三六)
初七日	(一三七)
初八日	(一三八)
初九日	(一三九)
初十日	(一四〇)
十一日	(一四一)
十二日	(一四一)
十三日	(一四一)
二十六日	(一二六)
二十七日	(一二七)
二十八日	(一三〇)
二十九日	(一三〇)
三十日	(一三一)

七月

初八日	(一五五)
初七日	(一五四)
初六日	(一五三)
初五日	(一五三)
初四日	(一五二)
初三日	(一五一)
初二日	(一五一)
二十九日	(一五〇)
二十七日	(一四九)
二十五日	(一四九)
二十四日	(一四七)
二十三日	(一四六)
二十二日	(一四五)
二十一日	(一四五)
二十日	(一四五)
十九日	(一四四)
十七日	(一四三)
十六日	(一四三)
十五日	(一四二)
十四日	(一四二)

八月

初九日	(一五七)
初十日	(一五八)
十一日	(一五八)
十二日	(一五九)
十三日	(一六〇)
十四日	(一六〇)
十五日	(一六一)
十六日	(一六一)
十七日	(一六二)
十八日	(一六三)
十九日	(一六三)
二十日	(一六四)
二十一日	(一六四)
二十二日	(一六四)
二十四日	(一六五)
二十五日	(一六五)
二十六日	(一六九)
二十七日	(一七〇)
二十八日	(一七一)
三十日	(一七二)
初一日	(一七三)

初二日	(一七四)
初三日	(一七五)
初四日	(一七五)
初五日	(一七五)
初九日	(一七七)
初十日	(一七八)
十二日	(一七九)
十三日	(一七九)
十四日	(一八〇)
十六日	(一八〇)
十七日	(一八一)
十八日	(一八一)
十九日	(一八三)
二十日	(一八三)
二十一日	(一八三)
二十二日	(一八四)
二十四日	(一八四)
二十五日	(一八五)
二十六日	(一八六)
二十七日	(一八七)
二十八日	(一八九)

二十九日	(一九〇)
九 月		
初一日	(一九一)
初二日	(一九一)
初三日	(一九一)
初四日	(一九二)
初五日	(一九三)
初六日	(一九三)
初七日	(一九四)
初八日	(一九四)
初九日	(一九六)
初十日	(一九九)
十一日	(一九九)
十二日	(二〇二)
十三日	(二〇二)
十四日	(二〇三)
十五日	(二〇四)
十六日	(二〇四)
十七日	(二〇五)
十八日	(二一〇)

十月

二十日	(二二一)
二十一日	(二二一)
二十二日	(二二三)
二十三日	(二一九)
二十四日	(二二五)
二十五日	(二二八)
二十七日	(二二八)
二十八日	(二二九)
二十九日	(二三〇)
三十日	(二三一)
初一日	(二三三)
初二日	(二三三)
初三日	(二三三)
初四日	(二三四)
初五日	(二三六)
初六日	(二三八)
初九日	(二三九)
初十日	(二三九)
十四日	(二四〇)
十七日	(二四〇)

十一月

十九日	(二四一)
二十日	(二四三)
二十一日	(二四三)
二十二日	(二四九)
二十三日	(二五三)
二十四日	(二五四)
二十五日	(二五五)
二十六日	(二六一)
二十七日	(二六四)
二十八日	(二六六)
二十九日	(二六七)
三十日	(二六七)
初二日	(二六九)
初三日	(二六九)
初四日	(二六九)
初五日	(二六九)
初六日	(二七〇)
初七日	(二七〇)
初八日	(二七一)
初九日	(二七三)

初十日	(二七四)
十一日	(二七五)
十二日	(二七七)
十三日	(二七七)
十四日	(二七七)
十五日	(二七八)
十六日	(二七九)
十七日	(二七九)
十八日	(二八〇)
二十日	(二八一)
二十一日	(二八三)
二十二日	(二八四)
二十三日	(二八五)
二十四日	(二八七)
二十五日	(二九〇)
二十六日	(二九四)
二十七日	(二九九)
二十八日	(二九九)
二十九日	(三〇三)
初一日	(三〇五)

十二月

初二日	(三〇五)
初三日	(三〇七)
初四日	(三〇九)
初五日	(三一〇)
初六日	(三一三)
初七日	(三一六)
初八日	(三一七)
初九日	(三一九)
初十日	(三二二)
十一日	(三二五)
十二日	(三二七)
十三日	(三三〇)
十四日	(三三五)
十五日	(三三八)
十六日	(三四三)
十七日	(三四五)
十八日	(三四七)
十九日	(三四九)
二十日	(三四九)
二十一日	(三五〇)
二十二日	(三五五)
二十三日	(三五六)
二十四日	(三六〇)

二十五日	(三六四)
二十六日	(三六六)
二十七日	(三六七)
二十八日	(三六九)
二十九日	(三七五)
三十日	(三七七)

光緒朝上諭檔 第三四冊 校勘表

序号	页码	原档页码	校勘内容
十一	六	三一	調整
二〇	九	五三	調整
五一	一五	一一九	調整
六〇	一七	一四七	調整
六九	一八	一五七	調整
七〇	一八	一五九	調整
七三	一九	一六一	調整
一〇五	二五	五一	調整
一〇六	二六	五三	調整
一〇七	二六	五五	調整
一一七	二九	七九	調整
一一〇	三一	一〇三	調整
一一一	三一	一〇五	調整
一一二	三二	一〇七	調整
一七七	四一	一九五	調整

序号	页码	原档页码	校勘内容
二〇〇	四九	四七	三月初五日
二〇五	五〇	五七	三月初六日
二〇六	五〇	五九	三月初六日
二二〇	五二	九七	調整
二四二	五七	一三一	調整
二五〇	六一	一六一	調整
二七七	六六	二〇九	調整
二八九	七七	一九	調整
三一〇	八一	五九	調整
三二一	八四	七七	調整
三七六	九七	七九	調整
三七八	九七	一八九	調整
四一九	一〇九	五三	調整
四二一	一一〇	五五	調整

序号	页码	原档页码	校勘内容
四三五	一一六	七九	調整
四四二	一一八	一〇五	調整
四四六	一一九	一一七	調整
四四七	一二〇	一一九	調整
四四八	一二一	一二三	調整
四五四	一二二	一三一	調整
四五九	一二三	一五五	調整
四六〇	一二三	一五七	調整
四六一	一二三	一五九	調整
四六四	一二四	一六一	調整
四八六	一二八	一九七	調整
四八七	一二九	二〇一	調整
四八八	一二九	二〇三	調整
四八九	一二九	二〇五	調整
四九〇	一二九	二〇七	調整
四九三	一三〇	二〇九	調整
五〇九	一三四	九	六月初三日
五一二	一三四	一七	調整
五四五	一四一	八三	六月十一日

序号	页码	原档页码	校勘内容
五九〇	一五二	一三	調整
六三二	一六〇	九九	調整
六四一	一六二	一一三	七月十六日
六六四	一六六	一六三	調整
六六五	一六六	一六五	調整
六六六	一六六	一六七	調整
六六七	一六八	一七五	調整
六六八	一六八	一七七	調整
六七〇	一六九	一八一	調整
七五六	一八八	一五五	調整
七五七	一八八	一五七	調整
八三五	二一〇	一六一	九月十八日
八三六	二一一	一六三	九月十八日
八五五	二二六	二五一	調整
八八〇	二三一	三〇五	調整
八八二	二三二	三〇三	調整
八九九	二三六	四一	調整
九〇〇	二三六	四三	調整
九〇一	二三七	四五	調整

序号	页码	原档页码	校勘内容
九一〇	二三九	五五	十月初九日
九一四	二四〇	六三	十月十七日
九二五	二四三	九三	調整
九三九	二四九	一三三	調整
九四一	二五〇	一三五	調整
九四三	二五〇	一三七	調整
九四五	二五〇	一三一	調整
九四六	二五一	一四七	調整
九六八	二五六	一九三	調整
九六九	二五七	一九五	調整
九七〇	二五七	一九七	調整
九七一	二五七	一九九	調整
九七二	二五八	二〇一	調整
九七三	二五八	二〇三	調整
九七四	二五八	二〇五	調整
九七五	二五九	二〇七	調整
九七六	二六〇	二一一	調整
一〇一六	二七〇	二九	調整
一〇二四	二七一	三七	殘缺

序号	页码	原档页码	校勘内容
一〇六四	二八〇	一二七	調整
一〇八〇	二八四	一五五	調整
一〇九〇	二八七	一九一	調整
一〇九一	二八七	一九三	調整
一〇九二	二八七	一九五	調整
一一〇七	二九三	二一一	十一月二十五日
一一〇八	二九四	二一三	十一月二十五日
一一六七	三一五	六三	調整
一一七五	三一七	七九	調整
一一八〇	三二〇	九三	調整
一一八一	三二一	九五	調整
一一九五	三二六	一二三	調整
一二〇〇	三二七	一三九	調整
一二〇一	三二八	一四一	調整
一二〇九	三三一	一五一	調整
一二一〇	三三一	一五三	調整
一二一一	三三二	一五七	調整
一二一二	三三三	一六一	調整
一二八〇	三五八	三〇三	十二月二十三日
一二八二	三五九	三一三	調整

1 光緒三十四年正月初一日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨
醇親王載灃大學士世績外務部尚書袁世凱加恩
均著賞在西苑門內乘坐二人肩輿欽此

2 光緒三十四年正月初一日內閣奉

上諭醇親王載灃著補授軍機大臣欽此

3 光緒三十四年正月初二日內閣奉

上諭上年順天直隸各屬被災地方業經頒發帑銀
分別蠲緩糧租小民諒可不至失所惟念今春青
黃不接之時民力未免拮据加恩著將被災歉收
之通州等州縣廳各村莊應徵本年春賦地丁錢
糧等項並原緩光緒三十三年及節年地丁錢糧
等項分別緩至本年麥後及秋後徵其坐落武
清天津二縣地方之津軍廳葦漁課納糧地畝並
歸入該二縣災歉村莊一律辦理以紓民力該署
督即按照原奏開明詳細數目刊刻謄黃徧行曉

諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷履端
布聞嘉惠畿疆之至意該部即遵諭行欽此

4 軍機大臣面奉

諭旨本月初五日祭

祈穀壇朕親詣行禮初四日

皇宮宇點香祝

壇位視籩豆視牲遣恭親王溥偉恭代行禮欽此

禮部

宗人府

侍衛處

恭親王

正月初二日

5 王大臣年歲生日

和碩禮親王世鐸 年六十六歲七月初一日生日

恭親王溥偉 年二十九歲十一月二十二日生日

醇親王載灃 年二十六歲正月初五日生日

慶親王奕劻 年七十一歲二月二十九日生日

睿親王魁斌 年四十五歲八月十二日生日

鄭親王昭煦 年九歲十月初六日生日

豫親王懋林 年十七歲五月十七日生日

肅親王善耆 年四十三歲八月二十七日生日

莊親王載功 年五十歲八月初六日生日

怡親王毓麒 年九歲三月十九日生日

多羅克勤郡王松杰 年三十歲十一月十一日生日

順承郡王訥勒赫 年二十八歲五月初八日生日

多羅貝勒載瀛 年五十歲正月十二日生日

載潤 年三十一歲七月十六日生日

載洵 年二十四歲四月初七日生日

載濤 年二十二歲五月十三日生日

貝勒銜固山貝子溥倫 年三十五歲十月初二日生日

固山貝子溥忻 年十六歲七月十九日生日

毓楠 年五十一歲五月十二日生日

奉恩鎮國公載洋 年四十一歲二月二十四日生日

溥需 年三十歲四月十八日生日

溥植 年二十七歲五月十九日生日

溥望 年二十五歲五月二十二日生日

溥估 年二十一歲十二月三十日生日

毓亨 年三十四歲七月二十四日生日

毓敏 年三十一歲二月初一日生日

毓岐 年二十六歲九月初一日生日

毓璋 年二十歲正月初六日生日

全榮 年四十歲十月初二日生日

魁璋 年十五歲三月十九日生日

奉恩輔國公載帛 年五十六歲十月初五日生日

全瑛 年五十三歲六月二十八日生日

壽全 年四十八歲二月十二日生日

意普 年四十一歲正月十七日生日

溥葵 年三十六歲五月二十五日生日

溥閏 年二十五歲六月十一日生日

溥釗 年二十四歲四月二十一日生日

毓昭 年二十六歲十二月初三日生日

增培 年十六歲正月二十六日生日

廣壽 年十八歲十二月二十六日生日

大學士孫家鼐 年八十二歲三月十二日生日

世績 年五十六歲四月十五日生日

那桐 年五十二歲七月二十三日生日

張之洞 年七十二歲八月初三日生日

協辦大學士榮慶 年五十歲十二月初八日生日

鹿傳霖 年七十三歲七月十八日生日

尚書袁世凱 年五十五歲八月二十日生日

陸潤庠 年六十八歲五月初四日生日

溥良 年五十五歲十月二十二日生日

鐵良 年四十六歲二月十八日生日

戴鴻慈 年五十六歲正月初六日生日

溥頤 年六十歲四月十五日生日

陳璧 年五十六歲六月十九日生日

壽耆 年五十一歲十一月初六日生日

都察院都御史陸寶忠 年五十九歲七月初六日生日

署都御史張英麟 年七十一歲四月十四日生日

內務府大臣奎俊 年六十八歲三月十九日生日

繼祿 年六十四歲六月初七日生日

增崇 年四十四歲十一月初四日生日

都統那彥圖 年四十二歲上月十七日生日

符珍 年五十五歲七月十一日生日

成章 年七十歲四月十九日生日

芬卑 年六十七歲二月二十七日生日

桂祥 年六十五歲三月十八日生日

壽蔭 年七十四歲十二月十七日生日

奎順 年六十三歲十月二十日生日

增祺 年六十一歲六月二十六日生日

李殿林 年六十六歲六月二十日生日

色楞額 年六十二歲四月十四日生日

葛寶華 年六十五歲七月十八日生日

崇勳 年六十六歲七月初二日生日

博迪蘇 年三十八歲十月初三日生日

張德彝 年六十二歲十月十二日生日

明啓 年六十九歲三月二十日生日

總督徐世昌 年五十四歲九月十三日生日

端方 年四十八歲三月十一日生日

趙爾巽 年六十五歲五月二十三日生日

升允 未據咨報

錫良 年五十六歲正月二十一日生日

張人駿 年六十三歲

松壽 年六十歲十一月十二日生

署總督楊士驤 未據咨報

將軍貽穀 年五十四歲九月十四日生

樸壽 年五十三歲四月二十四日生

綽哈布 年五十六歲八月初四日生

長庚 年六十五歲九月十五日生

瑞興 年六十九歲十二月二十八日生

鳳山 年五十歲

台布 未據咨報

清銳 未據咨報

恩存 未據咨報

景澧 年五十七歲四月二十五日生

馬亮 年六十三歲六月初十日生

都統廷杰 年六十八歲十一月二十日生

誠勤 未據咨報

6 光緒三十四年正月初四日內閣奉

上諭上年山東被災各州縣業經分別蠲緩錢漕小

民諒可不至失所惟念今春青黃不接之時民力

未免拮据加恩著將被災之濟甯等州縣各村莊
應徵本年上忙錢漕租課等項均分別緩至本年
麥後及秋後徵其坐落該州縣境內之寄莊窰
課與裁併衛所並水利等場均隨同民田一律辦
理以紓民力該署撫即按照單開詳細數目刊刻
謄黃徧行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用
副朝廷始和布澤惠愛羣黎之至意該部即遵諭
行欽此

7 光緒三十四年正月初六日內閣奉

上諭岑春煊奏查明南洲等廳州縣被水受旱請分
別蠲緩遞緩錢漕蘆課等項一摺湖南上年夏秋
間南洲澧州安鄉等廳州縣湖河泛漲低窪田畝
悉被淹沒濱湖堤垸間被沖潰高阜田禾入夏被
旱收成均形歉薄若將應徵錢漕蘆課等項照常
徵收民力實有未逮加恩著照所請所有南洲澧
州安鄉等廳州縣均著按照被災輕重情形將應
徵錢漕蘆課等項分別蠲緩遞緩以紓民力該撫
即將所開詳細數目刊刻謄黃徧行曉諭務使實

惠及民毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱之至
意餘著照所議辦理該部知道欽此

8 光緒三十四年正月初六日內閣奉

上諭林紹年奏特參庸劣不職各員一摺河南候補
道洪懌孫嗜賭耽嬉玩誤公事候補知府宋承麟
顏頊陰狡貽誤滋多試用通判陳壽樟品行卑污
人羞與伍分省通判董頤詭詐嗜利膽大妄為臨
潁縣知縣章炳燾貪黷無厭聲名狼籍汝陽縣知
縣張心泰遇事科罰民怨滋深息縣知縣孔繁潔
善於鑽營聲名甚劣林縣知縣廖學沂聽斷失平
居心難問汲縣知縣潘毓岱縱丁滋議品節尤虧
署洛陽縣知縣胡金淦嗜好甚深操守難信分缺
先知縣恩麟品行卑濁才識昏庸候補知縣周桐
豫心術險詐噴有煩言候補知縣金昆凡庸鮮心
衆議不容趙允忠侵沒學款廉恥毫無太康縣教
諭呂萬源行止不檢濬縣教諭張霖持躬不謹開
封府照磨成壽麟品行不端署永城縣典史劉士
燮聲名平常補用參將王殿魁利心甚重補用守

備馬水德藉差滋擾候補守備馬文塗聲名素劣
均著即行革職試用道楊恩慶溺於嗜好才具亦
庸懷慶府知府李廷瑞事理不明聲名尤遜孟津
縣知縣田務本墮壞學務心性粗浮內鄉縣知縣
董駿聲朋比為非不知自愛太康縣知縣夏聯鈺
敷衍因循難期振作試用知縣張鴻森舉止輕浮
不知檢束陳留縣教諭徐之瀛通許縣訓導許保
忠均耽於嗜好衛輝府經歷戴鴻猷年力衰頹汴
川縣典史程瑞業官親用事均著原品休致彰衛
懷道馮光元優柔寬順志不在公汝州直隸州知
州松埭心地糊塗案多謬誤陳州府通判韓炳性
頗喜事嗜好尤深均著開缺回籍汝甯府知府羅
維垣謹飭有餘才力過弱著開缺片補餘著照所
議辦理該部知道欽此

9 光緒三十四年正月初七日內閣奉

上諭河南彰衛懷道員缺著石庚補授欽此

10 光緒三十四年正月初七日内閣奉

上諭河南汝甯府知府員缺著李兆珍補授欽此

11 河南彰德懷道汝甯府知府員缺請旨簡放

12 光緒三十四年正月初七日内閣奉

上諭河南開封府知府員缺緊要著該撫於通省知府內揀員調補所遺員缺著陶福同補授欽此

13 光緒三十四年正月初八日内閣奉

上諭端方等奏江甯等屬秋禾被災請分別蠲緩漕糧一摺江蘇江甯等屬上年入夏以來亢旱日久秋後連遭大雨收成歉薄應徵新漕若令照常完納民力實有未逮加恩著照所請所有上元等五縣歉收田地及山陽等二十五州縣勘不成災田地應徵上年漕糧及改徵折色銀兩均著分別蠲緩帶徵其上元等五縣未墾荒田同江都縣及揚州衛營壘壓廢田地除墾熟改徵外其餘坍荒地

畝應徵漕糧米石並折色銀兩著仍予蠲免以紓民力餘著照所議辦理該督等即照所奏詳細開明區圖村莊項畝及應行蠲緩細數刊刻謄黃編行曉諭務使實惠均霑毋令吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意該部知道欽此

14 光緒三十四年正月初八日内閣奉

上諭端方等奏江甯等屬秋禾被災請將新舊錢糧分別蠲緩一摺江蘇江甯等屬上年入夏亢旱秋後連得大雨湖河泛漲田禾多被淹浸復受風災收成歉薄若將新舊錢糧照常徵收民力實有未逮加恩著照所請所有上元等二十八州縣聽同淮安等四衛歸併各州縣經徵被災田地及未墾荒田營壘壓廢各田應徵三十三年地丁錢糧均著分別蠲緩其上元等州縣廳衛節年未完原緩近緩各款均著分別展緩帶徵以紓民力該督撫即照所奏詳細開明區圖村莊項畝數目刊刻謄黃編行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意餘著照所議辦理該部知道欽此

15 光緒三十四年正月初八日內閣奉

上諭瑞方等奏蘇州等屬秋收歉薄請將應徵錢漕分別蠲減緩徵一摺江蘇蘇州等屬上年自春徂夏雨澤愆期秋後復遭靈雨通省收成均形歉薄若將應徵錢漕照常徵收民力實有未逮加恩著照所請所有長洲等二十八廳州縣拋荒坍塌等田銀米常熟等二縣被傷無收田銀米青浦等四州縣被淹未種田銀米陽湖縣被淹歉收田上忙條銀崑山等二縣拋荒蘆價田條銀江陰縣展緩三十年新墾田銀米靖江等二縣被歉無收蘆田課銀一律蠲免崑山等縣歉收田條銀漕米各等項均著分別減免以紓民力餘著照所議辦理該督等即照所奏詳細開明區圖村莊頃畝及應行蠲免細數刊刻謄黃編行曉諭務使實惠均霑毋令吏胥舞弊用副軫念民艱至意該部知道欽此

16 光緒三十四年正月初八日內閣奉

上諭馮汝駮奏耆紳鄉舉重違請旨加恩一摺開缺大學士王文韶早年登第數歷中外晉贊綸扉前因

年老准予開缺回籍現在該大學士鄉舉之年適周花甲洵屬藝林盛事加恩著賞給太子太保銜以惠耆臣欽此

17 滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京文年

在任即選知府選缺後以道員補用章京侍讀成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京侍讀鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

四品銜章京候補侍讀裕銘

漢頭班

領班三品章京王慶平

幫領班四品章京胡彤恩

花翎員外郎銜章京主事劉毅孫

章京員外郎趙廷珍

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

額外章京吏部候補主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京內閣候補中書蕭端潔

滿二班

花翎領班三品章京文徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京郎中桂蔭

花翎四品銜章京郎中榮奎

三品銜 記名道府章京郎中長明

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

額外章京陸軍部員外郎星輅

漢二班

領班三品章京曹廣楨

三品銜幫領班四品章京易貞

章京 記名繁缺知府郎中孫筭經

五品銜章京主事劉慶篤

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴額外章京禮部員外郎萬雲路

額外章京民政部候補主事雷廷壽

18 光緒三十四年正月初九日內閣奉

上諭馮汝駿奏查明杭州等府所屬各場未墾蕪蕩
田地請蠲免電課錢糧一摺杭州嘉興松江各場
所屬荒蕪蕪蕩墾復無多若將應徵電課錢糧照
常徵收電力實有未逮加恩著照所請所有仁和
海沙鮑郎蘆漚橫浦浦東等場荒蕪未墾蕪蕩應
徵上年電課錢糧准其全行蠲免以紓電力餘著
照所議辦理該撫即刊刻謄黃徧行曉諭務使實
惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意
該部知道欽此

19 光緒三十四年正月初九日內閣奉

上諭福建督糧道員缺著欽星炳補授欽此

20 福建督糧道員缺請

旨簡放

21 光緒三十四年正月初九日內閣奉

上諭福建福州府員缺緊要者該督於通省知府內

揀員調補所遺員缺著督格補授欽此

22 光緒三十四年正月初九日奉

旨蘇州織造著械興去欽此

23 軍機大臣 字寄

兩廣總督張 廣西巡撫張 光緒三十四年

正月十一日奉

上諭有人奏廣西不靖宜培元氣以清寇源而厚民生一摺又片奏興辦礦務宜派員招商前赴廣西勸令剋期開辦等語著張人駿張鳴岐體察情形妥籌辦理原摺片均著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

24 軍機大臣 字寄

農工商部 稅務處 各省督撫 光緒三十四年正月十一日奉

上諭近年米紗布進口日益增多實為漏卮之第一大宗民間紡織漸至失業固由工作之未精尤因種植之不善利源外溢何所底止查美洲等處棉花種類精良莖葉高大花實肥碩所出之絨細軟而長織成之布滑澤柔軟勝於內地所產數倍皆由外國農學家於辨別種類審度土性燥溼考驗精詳故能地產日精商利日厚中國棉花質性較遜於外國種植又不講求南北各省間有數處所產較勝而培植仍多鹵莽是必須博求外國嘉種採取培養良法料美工精自能廣行各省保全利權著農工商部詳細考查各國棉花種類種植成法分別彙擇編集圖說並優定獎勵種植章程頒行各省由該省督撫等督率認真提倡設法改良其果能改良之棉花紗布經過各關卡應如何優加體恤並著稅務處妥籌辦理以資暢銷該部未經頒章以前著各省督撫先行體察該省情形勸

諭商民實力籌辦或選擇官地試種或集股設立
公司多方鼓舞所屬地方官及紳商如有切實創
辦早著成效應令將所產棉花送部查驗准其奏
請優獎此乃興利急務勿得視為具文致負朝廷
振興農務惠利民生之至意欽此遵
旨寄信前來

25 光緒三十四年正月十一日內閣奉

上諭開缺山西巡撫胡聘之前在巡撫任內亦學妄
為貽誤地方著即行革職其隨同辦事之江蘇候
補道賈景仁已革知府劉鷲胆大貪劣狼狽為奸
賈景仁著革職永不敘用劉鷲著一併永不敘用
以示薄懲欽此

26 光緒三十四年正月十一日內閣奉

上諭瑞良奏查明上年江西被災各屬分別緩徵遞
緩新舊錢漕等項開單呈覽一摺江西南昌等府
各屬上年春夏之交雨水過多五六月間又患亢
旱被災情形輕重不同收成均甚歉薄若將應徵

新舊錢漕等項照常徵收民力實有未逮加恩著
照所請所有勘實被災新建等縣並九江府同知
所轄之南九二衛及勘未成災民困未蘇之南昌
等廳縣並安義寄莊建昌等縣均著將應徵新舊
錢漕蘆課屯餘分別緩徵遞緩以紓民力該撫即
按照原單所開各廳縣村莊頃畝分數暨應緩銀
兩木石各數刊刻曉諭黃編行曉諭務使實惠均霑
毋令吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意該部知
道單併發欽此

27 交理藩部本日

貴部代奏阿巴噶頭等台吉札那密達爾呈
請求

賞差使一摺奉

旨著俟下次年班帶領引見再行加恩欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交

正月十一日

28 光緒三十四年正月十二日內閣奉

上諭湖北提學使者高凌蔚補授欽此

29 光緒三十四年正月十三日內閣奉

上諭京師人煙稠密貨戶孔多食用物價稍昂

小民生計立形困難近日銀價陡漲物值因亦增

高嗟我黎庶其何以堪著度支部迅即撥銀五十

萬兩發交順天府尹承領即責成該府尹妥擇

官商銀號代為賤價收錢以平銀值一面嚴禁各

商肆任意抬高物價具有私運大宗銅元入京者

由崇文門監督郵傳部認真查禁倘有奸民私鑄

銅元潛銷充斥者著責成民政部直隸總督順天

府步軍統領嚴密查拏盡法懲治俟銀價物價皆

平由該府尹將承領銀兩解繳部庫其賤價虧耗

之款准其核實開單奏銷尚書陳壁前在府尹任

內辦理銀錢平價尚屬得法並著該尚書會同府

尹妥籌辦理務使操縱得法國幣不至虛糜用副

朝廷體恤民困之至意欽此

30 軍機大臣面奉

諭旨前以制錢缺乏各省鼓鑄當十銅元以期相輔

而行乃近來銅元益多制錢益少銅元一枚不足

抵制錢十文之用而奸商折扣盤剝頗足為害市

而且小民因制錢太少零星日用諸多不便當各

省鼓鑄之始原期準作十文與制錢兩無軒輊而

錢少元多遂至錢貴元賤不但物價騰漲大礙小

民生計抑且鑄本日虧並足損礙餉源自非鑄用

一文之錢令一文本位常存不足以顯銅元當十

之數保銅元行銷之利前年湖北廣東等省曾奏

鑄一文新錢當經度支部議奏通行而各省搭鑄

一文新錢者仍不多見蓋由於鑄造一文新錢成

本較重不免稍有虧耗然以鑄當十銅元餘利酌

量提補虧耗尚不至無著所失無多所全甚大著

度支部通行各省廠凡鑄當十銅元必須於定額

之外加鑄三成一文新錢以資補救其形式重量

銅質鑄本均須預為核算妥為配合又必須與當

十銅元工料成本大致相準則兌換價值銅元一

枚必當新鑄制錢十文庶利推行而資信用至此

項一文新錢或宜黃銅或宜紫銅或宜有孔或宜無孔並著該部詳晰考校悉心釐定迅速奏聞務期子母相權大小相維以便民生而正國法欽此

鈔文及文部

正月十三日

31 光緒三十四年正月十四日內閣奉

上諭二月初二日祭

社稷壇朕親詣行禮欽此

32 光緒三十四年正月十四日奉

旨烏珍著調正藍旗滿洲副都統所遺鑲紅旗蒙古

副都統著瑞豐補授欽此

33 光緒三十四年正月十四日內閣奉

上諭趙爾豐奏考察地方各員分別舉劾一摺四川

鹽茶道黃承暉永甯道趙藩川東道陳通聲候補

道丁昌燕潼川府知府吳保齡石柱廳同知董崇

本太和鎮通判朱世鋪蒼溪縣知縣姜秉善太平

縣知縣朱遠綬據稱該九員均與論翁然治行可

觀均著傳旨嘉獎候補通判吳長靖侵吞公款延
抗不交著革職押案追繳維州協副將現署想功
協副將張連同糊塗妄為幾釀事變試用通判李
道根辦理釐金致釀事端高縣知縣周賡禧政事
怠忽操守難信補用知縣周昌隆歐陽霖俱行止
有虧不堪造就大甯縣知縣凌邦燮縱差擾民居
心貪鄙試用鹽茶道使馮天爵辦事荒謬罔惜名
譽清女性情乖戾不安本分石柱廳照磨張慎初
擅受民詞教戒不悛試用縣丞方觀瀛藉事招搖
婪索勒取章樹滋行為苟且幾釀命案候補典史
葉樹森稜鄙纏訟不知自愛試用從九品鄭崇詩
設局撞騙不知廉恥試用未入流於炳權心地糊
塗行為貪鄙均著即行革職彭山縣知縣康壽桐
差役朦弊冥然罔覺試用知縣濮文蔚所收罰款
抗不交出均著以府經縣丞降補捐升知縣賀恆
工於舞弊違章收銀府經歷司徒琨激釀事端並
不稟報均著以典史降補名山縣知縣李士則才
力竭蹶新甯縣知縣德存性情柔懦巫山縣知縣
梁鴻耆才欠開展井研縣知縣陳矩緝捕不力崇

甯縣知縣蔣積文辦事迂緩內江縣知縣梁源澄
不勝衝要均着開缺另補餘着照所議辦理該部
知道欽此

34 交外務部本日外務部奏請開復已革總兵楊

鴻禮原官摺奉

旨楊鴻禮著開復原官原銜並銷去永不敘用字樣

欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計黏鈔摺一件

正月十四日

35 光緒三十四年正月十五日內閣奉

上諭沈曾植著補授安徽提學使並著理安徽布政
使欽此

36 光緒三十四年正月十六日內閣奉

上諭徐世昌唐紹儀奏甄別屬員請旨懲儆一摺奉
天前署遼陽州知州歐陽翥居心巧詐才足濟貧
准補鐵嶺縣知縣鮮俊英貪狠成性苛斂病民准

補靖安縣知縣周士藻舉止浮躁不洽輿情前署
寬甸縣知縣馬夢吉行止有虧操守難信署廣甯
城守尉榮綸貪縱無厭膽大妄為左翼漢軍協領
孫真詭詐嗜利巧於營私署廣甯縣典史呂震甲
不知檢束屢次被控小凌河路記廣德文理不通
不諳公事均著即行革職餘著照所議辦理該部
知道欽此

37 光緒三十四年正月十六日內閣奉

上諭安徽提學使者吳同甲著理欽此

38 軍機大臣 字寄

陝甘總督升 光緒三十四年正月十七日奉

上諭前據志銳奏稱甯夏等屬新舊兩教不甚相安
賴有董福祥素有威望暗中鎮懾等語現在董福
祥業經病故難保無匪徒生心煽惑者升允悉心
體察密籌防範勿稍大意其董福祥舊部將弁如
有才堪任使者亦可詳慎訪查酌量委用並嚴飭
所屬地方官隨時宣布朝廷德意無論漢民回民

暨新舊兩教均屬一視同仁統歸涵育遇有控訟
案件務須持平判斷不得稍有偏倚以息猜嫌而
靖地方欽此遵

旨寄信前來

39 交度支部本部本日提督姜桂題奏籌辦江防併改
新舊營隊請撥的款開單呈
覽摺奉

旨著度支部迅即籌撥欽此相應傳知

貴部
提督欽遵可也此交

計粘鈔摺一件
正月十七日

40 交會議政務處憲政編查館本日喀喇沁郡王貢桑諾爾布奏

敬陳管見摺又奏高珠穆沁旗牧政請

飭部會同議辦片又奏各蒙旗辦事定章應斟酌變

通片均奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

計粘鈔摺片共三件
正月十七日

41 交度支部本部本日提督姜桂題奏調員差委片奉
旨著照所請該衙門知道欽此相應傳知

貴部
提督欽遵可也此交

計粘鈔摺一件
正月十七日

42 交郵傳部本日

貴部奏擬訂鐵路地畝納稅詳細章程摺單一
件奉

旨依議欽此又奏廣東粵漢鐵路公司改派協理摺奉
旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

正月十七日

43 交提督姜本日

貴提督奏夏軍原領部款擬接收另案辦理開
差部發銀兩並核實動用片奉

旨依議欽此又奏刊用關防片奉

旨知道了欽此相應傳知

貴提督欽遵可也此交

正月十七日

44 光緒三十四年正月二十日內閣奉

上諭都察院都御史陸寶忠既據陳明戒煙淨盡著仍回任供職欽此

45 光緒三十四年正月二十日內閣奉

上諭甘肅新疆巴里坤鎮總兵員缺著馬安良調補周玉魁著補授伊犁鎮總兵欽此

46 軍機大臣 字寄

著直隸總督楊 光緒三十四年正月二十二日奉

上諭陳璧等奏天津保定兩處銅元價值尚賤而近畿各州縣市鎮私自折扣與京市市價懸殊等語著楊士驥妥籌整頓務期錢價一律平均以蘇民困原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

47 光緒三十四年正月二十二日內閣奉

上諭雲南布政使著沈秉堃補授魏景桐著補授雲南按察使欽此

48 光緒三十四年正月二十二日內閣奉

上諭雲南臨安開廣道員缺著高而謙補授欽此

49 光緒三十四年正月二十二日內閣奉

上諭雲南布政使劉春霖著開缺米京另候開用欽此

50 光緒三十四年正月二十二日內閣奉

上諭貴州威甯鎮總兵員缺著方致祥補授欽此

51 貴州威甯鎮總兵員缺請

旨開放

52 交尚書陳等本日

貴尚書等奏籌辦銀錢平價事宜設立公估官局摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴尚書等欽遵可也此交

正月二十二日

53 正月二十三日引

見人員

宗人府五人

理藩部六人

共十一人

54 光緒三十四年正月二十三日內閣奉

上諭昨日召見之翰林院侍講樊恭煦著以提學使

交軍機處存記欽此

55 交督辦稅務大臣那桐等本日

貴大臣等奏請獎辦各關稅務暨郵政等洋

員開單呈

覽一摺奉

旨著照所請該部知道欽此相應傳知

貴大臣等欽遵可也此交

正月二十三日

56 光緒三十四年正月二十四日內閣奉

上諭禮部奏大員鄉舉重違請旨加息一摺前任吉

林將軍銘安早年登第選掌文衡嗣在吉林任內

開缺回旗現屆該將軍鄉舉之年適周花甲洵屬

科名盛事加恩著賞給太子少保銜以惠耆臣欽此

57 光緒三十四年正月二十四日內閣奉

上諭丁槐著開缺來京另候簡用廣西提督著龍濟

光署理欽此

58 交會議政務處憲政編查館本日翰林院奏代遞編修朱汝

珍請

派蒙王藏僧及殷實商民為資政院議員呈一件奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交計給鈔原呈一件

正月二十四日

59 光緒三十四年正月二十五日內閣奉

上諭廣東潮州府遺缺知府員缺著寶第補授欽此

60 廣東潮州府遺缺知府員缺請

旨開放

61 光緒三十四年正月二十五日內閣奉

上諭民政部左侍郎著袁樹勛補授欽此

62 光緒三十四年正月二十五日內閣奉

上諭順天府尹著凌福彭補授未到任以前著袁樹

勛暫行署理欽此

63 光緒三十四年正月二十五日內閣奉

上諭直隸長蘆鹽運使著張鎮芳補授欽此

64 光緒三十四年正月二十五日內閣奉

上諭貝勒毓朗著加恩賞戴三眼花翎在御前行走

鎮國公溥佑著在乾清門行走欽此

65 交宗人府軍機大臣面奉

諭旨貝勒毓朗著入在改遣致祭

陵寢欽此相應傳知

貴府欽遵可也此交

正月二十五日

66 交陸軍部軍機大臣面奉

諭旨巴圖蘇哈著准其休致毋庸賞食年俸欽此相

應傳知

貴部欽遵可也此交

正月二十五日

67 交內務府軍機大臣面奉

諭旨貝勒毓朗鎮國公溥佑均著致祭

奉先殿欽此相應傳知

貴府欽遵可也此交

正月二十五日

68 光緒三十四年正月二十六日內閣奉

上諭楊士驥等奏已故提督戰功卓著懇恩賜卹一

捐雲南提督夏辛酉早歲從戎隨同僧格林沁勦

辦髮捻驍勇善戰所向有功嗣隨左宗棠轉戰關隴盪平西域大小百數十戰靡役不從厥功尤偉由廣西右江鎮總兵調任山東登州鎮總兵擢授雲南提督辦理充曹勦匪事宜擒斬巨匪全境廓清前命會辦江防正資籌畫聞溢逝軫惜殊深夏辛酉著照提督軍營病故例從優議卹任內一切處分悉予開復加恩予謚原籍及立功省分准其建立專祠並將戰功事績宣付國史館立傳伊長子候補知州夏繼泉著以知府即用次子夏繼葵著賞給主事以彰勞勩該衙門知道欽此

69 光緒二十九年九月十八日內閣奉

上諭岑春煊奏會辦軍務大員積勞病故請旨優卹一摺前貴州提督馮子材於咸豐初年投効軍營轉戰湘鄂粵桂等省疊著戰功尤以扼守鎮江及鎮南關兩役為最偉績功洵至雲南貴州提督整飭戎行歷久不懈朝廷念其老成宿望派令會辦廣西軍務忽聞溢逝軫惜殊深馮子材著照提督軍營病故例從優賜卹任內一切處分悉予開復

加恩予謚原籍及立功省分准其建立專祠並將生平戰功事蹟宣付國史館立傳伊次孫一品廕生馮承祥著以郎中分部補用欽此

70 光緒二十六年三月二十日內閣奉

上諭榮祿奏提督因病出缺請旨優卹一摺甘肅新疆喀什噶爾提督張俊自壯歲從戎回疆關隴無役不從金積堡之捷厥功甚偉嗣後克復肅州烏魯木齊各城迭著奇勳由西甯鎮總兵調補伊犁鎮總兵擢授喀什噶爾提督綏輯兵士控制邊疆悉臻妥協上年來京陛見派充武衛全軍翼長布置訓練諸事認真茲聞溢逝軫惜殊深張俊著照提督軍營病故例從優議卹任內一切處分悉予開復加恩予謚原籍及立功省分准其建立專祠並將戰功事蹟宣付國史館立傳伊子記名道張儒珍著仍交軍機處記名伊孫二品廕生張超著賞給員外郎俟服闋後分部行走靈樞回籍時著沿途地方官妥為照料以彰勞勩該衙門知道欽此

71 光緒三十四年正月二十六日內閣奉
上諭雲南提督著張勳補授欽此

72 光緒三十四年正月二十六日內閣奉
上諭直隸天津道員缺著吳筠孫調補永定河道著
齊耀琳補授欽此

73 直隸天津道員缺請
旨簡放

74 光緒三十四年正月二十六日內閣奉
上諭直隸保定府知府員缺緊要著該著督於通省
知府內揀員調補所遺員缺著景濂補授欽此

75 光緒三十四年正月二十七日內閣奉
上諭四川建昌鎮總兵員缺著田振邦補授欽此

76 交郵傳部本日
貴部奏請

賞給洋員寶星開單呈
覽摺又奏黑龍江鐵路材料援案免稅摺均奉
旨依議欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交
正月二十七日

77 交農工商部本日
貴部奏議覆副都統李國杰奏敬陳官見各摺
片一摺奉
旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

正月二十七日

78 光緒三十四年正月二十八日內閣奉
上諭馮汝駮奏查明兩浙被災場窳蕩田及仍難墾
復窳蕩請將應徵窳課錢糧分別蠲免緩徵一摺
兩浙鹽場窳蕩上年夏間亢旱秋後節被風雨潮
蟲以致禾棉疊受重傷若將窳課錢糧照常徵收
民力實有未逮加恩著照所請所有海沙蘆滬長

亭杜濱四場成災竈蕩並海沙場潮患難墾杜濱
場新墾復荒浦東場前被災荒難墾各竈蕩田地
應徵上年電課錢糧均著全行蠲免其勘不成災
之海沙等場畝收田地應徵上年電課錢糧一律
緩至本年秋後啟徵以紓困餘著照所議辦理
該撫即刊刻謄黃徧行曉諭務使實惠均霑毋任
吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意該部知道欽此

79 光緒三十四年正月二十八日內閣奉

上諭馮汝駮奏請將浙江各屬荒廢未種田地山塘
蕩漫懇免應徵地漕等項並新墾之產分別徵蠲
一摺浙江杭州等府各屬荒廢未種各產尚未全
行墾復若將地漕等項照常徵收民力實有未逮
加惠著照所請所有仁和等三十三州縣暨杭嚴
衛衛所及嚴所仍荒未種暨沙淤築塘挖掘濠塋
坍廢並報墾缺額民屯學耕沙牧各田地山塘蕩
漫應徵上年地丁等項正耗錢糧漕白等項著一
併全行蠲免其臨安等七縣新墾田畝著分別全
蠲半蠲仁和等縣及杭嚴衛杭所民屯田地山蕩

草塘著酌徵五成蠲免五成以紓民力餘著照所
議辦理該撫即刊刻謄黃徧行曉諭務使實惠均
霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱之至意該
部知道欽此

80 光緒三十四年正月二十九日內閣奉
上諭外務部右參議著梁如浩補授欽此

81 光緒三十四年正月二十九日內閣奉
上諭江蘇蘇松太道員缺著蔡乃煌補授欽此

82 交憲政編查館
現行刑律一摺奉
部本日侍郎沈家本等奏請編定

旨憲政編查館會同法部議奏欽此相應傳知
貴館
部欽遵可也此交計科鈔冊一件

正月二十九日

83 交待郎沈本日

貴侍郎奏法律學堂收支款目摺單一件又奏

肄業學員已到堂授課片均奉
旨知道了欽此相應傳知
貴侍郎欽遵可也此交

正月二十九日

84 軍機大臣 字寄

協辦大學士鹿 度支部左侍郎紹 光緒三十四年二月初一日奉

上諭著派鹿傳霖紹英前往山西查辦事件隨帶司員一併由度支部發給經費無庸馳驛欽此遵旨寄信前來

85 光緒三十四年二月初一日內閣奉

上諭郵傳部左參議著李經楚補授欽此

86 交翰林院軍機大臣面奉

諭旨翰林院編修郭立山著於本月初六日預備召

見欽此相應傳知

貴衙門轉傳欽遵可也此交

未述

二月初一日

87 交禮部本日都察院代遞檢討章授請以方克

勤從祀

崇聖祠呈一件奉

旨禮部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔原呈單各一件

二月初二日

88 交會議政務處 本日都察院代遞檢討章授請

增輯

四庫全書呈一件奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交計粘鈔原呈一件

二月初二日

89 光緒三十四年二月初三日內閣奉

上諭山東巡撫著袁大化署理欽此

90 光緒三十四年二月初三日內閣奉

上諭廣東按察使著魏景桐調補世增著補授雲南按察使欽此

91 光緒三十四年二月初三日內閣奉

上諭河南布政使著朱壽鏞調補王人文著補授
西布政使欽此

92 光緒三十四年二月初三日內閣奉

上諭山東兗沂曹濟道員缺著丁達意補授欽此

93 交吏部部陸軍部本日軍機大臣面奉

諭旨慶親王奕等奏辦理土稅出力各員請獎摺
督辦土藥稅務事宜柯逢時著賞給尚書銜餘依
議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

原摺交吏部

二月初三日

94 交尚書呂本曰

貴尚書奏在京城設立津浦鐵路總公司所並
酌擬辦法摺又奏調楊文駿充鐵路參贊片又
奏調李德順等充南北段總幫辦片均奉
旨依議欽此相應傳知

貴尚書欽遵可也此文

二月初三日

95 光緒三十四年二月初四日內閣奉

上諭禮部奏大員鄉舉重逢請旨加恩一摺大學士
孫家鼐早年登第由翰林入直毓慶宮歷經部務
晉替綸扉近來日侍講筵精神矍鑠茲屆該大學
士鄉舉之年適周花甲洵屬藝林盛事加恩著賞
給太子太傅銜以惠耆臣欽此

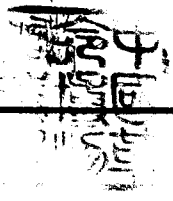
96 光緒三十四年二月初四日內閣奉

上諭趙爾巽著調補四川總督湖廣總督著陳夔龍
調補均著迅赴新任毋庸來京請訓欽此

97 光緒三十四年二月初四日奉

旨趙爾巽著賞給尚書銜作為駐藏辦事大臣
馳驛前往仍兼邊務大臣欽此

萬曆



98 交都察院准

貴衙門咨稱本月初二日奏擬陪協理京畿道御史履晉應否迴避片未奉

明諭應由本處代行請

旨等因前來本日軍機大臣面奉

諭旨著照例迴避欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

二月初五日

99 光緒三十四年二月初六日內閣奉

上諭聯魁奏特參貪劣不職各員請旨懲處一摺地方官經徵錢糧豈容額外私加火耗茲據該撫奏

稱馬者府知府聞端蘭等均有浮收弊竇實屬膽

大妄為自應嚴加懲處新疆馬者府知府聞端蘭

署輪臺縣知縣准補昌吉縣知縣陰錫署沙雅縣

知縣准補綏來縣知縣李徵高署烏什廳同知候

補同知胡賜福署英吉沙爾廳同知候補通判黎

丙元葉城縣知縣易潤序阜康縣知縣巨國桂均

著即行革職仍著查明浮收各款勒限追繳易潤

庫前在署任及本任內欠解公款甚鉅並將任所
貲財及原籍家產一併查抄備抵餘著照所議辦
理該部知道欽此

100 交侍衛處
外務部軍機大臣面奉

諭旨俄國使臣璞科第病故著派御前大臣博迪蘇

即日前往弔問欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

二月初六日

101 光緒三十四年二月初七日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

領侍衛內大臣八旗滿蒙漢都統副都統前鋒護軍

統領散秩大臣總管內務府大臣三院卿各旗參領

等應得養廉銀兩均著加恩仍照十成發給欽此

102 軍機大臣 字寄

四川總督趙 駐藏辦事大臣兼邊務大臣趙

駐藏辦事大臣聯 光緒三十四年二月初七日奉
 上諭西藏為川蜀藩籬與強鄰逼處而地方廣莫番
 民蒙昧舉凡練兵興學務農開礦講求實業利便
 交通以及添置官吏整飭庶政諸大端均應及時
 規畫期於治理日益修明現經降旨派趙爾豐為
 駐藏辦事大臣特加崇銜以重事權並調趙爾巽
 為四川總督以免掣格而使聯絡應即責成趙爾
 豐會同聯豫察度情形將藏中應辦各事通盤籌
 畫詳擬章程次第奏請施行需用人員准由四川
 省慎選調派厚給薪資優定獎勵均准其攜帶眷
 屬各令久於所事應需款項著度支部按年籌撥
 的款銀五六十萬兩俾濟要需並由四川總督無
 分畛域隨時接濟趙爾豐趙爾巽兄弟同受國家
 厚恩公義私情均應和衷籌辦共濟時艱用副朝
 廷綏固邊陲之至意前據聯豫密陳西藏情形一
 摺暨外務部進呈張蔭棠條陳一件均著鈔給閱
 看以資參考欽此遵

旨寄信前來

103 光緒三十四年二月初七日內閣奉
 上諭禮部左侍郎著于式枚調補未到任以前著郭
 曾忻署理欽此

104 光緒三十四年二月初七日內閣奉
 上諭郵傳部右侍郎著盛宣懷補授欽此

105 各部侍郎名單

外務部左侍郎聯芳

右侍郎汪大燮 現在出差

吏部左侍郎唐景崇

右侍郎張仁黼

民政部左侍郎袁樹勛

右侍郎趙秉鈞

度支部左侍郎紹英

右侍郎陳邦瑞

禮部右侍郎景厚

學部左侍郎嚴修

右侍郎達壽 現在出差

陸軍部左侍郎壽勳

右侍郎廢昌

法部左侍郎紹昌

硃○

右侍郎沈家本

農工商部左侍郎熙彥

右侍郎楊士琦 現在出差

郵傳部左侍郎吳重熹

右侍郎于式枚 現在出差

理藩部左侍郎堃岫

右侍郎恩順

106

應升侍郎名單

內閣學士文海

戴昌

寶熙 現署學部右侍郎

墨麒

麒德

楊佩璋

李聯芳

吳郁生

王埏 現署法部右侍郎

都察院副都御史伊克坦

陳名侃

宗人府府丞朱益藩

大理院少卿劉若曾

翰林院學士毓隆

許澤新

前通政使司通政使顧璜

各部左右丞單同遞未立檔

107

候補侍郎名單

前兵部左侍郎秦綬章 現補鎮黃旗滿洲副都統

前工部右侍郎溥綱 現補鎮紅旗漢軍副都統

前工部左侍郎盛宣懷

侍郎 用俞廉三

硃○

108

光緒三十四年二月初七日內閣奉

上諭李經邁著調補河南按察使江蘇按察使著左

考同調補均著迅赴新任毋庸來京請訓欽此

109 軍機大臣面奉

諭旨御前行走御前侍衛乾清門行走前已賞過津貼銀二千兩著改為每員每月賞給津貼銀一百兩由度支部給發欽此

鈔交內閣

二月初七日

110 交郵傳部本日

貴部奏遺員署理丞參各缺摺又奏潮汕接展鐵路材料請暫行免稅摺又奏遵議疏濬運河事宜分別辦理摺又奏暫借英公司款俟京漢京奉兩路得有餘利如數歸還片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

二月初七日

111 交吏部本日理藩部奏筆帖式英澍代投偽

造印文請

旨先行革職審辦摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

二月初七日

112 軍機大臣 字寄

署直隸總督楊 熱河都統廷察哈爾都統誠光緒三十四年二月初八日奉

上諭理藩部奏阿巴哈那爾貝子車林多爾濟呈報

錫林郭勒盟界內屢有馬賊滋擾持械傷人請飭查拏一摺著楊士驥廷杰誠勳按照所指各節協力嚴拏務獲懲辦以安蒙衆而靖地方原摺均著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

113 光緒三十四年二月初八日內閣奉

上諭初六日召見之翰林院編修郭立山著以應升之缺開列在前欽此

114 軍機大臣面奉

諭旨本日理藩部奏科爾沁輔國公達春預保長子

一摺達春之長子多爾吉著加恩賞給三品頂戴

欽此

交理藩部

二月初八日

115 滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京文年

在任即選知府選缺後以道員補用章京侍讀成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京侍讀鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

四品銜章京候補侍讀裕銘

漢頭班

領班三品章京王慶平

幫領班四品章京胡彤恩

花翎員外郎銜章京主事劉毅孫

章京員外郎趙廷珍

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

額外章京吏部候補主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京內閣候補中書蕭端潔

滿二班

花翎領班三品章京文徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京郎中桂蔭

花翎四品銜章京郎中榮奎

三品銜 記名道府章京郎中長明

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

額外章京陸軍部員外郎星輅

漢二班

領班三品章京曹廣楨

三品銜幫領班四品章京易貞

章京 記名繁缺知府郎中孫筭經

五品銜章京主事劉慶篤

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴額外章京禮部員外郎萬雲路

額外章京民政部候補主事雷廷壽

116 光緒三十四年二月初九日内閣奉

上諭張仁黼現在請假吏部右侍郎著吳郁生署理
欽此

117 交侍郎張仁黼本日

貴侍郎奏請

賞假回籍省親一摺奉

旨著賞假兩箇月欽此相應傳知

貴侍郎欽遵可也此文

二月初九日

118 光緒三十四年二月初九日内閣奉

上諭盛宣懷現在出差郵傳部右侍郎著沈雲沛署
理欽此

119 光緒三十四年二月初九日内閣奉

上諭郵傳部右侍郎盛宣懷著仍派充會辦商約大
臣前赴上海妥協經理欽此

120 光緒三十四年二月初九日内閣奉

上諭雲南迤西道黃丙焜著發交北洋大臣差遣委
用欽此

121 軍機大臣面奉

諭旨內務府三旗護軍統領養廉銀兩均著加恩
仍照十成發給欽此

未述交內務府

二月初九日

122 交憲政編查館本日

貴館奏擬訂結社集會律開單呈

覽摺又片奏現任職官親往社會研究政治學術必

須向本管官陳明等語均奉

旨依議欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

二月初九日

123 光緒三十四年二月初十日內閣奉

上諭向來問刑衙門承審案件完結各有定限乃近

來官吏積習於訟獄一事罕能實心清理或聽信

胥役票傳多人或怠惰安逸傳案不訊或議見昏

曠聽斷無才或瞻顧不斷靜待和息以致羈繫甚

多結案甚少無罪者疲斃牽累者破家冤慘情狀

不忍觀聞為民牧者誰非來自民間設身處地何

以堪此即使不能慄遵例限亦豈盡泯天良即如

大理院承訊春阿氏一案現已延至年餘尚未斷

結京師如此外省可知方今朝廷體恤民瘼修訂

法律正汲汲以恤刑保民為務若此等舊例所有

之事尚不能實力奉行更何望其剷除弊根一新

吏治乎特此剷切嚴諭法部大理院暨各省督撫

著即通飭所屬各員凡有自理暨承審上控京控

案件均須隨到隨訊虛衷研鞠秉公定斷務令按

限清結嚴定考覈勸懲之法京師大理院審判官

及外省有司衙門發審督審各局必須選擇明

決之員使充此任經此次通諭之後仍疲玩不悛

殘民以逞一經被人叅劾控告除將該承審之員

從嚴懲辦外定將該堂官督撫一併懲處斷不姑

寬欽此

124 光緒三十四年二月初十日內閣奉

上諭甘肅新疆阿克蘇鎮總兵員缺著查春華補

授欽此

125 交協辦大學士鹿等本日

貴大臣等奏前往山西查辦事件擬調隨員刊

刻關防摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

二月初十日

126 交順天府本日御史孫培元奏順天平糶局加

價病民請

飭嚴查整頓片奉

旨順天府知道欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交 計抄片一件

二月初十日

127

交 尚書部 本日御史孫培元奏奸商壟斷上下

交 順天府 損請變通辦法摺奉

旨該衙門知道欽此相應傳知

貴 尚書部 衙門欽遵可也此交

二月初十日

128

交 外務部 本日副都統李國杰奏振興礦務

宜設法招徠派商人疑慮一摺奉

旨該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計抄摺一件

二月初十日

129 光緒三十四年二月十一日內閣奉

上諭紹英現在出差度支部左侍郎著瑞豐署理欽此

130 各部侍郎名單

外務部左侍郎聯芳

吏部左侍郎唐景崇

民政部左侍郎袁樹勛

右侍郎趙秉鈞

度支部右侍郎陳邦瑞

禮部右侍郎景厚

學部左侍郎嚴修

陸軍部左侍郎壽勳

右侍郎蔭昌

法部左侍郎紹昌

農工商部左侍郎熙彥

郵傳部左侍郎吳重熹

理藩部左侍郎堃岫

右侍郎恩順

應署侍郎名單

內閣學士文海

戴昌

寶熙 現署學部右侍郎

墨麒

麒德

瑞豐

楊佩璋

李聯芳

吳郁生 現署吏部右侍郎

王圻 現署法部右侍郎

都察院副都御史伊克坦

陳名侃

宗人府府丞朱益藩

大理院少卿劉若曾

翰林院學士毓隆

許澤新

前通政使司通政使顧璜

候補侍郎名單

前兵部左侍郎秦綬章 現署蒙藏部副都統

前工部右侍郎溥綱 現補銀錢部副都統

侍郎用俞廉三

133 軍機大臣面奉

諭旨步軍統領兩翼總兵應得養廉銀兩均著加恩

按照十成發給欽此

二月十一日

134

交禮部侍郎盛本日侍郎盛宣懷奏請另鑄總理漢

治萍煤鐵廠鑛公司事務銅質關防片奉

旨依議欽此相應傳知

貴侍郎欽遵可也此文計黏鈔片一件

二月十一日

135

交侍郎盛本日

貴侍郎奏商辦漢冶萍煤鐵廠鑛宜擴充股本

合併公司一摺軍機大臣面奉

諭旨著責任盛宣懷加招華股認真經理以廣成效

餘依議欽此相應傳知

貴侍郎欽遵可也此文

二月十一日

136 交侍郎盛本日

貴侍郎奏派李維格充漢冶萍廠鑛公司協理

片奉

旨依議欽此相應傳知

貴侍郎欽遵可也此文

二月十一日

137 光緒三十四年二月十二日内閣奉

上諭湖南布政使著莊賡良補授欽此

138 光緒三十四年二月十二日内閣奉

上諭湖北按察使著楊文鼎調補常裕著補授貴州

按察使欽此

139 光緒三十四年二月十二日内閣奉

上諭湖南按察使著陸鍾琦調補陳夔麟著調補江

西按察使欽此

140 交出使大臣汪本日

貴大臣奏英紳設立學會請

頒賞圖書集成等書摺又奏試用道袁體乾請更正

底銜片又奏擬調隨帶人員摺均奉

旨依議欽此又奏開用關防日期片奉

旨知道了欽此相應傳知

貴大臣欽遵並分咨各該衙門可也此文

二月十二日

141 交憲政編查館本日都察院代遞湖南訓導潘

學海條陳憲法原呈一件奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此文

二月十二日

142 交憲政編查館本日

貴館奏考核報律繕單呈

覽一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

二月十二日

143 光緒三十四年二月十三日內閣奉

上諭吏部左丞著寶銘轉補孫紹陽著補授吏部右丞吏部左參議著毓善轉補吳敬修著補授吏部右參議欽此

144 交尚書壽 本日尚書壽者奏請改

派大員估修

文廟要工一摺奉

旨著派禁慶會同估修欽此相應傳知

貴尚書欽遵可也此交

二月十三日

145 交署侍郎沈 軍機大臣面奉

諭旨著派寶熙沈雲沛幫辦資政院開辦事務欽此

相應傳知

貴侍郎等欽遵可也此交

二月十三日

146 光緒三十四年二月十四日內閣奉

上諭三月十四日祭

先農壇朕親詣行禮欽此

147 交度支部 本日順天府奏巡警馬隊前經改編

現擬改編巡警步隊辦法摺單一件奉

旨該衙門知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計黏鈔摺單各件

二月十四日

148 交順天府本日

貴府奏查明平糶局參案片奉

旨知道了欽此相應傳知

貴府欽遵可也此交

二月十四日

149 交會議政務處本日

貴處奏議覆廷杰請蒙旗地方添設州縣各缺

摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

二月十五日

150

交外務部
步軍統領衙門本日

貴衙門會奏職官合謀賄通局役盜取公電請

旨革訊一摺奉

旨著派那桐梁敦彥會同審訊高爾嘉鍾鏞均著革

職歸案審辦欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

二月十六日

151

交內務府
民政部本日民政部奏變通成例請估修

大高殿牌樓要工一摺奉

旨著派奎俊會同估修欽此相應傳知

貴府欽遵可也此交

二月十六日

152

交侍郎楊本日

貴侍郎奏考察南洋華僑商業情形摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴侍郎欽遵可也此交

二月十六日

153

光緒三十四年二月十七日內閣奉

上諭楊士驥奏按察使因病懇請開缺一摺直隸按

察使陸嘉穀著准其開缺欽此

154

光緒三十四年二月十七日內閣奉

上諭直隸按察使著何彥昇補授徐撫辰著補授山

東登萊青膠道欽此

155

光緒三十四年二月十七日內閣奉

上諭直隸天津道員缺著齊耀琳調補呂珮芬著補

授永定河道欽此

156 光緒三十四年二月十七日內閣奉

上諭程德全奏因病懇請開去署缺一摺暫署黑龍

江巡撫程德全著准其開去署缺欽此

157 光緒三十四年二月十七日內閣奉

上諭黑龍江巡撫著周樹模署理欽此

158 光緒三十四年二月十七日內閣奉

上諭吉林巡撫著朱家寶補授欽此

159 交郵傳部本日

貴部奏安徽鐵路公司改派總理摺奉

旨知道了欽此又奏請將四川重慶電局委員試用

道陳恩霖革職片奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

二月十七日

160 軍機大臣 字寄

協辦大學士鹿 度支部左侍郎紹 光緒三

十四年二月十九日奉

上諭貽穀奏參大員侵吞庫款請切實查辦一摺據

稱塔爾巴哈台領隊大臣榮昌歸化城副都統文

哲理前辦邊防軍需現經詳查案卷顯有侵吞確

證等語著鹿 紹英按照所參各節秉公確查

據實具奏毋稍瞻徇原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

161 光緒三十四年二月十九日內閣奉

上諭江南狼山鎮總兵員缺著李祥椿補授欽此

162 光緒三十四年二月十九日奉

旨杭州織造仍著彬格接管毋庸更換欽此

163 光緒三十四年二月二十日內閣奉

上諭據外務部奏籌議禁煙與各國商定辦法暨另

籌抵補藥稅各摺片鴉片煙盛行以來流毒異常

慘烈染斯疾者破其財產天其壽命習為偷惰職
業全廢即各直省吞煙自盡之案歲計不知凡幾
盜賊訟獄因此滋繁傷天地好生之心深堪悲憫
且令神州古國種類日弱志氣日頹自強更復何
望近來官紳士庶多知悔悟爭相結社勸戒即素
嗜鴉片者亦未嘗不痛心疾首自怨自艾各國善
士尚多倡設公會勸禁裁買廣施藥方每以中國
鴉片不除引為深憾則身受其害者應如何淬厲
奮發力拔根株前經降旨頒布禁煙章程期以十
年使洋藥與土藥同時禁絕現經英國政府允許
分年減運各友國亦多樂為協助文明之舉嘉慰
良深英國現已實行遞減相約試行三年視中國
裁種吸食實行減少限滿再為推減我若不如期
禁查轉瞬三年何以答友邦政府之美意何以慰
各國善士之苦心此機一失時不再來若永遠困
於沈痼勢必無以為國我君臣上下一念及此能
無愧悚難安引為疚責著民政部度支部迅即會
訂稽核章程嚴定考成請旨頒行一面責成各督
撫按照政務處奏定成案督飭所屬切實舉行並

體察該省情形將減種減食實在辦法先行奏聞
所有按年減少數目每屆年終彙奏一次其藥稅
指抵各款由度支部另行籌補以備應付事關國
勢強弱民命壽夭著內外臣工協力通籌認真辦
理無論如何為難必期依限斷絕毋得稍涉因循
致干重咎餘依議欽此

164 軍機大臣 字寄

署直隸總督楊 光緒三十四年二月二十一
日奉

上諭御史李浚奏北運河受病已深亟宜大加修治
一摺著楊士驥按照所陳各節體察情形妥籌辦
理原摺著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

165 光緒三十四年二月二十一日內閣奉

上諭達壽著回京供職改派李家駒充考查憲政大
臣欽此

166 光緒三十四年二月二十二日內閣奉

上諭陳啟泰奏特參庸劣不職各員請分別懲處一摺江蘇川沙廳同知陳家熊抗阻公事居心叵測海州直隸州知州恩芳性情乖謬不洽輿情高郵州知州江朝銘才力竭蹶措置無方前署秦州候補直隸州知州胡惟藩愚而自用諱盜飾非溧陽縣知縣劉佐宸借賑漁利貪詐病民六合縣知縣李樂善嗜飲玩公諸事廢弛鹽城縣知縣席伯連闌冗無能御下不嚴前署秦興縣候補知縣劉思懃貪庸溺職積案太多署甘泉縣候補知縣陳元鑄處事顛預沾染習氣候補知縣游毅之性喜鑽營不知檢束均著即行革職劉佐宸案關災賑情節較重並著永不敘用元和縣知縣吳鏡沅精力頹唐難膺民社著勒令休致靖湖廳通判梁書祥遇事諉卸難期振作新陽縣知縣王熙宇性質粗疏不諳吏治均著以縣丞降補儀徵縣知縣陳誠才識庸懦文理尚優著以教職歸部銓選准補武進縣知縣芳鎮查無下落久曠職司著即行開缺餘著照所議辦理該部知道欽此

167 交協辦大學士崇慶等本日

貴大臣等奏承辦要工派徐坊等總司監督一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴大臣等欽遵可也此交

二月二十二日

168 交大學士那等本日

貴大學士等奏審明職官串通局役盜賣公電分別照章定擬一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴大學士等欽遵可也此交

二月二十三日

169 光緒三十四年二月二十四日內閣奉

上諭張鳴岐奏甄別文武各員據實舉劾一摺廣西凌雲縣知縣唐祖澍著太平府知府李用勳等德淵崇善縣知縣龔育麒著奉議州知州知縣金寶善百色廳同知彭言孝臨桂縣知縣張祖

甯著象州知州准補靈川縣知縣庾廷銓著藤縣
知縣准補永福縣知縣陳仲賓均能盡心民事著
傳旨嘉獎候補知縣倪光熊侵挪學款屢違不職
著革職仍勒追繳款補用知府石德芬文學尚優
心不在事著勒令休致前上林縣知縣彭家桐
字無多吏治廢弛試用知縣羅錫章貌似有才利
心極重試用知州陶家瑞識見卑庸老而愈昏平
南縣知縣吳寶書性情乖張緝捕廢弛署新甯州
知州試用知縣金作鏞興學禁煙諸多粉飾天河
縣知縣楊家珍聽斷糊塗因循不振著永瀋縣知
縣試用知縣張廣濂事多敷衍聲名平常前署桂
平縣知縣試用知縣吳寶球才具平庸緝捕不力
前辦潯州統稅准補明江同知黃慶譽失察司巡
困商舞弊前辦恩隆統稅補用知縣吳祁縱庇司
巡人言嘖嘖藤縣知縣劉綰道治事疲軟嗜好甚
深陽朔縣知縣丁學慶岑溪縣知縣丁夢松均玩
忽學務泄沓性成前署東蘭州知州試用知縣易
振興苛罰濫刑既貪且酷南丹土州同謹文翰利
心甚重聲名極劣前署南武土州判試用府經歷

譚永幹藉名募練私收牛規武宣縣廓鎮巡檢
李鴻鈞辦事粗率候補巡檢黎錦鴻鑽營取巧試
用巡檢陳道濟被控有案試用典史朱維新心術
狡詐藤縣訓導劉朝翰卑鄙固陋均著即行革職
易振興情節較重並著發往新疆効力贖罪兼帶
慶防營試用通判雷文銳缺額冒餉玩忽防務前
署宜山縣知縣候補知縣王懋修操守難信物議
沸騰桂平縣大黃江巡檢劉濬元膽大嗜利試用
從九胡敬宗嗜賭牟利試用典史孫光斗行止有
虧均著革職永不敘用胡敬宗孫光斗並著交原
籍地方官管束容縣知縣練毓璋子姪用事不洽
輿情貴縣知縣李彝坤體弱多病久曠職守永瀆
縣知縣陳品全閱歷太深遇事取巧均著開缺勒
令休致署天保縣知縣試用知縣梁駿猷出身營
伍不諳吏治前署昭平縣知縣棟發知縣周尚端
弛於約束憚於巡緝署龍英土州州同候補知縣
李輝台習染已深難期向上均著勒令休致前統
綏靖軍廣東水師參將宋尚傑驕蹇可誅勇敢可
取著以守備降補餘著照所議辦理該部知道欽此

170 交學部本日

貴部奏請

欽定廷試日期摺奉

旨著於四月初六日考試欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

二月二十四日

171

交外務部本日翰林院侍讀學士惲毓鼎奏部

議試辦印花稅宜再酌改章程一摺奉

旨該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計黏鈔摺一件

二月二十四日

172

交郵傳部本日翰林院侍讀學士惲毓鼎奏川

漢鐵路請

派員督辦片奉

旨郵傳部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計黏鈔片一件

二月二十四日

173 軍機大臣 字寄

兩江總督端 光緒三十四年二月二十六日奉

上諭有人奏江西布政使沈瑜慶結黨營私劣蹟昭

著據實糾參一摺著端方按照所參各款確切查

明據實具奏毋稍徇隱原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

174

光緒三十四年二月二十六日內閣奉

上諭李家駒著以內閣學士候補欽此

175 交內閣本日

貴大學士奏遵

旨薦舉賢才一摺奉

旨寶熙吳郁生陳宗妣信勤江毓昌均著交軍機處

存記欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

二月二十六日

176 光緒三十四年二月二十七日內閣奉

上諭四川順慶府知府員缺著汪鳳梁補授欽此

177 四川順慶府知府員缺請

旨簡放

178 光緒三十四年二月二十七日內閣奉

上諭度支部奏請令各廠暫行停鑄銅元一摺現在
京外銅元日益加多民間減折行使銀價愈貴物
價愈昂前經發款減價收買銅元仍是充斥未收
實效著照所請京外各廠暫行停鑄銅元數月俟
銅元價值稍平察看市面情形再行復鑄餘著照
所議辦理欽此

179 交郵傳部本日

貴部奏滬甯鐵路改訂辦事章程摺又奏派補

用道鍾文耀充總辦片均奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

二月二十七日

180 交御史趙本日

貴御史奏彙呈宋臣朱熹論治本各疏一摺奉

旨書留覽欽此相應傳知

貴御史欽遵可也此交

二月二十七日

181 光緒三十四年二月二十九日內閣奉

上諭瑞良奏親病未痊願請開缺一摺江西巡撫瑞

良著准其開缺留京當差欽此

182 光緒三十四年三月初一日內閣奉

上諭江西巡撫著馮汝駿調補柯逢時著補授浙江

巡撫均著迅赴新任毋庸來京請訓欽此

183 光緒三十四年三月初一日內閣奉

上諭柯逢時著仍兼督辦土藥統稅事務欽此

184 各部侍郎名單

外務部左侍郎聯芳

右侍郎汪大燮 出差

吏部左侍郎唐景崇

右侍郎張仁黼

民政部左侍郎袁樹勛

右侍郎趙秉鈞

度支部左侍郎紹英

右侍郎陳邦瑞

禮部左侍郎于式枚 出差

右侍郎景厚

學部左侍郎嚴修

右侍郎達壽 出差

陸軍部左侍郎壽勳

右侍郎蔭昌

法部左侍郎覺羅紹昌

右侍郎沈家本

農工商部左侍郎熙彥

右侍郎楊士琦

郵傳部左侍郎吳重熹

右侍郎盛宣懷 出差

理藩部左侍郎堃岫

右侍郎恩順

185 內閣學士文海

宗室載昌

宗室寶熙 現署學部右侍郎

宗室墨麟

宗室麟德

瑞豐 現署度支部右侍郎

楊佩璋

李聯芳

吳郁生 現著吏部右侍郎

王埈 現著法部右侍郎

186 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 奉天巡撫唐 光緒三十四年三月初二日奉

上諭有人奏前署蓋平縣知縣現任興京撫民同知馬俊顯貪酷性成串通劣紳舞弊等語著徐世昌唐紹儀按照所參各節確切查明據實具奏毋稍徇隱原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

187 光緒三十四年三月初二日內閣奉

上諭近日京城銀價仍未甚平固由於銅元之充斥亦由於私票之繁多現在業經飭令各廠銅元暫行停鑄而私票仍漫無限制奸商但知牟利並無實存銅元任意開寫錢票片紙架空為害更甚若不設法整飭恐銀價終無平減之日著責成順天府迅即詳定章程嚴立限制除本非錢業一概禁

止出票外其錢業所出紙票必須準該舖實存銅元之數定其出票之多寡倘再有架空出票取巧害民擾亂市面定予從重罰辦並著民政部軍統領衙門協力查禁認真整頓勿得任其朦混抗違以肅園法而利民生欽此

188 光緒三十四年三月初二日內閣奉

上諭此次驗看之進士館畢業學員翰林院庶吉士胡嗣瑗著授職編修欽此

189 光緒三十四年三月初二日內閣奉

上諭馮汝駁奏查明浙江各屬田禾被災請酌應蠲地漕等項分別蠲緩一摺上年浙江杭州等屬田禾自夏徂秋被旱被蟲復遭淫雨致成災歉及歷年沙淤石積尚未墾浚各田地塘若將應徵地漕照常徵收民力實有未逮加恩著照所請所有富陽等八縣並台州衛成災十分民屯各田地仁和等三十一州縣及嘉台二衛所歉收民屯學沙收各田地與富陽等十三縣及衢所沙淤石積各田

地塘應徵光緒三十三年分地丁等項正耗錢糧
漕白等項米石暨學租銀兩分別蠲免緩徵其被
災各縣衛蠲免銀米各災戶已輸在官者准其流
抵次年新賦至秋收減色之鄆縣等廳縣及杭嚴
衛杭所與被災歉沙淤各廳州縣衛所未完各年
舊欠暨原緩帶徵地漕各銀米均著遞緩一年徵
收以紓民力該撫卽按照單開各廳州縣田地塘
項畝分數應蠲應緩銀錢米石各細數刊刻懸黃
徧行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝
廷軫念民艱至意餘著照所議辦理該部知道單
二件併發欽此

190 光緒三十四年三月初二日內閣奉

上諭前倉場侍郎劉恩溥由翰林升御史迭掌大
衡克勤厥職副在倉場侍郎任內開缺另候簡用
茲聞溥逝軫惜殊深加恩著照侍郎例賜卹任內
一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏
欽此

191 交陸軍部本日御史彈壽奏請
派知兵大員督練陝甘新軍招奏
旨陸軍部議奏欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交計部鈔摺一件

三月初二日

192 軍機大臣 字寄

四川總督趙 駐藏辦事大臣趙 駐藏辦事

大臣聯 駐藏幫辦大臣張 光緒三十四年

三月初三日奉

上諭張蔭棠奏懇陳西藏情形並善後事宜開單呈
覽一摺西藏地方緊要前已特簡趙爾豐前往經
理茲據張蔭棠條陳興學練兵整頓實業統籌經
費各節頗多可採者趙爾豐趙爾豐聯豫張蔭棠
按照單開各條體察情形會同悉心妥議隨時奏
明請旨辦理現值庫款支絀百廢待舉驟以數百
萬之款取給部庫勢難應付仍責成趙爾豐等就
現有人才物力分別緩急次第籌辦以收循序漸
進之效原摺單均著鈔給密閱欽此遵

旨寄信前來

193 光緒三十四年三月初三日內閣奉

上諭錫良奏查明庸劣不職各員請旨懲處一摺前署雲南永北直隸廳同知請補滿勒縣知縣候補知縣楊國林任情欺罔膽大離奇著即行革職鄧川州知州曾廣閻才識昏庸治理茫昧著勒令休致新興州知州崇勳才具平常政事庸闇著即開缺廣通縣知縣沈宗溥才尚有為行多悖謬著開缺勒令回籍按察司經歷石宸鼎委查要案瞻徇宕延著開缺以府經歷降選鄧川州吏目朱瀚不願行檢著即行革職餘著照所議辦理該部知道欽此

194 交會議政務處本日

貴處議覆誠懇奏妥籌旗丁生計摺又奏議覆趙爾豐奏川滇邊務應辦事宜請先劃清權限片又奏議覆徐定超奏變通翰林院官制摺又奏請領石印圖書集成片又奏請續撥常年經費片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

三月初三日

195 光緒三十四年三月初四日內閣奉

上諭世鐸等奏恭修

玉牒告成在館出力各員另核請獎一摺此次恭修玉牒卷帙繁多在館各員不無微勞足錄既經世鐸等核實刪減自應量予獎敘提調官內閣侍讀學士靈照著以三品京堂候補額外纂修官宗人府理事官記名道府麒振著仍以道府記名纂修官副理事官恆康著以理事官無論題選過缺即補並賞換三品頂戴過缺即選候補副理事官敬祚著仍以副理事官無論題選過缺即補並賞戴花翎無論題選過缺即補理事官宗人府主事樸厚著仍歸原保班即補候補理事官後作為俸滿過有應升之缺儘先升用漢纂修官宗人府主事任滿開缺歸知府班李兆麟著免選本班以道員補用記名御史宗人府主事王寶田著俟補御史後作為俸滿以應升之缺儘先升用額外纂修官記

名五品宗堂理事官定壽著在任以應升之缺升
用俟得缺後賞加二品銜候補副理事官毓厚著
作為理事官無論題選遇缺即補宗人府候補主
事聯福著免補主事以副理事官無論題選遇缺
即補宗人府候補主事松溥奕元均著作為副理
事官無論題選遇缺即補宗人府主事定秀著免
補副理事官以理事官遇缺即補宗人府候補主事
志瀚著免補主事在府以各部員外郎補用總收掌
官即補經歷主事宗人府七品筆帖式溥恩著仍
以經歷主事無論題選遇缺即補俟補缺後以題
缺副理事官遇缺即補即補委署主事宗人府筆
帖式鍾繼著免補委署主事以本府經歷主事無
論題選遇缺即補幫總收掌官宗人府委署主事
榮祺著以本府經歷主事無論題選遇缺即補俟
補缺後並加四品銜宗人府筆帖式常紀著以委
署主事儘先補用俟補缺後以經歷主事無論題
選遇缺即補宗人府候補筆帖式載行者以本府
七品筆帖式遇缺即補俟補缺後以委署主事儘
先補用儘先補用委署主事宗人府筆帖式溥峙

著仍以委署主事儘先補用得缺後以本府經歷主
事遇缺即補正收掌官即補委署主事宗人府筆
帖式誼正儘先補用委署主事宗人府筆帖式保
申均著以委署主事儘先補用記名御史宗人府
筆帖式世均著俟得御史後作為俸滿以應升之
缺儘先升用宗人府筆帖式景元著開缺作為本
府候補主事副收掌官即補委署主事宗人府筆
帖式載岫著仍以委署主事儘先補用俟補缺後
在任以各部主事即選宗人府候補筆帖式麟瑞
著以本府筆帖式遇缺即補宗人府効力筆帖式
世昌著以本府筆帖式遇缺即補儘先即補筆帖
式効力筆帖式鍾啟著仍以筆帖式遇缺即補俟
補缺後開缺作為本府候補主事宗人府候補筆
帖式慶文多福文銘毓平均著以本府七品筆帖
式遇缺即補俟補缺後均免其試俸額外纂修官
得知府後在任以道員補用內閣侍讀連兆著在
任以道員不論雙單月選用內閣侍讀松茂著賞
戴花翎督催官內閣侍讀成俊著賞加四品銜文增
著賞換三品銜滿騰錄官內閣中書德馨長紹均

著在任以侍讀過缺即補並賞換四品銜分省補用同知前內閣中書世榮著俟補同知後在任以知府歸候補班補用內閣貼寫中書文炳德蔭均著以侍讀過缺即補內閣學習中書恩慶著以本堂中書不計旗分過缺即補內閣貼寫中書碩昌著以侍讀過缺即補前纂修官現任山東兗州府知府潤昌著交部從優議敘漢幫纂修官分省補用知府前內閣中書宗樹楷著以道員用知府用截取同知內閣典籍閻炳章知府用截取同知內閣中書崔師范均著俟歸知府班後以道員用漢騰錄官截取同知內閣中書黃梅瑞著俟補同知後在任以知府即補內閣中書朱翰章著在任以侍讀過缺即補並加四品銜截取同知內閣中書張元鈞內閣中書俞壽滄均著俟補同知後在任以知府即補分省試用同知內閣候補中書朱興汾著俟同知分省得缺後以知府補用額外漢騰錄官在任候選知府內閣中書馬士杰著俟歸知府班後以道員用內閣候補中書李昌宣曹元忠均著俟補缺後在任以侍讀過缺即補前戶部主

事內閣候補中書孫榮枝著以主事分部過缺即補分省試用同知內閣候補中書李焜著以同知分省歸候補班補用候選知府內閣候補中書徐巽著俟得知府後以道員即補奏調民政部內閣候補中書王光祖著以本部主事過缺即補並加五品銜在任候選道內閣中書楊廷璣著以道員分省補用額外纂修官禮部主事和珍著在任以員外郎過缺先前即補禮部員外郎多福著作為試俸歷俸期滿並賞戴花翎滿騰錄官禮部候補筆帖式錫振著俟補缺後作為本部主事過缺即補並加五品銜禮部主事雙陞著以直隸州知州過缺即選並加四品銜禮部候補筆帖式文通著作為本部主事過缺即補儘先題升員外郎無論咨留主事禮部筆帖式存厚著俟補主事後在任仍以員外郎過缺先前即補禮部筆帖式文英著賞加五品銜禮部筆帖式澤長著在任以知縣無論雙單月歸議敘班前即選並加五品銜補用主事禮部筆帖式保元著俟補主事後在任以員外郎無論滿蒙過缺借補並加四品銜禮部筆帖式毓

麟著開缺以本部主事遇缺即補並加四品銜奏
留供事補缺後特用道即選知府牟其汶著仍歸
原班以道員補用供事候選同知邵宗綸著以知
府遇缺即選分省補用知縣王炳奎吳銓均著以
直隸州知州仍分省補用即選知縣劉玉山著仍
以知縣分省補用並換四品頂戴知縣用分省補
用縣丞鄔永齡著以知縣仍分省補用候選從九
品袁鳳藻著以鹽大使遇缺即選並加五品銜分
省補用布政司理問謝恭壽著以知州仍分省補
用候選鹽經歷劉榮第著以知縣遇缺即選並換
四品頂戴分省補用州判楊以沅著以鹽運司運
判仍分省歸候補班補用候選縣丞姚鴻儒楊霖
吳敏黃丙變均著以知縣歸議敘班選用分省試
用縣丞楊星吉于星垓王化存王本溯陳懋均著
以知縣仍分省補用按察司經歷銜韓文田樊永
寶王炳駭蘇殿鵬均著以按察司經歷歸議敘班
選用並加五品銜劉五辰張興堂薛恩來馬驥祁
忠清均著以府經歷遇缺即選並加六品銜高永
齡王世銘孫惟霖許文崆趙之榮方維銓錢中選

何斌孫煦鄒姚崑章其齡宗華培均著以縣丞遇
缺即選並加六品銜六品銜即選巡檢王景著賞
換五品頂戴即選州判王溥著俟補州判後以知
州補用分省補用知縣孫緝光著俟補知縣後在
任以直隸州知州歸候補班補用即選州同俞林著
以同知分省補用候選巡檢李世長著俟補巡檢
後在任以州判補用分省補用巡檢秦錫齡著以
縣丞仍分省補用在任候補直隸州知州分省補
用知縣孫緝文著以直隸州知州仍分省補用即
選巡檢張瀚著俟選缺後在任以州判補用並加
五品銜候選從九品王廷治著以鹽大使分省補
用並加五品銜晏廷棟著以府經歷分省補用並
加六品銜片片奏纂修等官出力如何獎敘請旨
各等語纂修官新任福建福州府遺缺知府智格
著在任以道員即選特用道禮部員外郎王麒著
以道員交軍機處存記禮部郎中端緒著以道員
即用該部知道欽此

196 光緒三十四年三月初四日內閣奉

上諭張人駿奏在籍大員鄉舉重違顯懇恩施一摺
前貴州巡撫鄧華熙早年登第由京曹外簡道府
洊任封圻嗣在貴州巡撫任內開缺回籍現屆鄉
舉之年花甲適周洵屬科名盛事加恩著賞給太
子少保銜以惠耆臣欽此

197 交外務部本日侍郎楊士琦奏請

頒給梭羅國王寶星一摺奉

旨著照所請外務部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月初四日

198 交外務部本日侍郎楊士琦奏酌核暹羅訂約

通使事宜招又奏西貢等處請設領事片均奉

旨外務部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺二件

三月初四日

199 交會議政務處本日郵傳部參議李程勳奏新

纂刑律分則草案輕重失宜請詳加釐訂一摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月初四日

200 光緒三十四年二月初五日內閣奉

上諭四月初一日孟夏時享

太廟朕親詣行禮

後殿派溥偉行禮東廡西廡派德壽榮整各分獻欽此

201 光緒三十四年三月初五日內閣奉

上諭四月十一日常雩大祀

天於

園丘朕親詣行禮

四從壇派恩輝錫露德茂秀倫各分獻欽此

202 光緒三十四年三月初五日內閣奉

上諭禮部奏在籍大員鄉舉重違顯懇恩施一摺巡

撫銜前督辦雲南礦務大臣唐炯早年登第宣力
有年前因病准其開去礦務差使回籍現屆鄉舉
之年適周花甲洵屬科名盛事加恩著賞給太子
少保銜以惠耆臣欽此

203 光緒三十四年三月初五日内閣奉

上諭奉天奉天府知府員缺緊要著該督撫於通省
知府內揀員調補所遺員缺著陳恆慶補授欽此

204 奉天奉天府知府遺缺請

旨簡放

205 明保河南試用知縣范壽銘

硃。 旨著發回原省以知縣儘先即補

由本處恭摺

206 明保湖南優貢知縣嚴用彬

硃。 旨著發往江蘇以知縣儘先即補

由本處恭摺

207 交吏部本日奉

旨此次驗看之明保河南試用知縣范壽銘著發回
原省以知縣儘先即補湖南優貢知縣嚴用彬著
發往江蘇以知縣儘先即補欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交

三月初六日

208 光緒三十四年三月初七日内閣奉

上諭鴉片流毒為害甚深前已迭降諭旨剴切中禁
內外大小臣工宜如何淬厲奮發仰體力行乃近
聞臣工內平日沾染嗜好者仍不乏人或陳明斷
戒其實未盡祛除或癮已沈痼表面巧為掩飾甚
或明目張膽吸食如故若不專派重臣認真查禁
恐禁煙之令難望依期實行著派恭親王溥偉協
辦大學士鹿傳霖協辦資政院事務景星丁振鐸
充辦理禁煙大臣由該大臣精選中外良醫立即
設立戒煙所專司查驗除在京各衙門屬員有確
知其素染嗜好者由該管堂官照章參辦外其情
形可疑之員均咨送該所切實查驗限於三個月

內安定章程建修局所奏明開辦如禁煙大臣訪聞各衙門員司有斷煙未淨者即向該管衙門調往查驗若係堂官大員准由該大臣奏請發交查驗外而監司以上大員如經訪聞明確亦准指名奏請調驗凡經驗人員其確無嗜好或實已斷淨由該所出具憑結准其照舊供職倘驗明仍有嗜好即據實照章奏參京外各衙門屬僚仍責成該管長官嚴密設法切實查禁如係經禁煙大臣發覺查驗實有煙疾並將該管長官按其瞻徇失查情節分別交部議處該禁煙大臣等均係選擇任使務須破除情面不避嫌怨實力奉行毋得顧忌因循致負重任倘嗣後辦理禁煙仍無起色該大臣等亦不能辭其責也該所應需款項著柯逢時在上藥統稅項下先撥開辦經費銀三萬兩並撥常年經費銀六萬兩以濟要需欽此

209

交農工商部本日給事中王金鑑奏北省商家買空賣空請

旨中禁一摺奉

旨著農工商部查明中禁欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計科抄摺一件

三月初七日

210

查本處章京候補侍讀裕銘補額已滿三年額外章京禮部員外郎萬雲路吏部應補主事宋子聯到班均滿一年照奏定新章裕銘擬補侍讀實缺萬雲路係禮部實缺員外郎宋子聯係曾任吏部實缺主事均擬銷去本衙門字樣萬雲路作為本處實缺員外郎宋子聯作為本處實缺主事充補章京額缺為此謹

奏

光緒三十四年三月初七日奉

旨知道了欽此

211

軍機大臣 字寄

閩浙總督松 光緒三十四年三月初八日奉
上諭有人奏署福建安溪縣知縣田捷榮假稅契為名勒捐商人僑氓訟事日久拖延等語著松壽按

照所參各節確切查明據實具奏毋稍徇隱原片
著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

212 光緒三十四年三月初八日內閣奉

上諭山東巡撫著袁樹勛署理民政部左侍郎著烏
珍署理欽此

213 光緒三十四年三月初八日內閣奉

上諭湖北武昌鹽法道董德璋河南河陝汝道崇緒
甘肅涼州府知府聯壽安徽甯國府知府榮普陝
西同州府知府英琦均著開缺送部引見欽此

214 光緒三十四年三月初八日內閣奉

上諭安徽甯國府知府員缺著貴福調補王步瀛著
調補甘肅涼州府知府文紳著調補陝西同州府
知府欽此

215 光緒三十四年三月初八日內閣奉

上諭江西南贛鎮總兵員缺著邱俊鳳補授欽此

216 光緒三十四年三月初八日內閣奉

上諭江西南贛鎮總兵蔣雲龍著即開缺欽此

217 光緒三十四年三月初八日內閣奉

上諭楊士琦奏保薦南洋華僑人才懇恩錄用各摺
片花翎鹽運使銜胡國廉著賞給三品卿銜花翎
候選道吳梓材著賞給四品卿銜欽此

218 光緒三十四年三月初八日內閣奉

上諭江蘇常州府知府員缺著長明補授欽此

219 光緒三十四年三月初八日內閣奉

上諭浙江紹興府知府員缺著劉嶽雲補授欽此

220 查本日

簡放江蘇常州府知府之劉嶽雲係江蘇人應迴避

本籍可否與

簡放紹興府知府之長明互相對調請

旨遵行謹

奏

221 交吏部本日尚書海頤等奏遵保人才一摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月初八日

222 交度支部本日侍郎楊士琦奏請

飭各省督撫勿派員前往南洋各埠勸捐片奉

旨度支部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔片一件

三月初八日

223 交農工商部本日侍郎楊士琦奏南洋華商集

資創興瓊崖地利辦法摺單一件奉

旨農工商部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月初八日

224 交郵傳部本日

貴部奏萍潭鐵路擬改歸郵傳部管轄一摺人

奏擬接築涿昭鐵路片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月初八日

225 滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京文年

四品銜在任即選知府選缺後以道員補用章京侍讀成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京侍讀鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

四品銜章京侍讀裕銘

額外章京內閣候補侍讀中書海桂

漢頭班

領班三品章京王慶平

幫領班四品章京胡彤恩

花翎員外郎銜章京主事劉毅孫

章京員外郎趙廷珍

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京內閣候補中書蕭端潔

滿二班

花翎領班三品章京文徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京郎中桂蔭

花翎四品銜章京郎中榮奎

三品銜 記名道府章京郎中長明

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

額外章京陸軍部員外郎星格

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京曹廣楨

三品銜幫領班四品章京易貞

章京 記名繁缺知府郎中孫筭經

五品銜章京主事劉慶篤

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部候補主事雷延壽

226 交大學士張 等本日

貴大學士等奏津浦南段路線應取道皖境請

飭安徽巡撫會同辦理摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴大學士等欽遵可也此交

三月初九日

227

交步軍統領衙門
相民北
天本日軍機大臣面奉

諭旨近日京城地面常有火災難保無匪徒混迹縱

火情事著民政部步軍統領衙門順天府一體嚴

查究辦欽此相應傳知

貴部衙門欽遵可也此交

三月初十日

228

交學部本日御史黃瑞麒奏請設立女子師範

學堂片奉

旨學部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結抄片一件

三月初十日

229

交外務部本日御史黃瑞麒奏駐洋人員及在

外華民有沾染嗜好者應令速即戒除等語奉

旨外務部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結抄片一件

三月初十日

230

交步軍統領衙門
相民北
天軍機大臣面奉

諭旨本月十四日祭

先農壇遣恭親王溥偉恭代行禮欽此相應傳知

貴衙門等欽遵可也此交

三月十一日

231

交順天府本日

貴府尹奏查禁架空錢票章程摺單一件奉

旨依議欽此又奏請封禁京華報館並將唐繼星監

禁片奉

旨著照所請欽此相應傳知

貴府尹欽遵可也此交

三月十一日

232

交吏部本日

貴部尚書陸潤庠等奏遵

旨薦舉人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月十二日

233 交吏部本日倉場侍郎桂春等奏遵

旨薦舉賢才摺單一件奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計抄摺單各一件

三月十二日

234 交陸軍部本日

貴部奏擬定

欽派大員校閱陸軍軍隊章程開單呈

覽一摺又奏各省旗校閱新軍由部奏請

欽派大員片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月十二日

235 軍機大臣 字寄

浙江巡撫柯 光緒三十四年三月十三日奉

上諭都察院奏浙江長興縣耆民蔣生榮等呈控前

任知縣趙以成浮收諱盜據情代奏一摺著柯逢

時按照所呈各節確切查明據實具奏毋稍徇隱
原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

236 光緒三十四年三月十三日內閣奉

上諭端方等奏查辦江西南康贛縣教案業經議結

一摺所有縱容匪徒鬧教之已革署南康縣知縣

楊寅揆著永不叙用並不准投効他省別請獎敘

其防範不嚴之贛州府知府關榕祚贛縣知縣張

學培南安府知府裕隆署崇義縣知縣張超著一

併交部議處餘著照所議辦理該部知道欽此

237 交吏部本日都察院奏薦舉人才一摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月十三日

238 交度支部本日

貴部奏議廢趙爾豐雷奏請暫緩停鑄銅圓摺奉

旨著仍遵前旨暫行停鑄以歸畫一欽此又奏議駁

岑春煊奏請增加銅圓鑄額片奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月十四日

239 交農工商部商約大臣盛宣懷奏創辦公

司請籌的款以充公股而開風氣摺奉

旨著照所請股票及利息均著交農工商部欽此相

應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月十四日

240 光緒三十四年三月十五日內閣奉

上諭王人文著調補四川布政使陝西布政使著許

涵度調補欽此

241 光緒三十四年三月十五日內閣奉

上諭江毓昌著調補湖南辰沅靖道江西吉南贛

甯道員缺著俞明頤調補欽此

242 交郵傳部本日

貴部奏擬議江浙鐵路公司存款章程開單呈

覽摺又奏籌墊借款虧耗辦法片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月十五日

243 交吏部本日尚書陳壁等奏遵

旨薦舉人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月十五日

244 交稅務處本日

貴處奏三十三年分用款報銷摺單一件奉

旨知道了欽此又奏議覆劉式訓奏釐定稽查內河

船隻章程片奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

三月十五日

245 交尚書陳壁本日

貴尚書奏錢價漸平請開去兼差摺奉
旨依議欽此相應傳知

貴尚書欽遵可也此交

三月十六日

246 交尚書陳壁等本日

貴尚書等奏市價漸平公估局暫停收買用過
銀兩開單呈

覽一摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴尚書等欽遵可也此交

三月十六日

247 交吏部本日陸軍部奏遵保人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔摺一件

三月十六日

248 軍機大臣 字寄

署直隸總督楊 山西巡撫寶 光緒三十四
年三月十七日奉

上諭寶奏歸化等處游民疇集擬分別防範截留

一摺移民實邊論殖民者屢有陳奏今因直隸大

順一帶荒歉游民多赴口外謀作墾工正不妨因

勢利導但須設法稽查約束勿令滋生事端著楊

士驥會商寶奏體察情形妥籌安置原摺著鈔給

楊士驥閱看欽此遵

旨寄信前來

249 光緒三十四年三月十七日內閣奉

上諭徐世昌等奏官兵在吉迭次剿捕巨匪請將出

力各員擇尤保獎一摺吉省積匪為患已久此次

經徐世昌等派委行營翼長張勳統率所部奮勇

進剿殄除巨患地方賴以乂安雲南提督張勳著

加恩賞穿黃馬褂至在事文武各員亦應分別獎

敘所有單開之留直補用游擊張文生著免補參

游以副將仍留原省補用補用游擊許蘭洲鼎汝

康楊得春均著免補游擊以參將儘先補用並加副將銜補用游擊吳俊陞張繼善喬建才均著免補游擊以參將儘先補用留直補用游擊王德芳著免補游擊以參將仍留直儘先補用補用都司吳起恆陳德修畢盛魁閻肇興尹占魁符海清楊福壽崔青林呂鳳山董玉嶺均著免補都司以游擊儘先補用江蘇溧陽營都司郭鍾秀著以游擊在任遇缺即補副都統銜協領誠明著以總兵記名簡放記名總兵李家修著賞給捷勇巴圖魯名號並加提督銜游擊銜儘先補用守備凌維祺著免補守備以都司儘先補用並加參將銜留直補用守備葉殿臣著免補守備以都司仍留原省補用並加游擊銜儘先補用守備李長榮著免補守備以都司儘先補用並加游擊銜儘先守備蕭開第袁爵麟張樹堂張雲喬齊金緒均著免補守備以都司儘先補用留直補用守備周茂冬著免補守備以都司仍留直儘先補用補用十總么培修著免補千總以守備儘先補用並賞戴花翎藍翎補用防禦祥貴著以佐領儘先補用並賞戴花翎

補用千總關成德唐敬師林慶元陳家奎許連陞李文勝李治雲劉之潔胡桐山王耀廷李鴻舉均著免補千總以守備儘先補用補用把總尹鳳山陳錫武均著免補把總以千總儘先補用領催金祥著免補驍騎校以防禦儘先補用已革副將銜補用游擊毛得成已革江西補用副將萬國標均著開復原官原銜並免繳捐復銀兩分省補用知府甘常憲徐啟修均著免補本班以道員仍分省補用江蘇試用知府徐承諫著免補本班以道員仍留原省補用開復在任候補知府前直隸棗強縣知縣張石著以道員仍留原省補用分省補用直隸州知州李恩慶朱寶仁分省試用同知岳開先均著免補本班以知府仍分省補用直隸候補直隸州知州李慶璋著免補本班以知府仍留原省補用分部主事姚煜著以直隸州知州分省補用留奉補用知縣熊希存補用通判劉文揆均著免補本班以同知直隸州仍留奉補用直隸補用知縣陳敬儒著免補本班以直隸州知州仍留原省補用留奉委用知縣劉世培著免補本班以同

知直隸州仍留奉天委用選用知縣張文成著免
選本班以直隸州知州不論雙單月選用留奉補
用縣丞史久亨著免補縣丞以知縣仍歸候補班
補用直隸即用知縣李維楨著免補本班以同知
補用候選通判書敏著免選本班以同知選用候
選知縣程學懌著免選本班以同知直隸州選用
分發委用教諭徐先焯著俟選缺後以知縣分省
歸候補班補用候選府經歷宋符昌候選縣丞蕭
乃慶均著免選本班以知縣選用知縣用候補筆
帖式葆廉著免補本班以知縣分省補用分省試
用府經歷韓紹先袁天庚試用縣丞王炎均著免
補本班以知縣仍分省補用留吉補用縣丞戚伯
銘朱興淮均著免補本班以知縣仍留原省補用
選用府經歷許榮光著免選本班以知縣不論雙
單月儘先選用選用府經歷縣丞裕和著免選本
班以知縣不論雙單月選用山東候補縣丞商用
中著免補本班以知縣仍留原省補用選用府經
歷薛慶崧任德明選用縣丞萬嘉訓梁士許管雲
臣秦士林均著免選本班以知縣不論雙單月選

用候選巡檢張景焄著免選本班以縣丞不論雙
單月選用附生許藻章著以縣丞不論雙單月選
用留直補用副將張士造吳慶桐均著賞加總兵
銜佐領承祿毓麟均著以協領儘先補用補用游
擊李玉富著以參將補用佐領圖瓦謙著以應升
之缺升用補用都司劉義章馬步雲程德喜朱廣
瀛均著俟補都司後以游擊補用補用守備苑春
華丁玉洪張樹田衛鴻鈞李茂威蘇金山童志倫
何福升馬德勝王德芳均著俟補守備後以都司
補用候補防禦錦芝著俟補缺後以佐領補用記
名防禦騎校春桂著以佐領儘先補用雲騎尉
勝貴春喜常貴恩綸駝騎校德魁祺綿均著以防
禦儘先補用補用千總張調元著俟補千總後以
守備補用補用千總邱昌錦高連陞馬振廷康水
勝趙純禎趙清衡安玉如李得勝黃鳳奎白鳳鳴
周永勝黃儒金王行連萬雲閣孫肇賓邢茂隆張
盛林于海山趙汝楫黃成文趙慶喜張士良李景
文靳緒魁侯玉峯張慶元均著俟補缺後以守備
儘先補用領催忠玉著以駝騎校遇缺即補領催

隆魁披甲連順德山均著以驍騎校儘先補用候
 選道王治馨傅良佐均著賞加二品銜選用知縣
 李恆昌著俟選缺後以直隸州知州在任補用候
 選知縣祁守廉著俟選缺後以同知直隸州在任
 補用分省試用府經歷程塞著俟補缺後以知縣
 補用候選府經歷吳鍾麟著俟選缺後以知縣補
 用同知職銜范熾泰府經歷銜沈驥榮貴附生張
 維瑩均著以府經歷歸部選用義學生陶魁賢附
 生陸鵬萬筆帖式恩承均著以府經歷不論雙單
 月選用縣丞銜周維禎傅彊興和李玉田舒麓張
 德本李長華李如璋廉生黃傳鑣附生萬弼臣趙
 舉春許嶽鍾許元懷均著以縣丞不論雙單月選
 用委筆帖式樞庚著以筆帖式遇缺即補候選從
 九帥敬熙著以巡檢儘先選用另片奏請將整頓
 捕務及按仗陣亡各員分別獎卹等語著賓州廳
 同知在任候補直隸州知州秦調直隸安平縣知
 縣金永著免補直隸州知州以知府在任儘先補
 用已故鑲藍旗驍騎校承銓著照驍騎校陣亡例
 議卹其隨辦營務異常出力之已革知府在任

候補直隸州貴州黃平州知州涂步衡著開復原
 官升階並免繳捐復銀兩已革四品銜補用直隸
 州直隸候補知縣王維壟著開復原官原銜並免
 繳捐復銀兩陳友璋一員案情較重著不准開復
 餘著照所議辦理該部知道單一件片四件併發
 欽此

250 請

賞漢字勇號

殊。

捷 克 奮 勝

251 交吏部本日法部奏薦舉人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

吏部欽遵可也此交計結鈔摺一件

三月十七日

252 交外務部本日外務部奏遵

旨薦舉賢才摺奉

旨胡惟德陸徵祥李經方均著交軍機處存記餘著

吏部照章辦理欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月十八日

253

交北洋大臣
海軍大臣

本日侍郎楊士琦奏海軍得力人員

請照陸軍部奏定暫行海軍章程充補實官摺

又奏每年冬季酌派南北洋各艦游歷南洋各

埠由農工商部遊員前往片均奉

旨陸軍部會同南北洋大臣具奏欽此相應傳知

貴部大臣欽遵可也此交計黏鈔摺片各一件

三月十八日

254 交農工商部本日

貴部奏檳榔嶼紳商五品銜林汝舟興學保商請

賞給道員職銜摺又奏籌辦京師自來水暨紡紗廠

調員董理摺又奏派周學熙在丞參上行走片

均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月十八日

255 交郵傳部本日

貴部奏議獲川漢鐵路毋庸另派督辦摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月十八日

256 交侍郎楊本日

貴侍郎奏此次出洋經費由農工商部陸續撥

匯片又奏繳木質關防片均奉

旨知道了欽此相應傳知

貴侍郎欽遵可也此交

三月十八日

257 交內務部軍機大臣面奉

諭旨太醫院院使莊守和之子法部主事莊壽榮加

恩著以員外郎用欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

三月十九日

258 交內務府軍機大臣面奉

諭旨太醫院院使莊守和現在病故加恩著賞給銀

五百兩由廣儲司給發欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

三月十九日

259 光緒三十四年三月二十日內閣奉

上諭候選郎中楊度著以四品京堂候補左憲政編

查館行走欽此

260 交度支部本日翰林院侍讀周爰諏片奏請

飭各督撫凡種鴉片煙之地限兩年一律禁絕等

語奉

旨度支部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔片一件

三月二十日

261 交會議政務處本日翰林院侍讀周爰諏奏請

融滿漢畛域尚須一律推行摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月二十日

262 光緒三十四年三月二十一日內閣奉

上諭順天府府丞著改派阮忠樞署理欽此

263 交吏部本日尚書溥良等奏薦舉人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月二十一日

264 交在練總行順天府本日順天府奏整頓順屬吏治遊員

調署兩首縣員缺以資倡導摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

三月二十一日

265 交禮部本日

貴部奏遊員署理參議各缺一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月二十一日

266 軍機大臣 字奇

甘肅新疆巡撫聯 光緒三十四年三月二十

三日奉

上諭志銳奏新疆俄文學堂亟宜整頓謹陳管見一

摺所籌不為無見著聯魁按照所陳認真經理期

收實效原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

267 交吏部本日民政部奏遵

旨薦舉人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月二十三日

268 交學部本日都察院代遞河南試用知府李

昌條陳學界人心未靖宜講明心學以正學術

呈一件奉

旨學部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔呈一件

三月二十三日

269 交禁煙大臣本日內閣侍讀學士占鳳奏請改

近禁煙限期摺奉

旨禁煙大臣知道欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月二十三日

270 交吏部本日度支部奏遵

旨薦舉人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月二十四日

271 交署山東巡撫袁樹勛本日

貴撫奏日本給予寶星應否佩帶請

旨摺奉

旨准其收受欽此相應傳知

貴撫欽遵可也此交

三月二十四日

272 交吏部本日學部奏薦舉人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月二十五日

273 交^{理藩部}內務部軍機大臣面奉

諭旨廓爾喀貢使及頭人等着加恩於四月初五日

由理藩部內務府帶領瞻仰

頤和園欽此相應傳知

貴^部衙門欽遵可也此交

三月二十六日

274 交理藩部軍機大臣面奉

諭旨廓爾喀貢使著理藩部於四月初三日在勒政

殿帶領引見欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月二十六日

275 交吏部本日理藩部奏薦舉人才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

三月二十六日

276 交陸軍部本日侍郎啓 奏考驗近畿陸軍事

竣各情形摺奉

旨陸軍部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

三月二十六日

277

交會議政務處
交會議政務處
院本日軍機大臣呈遞大學士張

協辦大學士鹿 尚書袁 幣制簡明總要暨

說帖並度支部說帖各省督撫議覆幣制摺奉

及電奏各件奉

旨者會議政務處資政院總裁協理幫辦會同妥議

具奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此文

三月二十六日

278

各直省督撫遵議幣制節略

徐世昌唐紹儀主鑄九成一兩主幣

楊士驥主鑄減成一兩銀幣

端方主鑄足色一兩五錢為主幣一錢五分為

輔幣多鑄五錢幣名為半兩

升允主鑄十成足色一兩暨五錢一錢暨五分

銀元

趙爾豐主鑄九成一兩等銀幣

陳啟泰主鑄十成一兩暨五錢之銀元暨九成

小元

岑春煊主鑄九八色一兩五錢為主幣九六色一

錢五分為輔幣

吳廷斌主鑄一兩五錢為主幣一錢五分兩便

為輔幣並鑄當一當二小銅元

寶榮主鑄一兩十成主幣九成輔幣

恩壽主鑄十成一兩為主幣以九成為輔幣

聯魁主鑄九成一兩五錢為主幣

以上十一省均主用一兩

錫良主鑄減成之七錢二分並三錢六分暨一

錢四分四釐暨七分二釐各銀元

趙爾巽主鑄減成七錢二分銀元以十小元當

一大元銅元十枚當一小元

張人駿主鑄九成七錢二分銀元其餘小元銀

色遞減

朱家寶主鑄九成七錢二分定為幣位

程德全主鑄九成七錢二分銀元為主幣每一

銀元作為十角每角作為銅元十枚

瑞良主鑄七錢二分九成銀元為主幣再鑄三

錢六分暨一錢四分四釐暨七分二釐九成

銀元為輔幣

馮汝駿主鑄七錢二分銀元

林紹年主鑄七錢銀元

龐鴻書主鑄九成七錢二分銀元為主幣小銀

元數等為輔幣

以上九省均主用七錢二分

松壽主以箇數行不必以一兩與七錢二分為拘

馮煦主暫仍元兩並用總以先謀信用為急分

量輕重尚在其後

張鳴岐主先定金幣單位先設幣制調查局

以上三省主兩元並用

幣制說帖簡明總要

一宜用兩錢分釐 國家取諸民之丁漕取諸商之釐稅皆以兩錢分釐計若更改折并必多擾累民間新舊債帳必多膠葛爭訟恐致天下擾亂胎患無窮

一宜用足色不宜用九成 收發自應一律國家既發九成之銀幣則商民輸納於官者亦均係九成之銀幣我國官民流通以此入者亦以此出其盈虧尚可不計惟每年交付賠款數十萬及付備買外洋貨物機械之價外人斷不肯認我之銀幣為十足口作九成計算前年英公使已有照會明言不認則每年所補太鉅約須五百萬以外此款實無所出

一中國商民用銀元者仍以兩錢分釐計算上海即是如此某日銀元一枚折合銀錢幾錢幾分幾釐必刊入報紙上海如此他埠可知

一中國用元之人少用兩之人多 除沿江海商埠外皆罕用銀元故銀幣行用多少當以人數計不當以財數計內地之繁富雖不如沿江沿

海然民數既多則改兩為元尤多窒礙易致擾動

一國幣足色虧耗無慮 州縣交司道庫外省交部庫若銀色平頭或有不足者儘可批回挂欠令該省及該州縣照補斷無人敢於抗違

一鑄幣工大所虧可設法彌補 每一兩國幣一枚工大雜質不過三分可以補助幣之小銀元餘利彌補之如尚不敷可提銅元餘利補之如再不敷可以紙幣盈餘補之更無再虧之理

一國幣一兩不慮其太重 現擬鑄每枚重一兩者及每枚重五錢者此二種均為主幣又鑄每枚一錢及每枚五分者均為輔幣五錢較七錢二分者其質更輕尤便攜帶合五錢之幣二枚即是一兩之幣一枚於輸納官款亦無不便至或慮長民用奢侈之習一節更決無此事矣

一各項銀塊銀元只作為生銀不作為幣 舊日各省元寶銀錠及各國銀元暨各省所鑄七錢二分大元及各項小元暫聽其行用民間官局從前所鑄大元勿庸收回但漲落聽之市價視

為一種生貨而已惟斷不准繳納官款於國幣
自無妨礙

竊維國法者一國自主之權不必徇人而屈己權量者百代相承之制要在因習以宜民中國用銀向以兩計相沿已數千年雖各地輕重不同而兩之名卒莫能易其自國庫之出入以逮官司之徵解閭閻之完納固無不準兩計數即市厘之往來交易合全國計之亦係用兩之處較多於用元且用元者僅商民之自相授受而用兩者則官民皆一律通行此關夫國制不可廢者一也各國貨幣概不相襲我果畫一幣制自能中外信用何必效人且墨國近已另鑄新幣矣我棄自有之權曲徇他國已廢之制不亦慎乎此關夫主權不可廢者二也至於民間日用沿習既久觀念自深東南各省雖用墨元然多行於商埠非遍及於內地且往往按兩折合而其漲落之值亦悉以兩為準所謂元其名而兩其實西北各省大都用銀計兩一旦改制愚者駭愕生事必多此關夫民俗不可廢者三也以兩之不可輕廢如此今議鑄新幣

乃欲規做墨元致與中國數千年習用之兩參差而不相應其為不便無俟繁稱請畧陳其大者夫微之於民曰田賦州縣魚鱗冊籍已細如牛毛若再加折合細者愈細其奇零之數積少成多棄之將病國增之實病民其不便一也徵之於商曰釐稅司事者向以展轉折合為利今再增一轉折即再增一弊端其不便二也民間契約輻輳實多孰減孰增錙銖必校愚民智識易惑難曉小者口舌大者爭訟皆勢所以至其不便三也至於外債償款向皆締有專條今改幣制必改約款彼計利素精外交尤多機變萬一別生枝節豈非無事自擾其不便四也即此四端已一舉而困難交至何如沿用舊制以一兩及五錢為主幣以一錢及五分為輔幣大小相劑其於國制主權民俗皆無所不順然事不窮其變不足以折其中誠不極其微不足以知其失竊觀中外臣工所議則主持七錢二分者固有說其主持之義有六而非難之義有五是非得失可得而言一曰廢兩之名也謂貨幣進化工例皆由秤量而進於計數英之鎊法之佛郎德之馬克意之厘刺古時皆即衡名為重量今

日重不如文僅以為計枚之說我若廢兩計枚可與他國相通竊以為不然考歐洲中世其君皆貪婪無藝用仍名變實之術以括克其民權量幣制至足始分斯密亞丹氏嘗極論其弊而議者乃以為進化良所未喻且既鑄為幣固皆可以枚計其能與他國相通與否又在金銀之定價而不在銀幣之重量何如也一曰相權之得也謂子母相權進位當以整數墨元合錢約一千上下最為合宜此又不必然考各國錢幣不必皆以整數進即以銀銅相受而論英以十二便士為一先零印度以十六安邦為一盧批非整數也且近來京畿等處一元之價乃至一百二三十枚甚且至一百五十枚矣以十進位之說果足據乎一曰比例之合也謂墨新幣當美半托臘今鑄幣重值亦不用洋元其餘則又兩元參半夫以西北之通用兩而不用元與東南賦入及大宗貿易之盡用兩而其餘又兩與元參用者其多寡之別不待計數而後知也凡主持之說具如此至於非難一兩者曰形式之不便也謂一兩之幣過重過大為各國所未有墨元輕重適宜故流銷獨廣此又非實夫墨元之所

以能行銷者以其製精其色一其量準非因其輕重之適宜試觀西班牙之本洋行於江蘇安徽俄之盧布行於東三省印度之盧批行於西藏其重又各不同可以見矣考美之意格而法之拿波崙其大者皆在兩以上謂各國未有固不盡然且五錢亦為主幣不妨多鑄以使民用即交官款時儘可以五錢兩枚而當一兩如日本以元為本位而國中通行則半元為多此亦無不便也曰單位之過高也謂準經濟學之理單位不宜過高恐長人民奢侈之風此其理固精然兩者向所沿用並非今日始然况五錢亦為主幣其量又較小奢侈之說殆可無慮果使用兩即為奢則舊習已成即改為七錢二分亦豈能挽之使儉且民間所用多銅貨自當以文為單位西國財政家分中國起數單位為兩種謂民間以文而大宗用款以兩自不為無見以文與各國之銅幣較更無小於此者矣曰貿易之不使也謂貨幣之用以商家貿易民生日用為大宗一兩之制揆之通國程度未能盡合是亦非實以商家貿易而論內地不必言即商埠與之等可與美幣有一定比例而各國之幣無不可

推是亦不然夫美金幣與各國金幣有比例故其銀幣與各國金幣有比例今雖鑄與美有比例之銀幣而無與美有比例之金幣安能相準至謂七錢二分與半托臘等者亦誤考美一托臘重英權四百十二葛林半英以七十葛林為一磅合中權十二兩半托臘當重三錢五分不盡則七錢二分與墨新幣且不相等况美幣乎一曰匯兌之使也謂德與法仇力求自異所定幣制二十馬克之重與法二十五佛郎相差不過百分之一日本之改幣制不從伊藤博文與美半金元相等之議致皆有替兌抹零之虧此亦似是而非今之輕重一準墨元固與彼之二十而當二十五二而當一者有別其不用者正寓獨立之意不欲因人也且今即鑄與美法相等之幣其於德日人己不便此萬不能兩全况又非美法之制乎一曰民俗之使也謂墨元行久矣因勢利導雖新幣而民不惑各直省所鑄龍元能行銷者以此此又不然夫幣制關係至重固非徒為便俗計况兩之名本所素習但使地方有司於田賦釐金關稅非新幣不用國家銀行人從而消息之且爭用之不暇又何慮其不行

乎一曰多少之分也謂西北計兩而用財少東南計元而用財多從衆使用亦因利之法不知用之多寡當以人計不當以財計今即以財計而國家之賦入以東南為多此皆以兩計而大宗貿易如進出口貨計之查近年海關冊進出口價值約在五萬萬兩上下此皆用銀兩不用洋元所謂大宗者孰大於是至民間行用又有折合之煩使有一兩之幣其棄彼取此可決也曰平色之不便也謂各省平色不同今以用兩故則本以兩計之貨高應改其價目而不計兩之貨更無論是擾民也此說亦非蓋幣制畫一後凡不法之制理應盡絕詎得謂之為擾假如用七錢二分試問從前之以兩計者豈遂能不改價目乎曰私銷之宜防也謂貨幣通幣重則私銷利之所在朝鑄夕燬亦所未喻古之銅錢以一枚準一文奸人牟利故私銷其重者而盜鑄其輕者今新幣大小成色皆有定制重幣輕幣豈可同日而語奸人何利於私銷果使有利則七錢二分者亦不得保其不然此又凡幣之公患不獨用兩為然也非難一兩之說具如此夫主持者於理既不足而非難者於勢又未必然何

去何從無待著卜今之議者固事事以西法為說矣嘗又即西事考之各國幣制自羅向同盟及司庚敵那維亞同盟外凡諸大國無相襲者而同盟諸國固已彼此防閑以杜外幣之沒灌今無特別之盟約而當然隨人以步趨其義安在且不特諸國不相襲而已即藩屬之較大者亦往往自為制度印度坎拿大皆英屬也而印度之金幣曰木漢銀幣曰盧批坎拿大之金幣曰弗銀幣曰瑣秘不與金鎊先零同安南突尼司皆法屬也而安南之銀幣曰堪合突尼司之銀幣曰皮亞司路度不與佛郎同以彼處他人卵翼之下猶且如此則以我

國家大一統而為他國藩屬之所不屑為不亦喪國體損治權乎人考美未立國以前嘗通用英幣至一千七百八十五年始仿西班牙為之又明年遂改今制夫美至今日凡度量權衡之用猶一仿英制而於錢幣獨不憚煩一變再變而自為制者何也則以幣制者一國之精神及萬民之觀聽於是焉在而國家自主獨立之義亦寓乎其中非可以因人也德日之不苟同於法美意亦猶此然則我鑄新幣即其他強

大國之制亦不宜襲用而墨元更不足言矣夫衡量既定則成色宜審綜觀大勢統籌全局現在金幣未行主幣必以十成為宜輔幣可以九成為率議者謂十足純銀質煥易敵考俄國半元金盧布重六格蘭五四內計淨金六格蘭日本十元金幣重二錢二分二釐內計淨金二錢其雜質皆外加用時祇按足金計算此外諸國雖不必為整數而用時亦僅計足金我金幣未立暫以銀幣代之斷不能不一律照辦曾經飭局詳加化驗試造若鑄一兩銀幣外加雜質三分則質堅而聲亦清越至於工火虧耗誠不能不預為籌及然有小元餘可以貼補不足則銅幣餘利亦可劃抵又不足則頒行紙幣以佐之再不足則舉辦印花稅以濟之統籌而併計挹彼以注茲自不難以其所贏彌其所絀議者又以部庫收款成色往往不足此等虧耗何所取償不知國家出納例用足色其不足者當於批回挂欠飭令補解宜仿外省公估局之法設考驗成色之員專司其事則無慮其虧耗也夫釐定幣制所以崇

國體便民生去從前之積弊謀大利於將來固非如市

僧之徒操奇贏而遂什一況與外人交涉又非十足不可英公使已早言之如驟易以九成之銀必有扞格難通之處與其將來不行非改鑄即折扣授其權於外人何如早計之為得議者但知各國銀幣無足色者不知我無金幣而以銀幣代之不得引諸國為比也又考議者之意非不知七錢二分與九成為墨西哥已廢之制而猶主持此說者惟恐新幣之不行以為附他人已流通之制較為有據不知幣制定則權統於國家所有田賦丁糧釐金關稅非此不收而外人於我新幣但使成色十足決無不承認之理此二者已居其大數而民間習用銀兩已久又無慮其不行嘗考古今中外凡制新幣苟非愚民之術必無阻滯之虞議者但見墨元之流行遂欲據以為法不知前此有兩之名無兩之幣輕重成色舉上下於奸商駑儂之手及墨元流入諸弊悉空人情樂趨簡易故能風行一時其實為乘我之虛而初非彼制之善議者不察反欲從而效之亦未探其本矣所有幣制宜用一兩重量十足成色緣由謹具其說如右

臣庫傳霖
臣張之洞謹議
臣袁世凱

281

交謂人等軍機大臣而奉

諭旨四月初一日孟夏時享

太廟遣醇親王載灃恭代行禮欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

三月二十七日

282

交會議政務處本日農工商部會奏遵擬畫一度量權衡制度圖說總表及推行章程一摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交計黏鈔摺二件黃冊一函計二本

三月二十八日

283

交郵傳部本日

貴部奉酌擬各廳司分科治事辦法請將員缺

公費童子變通摺單一件奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

三月二十八日

284

順治九年九月壬申諭諸王貝勒大臣九卿科道曰

當 太宗皇帝時尚有喀爾喀一隅未服以外藩

蒙古惟喇嘛之言是聽因往召達賴喇嘛其使未至

太宗皇帝晏駕後睿王攝政時往請達賴喇嘛許於

年前來及朕親政後召之達賴喇嘛即起行前來

從者三千人朕欲親至邊外迎之令喇嘛即往邊外

外藩蒙古貝子欲見喇嘛者即令在外相見若令喇

嘛入內地今年歲收甚歉喇嘛從者又眾恐於我無

益倘不往迎喇嘛以我既召之來又不往迎必致中

途而返恐喀爾喀亦不來歸順應否往迎之處爾等

各抒所見以滿洲諸臣議我等往請喇嘛即來上親

至邊外迎之令喇嘛住於邊外喇嘛欲入內地可令

少帶隨從入內如欲在外聽喇嘛自便上若親往迎

之喀爾喀亦從之來歸大有裨益也若請而不迎恐

於理未當我亦禮敬喇嘛而不入喇嘛之教又何妨

乎眾漢臣議 皇上為天下國家之主不當往迎

喇嘛喇嘛從者三千餘人又遇歲歉不可令入內地

若以特請之故可於諸王大臣中遣一人代迎其喇

嘛令在邊外遣之金銀等物亦所以敬喇嘛也兩議

具奏 上曰朕當裁之

戊戌大學士洪承疇陳之通奏 臣等聞欽天監奏之
昨太白星與日爭光流星入紫微宮竊思日者人君
之象太白敗於爭明紫微宮者人君之位流星散於突
入在天垂象誠宜儆惕且今年南方苦旱北方苦澇
歲饑寇警處處入告宗社重大非 聖躬遠幸之時
雖百神呵護六軍扈從自無他虞然邊外不如宮中
為固遊幸不如靜息為安達賴喇嘛自遠方來遣一
大臣迎接已足見優待之意亦可服蒙古之心又何
勞 聖駕親往為也天道深遠固非臣等所能測度
但 乘輿將駕而星變適影此上蒼仁愛陛下之意
不可不深思而省戒也得 旨此奏甚是朕行即停
止是日遣大臣伯索尼傳諭洪承疇等曰卿等諫朕
勿往迎喇嘛之言甚是朕即停止以卿等賢能故權
贊密勿嗣後國家一切機務及百姓疾苦之處如何
始合民心卿等有所見聞即詳明敷陳勿得隱諱朕
生長深宮無由洞悉民隱凡有所奏可行即行縱不
可行朕亦不爾責也

十月庚戌命和碩承澤親王碩塞等往迎達賴喇嘛

並諭達賴喇嘛曰前者朕降諭後欲親往迎迓以盜賊
間發羽檄時聞國家重務難以輕置是以不能親往
特遣和碩承澤親王及內大臣代迎當悉朕不能親
迎之意故諭

十二月癸丑達賴喇嘛至謁 上於南苑 上賜坐
賜宴達賴喇嘛進馬匹方物並納之

順治十年正月戊子達賴喇嘛奏此地水土不宜身
既病從人亦病請告歸 上命議政王貝勒大臣會

議具奏尋議喇嘛原係特召當詢其情事其言宜於
我則從不宜於我則已倘不一加詢問使喇嘛含愠

則外國喀爾喀厄魯特必叛一議不宜詢問喇嘛若
詢之而不用其言喇嘛當亦含愠而去我朝荷天之

佑微服各處以成大業當年並無喇嘛也喇嘛係特
召當賜以金銀緞帶酌封名號給之冊印不加詢問

為使 上曰不必詢問事情止令部臣往諭喇嘛所
云水土不宜良是但我等始至亦嘗以水土不宜而

病後乃相宜今喇嘛既來且留此從容往代嚆待草
青時更召外藩王貝勒等與喇嘛相會

十年二月甲寅以遣達賴喇嘛歸 上御太和殿賜
宴並鞍馬金銀珠寶玉緞足

查達賴班禪於我

朝未入關以前已遣使呈進貢物迨

世祖章皇帝定鼎京師順治五年

詔令達賴喇嘛速入都八年

欽差噶足喇嘛等二百餘人迎接九年由藏起程至

青海恰甲地方則

欽差內大臣迎之至西甯甲噶布地方則

欽差阿格迎之至滿洲朶巴容台地方則

欽差郎青喇嘛迎之行經依庫之界則

欽差額星克親王帶領馬隊二千迎之行經清河橋則

欽差親王帶領馬隊三千餘迎之其在途中也

賞給珍珠念珠嵌珠佛帽斗蓬並衣服金鞍白馬及

次等馬百匹者一次

賞給口糧烏拉者一次

賞給無價珍珠念珠一次

賞賜金頂黃轎者一次

賞賜黃傘旗幟日罩各項儀仗又鑲珠袈裟衣服及

別項珍物者一次

賞賜全套金鞍御馬大哈達者一次

賞發黃傘紅傘四十付者一次十二月

幸南苑 先是滿拉議親迎漢廷議代至代為地方命親王領塞代迎諭以不能親往之意 達賴謁

上由御座起行數步與達賴握手問候後

上復登御座側設達賴座奉

溫諭令登座吃茶詢起居達賴即於座前恭請

聖安陳述前後藏情形

賞賜筵宴由部庫賞撥銀九萬兩達賴移居新建黃

房自是年十二月至十年二月

賞賜黃哈達金造幔達拉銀造幔達拉連船金碗金

盒淨水瓶金盤香爐大莽筒瑣拉播傘幢幟扇

者一次

賞賜其隨從人等銀兩緞匹者一次

賞賜珍珠斗蓬衣服並銀茶筒大緞十五匹各色緞

綾連鞍馬又從役每人元寶三箇者一次

賞賜黃金五十兩銀茶筒金盤者一次又黃金五百

兩銀茶筒銀盤銀萬兩者一次又重一千兩之

大銀罐大緞金鞍虎皮豹皮獺皮茶葉百包者

一次又蒙

皇太后賞賜黃金百兩銀千兩大緞一百匹二十日起程

欽派內大臣頒發絕大珍珠朝珠一串並奉

諭旨前賞大傘旗幟搖幢儀仗等在前擺列又

欽派親王貝子大臣率八旗官兵送至代噶又

命叔和碩鄭親王及禮部尚書饒於清河

上御太和殿賜宴並鞍馬金銀珠玉緞匹行至打卞地

方於五月內蒙

欽派大臣齋送金冊金印由

欽派克牙喇嘛等護送至藏自順治以後惟康熙五

十三年

諭達賴進京五十五年貴到

諭旨著令先於吉涼地方駐錫自此以後達賴無身

入京師者矣惟班禪於乾隆四十五年來朝祝

嘏七月至京在熱河避暑山莊仰觀

天顏舊以班禪有高行惟聽不拜至是班禪因請拜

上嘉其誠從之至京接見於南苑德壽寺仍居西黃寺

講經放參皆

世祖禮達賴處也

賞賜之禮亞於達賴十一月以痘終於京師明年春

舍利西歸

駕幸西黃寺拈香送之留其高弟子二十八人住持扎

什倫布廟傳授後藏經律於內地喇嘛自此以

後班禪亦無繼至京師者矣

286

軍機大臣 字寄

兩江總督端 江蘇巡撫陳 光緒三十四年

四月初一日奉

上諭有人奏兩淮運司趙瀆彥營私藐法病國虐民

一摺著端方陳啟泰按照所奏各節秉公確切查

明據實具奏毋稍徇隱原摺均著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

287 光緒三十四年四月初一日內閣奉

上諭升允奏特參庸劣不職各員請旨懲處一摺甘

肅鞏秦階道英璞才具平庸操守難信狄道州知

州潘力謀顛預成性聽斷粗疏均著開缺勒令休

致候補知縣張成周聲名素劣同僚不齒大挑知

縣楊泰遇細行不矜被控有案沙泥州判朱登蔽

因循疲軟縱役誣良代理大通縣知縣試用縣丞

潘世孝擅放倉糧見利忘義代理清水縣知縣試

用縣丞孫雲錦鑽營無恥欺罔糊塗捐升縣丞前

署泰安縣典史王大郁藉差滋擾舞弊營私董志

原訓導張維坊品行不端心術險詐均著即行革

職華亭縣知縣陳翰聲捕務稍懈不治輿情著開

缺另補餘著照所議辦理該部知道欽此

288 光緒三十四年四月初一日內閣奉

上諭甘肅鞏秦階道員缺著恆啟補授欽此

289 甘肅鞏秦階道員缺請

旨簡放

290 交吏部本日御史俾壽奏滿漢給事中御史升

階似應一律請

飭安定章程片奉

旨吏部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔片一件

四月初一日

291 交度支部本日御史俾壽奏京師試辦印花稅請

飭部妥擬章程片奉

旨度支部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計黏鈔片一件

四月初一日

292

交陸軍部本日御史俾壽奏吸食洋煙為軍營
大忌請一律禁止等語奉

旨陸軍部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計黏鈔片一件

四月初一日

293

交陸軍部本日御史俾壽奏將軍鳳山吞餼納
賄縱兵虐民一摺奉

旨著陸軍部秉公查辦欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計黏鈔摺一件

四月初一日

294

交學部本日御史俾壽奏教育之法宜力求實
際摺奉

旨學部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計黏鈔摺一件

四月初一日

295 交陝甘總督升奉

旨二品銜分省補用道董恭報効銀兩著交軍機處
存記欽此相應傳知

貴督欽遵可也此交

四月初一日

296 軍機大臣 字寄

順天府府尹凌 光緒三十四年四月初三日奉

上諭有人奏固安縣知縣吳詒孫抗旨判民劣蹟昭

著請飭查辦以懲貪玩一摺著順天府按照所參

各節確切查明據實具奏毋稍徇隱原摺著鈔給

閱看欽此遵

旨寄信前來

297 光緒三十四年四月初二日內閣奉

上諭前因歸化城副都統文哲珪奏賠款救壞邊

向欺朦巧取蒙民怨恨各款當經派令鹿傳霖紹

英前往確查嗣據賠款奏參文哲珪等侵吞庫款

亦即諭令鹿傳霖等一併查辦茲據查明覆奏賠

殺督辦墾務有二誤四罪等語朝廷放墾蒙地意在開荒備邊並非攘地圖利乃貽穀不顧藩部邊氓大局祇為一己罔利起見專川小人苛索巧取以官地墾局巧立公司名目輾轉漁利定章每畝地價三錢公司輒浮收八錢墾熟之地亦復勒繳地價甚至房基廬舍鋪面街道勒交租價每畝竟多至三百數十兩且縱勇濫殺燒斃台吉丹玉爾一家五命之多復羅織成獄輒將丹丕爾置諸重辟尤屬殘酷無倫所收地價以八錢計算約收銀四百餘萬兩除支撥有案及代為約計用款外其查無用項者尚有二百餘萬之多顯係貽穀及各局員等朋分吞蝕貽穀又需索蒙旗扣留荒價揀放官缺批索銀兩開設鋪店判兵扣餉似此貪殘相濟擾害蒙民敗壞墾局實屬辜恩負國綏遠城將軍貽穀著革職鞫問由山西巡撫派員押解來京交法部審訊監追治罪文哲珲於庫款亦有侵挪且向亦阿附貽穀聽其苛斂隨同畫諾並著交部嚴加議處其隨同婪賄虐蒙之山東候補道斌儀聚斂附益婪款不貲雲南候補直隸州知州景

祺苛暴險誼商農共憤五原廳同知姚學鏡心貪手辣率定爰書均著即行革職交法部監追治罪著東勝廳同知岳鍾麟誣蒙誣叛幾壞邊局山西候補知縣吳遠築以兵壓民形同寇盜分省補用府經歷誌良逼迫地價慘用非刑均著革職發往新疆效力贖罪候補參將譚湧發虛報冒功縱兵擄物著革職發往軍臺効力贖罪分省補用知府陳光遠直隸州知州黃桂芬山西候補直隸州知州呂繼純同知郝敬端余寶滋知縣鄭天啟林毓杜喬樾蔭通泰均屬驕詔互用迎合殃民著一併革職所有貽穀歷年辦墾保案著該部查明一併撤銷塔爾巴哈台參贊大臣榮昌著解任赴綏交接任將軍切實查辦餘著照所議辦理至鹿傳霖等條陳善後事宜及請派員接辦等語著派信勤前往接充督辦墾務大臣暫行兼署綏遠城將軍查照鹿傳霖等各條陳辦法體察情形妥籌辦理務期痛除積弊既須振興墾務尤須深恤蒙艱以示朝廷撫綏藩部之至意欽此

永和

善鄰

同濟

瀛安

四月初二日

擬請 欽寄本道 御用輪船名號 見前卷下

299 四月初三日引

見人員

理藩部帶領廓爾喀來使二人

300 光緒三十四年四月初二日内閣奉

上諭福建泉州府知府員缺緊要著該督於通省知

府內揀員調補所遺員缺著惲毓嘉補授欽此

應候本卷下改補

301 光緒三十四年四月初三日內閣奉

上諭福建泉州府遺缺知府著惲毓嘉補授欽此

302 軍機大臣面奉

諭旨溥偉等奏辦理禁煙請推廣訪查一摺言官有糾劾之責自當留意訪察著於三箇月後如訪有沾染嗜好巧為掩飾者立即叅奏該大臣等職司禁查責無旁貸尤當隨時查訪嚴定章程認真摘發不得稍有瞻顧以收實效欽此

鈔交禁煙大臣

四月初三日

303 光緒三十四年四月初四日内閣奉

上諭據柯逢時電奏差缺重要勢難兼顧土稅仍須留鄂經理屏軀久病赴浙未能定期等語浙江為海疆重地朝廷特簡柯逢時補授巡撫原為因地擇人乃該巡撫一再瀆奏赴任需時而海疆要缺詎可久懸浙江巡撫柯逢時著即行開缺仍責成督辦土藥統稅事務以期專心籌辦免隳成局欽此

304 光緒三十四年四月初四日内閣奉

上諭浙江巡撫著增韞補授欽此

305 光緒三十四年四月初四日內閣奉

上諭直隸布政使著吳廷斌調補朱其煊著補授山東布政使欽此

306 光緒三十四年四月初四日內閣奉

上諭福建按察使著鹿學良補授欽此

307 光緒三十四年四月初四日內閣奉

上諭福建鹽法道員缺著陳瀏補授欽此

308 光緒三十四年四月初四日內閣奉

上諭江西吉安府知府員缺著武玉潤補授欽此

309 光緒三十四年四月初四日內閣奉

上諭四川成都府知府員缺緊要著該督於通省知府內揀員調補所遺員缺著成昌補授欽此

310 四川成都府遺缺知府江西吉安府知府各員

缺請

旨簡放

311 光緒三十四年四月初四日內閣奉

上諭恩壽奏舉劾屬員一摺陝西存記道張藻特用道張守正鳳翔府知府尹昌齡候補知府滕經候補知府劉濟坤臨潼縣知縣吳庚華陰縣知縣崔肇琳城固縣知縣李經江均著傳旨嘉獎甯羌州知州陳芑芬才具平庸尚知奮勉懷遠縣知縣章春芳優柔寡斷馭下不嚴延川縣知縣陳美灝才具竭蹶不洽輿情岐山縣知縣邊祖祥辦事欺飾習染未除署膚施縣知縣候補知縣陳丕業性情疲緩聽斷不明平利縣鎮坪縣丞景興辦事遲鈍人地不宜神木廳照磨李永春庸懦自安不知振作均著開缺調省察看懷遠縣典史江巨梓剛愎自用不守官箴鳳翔縣典史傅肇銓緝捕無能且有嗜好試用府照磨劉允箴人太軟弱痼疾難除均著即行革職餘著照所議辦理該部知道欽此

312 交都察院本日軍機大臣面奉

諭旨都察院奏遊擊袁祖禮進呈戰守心法書冊據情代奏一摺袁祖禮不通兵學妄行請陳原呈暨

書均著擲還並傳旨申飭欽此相應傳知

貴院欽遵可也此交

四月初四日

312 交出使大臣胡惟德本日

貴大臣奏請

頒賞書藉摺奉

旨依議欽此又奏請假兩月摺奉

旨著賞假兩箇月欽此又奏開用關防片奉

旨知道了欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

四月初四日

314 各部院侍郎等名單

外務部左侍郎聶芳

右侍郎汪大燮現在出差

吏部左侍郎唐景崇

右侍郎張仁黼現在告假

民政部左侍郎袁樹勛現署山東巡撫

右侍郎趙秉鈞

度支部左侍郎紹英現在出差

右侍郎陳邦瑞

禮部左侍郎于式枚現在出差

右侍郎景厚

學部左侍郎嚴修

右侍郎達壽現未回京

陸軍部左侍郎壽勳

右侍郎蔭昌

法部左侍郎紹昌

右侍郎沈家本

農工商部左侍郎熙彥

右侍郎楊士琦

郵傳部左侍郎吳重燾

右侍郎盛宣懷現在出差

理藩部左侍郎堃岫

右侍郎恩順

大理院卿定成

315 光緒三十四年四月初五日內閣奉

上諭度支部奏銀行存儲國民捐款另籌辦法一摺
京師前辦國民捐款原為清償外債起見現由該
部銀行收存生息在國民捐輸踴躍具見急公好
義之忱惟統稽成數清償外款尚難預期所有存
儲款項自應另籌辦法以維久遠該部現經附設
儲蓄銀行著照所請由該銀行通行曉諭凡捐款
之人有願將原捐取回者限期執持收照將本息
取出有願改為存款者本息亦聽其隨時收取除
著照所議辦理該部即督飭該銀行認真經理以
昭信實欽此

316 交會議政務處本日御史徐定超奏擬請畫一

部院規制摺又奏請仿照奉天辦法酌定外省
經費片均奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交計黏鈔摺片各一件

四月初五日

317 交憲政編查館本日御史徐定超奏擬請

進講時添講憲法摺奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交計黏鈔摺一件

四月初五日

318 光緒三十四年四月初六日內閣奉

上諭禮部奏耆紳鄉舉重違顯懇恩施一摺二品頂
戴前署山東督糧道郭鑑襄早年登第筮仕青齊
現屆該員鄉舉之年花甲適週洵屬藝林盛事加
恩著賞給三品卿銜以惠耆年欽此

319 光緒三十四年四月初六日內閣奉

上諭徐世昌等奏查明知府收稅增多祇交例額酌
擬辦法一摺吉林候補道王昌熾前在長春府知
府任內徵收牛馬稅祇交例額雖係照章辦理惟
當戰事甫平之後地方彫敝田土荒蕪農民購買
牛馬自應減收稅課以興農業且直隸熱河以鄰
省地方尚且蠲免出境赴奉牛馬稅乃該員仍復

按賞估徵至逾正額數十倍之多又並不報明充讓實屬貪竒膽妄王昌熾著即行革職並勒繳銀十萬兩解交吉林巡撫留為辦公之用該部知道欽此

320 光緒三十四年四月初六日内閣奉

上諭開缺福州將軍善善由奉恩將軍補授軍參領游升錦州副都統應任江甯綏遠城將軍調任福州將軍並署理閩浙總督宜力有年克勤厥職前因患病准予開缺茲聞溢逝軫惜殊深加恩著照將軍例賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏欽此

321 光緒三十三年五月初三日内閣奉

上諭前荆州將軍威卓由宗人府司員承襲公爵歷任副都統都統擢任荆州將軍宜力有年克勤厥職前因患病准予開缺並毋庸修奉茲聞溢逝軫惜殊深加恩著照將軍例賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏賞銀一千兩治喪由廣儲司給發欽此

322 光緒三十三年七月二十五日内閣奉

上諭前杭州將軍吉和由廢生承襲佐領散秩大臣一等子爵雲騎尉歷任京外各旗副都統游擢都統將軍宜力有年克勤厥職前因患病准予開缺茲聞溢逝軫惜殊深加恩著照將軍例賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏欽此

323 軍機大臣面奉

諭旨禮部奏耆紳鄉舉重逢顯懇恩施一摺內閣中書尹果加恩著賞給內閣侍讀銜欽此

四月初六日

324 閱卷大臣

張德彝
聯芳
唐景崇
寶熙

襄校官

袁嘉穀

汪鳳藻

游敬森

陳驥

陳梲

羅振玉

徐潞

初五日學部原開由學交學部六日交下鈔單一件諭立格單
歸部學部文來單二紙附

四月初六日

325 光緒三十四年四月初七日内閣奉

上諭趙爾巽奏考察地方各官分別舉劾一摺湖北
署安襄鄖荆道施南府知府施紀雲署武昌府知
府鄖陽府知府黃以霖荊州府知府斌俊署江夏
縣知縣王士衛廣濟縣知縣孫炳麟署襄陽縣知
縣徐久緒既據該督臚陳政績均著傳旨嘉獎荆
門直隸州知州慶春公務廢弛民信未孚潛江縣

知縣調任湖南甯鄉縣知縣畢井田頹廢因循不

堪造就試用通判洗廷瑜胸無主宰舉劾謬妄署

長樂縣知縣李綬卿聞冗顛預難膺民社前署竹

谿縣知縣陳鳴珂人既庸下性復貪復江陵縣縣

丞滕久仁辦事草率署天門縣縣丞曹廷勳因案

釀命均著即行革職東陽縣知縣陳闌才難治劇

民不信畏羅田縣知縣危士修事少條理刑罰不

中准補枝江縣知縣余鼎臣衆論未孚均著開缺

另補蒲圻縣知縣王葆善才識庸弱著通山縣知

縣石首縣知縣趙震東任用家丁不孚輿論惟文

理尚優均著以教職歸部銓選餘著照所議辦理

該部知道欽此

326 交^{件制處}禮^{人部}軍機大臣面奉

諭旨四月十一日常寧大祀

天於

圓丘遣醇親王載灃恭代行禮初十日

皇穹宇點香視

壇位視籩豆視牲遣禮親王世鐸恭代行禮欽此相應

傳知

貴衙門等欽遵可也此交

四月初七日

滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京文年

在任即選知府章京班後以導員補用章京侍讀成俊

四品銜章京部中榮三

在任即選道章京侍讀鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎蘇祥

四品銜章京侍讀裕銘

五品銜額外章京候領侍讀內閣中書海柱

額外章京法部候領員外郎伊密揚河

漢頭班

領班三品章京王楚平

幫領班四品章京胡形恩

花翎員外郎銜章京主事劉毅孫

章京員外郎趙廷珍

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京內閣候補中書蕭端潔

滿二班

花翎領班三品章京文微

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京部中桂蔭

花翎四品銜章京郎中榮奎

花翎三品銜即選知府章京郎中常奉

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

額外章京陸軍部員外郎星格

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京曹廣楨

三品銜幫領班四品章京易貞

章京 記名繁缺知府郎中孫司經

五品銜章京主事劉慶篤

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部候補主事雷延壽

328

交吏部本日御史米毓瑞奏選任州縣以資治理摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結鈔摺一件

四月初八日

329

交度支部本日給事中高潤生奏整頓國法宜權利弊以為畫一帶制基礎摺又奏銀幣一項請

飭核實妥籌勿存成見片均奉

旨度支部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結鈔摺片各一件

四月初八日

330 交郵傳部本日

貴部奏道清鐵路上年行車情形摺又奏道清

鐵路指撥款項已改作他用片均奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

四月初九日

331

交內閣轉傳值年旗各部院衙門軍機大臣面奉諭旨本月十三日所有進內奏事當差之王公百官

均著穿蟒袍補褂欽此相應傳知

貴衙門欽遵轉傳可也此交

四月初十日

332

交憲政編查館本日

貴館奏酌擬編輯政要體例摺單一件又奏考

核違警律摺單一件均奉

旨依議欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

四月初十日

333 軍機大臣面奉

諭旨前據胎殼奏稱杭錦貝子阿爾賓巴雅爾阻撓

銀務請開去伊克昭盟盟長以副盟長烏審旗貝

子察克都爾色楞暫署併以台吉沙克都爾札布

署理副盟長嗣據奏稱杭錦貝子悔悟効順願請

開復以盟長記名均經准如所請現經查明該貝

子阿爾賓巴雅爾尚能輸誠報効加恩著仍補授

伊克昭盟盟長察克都爾色楞仍副盟長本任

毋庸署理盟長沙克都爾札布毋庸署理副盟長

欽此

四月十一日

334 軍機大臣面奉

諭旨此次驗看之員外部銜岑德純著賞給郎中

欽此

鈔交吏部

四月十一日

335 交會議政務處本日御史秦望瀾奏修明內政

摺奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

四月十一日

336 光緒三十四年四月十二日內閣奉

上諭署理山東巡撫直隸布政使吳廷斌奏因病懇

請開去直隸布政使缺一摺吳廷斌著准其開缺

欽此

337 光緒三十四年四月十二日內閣奉

上諭直隸布政使著崔永安補授欽此

338 光緒三十四年四月十二日內閣奉

上諭浙江按察使著惠森補授王慶平著補授浙江

鹽運使欽此

翰林院學士毓隆

許澤新

侍讀學士景祿

恩祥

周克寬

黃思永

惲毓鼎

侍講學士延清

世榮

朱福詵

李士鈐

楊捷三

內閣侍讀學士錫鈞

戴皆

占鳳

奎善

承瀛

靈照

劉宇泰 現未回京

劉式訓 現充出使大臣

341 光緒三十四年四月十三日奉

旨翰林院侍讀署吳士鑑補授欽此

照例單錄 旨本處文內開

342 辦理軍機處為咨行事本處三品章京王慶平

現在

簡放浙江鹽運使所遺

貴部兼行章京一缺現派郎中孫弇經充補相

應咨行

貴部查照可也須至咨者

右 咨

外務部

光緒三十四年四月

日

軍機大臣 字寄

步軍統領衙門 順天府 光緒三十四年四

月十四日奉

上諭有人奏革員貽誤侵吞巨款匿存商號請旨究
提一摺著步軍統領衙門順天府會同按照原奏
各情節調集存義公等四家新舊帳簿澈底查明
嚴切追繳並傳訊鍾岳嚴行查究以重公款原摺
著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

344 光緒三十四年四月十四日內閣奉

上諭貴州貴東道員缺時人等調請欽此

345 謹查嘉慶二十年二月內閣奉

旨乾清宮尊藏

寶錄

玉牒著開藏抖晾一次等因欽此歷經遵辦在案

光緒三十二年四月奉

旨派員敬謹抖晾本年又屆抖晾之期臣等謹將滿
漢文職大員除有差使各員不行開列外分繕
名單進

呈恭候

欽派滿漢大臣各二員並將上屆

派出各員繕單恭呈

御覽所有抖晾日期由該員等選擇先期知照敬事
房批本處內務府照例預備屆期敬謹遵辦謹
奏

光緒三十四年四月十五日奉

硃筆圈出溥良熙彥陳邦瑞吳重熹欽此

346 郵傳部尚書陳壁

○ 度支部右侍郎陳邦瑞

○ 農工商部右侍郎楊士琦

○ 郵傳部左侍郎吳重熹

署右侍郎沈雲沛

內閣學士吳郁生

王堉

宗人府府丞朱益藩

翰林院學士許澤新

陸軍部右丞朱彭壽

347

大學士那桐

禮部尚書溥良

農工商部尚書溥頤

理藩部尚書壽耆

禮部右侍郎景厚

署學部右侍郎寶熙

農工商部左侍郎熙彥

理藩部左侍郎埜岫

理藩部右侍郎恩順

大理院卿定成

內閣學士麒麟

都察院副都御史伊克坦

翰林院學士毓隆

農工商部左丞耆齡

348

光緒三十二年

派出各員名單

溥良

特圖慎

張亨嘉

陳名侃

349

交禮部本日御史江春霖奏

壇

廟大祀諸多簡慢請

飭整頓摺奏

旨禮部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結鈔摺一件

四月十五日

350

軍機大臣面奉

諭旨此次驗看州縣事實列入最優等前并陞縣知

縣卓異官阜城縣知縣離任景州知州直隸試用

道謝鑑禮著以道員仍留原省儘先補用欽此

鈔交內閣

四月十六日

351

光緒三十四年四月十七日奉

旨歸化城副都統著三多署理欽此

滿屋繕旨

352 交內務府軍機大臣面奉
理藩部

諭旨達賴喇嘛到京後住錫普靜禪林著內務府理

藩部會同預勘估計修理欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

四月十七日

353 光緒三十四年四月十八日內閣奉

上諭京師入夏以來雨澤稀少現在節近小滿農田

待澤孔殷朕心實深寅盼允宜虔申祈禱本月二

十一日派醇親王載灃敬謹前往

覺生寺恭代拈香

大高殿派禮親王世鐸敬謹前往恭代拈香

時應宮派貝勒載潤

昭顯廟派貝勒載洵

宣仁廟派貝子溥倫

疑和廟派鎮國將軍載揆同於是日分詣拈香以

迓甘霖而慰農望欽此

354 和碩禮親王世鐸

睿親王魁斌

醇親王載

慶親王奕

多羅貝勒載潤

載洵

載濤

毓朗

固山貝子溥倫

鎮國將軍載揆

四月十八日

355 交吏部本日奉

旨軍機大臣奏浙江鹽運使王慶平具呈聲明原籍

應否迴避據情代奏等語王慶平著毋庸迴避原

籍欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

四月十八日

356 交法部本日

貴部奏審明革員瑞洵報銷尚無侵挪限內贖款全繳應否仍行發往軍臺請

旨摺奉

旨瑞洵著仍發往軍臺効力贖罪餘依議欽此相應

傳知

貴部欽遵可也此交

四月十八日

357 光緒三十四年四月十九日內閣奉

上諭奉天奉錦山海關道員缺著周長齡補授欽此

358 光緒三十四年四月十九日內閣奉

上諭王士珍現在丁憂江北提督著徐紹楨暫行署理欽此

359 交吏部軍機大臣面奉

諭旨前吏部主事勞乃宣著於本月二十四日預備召見欽此相應傳知

貴部轉傳該員欽遵可也此交

四月十九日

360 交吏部軍機大臣面奉

諭旨盛宣懷奏創辦萍鄉煤礦道員積勞病故懇恩

優卹一摺已故二品頂戴湖北候補道張贊宸加

恩著照軍營立功後積勞病故例從優議卹欽此

相應傳知

貴部欽遵可也此交

鈔交盛宣懷

四月十九日

361 軍機大臣面奉

諭旨郵傳部奏請改派湖南粵漢鐵路公司總理一

摺奉錦山海關道朱恩統著開缺賞給四品卿銜

余肇康著帶員還原銜餘依議欽此

鈔交郵傳部

四月十九日

362 查本處領班三品章京王慶平現蒙

簡放浙江監運使所遺領班三品章京一缺擬以幫

領班四品章京易貞充補遞遺幫領班四品章

京一缺擬以主事劉毅孫充補並添傳前次

記名服滿起復之陸軍部候補郎中楊帶在額外行

走謹

奏

光緒三十四年四月十九日奉

旨知道了欽此

363 交^{吏部}理藩部本日理藩部奏前經請放伊克昭盟

盟長等缺未能聲明請

旨承辦各官交部議處摺奉

旨伊克昭盟盟長等缺既經奏准派署乃該部據呈

率行奏請簡放未經詳細聲明實屬不合所有辦

理此案之堂司各官均著交部議處前次圈出盟

長副盟長之案著一併撤銷仍遵此次諭旨辦理

欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

四月二十日

364 光緒三十四年四月二十一日內閣奉

上諭此次驗看之廷試游學畢業生進士章宗元程

明超均著授為翰林院編修陸夢熊王建祖均著

授為翰林院檢討嵇芬孫著改為翰林院庶吉士

熊崇志著以主事按照所學科目分部補用舉人

高紳錢應清施呼本孫海環邱中馨均著以主事

按照所學科目分部補用廖世綸王季點沈均鄒

豪葉基楨屠師韓羅會坦易恩侯梁志宸均著以

內閣中書補用黎邁泰岱源陸家鼎黃立猷陳耀

西鄧振瀛陳威胡振平趙學均著以七品小京官

按照所學科目分部補用顏誌慶著以知縣分省

即用陳仲篪著以部司務分部即用郭鍾韶虞順

德李應泌均著以部司務分部補用宋發祥著以

知縣分省試用郵傳部候補主事林蔚章著仍以

本部主事即用內閣中書權量著仍以中書儘先

補用分部主事周宏業著按照所學科目分部補

用分省試用知府張鴻藻分省同知屈德澤均著

以本班分省補用欽此

交會議政務大臣

貴處奉命議定石等奏善議成陽日口授田
並變通辦理情形一摺入奏會議錫良奏實行
禁煙改縮期限一摺均奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

四月二十二日

光緒三十四年四月二十三日奉

翰林院侍讀學士方煜清授欽此

光緒三十四年四月二十三日奉

軍機大臣 字寄

署山東巡撫袁 光緒三十四年四月二十四日奉

諭都察院代遞編修范之杰等呈稱外人在山東

內地侵害主權亟宜設法限制等語著袁樹勛按

摺所陳各節查明妥籌辦理原呈鈔給閣看該

部知道欽此遵

旨寄信前來

鈔交 外務部 郵傳部 農工商部 司原呈

368 光緒三十四年四月二十四日內閣奉

上諭陸寶忠奏假期已滿病仍未痊懇請開缺一摺

都察院都御史陸寶忠著准其開缺欽此

369 光緒三十四年四月二十四日內閣奉

上諭都察院都御史著張英麟補授欽此

370 光緒三十四年四月二十四日內閣奉

上諭五品卿銜吏部主事勞乃宣著以四品京堂候

補在憲政編查館行走欽此

371 光緒三十四年四月二十四日內閣奉

上諭陝西巡撫道員缺著張嘉猷補授欽此

372 光緒三十四年四月二十四日內閣奉

上諭馮汝駮奏查明屬員優劣分別舉劾一摺浙江
杭州府知府卓孝復嚴州府知府錫綸署台州府
知府許鄧起樞署海甯州知州前署平湖縣知縣
張懷信署錢塘縣知縣前署石門縣知縣伊象昂
長興縣知縣丁惟晉署鄞縣知縣黃羨欽天台縣
知縣杜光佑慈谿縣訓導關維震象山縣教諭丁
謙既據該撫臚陳政績均著傳旨嘉獎試用道周
世颺舉止乖張聲名甚劣候補同知周廷祚固利
取巧心術不端前署黃巖縣候補知州汪煦昏暗
糊塗辦案草率前管帶錢江水師試用通判李濱
營務廢弛縱勇擾民前署臨海縣試用知縣蕭那
愷遇事操切罔恤民隱前署甯海縣試用知縣江
文光辦事任性不守正規前署孝豐縣候補知縣
曾壽才具闊草操守難信試用知縣占元前辦楚
卡侵公肥私大負委任試用知縣史致祥營私罔
上物議涕騰試用知縣楊鴻藩素善鑽營聲名最
劣臨海縣縣丞楊寶鏞縱差擾民臨海縣典史陳
寶麟嗜好甚深均著一併革職試用道吳焯遐文

理不通年力亦衰著以原品休致另片奏督帶湖
州水陸巡防副將銜補用參將提標候補遊擊張
立德習氣甚深固知振作管帶浙西內河水師第
五隊候補都司高本亮所管防地屢出劫案俱有
缺額等弊均著即行革職驅逐回籍不准投効各
路軍營餘著照所議辦理該部知道欽此

373 光緒三十四年四月二十五日奉

旨鑲黃旗漢軍都統著馬亮補授欽此

滿慶錄旨

374 光緒三十四年四月二十五日奉

旨烏里雅蘇台將軍著堃岫補授欽此

滿慶錄旨

375 光緒三十四年四月二十五日內閣奉

上諭理藩部左侍郎著達壽調補寶興著補授學部
右侍郎欽此

各部侍郎名單

外務部左侍郎 翰芳

右侍郎 汪大燮 現在出差

吏部左侍郎 唐景崇

右侍郎 張仁黼 現在告假

民政部左侍郎 袁樹勛 現署山東巡撫

右侍郎 趙秉鈞

度支部左侍郎 紹英

右侍郎 陳邦瑞

禮部左侍郎 于式枚 現在出差

右侍郎 景厚

學部左侍郎 嚴修

右侍郎 連壽 現在出差

陸軍部左侍郎 壽勳

右侍郎 蔭昌

法部左侍郎 紹昌

右侍郎 沈家本

農工商部左侍郎 熙彥

右侍郎 楊士琦

郵傳部左侍郎 吳重熹

右侍郎 盛宣懷 現在出差

理藩部左侍郎 瑩岫

右侍郎 恩順

377 光緒三十四年四月二十五日奉

旨左翼監督著烏珍去右翼監督著棍布札布去欽此

378 應放左右翼監督之副都統名單

希朗阿

秦綬章

祥普

秀吉

兜欽

景恩

全福

毓秀

敬昌

英信

硃

善豫

烏珍 現署民政部左侍郎

祥年

塔克什訥

文泰

春祿

善旌

王英楷

吉陞

達賚

瑞啟

恆順

李國杰

棍布札布

常山

玉璋

豐陞阿

卓凌阿

鍾靈

慶綿

澧深

希璋

志鈞

溥鐸

額勒春

文璞

良泰

379 光緒三十四年四月二十六日內閣奉

上諭五月二十四日夏至大祀

地於

方澤遣禮親王世鐸恭代行禮

四從壇派錫露榮整承蔭秀綸各分獻欽此

380 光緒三十四年四月二十六日內閣奉

上諭禮部奏耆紳鄉舉重逢顯懇恩施一摺前署貴

州布政使糧儲兵備道黃元善早年登第曾任監

司現屆該員鄉舉之年花甲適週洵屬藝林盛事

加恩著賞給內閣學士銜以惠耆年欽此

光緒三十四年四月二十六日奉

旨讓白旗漢軍副都統著顧璜補授欽此

382 請

管漢字勇號

靖 捷 勝 果

383 交憲政編查館本日

貴館奏議費松壽奏請定鄉官考試任用章程摺又奏考核直省巡警道官制細則摺單一件均奉

旨依議欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

四月二十六日

384 交陸軍部本日

貴部會奏海軍人員充補實官並派軍艦巡歷南洋各辦法摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

四月二十七日

385 交學部本日裁缺御史常徽奏請

飭各部暨各直省設立實政學堂分科研究畢業後按程度授職等語奉

旨學部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

四月二十七日

386 交會議政務處本日裁缺御史常徽奏請申用

人行政之權一摺奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

四月二十七日

387 交順天府本日

貴衙門奏查明固安縣知縣吳詒孫被叅各款

據寶巖陳固本

旨依議欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

四月二十七日

388 查此次續行補考御史請

簡派閣卷大臣除另有差使及應迴避各員不開列

外謹將各衙門送到銜名繕具清單恭候

欽派二員於二十七日清晨

發下傳集各員聽候宣

旨謹

奏

二十六日見加帶上

389

郵傳部尚書陳璧

學部左侍郎嚴修

右侍郎寶熙

硃

署法部右侍郎王圻

內閣學士載昌

鑲黃旗滿洲副都統秦綬章

390

樂事勸工尊君親上然後興學

畫一幣制以利通行策

391

臣等查對另頁論句人名均屬相符謹

奏

閣卷大臣另有奏片

392

高鳳岐

張鴻

唐瑞銅

393

光緒三十四年四月二十八日內閣奉

上諭前因京師雨澤稀少當經派醇親王載灃等

虔詣

覺生寺等處恭代拈香數日以來尚未得雨農田

待澤彌殷實深焦盼允宜再申籲禱五月初二日

仍派醇親王載灃敬謹前往

覺生寺恭代拈香

大高殿仍派禮親王世鐸敬謹前往恭代拈香

時應宮仍派貝勒載潤

昭顯廟仍派貝勒載洵

宣仁廟仍派貝子溥倫

凝和廟仍派鎮國將軍載棟同於是日分詣拈香

欽此

394 軍機大臣面奉

諭旨宗人府奏守護

東陵大臣期滿請旨更換一摺載瀛著再留一任欽此

四月二十九日

395 交郵傳部本日

貴部奏江西公舉陳三立等充鐵路總理並請

另刊關防摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

四月二十九日

396 請

賞漢字勇號

殊 ○ 捷

果

奮

鼓

397 光緒三十四年四月三十日內閣奉

上諭前都察院都御史陸寶忠謹慎持躬學問優裕

由翰林入直南書房洊升卿貳疊掌文衡擢任都

御史宣力有年克勤厥職前因患病准予開缺茲

聞溘逝軫惜殊深加恩著賞給陀羅經被派貝勒

載濤帶領侍衛十員即日前往奠醊照都御史例

賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典該衙門

察例具奏伊子農工商部主事陸大坊著以員外

郎補用欽此

398 光緒三十三年四月二十六日內閣奉

上諭前協辦大學士禮部尚書徐郵老成練達學問優長受

先朝特達之知由翰林院修撰入直南書房屢司文柄
洵推正卿旋登協揆嗣因年老休致茲聞溘逝軫
惜殊深加恩著賞給陀羅經被派員勦載洵帶領
侍衛十員即日前往奠醊照尚書例賜卹任內一
切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏伊
子直隸候補道徐禎祥著以道員即補用示篤念
耆臣至意欽此

399 光緒三十一年十二月十一日內閣奉

上諭兵部尚書徐會澧持躬謹慎學問優長由翰林
入直上書房洵陟卿貳堂掌文衡擢任尚書並兼
管順天府府尹事務宣力有年克勤厥職前因患
病賞假調理遽聞溘逝軫惜殊深加恩著賞給陀
羅經被派載獲帶領侍衛十員即日前往奠醊照
尚書例賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典
該衙門察例具奏伊嗣子一品廕生徐桂軫著以
郎中用用示篤念耆臣至意欽此

400 光緒三十四年五月初一日內閣奉

上諭本年三月二十九日雲南邊境猝有匪黨勾結生事邊防兵力單弱河口南溪瀘瀘等處相繼不守軍威未振匪焰日張幾成燎原之勢迭經電飭雲貴總督錫良調集營隊迅圖勦除以免滋蔓先後據該督奏報軍情各路軍營所向有功至四月二十七日將失陷地方已一律克復大股悍匪亦殄除殆盡錫良激勵將士調度有方奮勉圖功殊堪嘉尚西路蠻耗一役首挫匪鋒斬獲甚多四房之捷連復四隘遂能逐節掃盪直搗河口東路各營布置周密謀定後動猛擊痛殲一夕之內連克寨壘多處收復小大南溪匪勢潰散全局轉危為安河口得以迅速成功中路匪夥凶悍地勢險峻承防各營力禦跟追仰攻苦戰亦能節節獲勝克復三岔河老范寨等處其立功卓著之趙金鑑胡興業經降旨特先賞給勇號以示優異其餘出力將士俟錫良查明奏到再予立沛恩施所有傷亡官兵應由錫良查明奏請優卹其失守汛地各員弁亦應從嚴奏辦以昭炯戒去冬匪黨竄擾桂邊

甫七日而凶頑殄除此次深入滇境未幾而悍敵旋殲此等醜類妄思作亂徒取誅戮法網難寬忠勇可憫朝廷以好生為德不厭反覆其誠著為典章鳴岐隨時剴切曉諭沿邊士庶各體忠愛安分某業勿受奸匪煽惑以身試法亦不可容留匪類致受牽連並著錫良督飭文武印委各員將滇邊防務暨一切善後事宜妥籌布置毋得再涉疏忽欽此

401 光緒三十四年五月初二日內閣奉

上諭此次驗看之游學畢業貢士田樹校著給予進士出身陳正猷著給予同進士出身由學部照章考試俟驗看後再行授職欽此

402 光緒三十四年五月初二日內閣奉

上諭四川敘州府知府員缺著德蔚補授欽此

403 光緒三十四年五月初二日內閣奉

上諭趙爾豐奏請參劾庸不職文武各員著交部議處

候補知縣著蔡木多糧務李方懋辦事荒謬度
事變捐升知縣候補知縣承陳昌先試用巡檢陳有
康薛聲營私補用守備藍澤潤守備白雲鶴探防
懈弛聲名甚劣均著即行革職金堂縣知縣劉學
烈聽斷糊塗探守難信著以典史候補徐著照所
議辦理該部知道欽此

404 光緒三十四年五月初三日奉
旨翰林院侍講著樊恭煦補授欽此

光緒三十四年五月初三日奉

405 光緒三十四年五月初三日奉
旨翰林院侍講著薛寶辰補授欽此

光緒三十四年五月初三日奉

406 光緒三十四年五月初三日內閣奉

上諭前因雲南河口南溪等處相繼規復當即諭令
錫良將出力將士查明奏請獎勵茲據錫良電奏
各路新舊將弁皆能奮不顧身於著雨盛瘁之時

冒險進剿平匪亂得免蔓延辦理迅速自應立
予加恩記名提督雲南開化鎮總兵白金柱著賞
穿黃馬褂並賞給頭品頂戴賞換 吉里統河 巴圖
魯名號二品銜廣東按察使著理雲南按察使魏
景桐著賞給頭品頂戴二品銜著理雲南臨安開
廣道增厚著遇有應升之缺開列在前並賞給頭
品頂戴調往雲南差遣江蘇候補道趙上達二品
銜補用道方宏綸三品銜補用道王賡虞均著交
軍機處存記趙上達并賞戴花翎王賡虞并賞加
二品銜二品銜雲南候補知府楊福璋著免補知
府以道員仍留原省補用並賞加二品銜中路統
領在任候補道臨安府知府王正雅著在任以海
關道記名並賞加二品銜賞換 寶武 巴圖魯名
號西路統領雲南補用同知賀宗章著免補同知
以知府仍留原省補用並賞加鹽運使銜代理陸
軍標統領留滇補用直隸州知州趙金鑑著免補直
隸州知府以道員仍留原省補用並賞加二品銜
在任候補知府護理開化府知府准補大關廳同
知陳先沅著俟補知府後以道員在任補用並賞

加三品銜分省補用知府龍裕光著免補知府以道員分省補用並賞給二品銜雲南陸軍協統候選內閣中書陳宦著以員外郎分在陸軍部補用陸軍步兵營管官候選知縣周國祥著免選知縣直隸州以知府儘先選用並賞給振勇巴圖魯勇號管帶變耗保商營同知職銜曾國楨著以同知分省補用並賞加四品銜雲南候補知府高培焜著免補知府以道員仍留原省補用候補知府黃寶賢著補缺後以道員用並賞加鹽運使銜在任候補同知准補晉甯州知州葉大林著免補同知以知府在任補用拔貢知縣朱勳著免補知縣以同知仍留原省補用並賞加四品銜補用同知李蔭硃著免補同知以知府仍留原省補用候選知縣賽家斌著免選知縣以直隸州知州分省補用並賞加四品銜分省縣丞柯樹勳著免補縣丞以知縣分省補用補用遊擊胡興著免補參將以副將儘先補用並賞加總兵銜補用副將李德泳著免補副將以總兵記名並賞給銳勇巴圖魯勇號補用遊擊馬文仲著免補參將以副將儘先補用並

賞戴花翎補用遊擊姜德興武成彥補用都司馬廷芳楊光宸馬文星均著免補遊擊以參將儘先補用補用都司張鼎甲宋魏龍際萬林均著以遊擊儘先補用補用守備王洪順著免補都司以遊擊儘先補用補用千總馬雲山白映庚謝逢春雲騎尉世職趙勳泰均著免補守備以都司儘先補用補用千總劉沛連著以守備儘先補用五品軍功鄧雲廣著免補千總以守備儘先補用五品軍功劉鳳朝蔣振彪馬朝先李廷蔚武生金殿舉均著免補把總以千總儘先補用陸軍步兵隊營管帶伍祥楨礮隊營管帶彭毓崇均著補授協參領管隊官沈東忠隊官巴我順趙遐壽孔堅銳均著補授正軍校並以協參領記名隊官李名山王太潛熊鴻鈞均著補授正軍校並加協參領銜督隊官杜正才隊官余驥騰均著補授正軍校排長胡長標著補授副軍校並加正軍校銜州同職銜黃錫元著以州同分省補用並加五品銜巡檢姜含章附生張鳳元田金樹陳其斌均著以府經歷分省補用已革花翎三品銜捐升四川試用道前四川

長壽縣知縣唐我圻著開復原官銜翎仍歸原省
補用並免繳捐復銀兩餘著照所議辦理該部知
道欽此

407 請

賞知縣周國祥漢字勇號

殊

振

勝

強

剛

408 請

賞副將李德泳漢字勇號

殊

銳

果

奮

克

409

軍機大臣 字寄

兩江總督端 江蘇巡撫陳
光緒三十四年

五月初四日奉

上諭都察院代遞候選道許廷條陳蘇省禁煙未能
實行並膏捐貽誤地方情形呈一件著端方陳啟
泰按照所陳各節認真查明妥善辦理原呈均著
鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

410

查本處額外章京陸軍部員外郎星格到班已
滿一年當差尚屬得力擬遵章銷去本衙門字
樣以實缺員外郎充補本處章京為此謹

奏

光緒三十四年五月初五日奉

旨知道了欽此

411

查本處奏定變通章京升轉章程行走各員補
額三年期滿實缺者二年遞升一階等語現章
京侍讀成俊鍾佩均擬遵章以郎中升補主事
劉慶篤擬遵章以員外郎升補為此謹

奏

光緒三十四年五月初五日奉

旨知道了欽此

412 軍機大臣而奉

諭旨此次驗看之明保候選道前河南知州署禹州知州蔣琳熙著發往河南以道員補用欽此

五月初六日

413 軍機大臣而奉

諭旨學部奏請將中國舊律與新律草案詳慎互校斟酌修改刪併以維倫紀而保治安一摺著修訂法律大臣會同法部按照所陳各節再行詳慎斟酌修改刪併奏明辦理欽此

同摺單抄交外律大臣
法部

五月初七日

414 光緒三十四年五月初八日內閣奉

上諭鹿傳霖著充國史館副總裁欽此

殊

○

415 應

派國史館副總裁名單

協辦大學士尚書鹿傳霖

民政部尚書善耆

度支部尚書載澤

禮部尚書溥良

陸軍部尚書鐵良

法部尚書戴鴻慈

農工商部尚書溥頤

理藩部尚書壽耆

都察院都御史張英麟

416 滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京文年

在任即選知府選缺後以道員補用章京郎中成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京郎中鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎四品銜章京侍讀裕銘

五品銜額外章京候補侍讀內閣中書海桂

額外章京法部候補員外郎伊密揚阿

漢頭班

領班三品章京曹廣楨

幫領班四品章京胡彭恩

章京員外郎劉慶篤

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衛

額外章京內閣候補中書蕭端潔

額外章京三品銜陸軍部候補郎中楊希

滿二班

花翎領班三品章京文徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京郎中桂蔭

花翎四品銜章京郎中榮奎

花翎三品銜印選知府章京郎中常泰

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

員外郎星絡

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京易貞

花翎幫領班四品章京劉毅孫

章京郎中記名繁缺知府孫筭經

章京員外郎趙廷珍

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部候補主事雷延壽

417 光緒三十四年五月初九日內閣奉

上諭前因京師入夏以來雨澤稀少當經於四月二

十一日五月初二日疊派醇親王載灃等虔詣

覺生寺等處恭代拈香虔申祈禱旬日以來尚未

得雨農田待洋彌殷實深焦盼允宜再中額侍本

月十二日仍派醇親王載灃前往

覺生寺恭代拈香仍派禮親王世鐸敬謹前往

大高殿恭代拈香

時應宮仍派貝勒載潤

昭顯廟仍派貝勒載洵

宣仁廟仍派貝子溥倫

凝和廟仍派鎮國將軍載棟同於是日分詣拈香

欽此

418 光緒三十四年五月初九日内閣奉

上諭委散秩大臣前通政司參議胡祖蔭候補四品

京堂劉能紀候補四五品京堂左景祐年力富強

正資歷練胡祖蔭著派在郵傳部丞參上行走劉

能紀著派在農工商部丞參上行走左景祐著派

在陸軍部丞參上行走欽此

419 委散秩大臣前通政司參議胡祖蔭擬請

派在郵傳部丞參上行走

委散秩大臣候補四品京堂劉能紀擬請

派在農工商部丞參上行走

委散秩大臣候補四五品京堂左景祐擬請

派在陸軍部丞參上行走

420 光緒三十四年五月初九日内閣奉

上諭自咸豐同治以來髮捻回各匪擾亂各省陸續

戡定其文武大員勳績卓著者皆已懋賞酬庸或

錫予爵職現計闕時已五十餘年各勳臣子孫其

名位顯達者固不乏人而浮沈下士伏處鄉里者

亦復不少方今朝廷保民綏邊銳意尚武聞聲思將

彌念前勞當經諭令各省督撫各旗都統將勳績

尤為卓越諸臣後裔查明有何官職彙報茲據軍

機大臣開單呈覽自應渾沛恩施前西安將軍多

隆阿之次孫著墨爾根副都統正黃旗協領壽慶

著以副都統記名簡放曾孫應襲男爵奎弼著以

郎中補用前湖北提督向榮之曾孫向楷著以知

府分省即補向迺全著以主事補用前安徽巡撫

江忠源之孫江慎勳著以知府分省即補曾孫一

等陸軍都尉江勤培著以員外部分部補用前布
政之銜浙江甯紹台道羅澤南之孫騎都尉羅廷
政著以知府記名簡放曾孫羅廷祚著以主事分
部補用前協辦大學士四川總督駱秉章之孫浙
江蘇州同知調補王環同知駱琳勳著以知府在
任即選曾孫駱毓樞著以主事分部補用前江南
提督張國樞之孫男爵張繩祖著以知府分省即
補張繩祖著以主事分部補用前巡撫銜浙江布
政使李寶善之孫度支部中兼募勇爵李寶善
著以道員記名簡放孫李玉璣著以主事分部
補用前兵部尚書彭玉麟之次孫湖北補用道勞
恩綏著以道員記名簡放曾孫彭萬澂著以主事
分部補用前陝甘總督楊岳斌之子軍機處存記
福建遇缺儘先題奏道一等輕車都尉楊正儀著
仍以道員記名簡放孫楊道澂著以主事分部補
用前四川提督鮑超之次子農工商部主事康夔
子爵鮑祖恩著以知府即選孫陸軍部主事鮑世
爵著以郎中分部補用前署安徽巡撫布政使李
士偉之孫李興仁著以知州即選李興孝著以主

事分部補用前江西南贛鎮總兵程學啟之嗣子
江蘇試用道兼襲男爵程建勳著以道員記名簡
放前廣東提督劉松山之孫江蘇候補道兼襲子
爵劉國安著以道員記名簡放曾孫劉家垠著以
主事分部補用前貴州提督馮子材之次子浙江
候補知府馮相華著以道員記名簡放孫馮承鳳
著以主事分部補用前湖南提督塔齊布著該管
旗查明立嗣奏請恩施用示朝廷培植世臣激勵
將士之至意欽此

421
前西安將軍多隆阿之次孫若墨爾根副都統
正黃旗協領壽慶擬請以副都統
記名曾孫應襲男爵奎綱擬請以郎中補用
前湖北提督向榮之曾孫向楷擬請以知府分
省即補向迺全擬請以主事補用
前安徽巡撫江忠源之孫江慎勳擬請以知府
分省即補曾孫一等輕車都尉江勤培擬請以
員外郎分部補用
前布政使銜浙江甯紹台道羅澤南之孫騎都

新羅長耿擬請以知府

記名簡放曾孫羅延祚擬請以主事分部補用

前為辦大學士四川總督駱秉章之孫浙江嚴

州同知調補王環同知駱林勳擬請以知府在

任即選曾孫駱毓樞擬請以主事分部補用

前江南提督張國樑之孫男爵張繩祖擬請以

知府分省即補張繼祖擬請以主事分部補用

前巡撫銜浙江布政使李績賓之孫度支部郎

中東龔男爵李前普擬請以道員

記名簡放曾孫李正繩擬請以主事分部補用

前兵部尚書彭玉麟之次孫湖北補用道彭見

擬請以道員

記名簡放曾孫彭萬澂擬請以主事分部補用

前陝甘總督楊岳斌之子軍機處存記福遠遇

以恩先題奏道一等候中郎尉楊正儀擬請仍

以道員

記名簡放孫楊道澂擬請以主事分部補用

前四川提督鮑超之次子農工商部主事兼農

部主事鮑祖恩擬請以知府即選孫蔭軍部主事

鮑世爵擬請以郎中分部補用

前著安徽巡撫布政使李孟羣之孫李興仁擬

請以知州即選李興孝擬請以主事分部補用

前江西南贛鎮總兵程學啟之嗣子江蘇試用

道兼蒙男爵程建勳擬請以道員

記名簡放

前廣東提督劉松山之孫江蘇候補道兼蒙子

爵劉國安擬請以道員

記名簡放曾孫劉家珉擬請以主事分部補用

前貴州提督馮子材之次子浙江候補知府馮

相華擬請以道員

記名簡放孫馮承鳳擬請以主事分部補用

422 交農工商部本日

貴部奏擬訂直省勸業道職任章程摺單一件奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月初九日

423 光緒三十四年五月初十日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨
哀樹勛奉行聖公孔令貽差次丁憂回籍守制一摺
孔令貽之母命婦彭氏東性賢淑訓子有方昔年屢
次來京朝覲其見誠悃前以該命婦六旬賜壽賞給
無量壽佛等件用示優寵茲因啟程來京謝恩在濟
南途次逝世覽奏殊深惋惜加恩著賜祭一壇賞銀
二千兩治喪由山東藩庫給發餘著照所請該部知
道欽此

424 交崇煙大臣本日

貴大臣奏遵擬禁煙查驗章程摺單一件表二

件又奏調員差委片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

五月初十日

425 光緒三十四年五月十三日內閣奉

上諭廷杰奏舉幼屬員一摺熱河建昌縣知縣陶藻

華准補阜新縣知縣姚致遠准補灤平縣知縣李

文昇既據該都統陳陳政績均著傳旨嘉獎建平

縣知縣錢麟貧酷鑽營虐下媚上候補知縣段光

烈猥瑣無能沾染嗜好試用通判文瑞才具平庸

操守難信均著即行革職請補豐甯縣知縣候補

同知李鈺性耽安逸遇事偏執著開缺另補該部

知道欽此

426 光緒三十四年五月十三日奉

旨毓隆著補授內閣學士兼禮部侍郎銜欽此

結 旨未述

427 光緒三十四年五月十三日奉

旨翰林院撰文著程棫林補授欽此

結 旨未述

428 交吏部本日

貴部奏發議東三省總督奏紅十字會案內出力員紳獎敘摺單一件又奏

記名海關道沈敦和等應否照章給獎片又奏知州廖學榮捐復降級片又奏知縣許南英捐復降級片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月十三日

429 交吏部本日

貴部奏撤銷保案分別辦法並聲明請

旨摺單一件奉

旨除業經奉特旨簡用人員外餘均著一律撤銷欽此

又奏降補知州熙煜保案查銷片奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月十三日

430 交貝勒毓 本日

貴貝勒奏估修禮部習禮龍亭等工可否

簡派大臣會同接修摺奉

旨毋庸添派欽此相應傳知

貴貝勒欽遵可也此交

五月十三日

431 交外務部本日都察院奏雲南同鄉官吳炯等呈稱滇越鐵路請收回自辦據情代奏一摺奉

旨該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月十四日

432 交內務部本日軍機大臣面遞預備擬

賞達賴喇嘛及扎薩克喇嘛等物件單二件奉

旨照單賞欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

五月十四日

433 謹擬抵京日

賞達賴喇嘛物件

連鞍馬四匹

銀一萬兩

蟒緞八疋

氍緞八疋

字緞八疋

片金八疋

閃緞八疋

倭緞八疋

召見日

賞達賴喇嘛

朝珠二盤 全喇明 各一

玉佩四件

帶鈎二件

煙壺四件

佛帽一頂

斗篷一件

棉夾單紗衣服四套

大哈達一箇

筵宴日

賞達賴喇嘛

金器共二件

銀器共二件

玉器共四件

瓷器共八件

念珠一盤

蟒袍料四件

茶葉八瓶

鼻煙二瓶

出京日

賞達賴喇嘛

連鞍馬八匹

銀二萬兩

景泰藍器八件

玻璃器八件

皮衣四套

大卷江綢八疋

大卷八絲緞八疋

大小五色哈達共一百箇

餽餉二十匣

果品二十盒

434 謹擬抵京日

賞扎薩克喇嘛 堪布喇嘛每名

蟒緞二疋

閃緞二疋

權緞二疋

片金二疋

銀一百兩

賞玻璃珠等每名

閃緞二疋

片金二疋

銀四十兩

賞兵丁跟役每名

小卷五絲緞一疋

銀十兩

賜宴日

賞扎薩克喇嘛 堪布喇嘛每名

瓷器二件

玻璃器二件

大卷八絲緞二疋

小卷五絲緞二疋

出京日

賞扎薩克喇嘛 堪布喇嘛每名

江綢二疋

潞綢二疋

銀一百兩

賞玻璃珠等每名

江綢一疋

潞綢一疋

銀四十兩

賞兵丁跟役每名

潞綢一疋

銀十兩

奏為繕修漢字檔冊恭摺

臣 奕劻等跪

聞事竊查軍機處錄存漢字檔案每屆三年將檔案另鈔一分收存備查歷經奏准遵辦在案茲自光緒三十一年正月起到三十三年十二月止欽奉

上諭及寄信會議各漢字檔冊又屆三年應修之期應請照例選派內閣中書在方略館分冊繕寫並揀派漢章京總司校勘及方略館供事在彼處承值如果辦理妥速再行查照例案奏請獎勵至供事人等向於告成時隨案聲請議敘事竣時應查照成案請將尤為出力之員給予獎敘再現經改題為奏摺件較繁臣等公同商酌擬請援照上屆成案於例派章京二員外仍添派一員協同辦理以期詳慎合併聲明所有繕修漢字檔冊緣由理合恭摺具陳伏乞

皇太后

皇上聖鑒謹

奏

光緒三十四年五月十四日

436 光緒三十四年五月十五日內閣奉

上諭國家根本惟在民生而養民教民之官以州縣為最親其責任最為重要凡撫字催科聽斷緝捕悉萃於牧令之身一邑數十萬生靈於斯託命加以各項新政待舉備極繁難非才力優長素經歷練不足以副是任吏部職司銓選自例章繁密僅以班次資格為定衡大失量能授官之本意邇來保舉捐納冗濫甚多治理民情多未明達檢查法律亦不能通解即係正途出身於吏治亦尚乏體驗豈能措置裕如此等人員專憑年資入選一旦任事大率聽命幕友縱容丁胥百弊叢生小民深受其害聞各省選缺州縣驟膺外任不諳吏事者十居七八該管督撫格於部章日久不能不使之到任及到官債事雖加撤泰地方元氣已傷其為害於國計民生者甚鉅嗣後州縣兩途著將部選舊例限三箇月後即行停止所有各班候選州縣由吏部分別查明會同軍機大臣迅速妥擬章程具奏請旨頒行其應選州縣依次分發各省作為改選班外省原有各項候補班次輪次亦應酌量

刪減歸併凡改選人員到省後督撫率同三司量
其才性試以史事或派入法政學堂分門肄業並
須勤加考察如有差人員隨時從其除各員
每兩箇月必須俾見一次三司按月俾見一次詳
細考詢其才識學業能否造就有無進益如有糊
塗謬劣或不通大理或沾染嗜好或年力就衰等
情均即咨回原籍扣除本班其應補人員該各督
撫務須一秉至公認真甄覈不得瞻徇偏執敷衍
遷就總期親民之官歷經試驗習治理一洗開
洋伴濫之習用副朝廷察吏安民之至意欽此

光緒三十四年五月十五日內閣奉

上諭廢昌楊士曠奏遵旨校閱陸軍第四鎮一摺據
陳此次校閱各項情形頗屬精嫻成效漸著深堪
嘉許仍著楊士曠督飭認真訓練力求精益求精
日新逐漸擴充志成勁旅用副朝廷修明武備振
厲戎行之至意餘依議欽此

438

交^{湖廣總督}軍機大臣面奉

諭旨都察院奏湖南商民代表前浙江巡撫聶緝崇
等呈稱萍萍鐵路展築殊招妨害湘路請飭部停
止以順商情據情代奏一摺萍萍路現已改歸郵
傳部接收管理殊昭一路經部奏准展築該紳等
率請停止殊屬不合惟究竟與湘路有無妨害著
郵傳部會同湖廣總督湖南巡撫體察情形妥議
具奏欽此相應傳知

貴^{湖廣總督}欽遵可也此交^{計結原三件}

五月十五日

439

軍機大臣 字寄

陝甘總督升 山西巡撫寶 光緒三十四年

五月十六日奉

上諭升允奏山西藩司玩視協餉請飭部嚴議一摺
甘新協餉關係邊防要需何得任意推諉著寶
嚴飭藩司丁寶鈴竭力籌解以濟邊餉僅意存推
延貽誤軍需定行照例議處升允指名計對調藩
司亦屬不合應無庸議原摺著鈔給寶茶閱看

欽此遵

旨寄信前來

440 交委散秩大臣珠爾杭阿軍機大臣面奉

諭旨彈劾官吏朝廷設有專官該大臣本無糾察之

責乃舉地方案件率行奏陳殊屬冒昧且外官賢

否又豈該大臣所能深悉其為受人嗾使形迹顯

然者傳旨中飭原摺擲還欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

五月十六日

441 交陸軍部本日

貴部片奏副將戴慶育是否仍以總兵

記名簡放遊擊董超應否

賞給勇號等語奉

旨戴慶育著仍以總兵記名董超著賞給振勇巴圖

魯欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月十七日

硃

442 請

賞漢字勇號

振

勝

奮

果

443 交會議政務處本日御史趙炳麟奏請

整理國政一摺奉

旨會議政務處奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

五月十七日

444 交候補三品京堂陸元鼎本日

貴京堂奏假期已滿病仍未痊懇請開去等因

院差使一摺奉

旨著賞假二十日毋庸開去差使欽此相應傳知

貴京堂欽遵可也此交

五月十八日

光緒三十四年五月十九日內閣奉

上諭京師雨澤愆期迭經虔誠祈禱雖已節次得雨

尚未霑足現在節近夏至朕心實深焦盼允宜設

壇禱禱著遴選僧眾在

大高殿祈禱遴選僧眾在

覺生寺誦經均於本月二十三日開壇

大高殿派禮親王世鐸恭代拈香並派睿親王魁斌在

親王載功散秩大臣延康阿霖分為兩班輪班上

香行禮莊山常川住宿

覺生寺派醇親王載灃恭代拈香並派順承郡王

納勒赫貝勒毓朗委散秩大臣德茂海年分為兩

班輪班上香行禮文煦常川住宿

時應宮派貝勒載澗

昭顯廟派貝勒載洵

宣仁廟派鎮國公溥佑

凝和廟派鎮國將軍載棟同日拈香並派貝勒載

濤詣

黑龍潭拈香派鎮國公溥莖詣

白龍潭拈香所有派出之王大臣等俱著先期齋

宿分詣行禮欽此

硃

446

睿親王魁斌

肅親王善耆

莊親王載功

恭親王溥偉

克勤郡王恭志

順承郡王訥勒赫

多羅貝勒載濤

毓朗

奉恩鎮國公載澤

溥植

溥莖

溥佑

毓亨

毓岐

毓敬

毓璋

全榮

奉恩鎮國公溥莖

溥葵

殊 殊 殊 殊

447

散秩大臣廷康

慶恩

阿霖

委散秩大臣德茂

海年

成瑞

恩輝

德壽

慶麟

克文

珠爾杭阿

錫嘉

錫光

張宗

廷亨

溥周

溥釗

無紹

宮忠

朱三切

夏本

與忠

桂全

文忠

德壽

崇寧

榮宗

璞玉

世溶

施魯洋

秀繪

曾廣塞

左榮祜

胡祖蔭

扎克小

448

內務府大臣全俊

繼祿

增崇

莊山

內務府三院卿增善

文煦

書正

殊

449

交會議政務處本日御史史履晉奏禮學館宜
專派大臣管理與法律館彙同商訂以維禮教
摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交計結鈔摺一件

鈔交憲政館

五月十九日

450

交農工商部本日

貴部會奏新定礦章酌予變通會同核議摺文
會奏籌議畿輔農田水利辦法摺均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月十九日

451

交郵傳部本日

貴部奏擴充電政商力不支擬歸官辦一摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月十九日

452

光緒三十四年五月二十日內閣奉

上諭袁樹勛奏者中鄉承重逢願懇恩施一摺擬督

銜前甘肅肅州鎮總兵田在田早擬武科曾膺專

闕茲屆該總兵鄉舉之年花甲適周洵屬熙朝感

事加恩著賞給太子少保銜以惠耆年欽此

453

交宗人府軍機大臣面奉

諭旨溥塋現在請假本月二十三日

白龍潭拈香著改派鎮國公毓亨欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

五月二十日

454 肅親王善耆

奉恩鎮國公載洋

毓亨

毓岐

毓敏

毓璋

奉恩輔國公意普

溥葵

溥閔

溥釗

毓焄

455

交順天府本日順天府奏開辦平糶懇
恩加撥米石摺奉

旨著照所請度支部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月二十日

456 軍機大臣 字寄

著山東巡撫袁 光緒三十四年五月二十一

日奉

上諭有人奏山東棲霞縣知縣謝宗夏罔利虐民人

言噴噴等語著袁樹勛按照所奏各節秉公確查

據實具奏原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

457 軍機大臣 字寄

直隸總督楊 光緒三十四年五月二十二日奉

上諭有人奏濰州一帶煤苗尚旺請飭北洋大臣派

員迅速開辦等語著楊士嶺按照所陳妥籌辦理

原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

458 光緒三十四年五月二十二日內閣奉

上諭倉場侍郎著汪大燮調補未到任以前著吳郁

生署理欽此

應調倉場侍郎名單

外務部右侍郎汪大燮 現在出左

吏部左侍郎唐景崇

吏部右侍郎張仁黼 現在出左

民政部右侍郎趙秉鈞

度支部右侍郎陳邦瑞

禮部左侍郎于式枚 現在出左

學部左侍郎嚴修

農工商部右侍郎楊士琦

郵傳部左侍郎吳重熹

郵傳部右侍郎盛宣懷

應升倉場侍郎名單

內閣學士楊珮璋

李聯芳

吳郁生 現署吏部右侍郎

王坊 現署法部右侍郎

都察院副都御史陳名侃

宗人府府丞朱益藩

大理院少卿劉若曾

翰林院學士許澤新

外務部左丞邵嘉來

吏部右丞孫紹陽

民政部右丞劉彭年

度支部左丞陳宗燄

禮部右丞劉果

學部左丞喬樹榘

右丞孟慶榮

陸軍部左丞姚錫光

右丞朱彭壽

法部左丞曾鑑

右丞黃均隆

農工商部右丞沈雲沛 現署郵傳部右侍郎

郵傳部左丞郭曾忻 現署郵傳部左侍郎

裁缺侍郎名單

裁缺兵部左侍郎秦綬章 現任兵部左侍郎

462 光緒三十四年五月二十二日內閣奉

上諭外務部右侍郎著梁敦彥補授欽此

463 光緒三十四年五月二十二日內閣奉

上諭倉場侍郎李紱藻由翰林洊升卿貳調任倉場

侍郎克勤厥職茲聞溘逝軫惜殊深加恩著照侍

郎例賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典該

衙門察例具奏欽此

464 光緒三十三年正月十四日內閣奉

上諭倉場侍郎劉永亨由翰林洊升卿貳調任倉場

侍郎克勤厥職茲聞溘逝軫惜殊深加恩著照侍

郎例賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典該

衙門察例具奏欽此

465 交會議政務處本日

貴處奏會議連魁奏籌擬科布多情形摺又奏

派章京易貞元幫提調片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

五月二十二日

466 交會議政務處本日給事中李灼華奏籌復海

軍宜先設各項學堂一摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

五月二十二日

467 交度支部本日學部奏修建衙署懇

恩賞給經費摺奉

旨著賞銀七萬兩由度支部發給欽此又奏請撥內

務府居間片奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月二十二日

468 交學部本日

貴部奏進士館出洋游學及外班肄業之翰林

部屬等員畢業請

派大臣會考摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月二十二日

469 交墾務大臣信本日

貴大臣奏墾務需才擬調得力人員一摺又奏

調知府李雲慶片均奉

旨著照所請該部知道欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

五月二十二日

470 交 軍機大臣面奉

諭旨按遠城等處墾務緊要所有沿邊道廳以下各

官遇有應辦開墾事宜均著歸信勤節制欽此

相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月二十二日

471 光緒三十四年五月二十三日奉

旨翰林院學士著錫鈞補授欽此

欽此

472 交憲政編查館本日都察院代奏前工部員外

郎劉椅預備立憲條陳一件奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交 引結鈔三件

五月二十四日

473 交度支部本日都察院代奏編修胡藻永不加

賦條陳一件奉

旨度支部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計結鈔五件

五月二十四日

474 交修訂法律大臣沈家本等本日

貴大臣等奏謹擬諮議調查章程摺單二件又

奏調員差造片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

五月二十五日

475 交吏部本日修訂法律大臣沈家本等奏薦舉人

才摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月二十五日

476 光緒三十四年五月二十六日內閣奉

上諭禮部奏萬壽聖節禮儀一摺著在

仁壽殿行禮停止筵宴餘依議欽此

477 光緒三十四年五月二十六日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

誠勳額勒渾泰蒙古各旗羣被雪成災懇懇撫恤一

摺本年蒙古地方春雪過大又復狂風時作祭哈爾

鑲白等旗及陸軍部左右兩翼商都牧羣等處人畜

被災甚重頗多損傷蒙民當此困苦軫念實深著賞

給帑銀五萬兩由度支部給發交誠勳等派委委員

按照所屬災區查明戶口察看輕重分往散放務使

實惠均霑毋任失所副朝廷撫恤蒙艱之至意該

部知道欽此

478 光緒三十四年五月二十六日內閣奉

上諭林紹年奏吏部右侍郎張仁黼因病懇請開缺

一摺張仁黼著准其開缺欽此

479 光緒三十四年五月二十六日內閣奉

上諭著吉林提學使吳魯著貴州提學使柯劭志著

來京派在學部丞參上行走吉林提學使著曹廣

楨補授陳曠著以道員用著理貴州提學使欽此

480 光緒三十四年五月二十六日內閣奉

上諭此次驗看之辦學期滿翰林院庶吉士許承堯

著授職編修欽此

481 光緒三十四年五月二十六日內閣奉

上諭前據江蘇巡撫陳啟泰奏進在籍分部郎中曹元弼所撰禮經校釋一書當交南書房閱看茲據奏稱該員所著禮經校釋疏通證明持論頗多可採後附禮經纂疏序於禮學源流言之甚詳等語曹元弼著加恩賞給翰林院編修用示嘉獎原書著發交禮部禮學館以備參考欽此

482 交_{吏部}翰林院軍機大臣面奉

諭旨本日翰林院侍講學士朱福詵奏因病懇請開缺一摺朱福詵著准其開缺欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

五月二十六日

483 交憲政編查館本日翰林院侍講學士朱福詵

奏請開設議會一摺奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

五月二十六日

484 軍機大臣 字寄

郵傳部 各直省督撫 光緒三十四年五月二十七日奉

上諭鐵路為交通大政利商賑災運兵轉餉以及開通風氣振興實業胥賴乎此近年來各省官辦鐵路皆能刻期竣工成效昭著而紳商集股請設各公司奏辦有年多無起色坐失大利尤礙交通者郵傳部遵委委員分往各路確實動查各路工程應分幾年造竣公司股本能否按年接濟一面妥擬辦法嚴定期限俟所集股資不敷尚鉅或各存意見推諉誤工以致未能依限完竣即由該部會同該管督撫另籌辦理並將該省所舉承辦人員差役查照商部歷次奏案分別撤銷以期各路迅速造通上裨國計下厚民生如再因循瞻顧坐誤事機定准該部及該管督撫是問其應行路律並著該部速議具奏欽此遵

旨寄信前來

485 光緒三十四年五月二十七日內閣奉

上諭吏部右侍郎著于式枚調補未到任以前著瑞

良署理郭曾斯著補授禮部右侍郎欽此

486 應升侍郎名單

內閣學士文海

載昌

墨麒

麒德

瑞豐

毓隆

楊佩璋

李聯芳

吳郁生 現著吏部右侍郎金均侍郎

王墉 現著法部右侍郎

都察院副都御史伊克坦

陳名侃

宗人府府丞朱益藩

大理院少卿劉若曾

翰林院學士錫鈞

許澤斯

外務部左丞鄒嘉來

吏部左丞寶銘

右丞孫紹陽

民政部左丞裕厚

右丞劉彭年

度支部左丞陳宗姚

右丞傅蘭泰

禮部左丞英蔭

右丞劉果

學部左丞翁樹枏

右丞孟慶榮

陸軍部左丞姚錫光

右丞朱彭壽

法部左丞曹鑑

右丞黃均隆

農工商部左丞耆齡

右丞沈雲沛 此右丞侍郎右侍郎

殊 ○ 郵傳部左丞郭曾忻 現著禮部右侍郎

右丞那晉

487 應調侍郎名單

外務部左侍郎聯芳

右侍郎梁敦彥

民政部左侍郎袁樹勛 現著山東巡撫

右侍郎趙秉鈞

度支部左侍郎紹英

右侍郎陳邦瑞

殊 ○ 禮部左侍郎于式枚 現任出左

右侍郎景厚

學部左侍郎嚴修

右侍郎寶熙

陸軍部左侍郎壽勳

右侍郎蔭昌

法部左侍郎紹昌

右侍郎沈家本

農工商部左侍郎熙彥

右侍郎楊士琦

郵傳部左侍郎吳重熹

右侍郎盛宣懷 現任出左

理藩部左侍郎達壽 現任出左

右侍郎恩順

倉場侍郎桂春

汪大燮 現任出左

大理院正卿定成

488 裁缺侍郎名單

裁缺兵部左侍郎秦綬章 現任張勳副總統

候補侍郎名單

候補侍郎俞廉三

候補侍郎俞廉三

490 開缺巡撫名單

留京當差前江西巡撫瑞良

殊

491 交陸軍部本日

資部奏舉行秋操擬辦大概情形一摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

五月二十七日

492 文學部考試進士館游學畢業各學員閱卷

大臣奉

硃筆圈出葛寶華秦駿章郭曾忻戴昌欽此相應

傳知

貴部欽遵可也此交

五月二十七日

硃

493

葛寶華

秦駿章

郭曾忻

王坊

戴昌

劉若曾

494 光緒三十四年五月二十八日內閣奉

上諭禮部左侍郎著景厚轉補欽此

495 交憲政編查館本日

貴館會奏侍郎沈家本等奏請編定現行刑律

一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

五月二十八日

496 光緒三十四年五月二十九日內閣奉

上諭郵傳部左丞著那晉轉補李經楚著補授郵傳

部右丞郵傳部左參議著李稷勳轉補胡祖蔭著

補授郵傳部右參議欽此

497 奉

旨派在郵傳部丞參上行走人員名單

委散秩大臣前通政司參議胡祖蔭

硃

498 交郵傳部本日

貴部奏路款短缺謹遵前案續撥專借一摺奉
旨知道了嗣後該部需借洋款應先行奏明請旨並

知照外務部欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

鈔交外務部

五月二十九日

499 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 署直隸總督楊 熱河都統廷

光緒三十四年五月三十日奉

上諭有人奏熱河吏治收壞刁靈橫行請飭查懲一

摺著徐世昌會同楊士驥廷杰按照所奏各節東

公查明確實具奏毋稍徇隱原摺著鈔給閱看

欽此遵

旨寄信前來

500 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 署黑龍江巡撫周 光緒

三十四年五月三十日奉

上諭有人奏黑龍江候補道宋小濂等盤踞要差浮

開款目等語著徐世昌周樹模按照所奏各節確

切查明據實具奏毋稍徇隱原片著鈔給閱看

欽此遵

旨寄信前來

501 軍機大臣 字寄

署直隸總督楊 察哈爾都統誠 光緒三十

四年五月三十日奉

上諭有人奏察哈爾祥仁慧宗兩寺喇嘛巴撒爾巴

圖彥以達瑪元丹身死不明在部控告一案請飭

查明以成信讞等語著楊士驥會同誠勳按照所

奏各節據實查明秉公研究毋稍徇隱原片均著

鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

502 軍機大臣 字寄

各直省督撫 光緒三十四年五月三十日奉

上諭有人奏請自定州縣公費以期久任而飭吏治
一摺所陳切中官場積弊著各直省督撫體察本
省情形分別妥籌奏明辦理原摺著鈔給閱看
欽此遵

旨寄信前來

503 交吏部本日御史吳緯炳奏分發道府以下等

官擬請將指省掣籤章程分別變通一摺奉

旨吏部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

計粘鈔摺一件

五月三十日

504 交郵傳部本日翰林院侍讀榮光奏敬陳管見

以保路權一摺奉

旨郵傳部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

計粘鈔摺一件

五月三十日

505 光緒三十四年六月初一日內閣奉

上諭前因京師雨澤稀少迭經派禮親王世鐸虔詣

大高殿醇親王載灃虔詣

覺生寺恭代拈香派貝勒載澗等分詣

時應宮等處拈香並經開壇祈禱仰荷

吳蒼默佑疊沛甘露朕心實深寅感允宜敬謹報謝用答

天庥本月初四日仍派禮親王世鐸敬謹前往

大高殿恭代拈香

覺生寺仍派醇親王載灃恭代拈香

時應宮仍派貝勒載澗

昭顯廟仍派貝勒載澗

宣仁廟仍派鎮國公溥信

凝和廟仍派鎮國將軍載捷同於是日分詣拈香

派鎮國公毓敏詣

黑龍潭派鎮國公毓璋詣

白龍潭拈香行禮報謝

大高殿

覺生寺即行撤壇仍舊頻邀

鴻臚甘澍應時以慰農望欽此

506 奉恩鎮國公載澤

毓敏

毓璋

全榮

奉恩輔國公意普

溥葵

溥閏

溥釗

507 交外務部本日貝子溥倫奏日本接待各員擬懇

恩賞一摺單一件奉

旨著照所請外務部知道欽此相應傳知

貴部 欽遵可也此交

六月初二日

508 交稅務處軍機大臣面奉

諭旨鐵路免稅日多自應略示限制但此項免稅或

在合同或業經奏准亦須分別詳擬著該處會同

外務部度支部郵傳部詳細查明妥議具奏欽此

相應傳知

貴處欽遵可也此交

六月初二日

509 查本處領班三品章京曹廣楨現蒙

簡放吉林提學使所遺領班三品章京一缺擬以幫

領班四品章京劉穀孫充補遞遺幫領班四品

章京一缺擬以員外郎趙廷珍充補並添傳此次

記名之翰林院編修楊渭在額外行走謹

奏

光緒三十四年五月初三日奉

旨知道了欽此

510 光緒三十四年六月初三日內閣奉

上諭前據湖南巡撫岑春煊奏進前國子監祭酒王

先謙所著書籍四種當交南書房閱有茲據奏稱

該員所著尚書孔傳參正漢書補注荀子集解日

本源流攷各書洵屬學有方法精博淵通淹貫古

今周知中外等語王先謙著加恩賞給內閣學士

銜用示嘉獎宿儒之至意欽此

511 交吏部本日

貴部奏請

欽派查驗詢問保薦人才王大臣一摺由本處進單奉
硃筆圈出那桐榮慶梁敦彥瑞良嚴修俞廉三欽此

相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月初三日

512 孫家鼐

硃

那桐

榮慶

載澤

鐵良

梁敦彥

唐景崇

瑞良

嚴修

寶熙

吳重熹

俞廉三

丁振鐸

513 交郵傳部本日

貴部奏勘查商路修訂路律大概辦法摺奉
旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月初三日

514 軍機大臣 字寄

法部 各直省督撫 光緒三十四年六月初
四日奉

上諭御史俾壽奏請飭實行停止刑訊嚴禁勒索一
摺著法部暨各直省督撫體察情形酌核辦理務
期痛除積弊以恤民艱原摺均著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

515 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 光緒三十四年六月初四日奉
上諭有人奏奉天前署安中縣知縣陶儲遊過遼功
草菅人命請飭提根究一摺著徐世昌調齊卷宗
秉公查辦毋稍徇隱原摺著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

516 交會議政務處本日御史俾壽奏各省府廳州

縣宜裁撤佐貳添設裁判度支民政各專官一
摺奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

六月初四日

517 交憲政編查館本日都察院代遞陸軍部主事

王廷楨條陳立憲先從廓清積弊入手呈一件
又代遞法部主事沈鈞儒條陳預備立憲要旨
呈一件均奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

六月初四日

518 交學部本日御史俾壽奏京師內外城女學傳

習所請

飭改為官立學堂等語奉

旨學部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔片二件

六月初四日

519 交值平平平本日御史俾壽奏請

飭八旗都統及各省駐防創設蒙小學堂及研究所等語奉

旨該衙門知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔片各二件

六月初四日

520 光緒三十四年六月初五日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨
前據張人駿電奏廣東五月中旬連日大雨東西北
三江潦水同時漲發沖決園堤損傷民業當經諭令
將被災戶口妥為撫恤茲復據雷奏稱南海三水清遠
高要高明鶴山四會等縣共決園基八十餘處田廬
盡成澤國其餘新會東莞順德香山等縣園基亦有
沖決坍塌曲江英德花縣等屬亦遭淹沒鄉民財物

悉付東流被水之區甚廣實為數十年來未有之鉅

災覽奏殊堪憫惻加恩著賞給帑銀十萬兩由度支

部給發著該督派委委員前往詳細查勘辦理急款

仍著寬籌款項妥為接濟毋令災民失所並該法補築

園堤俾得復業用副朝廷軫念災黎至意該部知道

欽此

521 辦理軍機處為咨行事本處三品堂書曹廣積

現在

萬欽吉林提學使所遺

貴部兼行堂京一缺現派三品堂書曹廣積

補相處咨行

貴部查照可也須至咨者

右 咨

外務部

光緒三十四年六月

日

522

軍機大臣 字寄

雲貴總督錫 四川總督趙 光緒三十四年

六月初六日奉

上諭趙爾豐奏前署西陽州知州唐戡在酉陽州任內慘斃一家三命情節重大現在案尚未明該員潛往雲南列保開復請飭押解來川歸案審辦等語著錫良就近查傳唐戡立卹派員解往四川交趙爾巽秉公研訊務得實情以成信讞並先將唐戡所開復保案暫行撤銷原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

另鈔文片

523 軍機大臣 字寄

四川總督趙 光緒三十四年六月初六日奉

上諭本年正月間據趙爾豐電奏擊獲匪首李文華即李華兒當經允准將出力員弁酌保茲復奏稱匪黨李文華即李繼順係汪家溝人非平項觀之匪首李文華即李華兒正身本年二月潛回煽惑滋事假冒匪首李文華之名希圖誘脅鄉愚等語李文華既於正月擊獲何以二月復潛回滋事趙

爾豐前後所奏情節支離著趙爾巽確切查明據實具奏欽此遵

旨寄信前來

524 光緒三十四年六月初六日內閣奉

上諭七月初一日孟秋時享

太廟朕親詣行禮

後殿派溥偉行禮兩廡派德壽希璋各分獻欽此

525 交學部本日

貴部奏會考進士館游學及外班各員畢業情形摺單各一件奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月初六日

526

交外務部農工商部
軍機大臣字寄
本日本陸軍部奏代遞補用
道崔祥奎雲南要政條陳一件奉

旨軍機大臣會同外務部度支部陸軍部農工商部

郵傳部立即妥議具奏欽此相應傳知

貴部大臣欽遵可也此交

六月初七日

527 光緒三十四年六月初八日内閣奉

上諭甘肅布政使著繼昌調補樊增祥著補授江甯布政使欽此

528 翰林院侍讀學士景祿

恩祥

周克寬

黃思永

惲毓鼎

侍講學士延清

世榮

李士鈞

楊捷三

529 翰林院學士錫鈞

許澤新

530 內閣侍讀學士載賢

占祿

奎善

承瀛

靈照

劉宇泰

現充副使

劉式訓

現充副使大臣

531 交內閣軍機大臣面奉

諭旨陸元鼎奏因病懇請開去差使賞假回籍就醫

一摺著照所請該衙門知道欽此相應傳知

貴衙門欽遵轉傳可也此交

六月初八日

532 滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫辦班四品章京文年

四品銜在任即選知府進缺後以道員補用章京郎中成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京郎中鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎四品銜章京侍讀裕銘

五品銜額外章京候補侍讀內閣中書海桂

額外章京法部候補員外郎伊密揚阿

漢頭班

花翎領班三品章京劉毅孫

幫領班四品章京胡彤恩

章京員外郎劉慶篤

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京五品銜內閣中書蕭端潔

額外章京三品銜記名繁缺知府陸軍部候補郎中楊蒂

滿二班

花翎領班三品章京大徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京郎中桂蔭

花翎四品銜章京郎中蔡奎

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

章京員外郎星翰

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京易貞

幫領班四品章京趙廷珍

章京記名繁缺知府郎中孫筭經

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣忠

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部候補主事雷廷壽

額外章京翰林院編修楊渭

533 交外務部本日郵傳部奏滬甯鐵路工程將次

完竣請

賞洋員寶星片奉

旨著照所請外務部知道欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

六月初九日

534 交郵傳部本日

貴部奏派員先行勘查川漢鐵路一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月初九日

535 軍機大臣 字寄

烏里雅蘇台將軍軍整 光緒三十四年六月初十日奉

上諭有人奏參原任將軍連順等朋比用事玩視地

方請飭查辦一摺著整岫按照所參各節秉公確

查據實具奏毋稍徇隱原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

536 光緒三十四年六月初十日內閣奉

上諭陝西巡警道員缺著張藻補授欽此

537 交宗人府本日御火常徵奏懇親王府復衛定

林騰大妾為肆無忌憚片奉

旨著宗人府查辦欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

六月初十日

538 交郵傳部本日 旨海寰奏個執等項罪案免死

片奉

旨該衙門知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月初十日

539 交資政院總裁貝子溥等奉

貴貝子等奏擬訂資政院章程一摺奉

旨依議其餘八章著即迅速妥訂具奏其貴欽此又

奏請撥開辦經費片奉

旨著度支部照數撥給欽此相應傳知

貴貝子等欽遵可也此交

旨交度支部

六月初十日

540 交督辦津浦鐵路大臣呂本日

貴大臣奏津浦鐵路開工日期一摺又奏換用銅質關防片又奏派汪懋琨充北段會辦片均奉

旨知道了欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

六月初十日

541 光緒三十四年六月十一日內閣奉

上諭此次驗看之游學畢業貢士程宗伊著給予進

士出身欽此

542 光緒三十四年六月十一日內閣奉

上諭多羅貝勒載濤之第二子著命名溥佳欽此

543 保安也

佐輔也

佳美也

儉約也

硃
○

544 交吏部奉

旨此次驗看之前安徽甯國府知府蔡普著以簡缺

知府用欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月十一日

545 前安徽甯國府知府蔡普

硃
○ 旨著以簡缺知府用

旨著以同知用

旨著回原衙門行走

546 交憲政編查館本日外城巡警總廳廳丞王善

荃奏請定開國會年限一摺奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交 計結鈔冊一件

六月十二日

547 光緒三十四年六月十三日奉

旨翰林院侍講學士著周爰詠補授欽此

硃
○

548 交理藩部軍機大臣面奉

諭旨廓爾喀貢使著理藩部於六月二十四日刻在
仁壽殿帶領引見欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月十四日

549 交都察院本日

貴院代遞前刑部主事邵椿年等請將國民捐
利息撥作學費呈一件奉

旨國民捐原為清償外債嗣經降旨發還詎可移作
他用以致失信於民該主事等所呈殊屬不知大
體原呈擲還欽此相應傳知
貴院欽遵可也此交

六月十四日

550

交^{外務部}陸軍部中國遣赴日本肄習武備學生成材
甚多深資得力均由日本陸軍中將參謀次長
福島安正協助照料現經管理陸軍部事務慶
親王面奏請賞給頭等第三寶星奉

旨准賞欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月十四日

551

交^{吏部}本日御史趙炳麟奏查驗保薦人
才請停止丁憂人員報到一摺奉

旨著查驗大臣會同吏部查明丁憂人員暫行停止
查驗俟服闋後再行補報欽此相應傳知

貴^{大臣}欽遵可也此交^{計結抄摺一件}

六月十四日

552

辦理軍機處為片送事前准

貴大臣咨送戒煙表式等因前來查本處王大
臣暨滿漢章京等均已按照表式填注所有實
已斷淨各員相應片覆

貴所聽候傳驗其陳明斷戒之員一俟斷淨後
再行知照

貴所可也須至片者

右 片^{計冊二本表二張}

戒煙公所

光緒三十四年六月

十五

日

553

光緒三十四年六月十六日內閣奉

上諭此次驗看進士館游學及外班畢業學員所有
 考列最優等之翰林院庶吉士黎湛枝著授職編
 修並記名遇缺題奏考列優等之翰林院庶吉士
 顏楷陳國華李湛田岑光樾曹典初均著授職編
 修並賞給侍講銜舒偉俊竺慶祥均著授職檢討
 並賞給侍講銜考列中等之翰林院庶吉士朱點
 衣孫智敏張國溶郭壽清許業笏均著授職編修
 李德鑑著授職檢討考列最優等之度支部主事
 劉遠駒禮部主事沈秉乾法部主事熊坤禮部主
 事張則川刑部主事龔福燾禮部主事陳龔聲
 均著准其留部以原官遇缺即補考列優等之吏
 部主事陳熙朝法部主事張恩壽吏部主事沈澤
 生法部主事彭運斌吏部主事隨勤禮法部主事
 范振緒原工部主事甘鵬雲法部主事鄭言均著
 准其留部以原官儘先補用考列中等之度支部

主事李言萬原工部主事歐陽紹祚度支部主事
 段國垣吏部主事李景綱原工部主事方貞原刑
 部主事狄樓海禮部主事賽沙敦法部主事李龍
 崗度支部主事張詒吏部主事陳奮法部主事張
 履謙吏部主事陳度陳世昌度支部主事王慧潤
 李澤蘭法部主事張介孚何毓璋禮部主事胡家
 鈺均著准其留部考列優等之內閣中書楊允升
 著以原官留原衙門本班儘先補用考列中等之
 法部主事陳廣虞吏部主事鍾剛中法部主事葉
 大華禮部主事史之選均著以知縣照散館班次
 即選考列最優等之同進士陳正猷著改為翰林
 院庶吉士考列優等之進士程宗伊田樹棧均著
 以主事分部補用考列中等之進士歸部銓選知
 縣萬寶成著以知縣分省即用欽此

554

軍機大臣 字寄

禁煙大臣 民政部 度支部 各負省督撫

光緒三十四年六月十七日奉

上諭御史石長信奏禁煙辦法須圖簡易裁陳販賣

均宜劃地嚴禁期滿遞減一摺該御史所陳各節不為無見著各直省督撫體察情形認真籌辦原摺著鈔給禁煙大臣民政部度支部營各直省督撫閱看欽此遵

旨寄信前來

555 光緒三十四年六月十七日內閣奉

上諭雲南開化鎮總兵員缺著李德泳補授欽此

556 光緒三十四年六月十七日內閣奉

上諭錫良電奏已故總兵戰功卓著請旨優卹等語記名提督雲南開化鎮總兵白金柱忠勇性成膽畧兼備從前勦平滇邊游土各匪迭著戰功此次雲南河口等處匪黨勾結肇釁錫良派為前敵總統該總兵奮不顧身指揮督率悉中機宜迅奏膚功曾膺懋賞旋因調回東路布置邊防啟程後感受暑瘴觸發舊疾仍復沿途察看古林箐等處防務勞瘁不辭方資保障茲聞溘逝軫惜殊深白金柱著照提督軍營立功後積勞病故例從優議

卹加恩予諡並將戰功事蹟宣付國史館立傳准在立功地方建立專祠以彰勞勩伊長子二品廕生白耀龍著以員外郎分部補用次子同知銜貴州補用知縣白耀賢著以直隸州知州分省即補餘著照所議辦理該衙門知道欽此

557 交學部本日御史李浚奏經學亟宜注重請立

存古學堂一摺又奏提學使宜按臨各屬考查

學堂片均奉

旨學部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

計鈔抄摺片各一件

六月十七日

558 交郵傳部本日

貴部奏京漢鐵路被水情形片奉

旨知道了欽此又奏交通銀行官商認購股數片奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月十九日

559 光緒三十四年六月二十日內閣奉

上諭陳啟泰奏粵漢鐵路宜定統一辦法懇遴派廉明大員督辦路務一摺粵漢幹路關繫南北交通最為重要前經張之洞收回自辦極費經營乃數年來官紳商董意見參差迄無成效長此因循必至坐失天利貽誤路政自應簡派大員統一事權方可早日觀成著派軍機大臣大學士張之洞兼充督辦粵漢鐵路大臣會商郵傳部及三省督撫督飭在事官紳商董認真籌辦所有路務大端由該大臣通籌三省全局體察情形隨時主持裁定務令各派意見聯絡一氣以免曠日虛糜致妨交通要政欽此

560 交山 閣本日軍機大臣面奉

諭旨本月二十五二十六二十八日均著推班欽此

相應傳知

貴衙門一體轉傳欽遵可也此交

六月二十日

561 光緒三十四年六月二十一日內閣奉

上諭前據張蔭棠電奏達賴喇嘛懇請陛見恭請聖訓當經降旨著暫緩來京現在藏務大定達賴喇嘛已抵五台山著山西巡撫傳諭該達賴喇嘛來京陛見由該巡撫遴派文武大員沿途護送妥為照料欽此

562 軍機大臣 字寄

外務部 度支部 專使美國大臣唐 光緒三十四年六月二十二日奉

上諭方今商業疲困國用艱難所有應行舉辦各新政多未能及時振興於保全治安之道極有關繫現派唐紹儀專使赴美致謝著兼充考查財政大臣應赴日本及歐洲諸大國將諸國經理財政辦法詳細調查隨時奏聞以備採擇近來與各國商訂免釐加稅之約亦係財政大端或業經承諾或尚未議及恐展轉會議一時未克實行並著該大臣分赴諸國相機提議一面仍由外務部妥籌辦法切商駐京各使一律定議務期內外協商將免

釐加稅之議早已實行以裨商務而濟要需欽此遵
旨寄信前來

563 光緒三十四年六月二十二日內閣奉

上諭外務部奏美國減收賠款請遣使致謝一摺美
國與中國立約以來邦交素篤此次減收賠款尤
徵友誼敦睦允宜遣使致謝用酬嘉意奉天巡撫
唐紹儀著賞加尚書銜派充專使大臣前往美國
致謝欽此

564 光緒三十四年六月二十二日內閣奉

上諭吉林提法使著吳燾補授欽此

565 軍機大臣而奉

諭旨外務部奏已革知府劉鶴貧鄰謬妄不止一端
請旨懲處一片單員劉鶴違法罔利怙惡不悛著
發往新疆永遠監禁該犯所有產業著兩江總督
查明充公辦理地方要政該部知道欽此

及人部
內江總督
安徽巡撫
鈔交外務部
法部

六月二十二日

566 交陸軍部本日

貴部片奏參將宋元春等獎案分別請
旨等語奉

旨宋元春著賞給卓勇巴圖魯名號李永欽著以總
兵記名餘依議欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交

六月二十二日

567 請

賞參將宋元春漢字勇號

卓

振

強

銳

568 光緒三十四年六月二十三日內閣奉

上諭唐紹儀現在出差奉天巡撫著徐世昌兼署欽此

569 光緒三十四年六月二十三日內閣奉

上諭外務部右丞著梁如浩補授張蔭棠著補授外
務部右參議欽此

570 光緒三十四年六月二十三日奉

旨翰林院侍讀著鄭沅補授欽此

結
旨奉

571 交理藩院本日軍機大臣面奉

諭旨廓爾喀使臣著准其隨班祝嘏改於七月初四

日帶領引見欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

六月二十三日

572 軍機大臣 字寄

外務部 度支部 陸軍部 農工商部 郵

傳部 雲貴總督錫 光緒三十四年六月二

十四日奉

上諭據軍機大臣奕 等奏會議補用道崔祥奎雲

南要政條陳一摺雲南繫西南各省安危強鄰偏

處已久現值地方初靖若不亟圖善後興辦一切

要政後患何堪設想錫良身膺疆寄應即廣儲邊

材嚴整武備以資防範河口地方緊要著該督選

派精通法文分位較大得力人員前往駐紮相機

因應尤要在趕緊添練一鎮資以建威銷萌綏靖地

方所有開辦及常年經費軍裝器械等項著該部

商明雲貴總督核定確數分別籌撥務須源源接

濟毋誤要需並在鎮內附設隨營學堂預備續增

一鎮人才之用鐵路與軍政礦政互相倚著該

督隨時會商郵傳部協力通籌迅將路綫極力推

廣以便轉運而利交通滇省向為瘠區惟礦產饒

富可為養民裕國之大端亟宜設法提倡招商開

採有能在該省承辦礦產公司者必須切實保護

優加利益藉廣招徠爾部臣督臣皆受國厚恩責

無旁貸務期不分畛域內外兼籌庶幾鞏固邊陲

用副朝廷撫綏南服至意餘著照所議辦理原摺

著鈔給錫良閱看欽此遵

旨寄信前來

573 軍機大臣 字寄

著直隸總督楊 光緒三十四年六月二十四

日奉

上諭大理院少卿劉若曾等奏請開平礦產剋日收回等語著楊士驥按照所陳條遵前旨迅速設法收回以保利權原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

574 光緒三十四年六月二十四日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨
憲政編查館資政院王大臣奕溥倫等會奏擬呈各省諮議局及議員選舉各章程一摺諮議局為採取輿論之所並為資政院預備議員之階議院基礎即肇於此事體重大亟宜詳慎釐定茲據該王大臣擬呈各項章程詳加披閱尚屬周妥均照所議辦理即著各督撫迅速舉辦實力奉行自奉到章程之日起限一年內一律辦齊朝廷軫念民依將來使國民與聞政事以示大公因先於各省設諮議局以資應練凡民上庶均當共體時艱同摠忠愛於本省地方應興應革之利弊切實指陳於國民應盡之義務應循之秩序竭誠踐守勿挾私心以妨公益勿違意氣

以紊成規勿見事太易而議論稍涉為張勿權限不明而定法致滋倣越總期民情不虞壅蔽國憲咸知遵循各該督撫等亦當本集思廣益之懷行好惡同民之政虛公審察惟善是從庶幾上下一心漸臻上理至於選舉議員尤宜督率各該地方有司認真監督精擇慎取斷不准使心術不正行止有虧之人託足其內致妨治安該王大臣所陳要義三端甚為中肯如宣布開設議院年限一節自是立憲國必有之義但各國憲政本難強同要不外乎行政之權在官吏建言之權在議員而大經大法上以之執行罔越下以之遵奉弗違中國立憲政體前已降旨宣示必須切實預備慎始圖終方不至託空言而鮮實效著憲政編查館資政院王大臣督同館院諸司法政人員甄采列邦之良規折衷本國之成憲迅將君主憲法大綱暨議院選舉各法擇要編輯並將議院未開以前逐年應行籌備各事分期擬議臚列具奏呈覽俟朝廷親裁後當即將開設議院年限欽定宣布以立臣工進行之準則而副吾民望治之殷懷並使天下臣民曉然於朝廷因時制宜變法圖強之至意欽此

575 光緒三十四年六月二十四日內閣奉

上諭奉天左參贊著梁如浩暫行署理張蔭棠著署理外務部右丞外務部右參議著周自齊署理欽此

576 交禮部本日軍機大臣面奉

諭旨七月初一日孟秋時享

太廟遣醇親王載灃恭代行禮欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

六月二十四日

577 交外務部本日大理院少卿劉若曾等奏濼州

礦產請

飭從速開辦一摺奉

旨外務部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計稿抄摺一件

六月二十四日

578 光緒三十四年六月二十五日內閣奉

上諭楊士驥著補授直隸總督兼充北洋大臣欽此

579 光緒三十四年六月二十五日內閣奉

上諭山東巡撫著袁樹勛補授欽此

580 光緒三十四年六月二十五日內閣奉

上諭安徽巡撫馮煦著開缺另候簡用朱宗寶著調補安徽巡撫未到任以前著繼昌護理吉林巡撫著陳昭常署理欽此

著陳昭常署理欽此

581 光緒三十四年六月二十七日內閣奉

上諭四川重慶府知府員缺著段友蘭補授欽此

582 四川重慶府知府員缺請

行簡放

583 光緒三十四年六月二十七日內閣奉

上諭政聞社法部主事陳景仁等電奏請定三年內開國會革于式枚謝天下等語朝廷預備立憲將來開設議院自為必辦之事但應行討論預備各務頭緒紛繁需時若干朝廷自須詳慎斟酌權衡

至當應定年限該主事等何得臆度率請于式枚
為卿貳大員又豈該主事等所得擅行請革開政
聞社內諸人良莠不齊且多曾犯重案之人陳景
仁身為職官竟敢附和比暱倡率生事殊屬謬妄
若不量予懲處恐誇張為幻必致擾亂大局妨害
治安法部主事陳景仁著即行革職由所在地方
官查傳管束以示懲儆欽此

584 光緒三十四年六月二十九日內閣奉

上諭雲南勸業道員缺著劉孝祚補授欽此

585 雲貴總督錫良奏保勸業道人員名單

雲南補用道方宏綸

趙鴻猷

劉孝祚

硃

○

586 交郵傳部本日商約大臣盛宣懷電奏一件奉

旨郵傳部知道欽此相應鈔錄原電片文

貴部查照可也此文

七月初二日

587 光緒三十四年七月初三日內閣奉

上諭那桐等奏查驗第一期報到薦舉各員分別加
考覆陳一摺前因時勢艱難需才孔亟諭令內外
臣工切實薦舉並派那桐等查驗詢問茲據奏稱
將報到之內閣中書周嵩堯等按照原保事實詳
細詢問加具考語開單呈覽所有分發內閣中書
周嵩堯陸軍部主事惠崇陸軍部科長陳棧湖南
即用知縣熊範與著查驗大臣那桐等帶領引見
翰林院編修袁嘉穀郭則澐林炳章外務部員外
郎曹汝霖民政部左參議延鴻民政部參事章宗
祥民政部郎中陸宗輿銀行正監督張允言度支
部右丞傅蘭泰度支部左參議曾習經署度支部
右參議程利川度支部郎中晏安瀾管象頤學部
參事江瀚農工商部郎中胡祥錄給事中朱顯廷

四川成都府遺缺知府成昌候補三院卿誠璋著
直隸清河道熙臣候選道李熙山西汾州府知府
紹彝河南保送知府胡鼎彝著自七月十六日起
按照名次先後每日二員呈遞膳牌伺候召見如
是日未經召見仍於次日預備其餘各員以次遞
推欽此

588 光緒三十四年七月初三日內閣奉

上諭據禁煙大臣恭親王溥偉等奏大員逆涉朦混
未肯據實自陳請旨懲處一摺禁煙為朝廷自強
要政疊經三令五申身為大員宜如何力除腐瘕
以為民先若如所奏文海戴昌夙患煙癮竟自註
確無嗜好似此任意朦混自應亟予懲處內閣學
士文海戴昌著即行革職以肅官常而挽頹風欽此

589 光緒三十四年七月初三日內閣奉

上諭熙彥現在穿孝農工商部左侍郎著著齡署理
欽此

內閣學士等名單

內閣學士文海

裁昌

墨麒

麒德

瑞豐

毓隆

楊佩璋

李聯芳

吳郁生

王璠

現著金場傳呼
現著法部右侍郎

都察院副都御史伊克坦

陳名侃

宗人府府丞朱益藩

大理院少卿劉若曾

翰林院學士錫鈞

許澤新

各部左右丞等問題

591 交禁煙大臣溥偉等本日

貴大臣奏內閣冊開學士呈報名下填寫未全

擬行令明白聲覆等語奉

旨知道了欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此文

七月初三日

592 交郵傳部本日商約大臣處宣讀雷奏一件奉

旨郵傳部呈奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

七月初三日

593 七月初四日引

見人員

理藩部帶領廓爾喀使臣二人

594 光緒三十四年七月初四日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

前據陳夔龍電奏湖北霍潦為災當經諭令趕辦急賑並將續查情形具報茲據查明電奏黃岡麻城黃安三處災情最重居民蕩析流離慘不忍睹餘如漢陽府屬之夏口黃陂漢川荊州府屬之江陵監利石首安陸府屬之潛江宜昌府屬之興山等處均多被淹等語覽奏殊堪憫惻加恩著賞給帑銀六萬兩由度支部給發著該督派委委員前往災區切實散放務令貧患均霑毋任失所用副朝廷軫念災黎至意餘著照所請辦理該部知道欽此

595 交吏部軍機大臣面奉

諭旨良揆奏孝屬滿懋恩曲賜全俸安心持服一摺禮部左參議良揆著賞假三箇月假滿後照舊供職欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月初四日

596 軍機大臣 字寄

兩江總督端 光緒三十四年七月初五日奉

上諭有人奏江甯師範附屬小學堂等借用昭忠祠屋宇請飭擇地遷移一摺著端方按照所陳各節查明情形酌量辦理原摺著鈔給閱看欽此遵旨寄信前來

597 交憲政編查館本日

貴館奏考核州縣事實分別勸懲摺單八件又奏考核直省勸業道官制細則酌加增改摺單一件均奉

旨依議欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

七月初五日

598 交外務部本日給事中陳田奏滇亂暫平宜選得力大員慎重交涉摺奉

旨外務部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月初六日

599 交農工商部本日

貴部奏遵員署理丞參各缺一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月初六日

600 軍機大臣 字寄

督辦津浦鐵路大臣尚書呂 光緒三十四年

七月初七日奉

上諭有人奏津浦鐵路近甫舉辦請飭擇人任用農

實開支等語著呂海寰按照所陳各節破除情而

認真整頓以重路政而節浮費原片著鈔給閱看

欽此遵

旨寄信前來

601 光緒三十四年七月初七日奉

旨翰林院侍講著程毓林補授欽此

結 旨未訖

602 交農工商部本日御史傅壽奏請

飭選派滿漢子弟分送各國學習工藝片奉

旨學部農工商部郵傳部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月初七日

603 交度支部本日御史傅壽奏與教以籌款為

先請

飭部籌給各旗經費等語奉

旨度支部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月初七日

604 交陸軍部本日

貴部奏遵

旨核明會奏一摺又請

賞給道員崔祥奎陸軍副都統銜片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月初七日

605 交會議政務處本日翰林院代表瑞修喻長霖

敬陳管見呈一件奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

七月初七日

606 交會議政務處本日御史薛壽奏京外元員宜

設法疏通摺又奏法為治本擬請切實施行摺

均奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

七月初七日

607 交會議政務處本日御史俾壽奏請開辦材館

廣選材能以備顧問摺入片奏各部院官缺請

飭破除滿洲蒙古漢軍畛域等語均奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

七月初七日

608 交會議政務處本日御史張世培奏都察院官

制闕略請

飭令詳議增訂一摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

七月初七日

609 辦理軍機處為片覆事前准

貴所咨稱冊開陳明斷戒之日從何日起起等

因前來查本處章京聯綬一日係於六月十五

日聲明斷戒之日起限相應片覆

貴所查照可也

右片覆

禁煙公所

光緒三十四年七月

610 軍機大臣 字寄

雲貴總督錫 光緒三十四年七月初八日奉

上諭都察院代遞雲南耆民等呈稱土司暴虐慘無

人理請改土歸流以救民生等語著錫良按照所
呈各節體察邊情妥籌辦理原呈單著鈔給閱看
欽此遵

旨寄信前來

七月初八日

611 交外務部本日都察院代遞雲南京官吳炯等
條陳一件奉

旨外務部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月初八日

612 貝子溥倫奏請

賞給日本式部長伯爵戶田氏共

日本式部次長伊藤博邦

御筆福字各一方已奉

旨允准現待送日本使館轉交祇領請

頒發福方以便祇送

七月初八日

613

滿頭班

花翎頭班三品章京吳奇

花翎二品銜幫領班四品章京文年

四品銜在任即選知府選缺後以道員補用章京郎中成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京郎中鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎四品銜章京侍讀裕銘

五品銜額外章京候補侍讀內閣中書海桂

額外章京法部候補員外郎伊密揚阿

漢頭班

花翎頭班三品章京劉叔孫

幫領班四品章京胡彤恩

章京員外郎劉慶篤

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京五品銜內閣中書蕭瑞潔

額外章京三品銜 記名繁缺知府陸軍部候補郎中楊蒂

滿二班

花翎領班三品章京文傲

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京郎中桂蔭

花翎四品銜章京郎中榮奎

花翎三品銜郎選知府章京郎中常泰

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

章京員外郎星翰

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京易貞

幫領班四品章京趙廷珍

章京 記名繁缺知府郎中孫晉經

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部候補主事雷廷壽
額外章京翰林院編修楊渭

614 光緒三十四年七月初九日内閣奉

上諭馮汝駁奏特參庸劣知縣各員請旨從嚴一摺
浙江署理甯海縣宣平縣知縣曹元愷嗜好甚深
門丁用事婪索呈費民怨沸騰試用知縣潘崇桂
代理臨海縣七閱月並未審結一業任聽幕友家
丁營私舞弊候補知縣盧士鴻署理臨安縣玩視
民瘼聽斷糊塗試用知縣洪錫初署理鄞縣縱任
丁役藉案苛罰候補知縣左忠勳識見卑鄙趨向
不端試用知縣白曾蔭庸陋無能聲名甚劣均著
即行革職以肅官方該部知道欽此

615 交會議政務處本日

貴處奏會議東三省總督徐世昌等奏江省添
設民官摺又奏議覆御史趙炳麟奏統一財權
整理國政摺又奏派章京劉霖孫充幫提調片
均奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

七月初九日

616 光緒三十四年七月初十日內閣奉

上諭八月初五日祭

社稷壇朕親詣行禮欽此

617 光緒三十四年七月初十日內閣奉

上諭雲南臨安府知府員缺著李世楷補授欽此

618 交宗人府吏部本日御史常徽奏疏通宗室任達一摺奉

旨該衙門議奏欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

七月初十日

619 交度支部稅務大臣本日御史常徽奏請

飭會議紙煙加稅章程一片奉

旨度支部稅務大臣議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計稿抄摺二件

七月初十日

620 交法部本日御史常徽奏大員被參各款宜調

齊奏宗清查以成信讞一摺奉

旨法部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計稿抄摺二件

七月初十日

621 交吏部本日軍機大臣面奉

諭旨昨日驗放之浙江試用知府曾廣鍾加恩著發

往原省以知府補用欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月十一日

622 交陸軍部本日軍機大臣面奉

諭旨陸軍部奏湖北江蘇陸軍編練各成一摺請派

大員考驗摺著派副都統王英楷前往認真考驗

欽此

七月十一日

623 文憲政編查館本日付印遺書奏憲政重要詳

就考察事件擇要呈摺單一件入奏考察日

本憲政情形具諫管見摺入奏國會年限無妨

預定摺又奏先立內閣統一中央行政機關片

均奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此文

計摺摺片四件單一件

七月十一日

624 光緒三十四年七月十二日內閣奉

上諭聯魁奏特參庸劣不職各員請旨革職一摺新

疆巴楚州知州張瑞光採買累民玩視公令滋害

縣知縣魯鼎緒馭下不嚴浮收草價前署洛浦縣

知縣候補知縣廷奎徵草違章工於牟利候補知

縣魏榮炳貪殘暴戾民怨甚深未覲蒞行檢育虧

被人指控張舒鐸勒索愚氓事發投遞柯坪縣丞

潘宗岳任性妄為商莽債事候補府經歷曾壽鈞

營私嗜利膽大妄為候補縣丞施再前侵吞公款

惟利是圖吳吉沙爾廳照磨彭善田制行不謹有

玷官箴候補巡檢童光焯行止不端被控有案節

立庭身家不清行為卑鄙康炳森纏訟不休行司

無賴代理輪臺縣知縣署輪臺縣典史候補巡檢

蕭學誠假公濟私利心太重前署沙雅縣典史候

補巡檢蘇楷貪汙不法有玷官常均著即行革職

步車府知府甘昭湘委靡不振難資表率前著和

闡直隸州候補直隸州知州捐升知府車玉衡性

嗜奢競頗滋物議均著以通判降補准補布庫大

使譚承瑞年少喜事不知檢束著開缺另補餘著

照所議辦理該部知道欽此

625 交吏部本日御史王履康奏整飭吏治先從州

縣久任入手一摺奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

計摺抄摺二件

七月十二日

626 交度支部本日御史王履康奏山東增加鹽價

他省不得援以為例摺奉

旨度支部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計私移摺一件

七月十二日

627 交法部本日御史王履康奏請

飭將官媒永遠禁革改設婦女待質所一片奉

旨法部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計私移摺一件

七月十二日

628 光緒三十四年七月十三日内閣奉

上諭廣東勸業道著陳望曾補授欽此

629 光緒三十四年七月十三日内閣奉

上諭張人駿奏請將已革提督蘇元春量予恩施保

全末路等語蘇元春著加恩准其釋回欽此

630 交農工商部本日

貴部奏南洋華僑方廷策之母方陳氏請

旌表節孝一摺奉

旨著准其旌表該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵辦理可也此交

七月十三日

631 光緒三十四年七月十四日内閣奉

上諭廣東巡撫道員缺著王秉必補授欽此

632 兩廣總督張人駿奏保巡警道人員名單

廣東試用道李哲濬

候補道王良必

殊。

633 交學部本日候補京堂勞乃宣奏進呈簡字高

錄伏候

欽定頒行一摺奉

旨學部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計私移摺一件
附原書一函

七月十四日

634 交順天府本日

貴衙門會奏設局整頓順屬捕務摺又奏請刊刻木質關防片均奉

旨知道了欽此又奏捕獲要犯由局員審擬請旨懲辦片奉

旨著照所請欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

七月十四日

635 軍機大臣 字寄

浙江巡撫增 光緒三十四年七月十五日奉

上諭有人奏道員庸闇溺職州縣貪暴殃民請旨飭查一摺著增韞按照所參各節認真查辦毋稍徇

隱據實具奏原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

636 交吏部軍機大臣面奉

諭旨戴鴻慈奏病仍未痊懇恩賞假並請派員署缺

一摺戴鴻慈著再賞假二十日欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月十五日

637 光緒三十四年七月十六日內閣奉

上諭外務部左參議著吳品珩署理欽此

638 交稅務處本日

貴處會奏查明免稅各案會議覆陳摺又奏粵

漢鐵路機器材料請免稅三年摺均奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

七月十六日

639 交吏部軍機大臣面奉

諭旨昨日驗放之知府用在任候補直隸州知州浙

江永嘉縣知縣李前洋加恩著在任以知府補用

欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月十六日

640 交吏部奉

旨此次驗看之前河南項城縣知縣項夢龍著仍照部議降二級調用欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

七月十六日

641 前河南項城縣知縣項夢龍

味。旨著仍照部議降二級調用

642 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 署吉林巡撫陳 督務大臣信

光緒三十四年七月十七日奉

上諭有人奏三姓及黑龍江一帶荒地甚多似可改

為招佃開墾收租不取荒價又河套地方邊牆外

通有種地佃戶地土肥沃請飭勘放等語著徐世

昌陳昭常信勤會同妥議具奏原片均著鈔給閱

看欽此遵

旨寄信前來

643 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 署吉林巡撫陳 光緒三十四年七月十七日奉

上諭有人奏吉林賊匪充斥旗營貧困武備不修謹擬辦法四條以備採擇等語著徐世昌陳昭常體察情形妥籌辦理原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

644 光緒三十四年七月十七日內閣奉

上諭近聞沿江沿海暨南北各省設有政聞社名目

內多悖逆要犯廣徵資財糾結黨類託名研究時

務陰圖煽亂擾害治安若不嚴行查禁恐將賊壞

大局著民政部各省督撫步軍統領順天府嚴密

查訪認真禁止遇有此項社夥即行嚴拏懲辦勿

稍疏縱致釀巨患欽此

645 光緒三十四年七月十七日奉

旨翰林院撰文著李哲明補授欽此

旨水達

646

交會議政務處陝甘總督本日都統馬亮奏擬
伊犂將軍新疆巡撫

請裁併新疆文武員缺旗漢兵額節出餉銀改
練新軍並酌量就地籌款一摺單一件奉

旨會議政務處會同伊犂將軍陝甘總督新疆巡撫

迅即妥議具奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計給鈔摺單各一件

七月十七日

647 軍機大臣 字寄

浙江巡撫增 光緒三十四年七月十八日奉

上諭有人奏浙江海塘坍塌潰決堪虞請飭勦派

員督修一摺所陳各節關係民命著增韞詳細查

勘力除積弊妥籌辦理原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

648 交外務部本日御史吳緯炳奏日兵擅自拘人請

飭據約力單一摺奉

旨外務部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計鈔原摺一件

七月十八日

649 交禁煙大臣本日都察院奏代遞候選道許珏請

變通禁煙期限因地制宜呈一件奉

旨禁煙大臣民政部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計鈔原摺一件

七月十八日

650 光緒三十四年七月十九日內閣奉

上諭沈瑜慶奏特奏劣員以肅吏治一摺江西調署

都昌縣新淦縣知縣周宗洛操守不堅老而務得

前署萬年縣候補知縣王之楨見解荒謬不理學

務候補通判洪嘉蔭招搖撞騙行同無賴前署贛

縣教諭候選訓導鄧汝霖袒庇劣生把持詞訟廣

昌縣白水司巡檢林樹年縱役擾民擇肥而噬前

署清江縣典史候補典史吳家珪行為鄙謬有玷

官箴均著即行革職洪家蔭並著驅逐回籍勿令

逗留滋事管帶巡防隊右路第十三營候補副將

楊秀元空糧缺額習氣太深著一併革職餘照所

請辦理該部知道欽此

651 交^{翰林院}部本日翰林院奏請獎游學章程並擬

獎駱成驥等五員一摺單一件奉

旨駱成驥等五員均著賞加侍講升銜餘依議單併

發欽此相應傳知

貴院欽遵可也此交

七月二十日

652 交^{翰林院}部本日翰林院片奏嗣後留學各員請

飭將功課分數考試名次簡業文憑錄送查數等語奉

旨依議欽此相應傳知

貴院欽遵可也此交

七月二十日

653 交陸軍部本日

貴部會奏議覆湖廣總督陳夔龍奏湖北兵工

銅藥兩廠經費短絀請撥常年的款一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月二十一日

654 光緒三十四年七月二十三日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

前據陳夔龍奏春莫電奏湖南澧州等處被水成災

當經諭令切實撫恤並將續查情形隨時奏報茲據

查明電奏此次水災以澧州為最重石門次之田廬

淹沒畜產漂流小民蕩析離居嗷嗷待哺餘如安福

慈利安鄉南洲龍陽沅江古丈坪沅陵等廳縣均多

被淹等語覽奏殊堪憫惻加恩著賞給帑銀四萬兩

由度支部給發著該督撫等督飭印委各員核實散

放並籌撥款項接辦常賑設局平糶妥實經理務使

實惠均霑毋任失所副朝廷軫念災黎至意餘著

照所議辦理該部知道欽此

655 光緒三十四年七月二十三日內閣奉

上諭直隸宣化府知府員缺著高熙詰補授欽此

656 光緒三十四年七月二十三日內閣奉

上諭農工商部奏籌議華商創興瓊崖地利事宜酌

擬辦法等語著派三品卿銜胡國廉總理墾崖壑
礦事宜其有關涉地方他項商民利害事務應會
同地方官妥商辦理餘依議欽此

657 交會議政務處本日御史黃瑞麒奏請卹糜費

重名器摺奉

旨會議政務處知道欽此又奏請優定督撫公費片奉
旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交 計粘抄摺片各一件

七月二十三日

658 交郵傳部本日

貴部奏銷收支經費銀數一摺單二件奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月二十三日

659 交禁煙大臣本日鎮國公毓璋奏禁戒鴉片嚴

懲私種一摺奉

旨禁煙大臣民政部知道欽此相應傳知

貴大臣 欽遵可也此交 計粘抄摺一件

七月二十三日

660 光緒三十四年七月二十四日內閣奉

上諭琿春副都統著郭宗熙署理欽此

661 交開缺安徽巡撫馮本日

貴撫奏敬陳國家至計一摺奉

旨原摺擲還欽此相應傳知

貴撫欽遵可也此交

七月二十四日

662 軍機大臣 字寄

江西巡撫馮 光緒三十四年七月二十五日奉

上諭有人奏地方官違例擅用非刑請予罷斥並飭

將德化縣民羅德錠案秉公辦理一摺著馮汝駉

按照所參各節認真查辦毋稍瞻徇原摺著鈔給

閣看欽此遵

旨寄信前來

663 光緒三十四年七月二十五日奉

旨崇文門正監督著溥偉去副監督著寶熙去欽此

664 軍機大臣慶親王奕劻

軍機大臣醇親王載澧

軍機大臣大學士世續

民政部尚書肅親王善耆

度支部尚書載澤

禮部尚書溥良

農工商部尚書溥頤

理藩部尚書壽耆

665

硃。

禮部左侍郎景厚

學部右侍郎寶熙

陸軍部左侍郎壽勳

右侍郎廢昌

法部左侍郎紹昌

農工商部左侍郎熙彥

現在身考

理藩部左侍郎達壽

右侍郎恩順

內閣學士墨麒

麒德

瑞豐

毓隆

666

都統

那彥圖

禮親王世鐸

符珍

恭親王溥偉

睿親王魁斌

順承郡王訥赫

博迪蘇

增崇

增祺

奎俊

繼祿

芬車

葛寶華

壽陰

張德彝

馬亮

李殿林

成璋

色楞額

桂祥

崇勳

奎順

明啟

前鋒統領

秀吉

兜欽

護軍統領

希朗阿

薩廉

伊立布

達賚

善豫

志鈞

敬昌

祥魯

副都統

秦綬章

景恩

全福

毓秀

英信

烏珍

誠全

祥年

塔克什納

文泰

春祿

善旌

溥卓

王英楷

吉陞
 瑞啟
 恆順似
 李國杰
 棍布札布
 常山
 玉璋
 岳樑
 豐陞阿
 段祺瑞
 卓凌阿
 鍾靈
 蘇魯岱
 慶綿
 澧深
 希璋
 莊山似
 顧璜
 連魁

668
 委散秩大臣
 德茂
 海年
 成端
 恩輝
 德壽
 慶麟
 克文
 珠爾杭阿

667
 散秩大臣
 延康
 慶恩
 阿霖
 額勒春
 文璞
 良泰

錫露 錫光 承蔭 延秀 富康 朱煜勳 良沐 興恩 桂全 文熙 鐵麟 錫明做 榮整 榮泉 璞玉 世俗 施普澤 秀綸 曾廣鑒

左景祐

胡祖蔭

扎克丹

669 光緒三十四年七月二十五日內閣奉

上諭安徽皖南道員缺著楊文駿補授欽此

670 安徽皖南道員缺請

旨簡放

671 交陸軍部本日給事中陳慶桂奏請

飭各省查明世職擇其年富質穎者撥入水陸師等

學堂學習酌給津貼一片奉

旨陸軍部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計給鈔片一件

七月二十五日

672 文外務部 郵傳部 陸軍部 農工商部 理藩部本日

貴部會奏議覆趙爾豐奏西藏通商章程及籌

撥的款等事宜一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

七月二十六日

673 交會議政務處本日

貴處議覆御史史履晉奏禮學館宜專派大臣

管理與法律館彙同商訂一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

七月二十六日

674 光緒三十四年七月二十七日内閣奉

上諭順天府奏功德林習藝所罪犯人數倍增請加

撥米石一摺著加恩卽照所請每月加撥倉米六

十石由順天府具領發交該所妥為散放以廣恩

施該衙門知道欽此

675 光緒三十四年七月二十七日内閣奉

上諭雲南邊務重要交涉繁難應比照東三省官制

設立交涉使司以專責成雲南交涉使司交涉使
即著高而謙補授欽此

676 光緒三十四年七月二十七日内閣奉

上諭農工商部左丞著李國杰補授郵傳部左丞著

李焜瀛補授欽此

677 光緒三十四年七月二十七日内閣奉

上諭雲南臨安開廣道員缺著王正雅補授欽此

678 光緒三十四年七月二十七日本

旨著齡著補授內閣學士兼禮部侍郎銜欽此

679 光緒三十四年七月二十七日本

旨那晉著補授內閣學士兼禮部侍郎銜欽此

680 交內務府本日尚書陸潤庠奏撥案請領

恩賞醫局銀兩並陳現辦情形一摺奉

旨著照案賞給欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

七月二十七日

681 交與陸部本日尚書陸潤庠奏保醫局提調等

員片單各一件奉

旨著照所請該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔片單各一件

七月二十七日

682 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 署吉林巡撫陳 光緒三十

四年七月二十八日奉

上諭有人奏已革前署雙城廳通判鮮俊賢縱容勒

索請飭嚴拏在逃丁役究辦等語著徐世昌陳昭

常按照所陳通行各州縣嚴拏乘成沙仲蘭務獲

懲辦並飭各屬不准任用門丁妄行勒索原片著

鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

683 交憲政編查館本日御史俾壽奏各州縣地方

自治宜選公正紳董嚴懲土豪惡棍一摺奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交 計粘鈔摺一件

七月二十八日

684 交外務部本日出使大臣黃誥奏使館人員遵

章請獎摺單一件奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔摺單各一件

七月二十八日

685 交會議政務處本日御史俾壽奏各省分發候

補人員請

飭本省督撫隨時考驗量材錄用一片奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交 計粘鈔片一件

七月二十八日

686

交會議政務處本日郵傳部左參議李程勳奏

籌禁土藥辦法並善後大計摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

計粘鈔摺一件

七月三十日

687 光緒三十四年八月初一日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨
憲政編查館資政院王大臣奕劻溥倫等會奏進呈
憲法議院選舉各綱要暨議院未開以前逐年應行
籌備事宜一摺現值國勢積弱事變紛乘非朝野同
心不足以圖存立非紀綱整肅不足以保治安非官
民交勉互相匡正不足以促進步而收實效該王大
臣所擬憲法暨議院選舉各綱要條理詳密權限分
明兼采列邦之良規無違中國之禮教要不外乎前
次迭降明諭大權統於朝廷庶政公諸輿論之宗旨
將來編纂憲法暨議院選舉各法即以此作為準則
所有權限悉應固守勿得稍有侵越其憲法未頒議
院未開以前悉遵現行制度靜候朝廷依次籌辦如
期施行至單開逐年應行籌備事宜均屬立憲國應
有之要政必須秉公認真次第推行著該館院將此
項清單附於此次所降諭旨之後刊印謄黃呈請蓋
用御寶分發在京各衙門在外各督撫府尹司道敬
謹懸掛堂上即責成內外臣工遵照單開各節依限

舉辦每屆六箇月將籌辦成績臚列奏聞並咨報憲
政編查館查核各部院領袖堂官各省督撫及府尹
遇有交替後任人員應會同前任將前任辦理情形
詳細奏明以期各有考成免涉諉卸凡各部及外省
同辦事宜部臣本有糾察外省之責應嚴定殿最分
別奏聞並著該館院王大臣奏設專科切實考核在
京言路諸臣亦當留心察訪儻有逾限不辦或陽奉
陰違或有名無實均得指名據實糾參定按溺職例
議處該王大臣等若敢扶同諱飾貽誤國事朝廷亦
決不寬假當此危急存亡之秋內外臣工同受國恩
均當警覺沈迷掃除積習知仍泄沓坐誤豈復尚有
天良該館院王大臣休戚相關任寄尤重儻竟因循
瞻庇詎能無疚神明所有人民應行練習自治教育
各事宜在京由該管衙門在外由各督撫督飭各屬
隨時催辦勿任玩延至開設議院應以逐年籌備各
事辦理完竣為期自本年起務在第九年內將各項
籌備事宜一律辦齊屆時即行頒布欽定憲法並頒
布召集議員之詔凡我臣民皆應淬厲精神贊成郵
治如有不靖之徒附會名義藉端構煽或躁妄生事

秦亂秩序朝廷惟有執法懲儆斷不能任其妨害治
安總期國勢日臻鞏固民生永保昇平上慰

宗廟

社稷之靈下答薄海臣民之望將此通諭知之欽此

688 交諭旨部人本日軍機大臣面奉

諭旨八月初五日祭

社稷壇遣禮親王世鐸恭代行禮欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

八月初一日

689 交法部軍機大臣面奉

諭旨鹿傳霖奏逮問大員任意逗留等語一摺著法

部催提貽穀到案秉公確訊具奏原摺著鈔給閱

看欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

八月初一日

690 文學部本日御史張世培奏順天府尹破壞學

務淆亂定章請

飭部妥議摺奉

旨學部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

八月初一日

691 光緒三十四年八月初二日內閣奉

上諭京師地方審判廳廳丞著續昶補授欽此

692 光緒三十四年八月初二日內閣奉

上諭京師高等檢察廳檢察長者徐謙補授欽此

693 查本處奏定新章凡保有即補字樣者應即作

為實缺等語現有章京禮部即補員外郎陳鴻

翼服滿銷假前經本處保以員外郎即補擬照

章銷去本衙門字樣作為本處實缺員外郎充

補章京額缺為此謹

奏

光緒三十四年八月初二日奉

旨知道了欽此

694 光緒三十四年八月初三日內閣奉

上諭倉場侍郎著林紹年補授吳重憲著補授河南
巡撫未到任以前著朱壽鏞護理欽此

695 光緒三十四年八月初三日內閣奉

上諭郵傳部左侍郎著汪大燮調補未到任以前著
吳郁生署理並兼署倉場侍郎欽此

696 光緒三十四年八月初三日內閣奉

上諭安徽巡撫著沈曾植暫行護理朱家寶著迅速
赴任欽此

697 光緒三十四年八月初三日內閣奉

上諭甘肅布政使著毛慶蕃補授吳恭煊著補授江
蘇提學使欽此

698 交會議政務處本日

貴處奏議撥農工商部奏會擬畫一度量權衡
圖說總表及推行章程一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

八月初三日

699 交法部軍機大臣面奉

諭旨民政部奏查獲藉端招搖意圖煽惑人犯請遞

籍監禁一摺京師輦轂之下豈容不肖匪徒造謠

生事者民政部將該犯謝日光解交直隸總督發

司永遠監禁欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結鈔摺一件

八月初四日

700 光緒三十四年八月初五日內閣奉

上諭戴鴻慈奏因病請假仍請派員署缺一摺戴鴻
慈著再賞假一箇月法部尚書著為寶華署理欽

701 光緒三十四年八月初五日內閣奉

上諭御史秦望瀾奏查辦重案不甚允協請飭覆行
嚴議一摺已革綏遠城將軍貽穀被參案情重大
特派大員馳往查辦據奏覆情節較重當經諭令
拏交法部審訊治罪自應由法部澈底究辦乃該
御史竟敢臆列多條率為申辯顯係有意開脫殊
屬冒昧難勝風憲之任原摺擲還秦望瀾著回原
衙門行走以示薄懲欽此

702 滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京文年

四品銜在任即選知府選缺後以道員補用章京郎中成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京郎中鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎四品銜章京侍讀裕銘

五品銜額外章京候補侍讀內閣中書海桂

額外章京法部候補員外郎伊密揚阿

漢頭班

花翎領班三品章京劉穀孫

幫領班四品章京胡彬恩

章京員外郎劉慶篤

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京五品銜內閣中書蕭端潔

額外章京三品銜 記名繁缺知府陸軍部候補郎中楊希

滿二班

花翎領班三品章京文徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京郎中桂蔭

花翎四品銜章京郎中慶奎

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

章京員外郎星略

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京易貞

幫領班四品章京趙廷珍

章京 記名繁缺知府郎中孫司經

四品銜章京員外郎陳鴻翼

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣忠

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部候補主事雷廷壽

額外章京翰林院編修楊渭

703 光緒三十四年八月初九日內閣奉

上諭浙江甯紹台道員缺著葉寶調補齊耀珊著調

補湖北漢黃德道湖北荆宜道員缺著吳品銜補

授欽此

704 光緒三十四年八月初九日內閣奉

上諭道員楊兆璽黃誥著以本班發往兩江補用道

員許珏知府許台身著以本班發往廣東補用均

著交軍機處存記欽此

705 交會議政務處本日御史俾壽奏請重

詔令以肅紀綱一摺又奏請按照行取舊制京外互

用片均奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

八月初九日

706 交會議政務處本日御史俾壽奏請輪派大小

官員出洋游歷摺又奏請特舉制科片均奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交 計鈔原摺片各一件

八月初九日

707 交民政部 本日御史俾壽奏條陳禁煙辦法片奉

旨禁煙大臣民政部支部知道欽此相應傳知

貴部 欽遵可也此交計粘鈔原片一件

八月初九日

708 交內務府 本日御史俾壽片奏請改設孤寡教

養局及通籌八旗生計等語奉

旨會議政務處八旗都統知道欽此相應傳知

貴部 欽遵可也此交計粘鈔原片一件

八月初九日

709 交專使大臣唐軍機大臣面奉

諭旨著唐紹儀在奉天宮內庫存瓷器酌提十件帶

往各國以備分贈之用欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

八月初九日

710 軍機大臣 字寄

浙江巡撫增 光緒三十四年八月初十日奉

上諭翰林院侍讀吳士鑑奏請將現辦之蘇學館規

畫完備改設高等學堂力求進步等語著增韞按

照所陳各節體察情形妥籌辦理原片著鈔給閱

看欽此遵

旨寄信前來

711 交會議政務處本日裁缺司業蔭桓奏請速籌

海軍兼整頓學務摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺一件

八月初十日

712 交國史館 本日翰林院侍讀吳士鑑奏請將已故

刑部主事孫詒讓學行宣付

國史館列入儒林傳摺奉

旨著照所請該衙門知道欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交計粘鈔摺一件

八月初十日

713 交學部本日裁缺司業蔭桓奏請變通八旗學

務並派員總理片奉

旨學部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文計共鈔摺一件

八月初十日

714 交度支部本日稅務處會奏議覆御史常徽奏

紙煙加稅章程一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

八月十二日

715 交法部本日步軍統領那桐等會奏查

明已革綏遠城將軍貽穀存款一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此文計共鈔摺一件

八月十二日

716 交稅務處本日

貴處奏請派曾習經充幫提調片奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此文

八月十二日

717 交尚書呂本日

貴尚書奏撥整頓路政以節浮費片奉

旨知道了欽此相應傳知

貴尚書欽遵可也此文

八月十三日

718 交郵傳部本日尚書呂海寰奏四省紳商設立

津浦鐵路商股有限公司摺一件單二件奉

旨該部知道單併發欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文計共鈔摺單共三件

八月十三日

719 交郵傳部本日

貴部奏電股收贖完竣及預籌辦法摺又奏議
覆盛宣懷電陳收贖電股辦法三端毋庸置議
片均奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

八月十三日

720 光緒三十四年八月十四日內閣奉

上諭張人駿奏耆紳鄉舉重違籲懇恩施一摺二品
頂戴前署湖北安襄鄖荆道黎嘉蘭早領鄉薦晉
秩監司現屆該員鄉舉之年花甲適周洵屬藝林
盛事加恩著賞給三品卿銜以惠耆年欽此

721 光緒三十四年八月十六日內閣奉

上諭廣東南韶連鎮總兵員缺著潘瀛補授欽此

722 光緒三十四年八月十六日內閣奉

上諭外務部左參議著吳宗濂署理欽此

723 交會議政務處本日內閣侍讀學士占鳳奏請

選派親貴暨滿漢官員子弟出洋學習製造並
專設速成學堂一摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交 計粘鈔摺一件

八月十六日

724 交吏部軍機大臣面奉

諭旨第二期查驗詢問保薦人才大臣著仍派那桐

榮慶梁敦彥瑞良嚴修俞廉三欽此相應傳知

貴部欽遵辦理可也此交

八月十六日

725 那桐

榮慶

梁敦彥

瑞良

嚴修

俞廉三

726 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 光緒三十四年八月十七日奉

上諭有人奏奉天協統王振畿縱容兵丁擾累村民

致釀人命等語著徐世昌按照所奏各節東公查

辦毋稍枉縱據實具奏原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

727 光緒三十四年八月十七日奉

旨翰林院侍講者李哲明補授欽此

結 旨未述交

728 交會議政務處本日御史俾壽奏請創立親貴

子弟蒙小學堂一摺奉

旨會議政務處議奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交 計鈔鈔摺一件

八月十七日

729 交陸軍部本日御史俾壽奏請

飭各省統兵官約束兵丁不准擾累片奉

旨陸軍部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計鈔鈔摺一件

八月十七日

730 交法部本日御史俾壽奏請

飭京外問刑衙門審結案件分別有無刑求勒供隨

時勸懲片奉

旨法部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計鈔鈔摺一件

八月十七日

731 軍機大臣 字寄

成都將軍綽 光緒三十四年八月十八日奉

上諭軍機大臣進呈聯豫趙爾豐咨送西藏借番等

稟呈各件均覽悉國朝撫綏全藏向從寬厚近年

來藏人與英人構釁情勢危急朝廷不惜鉅帑代

為賠借又迭派大臣與英人議立約章相安互市

其所以保全藏眾者可謂至矣此次前派趙爾豐

駐藏辦事假以事權厚集實力歲糜鉅款在所不

各亦為保護藏眾杜絕窺伺起見乃該藏眾聯名呈訴趙爾豐枉殺多命毀寺掠財情節甚重措詞且多狂悖趙爾豐是否辦事操切致失全藏僧番之心抑或有狡黠之徒藉口指摘希遂其要求之計著綽哈布按照所訴各案摘要確查詳覆奏至趙爾豐與藏眾仇隙甚深將未入職任事能否相安並著綽哈布體察情形據實密陳原官各件著鈔給閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

本月二十四日電覆理成都將軍蘇霖奏請銷毀喇嘛廟

732 文 缺 奏 本口都察院奏查明道員破案究押

覽一窗奉

旨易順鼎著准其開復原官免繳自復銀兩該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計結鈔附下各件

八月十八日

733 文專使大臣唐紹儀本日 貴大臣奏酌擬隨帶人員一摺單一件又奏派鎮國將軍載揆充頭等參贊官片均奉 旨依議欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

八月十八日

734 查聯豫前電奏稱番官圖非朝仗業經奉

旨著趙爾巽會商布質等因欽此現據聯豫趙爾豐咨稱西藏寺廟及巴爐等處寺廟領袖僧眾呈訴要求奏嚴爾豐勿再

簡放駐藏大臣當經聯豫駁斥推聞其自海道入京遞呈且每日操練兵隊等語並將原稟咨送前來臣等查聞原稟該番僧之抗拒朝使係因趙爾豐於爐關一帶毀滅寺廟殘戮喇嘛多命並有搶劫情事理合將原咨原稟鈔錄進呈

御覽謹 奏

735 光緒三十四年八月十九日奉

旨成都將軍著馬亮補授未到任以前著蘇壽公暫行署理欽此

滿屋結

736 光緒三十四年八月十九日奉

旨成都副都統著鍾靈調補正黃旗漢軍副都統著都凌阿補授欽此

滿屋結

737 光緒三十四年八月十九日奉

旨正黃旗蒙古副都統著景麟著理欽此

滿屋結

738 光緒三十四年八月十九日奉

旨鑲黃旗漢軍都統著鳳山補授文瑞著補授西安將軍欽此

滿屋結

739 光緒三十四年八月二十日內閣奉

上諭直隸提督著姜桂題調補甘肅提督著張勳調補李福興著補授雲南提督欽此

740 文學部本日

貴部奏請

簡大臣會考游學畢業生摺又奏早稻田等畢業進

士館學員另行考試片均奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

八月二十日

741 光緒三十四年八月二十一日內閣奉

上諭林紹年奏舉幼賢各員一摺河南汝寧府知府李兆珍上南河同知黃家駒鄭州直隸州知州葉濟署禹州知州襄城縣知縣熊廷襄署安陽縣事南陽縣知縣陶炯照卸署夏邑縣知縣補用知縣邱銘勛以上各員既據該撫臚陳政績均著傳旨嘉獎丁憂候補直隸州知州宋敬熙任意玩公

操守難信洛陽縣知縣孫壽彭居心奸猾結納彌
 工輝縣知縣李如棠有意諱飾巧滑不堪准補新
 鄭縣知縣署固始縣知縣顏緝祐物議沸騰民心
 滋怨候補知縣李文義品行不端嗜好甚重鄙世
 仁逃犯不報利欲薰心試用知縣方鎮庚利心甚
 重忌憚毫無王維樞倚勢招搖聲名惡劣豫河候
 補縣丞殷李鈺慘酷異常准沈項縣丞王正柏藉
 事斂錢唐縣縣丞余恩禁約束不嚴輝縣教諭王
 定鑒嗜賭好遊鄧州史目阮湘違例擅受陳留縣
 典史周佩銘不知檢束西平縣典史周萬培物議
 滋多確山縣典史周音熙與民爭利鄆陵縣典史
 趙屏儒擅受釀事均著即行革職卸署南陽縣試
 用通判王體陵親幕當權頗滋警議卸署長葛縣
 鄧州知州潘守廉徒事鋪張甘於自棄密縣知縣
 王寶峯懦不理事易受欺賤鄆陵縣知縣王玉山
 案多諱飾才具極庸西平縣知縣程嘉穀徧急任
 性不免濫刑扶溝縣知縣金廷棟耽於小利不知
 大體署淮甯縣事商城縣知縣李德基嗜好未除
 事多廢弛襄城營都司龔從岱年老氣衰不能約

末光州州判曲利潭嗜酒誤事唐縣教諭陳簡久
 曠職守新鄉縣教諭李大王袁老賴唐鄧州史目
 熊熙嗜好已深老岸鎮巡檢張鳳山疏於防檢均
 著以原品休致代理登封縣准補上蔡縣知縣增
 喜事權旁落民有煩言商邱縣知縣薛鴻先才識
 迂拘不勝繁劇鄭州管河州判周篤成少不更事
 頗招物議均著開缺另補餘著照所議辦理該部
 知道欽此

742 光緒三十四年八月二十二日內閣奉

上諭江南江安糧道員缺著吳封調補譚啟守著調
 補河南南汝光道欽此

743 光緒三十四年八月二十二日內閣奉

上諭正黃旗蒙古副都統王士珍現在百日孝滿仍
 著署理江北提督欽此

744 軍機大臣 字寄

成都將軍馬 光緒三十四年八月二十四日奉

上諭軍機大臣進呈聯豫趙爾豐咨送西藏僧番等
 稟呈各件均覽悉國朝撫綏全藏向從寬厚近年
 未藏人與英人構釁情勢危急朝廷不惜鉅帑代
 為賠償又迭派大臣與英人議立約章相安互市
 其所以保全藏衆者可謂至矣此次爾派趙爾豐
 駐藏辦事假以事權厚集實力歲糜鉅款在所不
 吝亦為保護藏衆杜絕窺伺起見乃該藏衆聯名
 呈訴趙爾豐枉殺多命毀寺掠財情節甚重措詞
 且多狂悖趙爾豐是否辦事操切致失全藏僧番
 之心抑或有狡黠之徒藉口指摘希遂其要求之
 計著馬亮按照所訴各案摘要確查詳細覆奏至
 趙爾豐與藏衆仇隙甚深將來入藏任事能否相
 安並著馬亮體察情形據實密陳原稟各件著鈔
 給閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

745 交學部會考游學畢業生閱卷大臣奉

硃筆圈出唐景崇梁敦彥廕昌達壽欽此相應傳知

貴部欽遵轉傳可也此交

八月二十五日

746 學部開送名單

唐景崇

梁敦彥

廕昌

達壽

堂交下

747 溥良

壽者

高寶華

陳璧

張英麟

李殿林

陳邦瑞

景厚

郭曾忻

紹昌

達壽

楊佩璋

王塈

李聯芳

吳郁生

毓隆

陳名侃

748 軍機大臣 字奇

兩江總督端 江蘇巡撫陳 光緒三十四年

八月二十六日奉

上諭有人奏參江蘇河道趙濟彥等吸食洋煙甘旨

不遵等語著端方陳啟泰按照所參各節認真查

驗毋稍贍徇據實覆奏原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

749 交吏部軍機大臣面奉

諭旨此次驗看之李守謙著以主事用欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

八月二十六日

750 交陸軍部本日

貴部奏各省續保副參等第摺單一件奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

八月二十六日

751 交陸軍部本日

貴部奏擬訂陸軍各學堂及出洋學生畢業考

試出身校官章程摺單二件奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

八月二十六日

752 交陸軍部本日

貴部奏議覆陳慶桂奏各省世職請撥入水陸

師各學堂學習一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

八月二十六日

753 交陸軍部南洋大臣本日陸軍部奏請

派秋操閱兵大臣一摺奉

旨著派蔭昌端方認真校閱欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

印封送南洋大臣

八月二十六日

754 交禁煙大臣本日給事中李灼華奏洋煙甫禁

而紙煙盛行流毒尤甚擬請嚴禁摺奉

旨禁煙大臣知道欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

計粘鈔摺一件

八月二十六日

755 光緒三十四年八月二十七日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

總統武衛左軍直隸提督馬玉崑忠勇性成膽略兼

備初隸宋慶麾下轉戰皖豫齊魯晉閩蓋平髮捻

所向有功關隴回亂率師西征屢奏奇捷嗣隨金順

出關迭克名城在西域前後十餘年勦撫之餘倡辦

屯墾民咸賴之迨新疆大定經李鴻章調回北洋辦

理營務紀律嚴明駐軍遼瀋獨力楮柱特授浙江提

督調補直隸提督旋派總統武衛左軍隨扈西巡留

晉辦防旋直勦匪均資得力屢經賞給頭品頂戴黃

馬桂雲騎尉世職博奇巴圖魯勇號太子少保銜朝

廷倚若長城方冀永享遐齡長承恩眷茲聞溘逝軫

悼殊深馬玉崑著追贈太子太保賞加二等輕車都

尉世職照提督例賜卹加恩予謚其原籍地方及立

功省分建立專祠生平戰功事蹟宣付國史館立傳

靈柩回籍時沿途地方官妥為照料伊子補用遊擊

馬廉溥著加恩以總兵記名郎中馬廉德以道員分

省補用伊孫一品廕生馬朝棟以郎中分部補用分

部郎中馬朝樑以知府分省補用任內一切處分悉

予開復應得卹典該衙門察例具奏並賞銀三千兩

治喪由直隸藩庫發給用示篤念蓋臣有加無已之

至意欽此

756 光緒十二年九月初十日內閣奉

上諭一等子爵前湖南提督鮑超忠勇性成不近艱險咸豐年間隨同曾國藩胡林翼轉戰湖北江西安徽等省每於軍務危急之時出奇制勝殄除巨寇屢克名城積功洵擢浙江提督同治三年克復江甯賞給一等輕車都尉世職復錫封一等子爵乘勢帶兵協同左宗棠援剿廣東髮捻餘匪一律肅清又勦辦捻逆於湖北等處疊奏膚功嗣因病准其開缺回籍朕御極後簡授湖南提督並迭次令其統師防堵上年五月諭令來京陛見該提督因傷病舉發請假調理方冀寵眷長承深資倚畀茲聞溢逝悼惜殊深著賞加太子少保銜照提督軍營病故例從優議卹並賞銀三千兩治喪由四川藩庫給發一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏該提督戰功事蹟宣付國史館立傳加恩予謚並准於原籍及立功省分建立專祠伊嫡長子鮑祖齡著即承襲子爵毋庸帶領引見伊子鮑祖恩鮑祖祥伊孫鮑世爵著俟服闋後交吏部帶領引見用示軫念蓋臣至意該衙門知道欽此

757 光緒二十八年正月十二日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨四川提督宋慶忠勇篤誠治軍嚴整咸豐年間創立毅軍轉戰直隸河南山東江南湖北陝西甘肅各省統率所部削平捻回巨寇與中興諸將同建殊勳洵膺專閫嗣在北洋一帶駐紮操防前後垂二十年威惠著聞軍民悅服中外推為宿將朝廷倚若長城疊予恩施特晉太子少保尚書銜賞給二等輕車都尉世職該提督年逾八旬此次隨扈回京中途召對見其精神矍鑠志慮周詳方冀永享遐齡長資倚畀茲聞溢逝軫悼殊深宋慶著晉封三等男爵照尚書例賜卹加恩予謚並入祀賢良祠其原籍地方及立功省分建立專祠生平戰功事蹟宣付國史館立傳靈柩回籍時沿途地方官妥為照料伊子試用道宋天傑著以五品京堂候補伊孫直隸試用直隸州知州宋裕繼著以知府補用任內一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏用示篤念蓋臣有加無已之至意欽此

758 光緒三十四年八月二十七日奉
旨翰林院撰文著王同愈補授欽此

繕旨未送

759 光緒三十四年八月二十七日奉

旨聯豫奏請放前藏戴琇擬定正陪一摺著擬正之
五品浪仔履密琇改乘堅參補授欽此

滿屋繕旨

760 交度支部
外務部
吏部本日專使大臣唐紹儀奏出使經費

請分別

飭部籌撥一摺奉

旨著照所請該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結鈔摺一件

八月二十七日

761 交專使大臣唐紹儀本日

貴大臣奏齋送酌提奉天

宮內瓷器片單一件奉

旨知道了欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

八月二十七日

762 交會議政務處本日專使美國大臣唐紹儀奏

請實行商約各款並速定幣制摺奉

旨會議政務處速議具奏欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交計結鈔摺一件

八月二十七日

763 軍機大臣 字寄

兩廣總督張 廣西巡撫張 光緒三十四年

八月二十八日奉

上諭都察院奏主事謝宗清呈稱廣西匪患日亟敬

陳管見據情代奏一摺著張人駿張鳴岐按照所

陳各節體察情形妥籌辦理原呈均著鈔給閱看

欽此遵

旨寄信前來

764 交學部本日都察院奏代遞員外郎黃允中請

立經史文學三科條陳一件奉

旨學部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文計粘鈔原呈一件

八月二十八日

765 軍機大臣面奉

諭旨呂海寰奏請派員幫辦津浦鐵路一招孫寶琦

著以三品京堂候補派充幫辦津浦鐵路大臣欽此

交外務部
呂尚書

八月二十八日

766 交學部本日御史謝遠涵奏請變通學制摺又

奏請

飭學部編定小學國語教科書等語奉

旨學部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文計粘鈔摺片各一件

八月二十九日

767 交農工商部本日御史謝遠涵奏整頓實業

片奉

旨農工商部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文計粘鈔片一件

八月二十九日

768 交理藩部軍機大臣面奉

諭旨達賴喇嘛來京有期著派御前大臣博迪蘇前

往保定勞問欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

八月二十九日

769 軍機大臣 字寄

浙江巡撫增 光緒三十四年九月初一日奉

上諭有人奏浙江長興縣知縣趙以成挾吳正倫上

控之嫌誣京監禁並蔣生榮身死不明等語著增

韞按照所指各節秉公查辦據實覆奏原片著鈔

給閱看欽此遵

旨寄信前來

770 光緒三十四年九月初一日內閣奉

上諭十月初一日孟冬時享

太廟朕親詣行禮

後殿派善者行禮兩廡派恩輝秀綸各分獻欽此

771 交學部本日御史徐定超奏請整頓各省法政

學堂摺奉

旨學部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結鈔摺二件

九月初一日

772 光緒三十四年九月初二日內閣奉

上諭大理院總檢察廳廳丞著王世琪補授欽此

773 交禮部軍機大臣面奉

諭旨禮部會奏遵議先儒從祀分別請旨一摺顧炎

武王夫之黃宗羲均著從祀

文廟欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月初二日

774 光緒三十四年九月初三日內閣奉

上諭法部左參議著魏聯奎轉補善佺著補授法部

右參議欽此

775 光緒三十四年九月初三日內閣奉

上諭奉天高等審判廳廳丞著許世英補授欽此

776 光緒三十四年九月初三日內閣奉

上諭四川成綿龍茂道著黃丙焜調補劉元弼著調

補雲南迤西道欽此

777 光緒三十四年九月初三日內閣奉

上諭江蘇江甯府知府員缺緊要著該督撫於通省知府內揀員調補所遺員缺著劉名譽補授欽此

778 交外務部軍機大臣面奉

諭旨美國海軍將於十月初間游抵廈門著派貝勒毓朗外務部右侍郎梁敦彥前往勞問欽此相應

傳知

貴部欽遵可也此交

九月初三日

779

軍機大臣 字寄

東三省總督徐 光緒三十四年九月初四日奉

上諭有人奏奉省房捐加倍重征商民交困請飭酌量輕減一摺著徐世昌按照所陳各節查明情形

據實覆奏原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

780 光緒三十四年九月初四日內閣奉

上諭江西布政使沈瑜慶著開缺另候簡用劉春霖著補授江西布政使欽此

781 光緒三十四年九月初四日內閣奉

上諭浙江按察使著李經邁調補惠森著調補河南按察使欽此

782 交郵傳部軍機大臣面奉

諭旨郵傳部奏裁減電價提補經費以利交通一摺

電務前歸商辦餘利甚鉅現歸部辦亦須妥為籌畫逐漸推廣未可鋪張太過致多虧累且鐵路餘利應備擴充路綫之需界限必須分明尤未可與電政牽混挪移多生窒礙著該部另行妥擬具奏

欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月初四日

783 交郵傳部本日

貴部奏擬改雷報按屆截賬期限等語奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月初四日

784 交禁煙大臣溥 等奉本日

貴大臣奏職官玩法欺朦據寶劍泰一摺奉

旨依議嗣後仍著該大臣等隨時認真查驗毋稍欺

朦以除痼習欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此交

九月初四日

785 交吏部本日御史俾壽奏嗣後京外官員丁憂請

飭回籍守制等語奉

旨吏部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計黏鈔片一計

九月初四日

786 光緒三十四年九月初五日內閣奉

上諭截鴻慈奏假期屆滿病仍未痊懇請開缺一摺

法部尚書截鴻慈著再賞假一箇月安心調理毋

庸開缺欽此

787 交理藩部本日軍機大臣而奉

諭旨達賴喇嘛著於十二日巳初在

仁壽殿覲見欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月初五日

788 交吏部奉

旨此次驗放之送部引見已革廣東補用知府黎光

榕著開復原官原銜發回原省補用並免繳捐復

銀兩欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月初六日

789 交法部本日御火石長信奏湖南科絞犯張滿

古仔絞決改實微有未平請

飭部彙議一摺奉

旨法部覆彙具奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計黏鈔摺一件

九月初六日

790 光緒三十四年九月初七日内閣奉

上諭山西朔平府知府員缺著文麟補授欽此

791 光緒三十四年九月初八日内閣奉

上諭奉天提學使著盧靖補授傅增湘著補授直隸

提學使欽此

792 光緒三十四年九月初八日内閣奉

上諭順天府奏揆案請賞米石各摺片現在節近寒

令近畿一帶貧民生計維艱所有朝陽安定西直

等門外三處粥廠共恩賞粟米一千二百石藍靛

廠粥廠恩賞粟米三百石資善堂煥廠恩賞粟米

三百石同仁粥廠恩賞粟米三百石廣仁堂恩賞

粟米三百石敬節會善堂恩賞粟米一百五十石

均著加恩賞給由順天府具領發交各該處員紳

妥為散放以惠窮黎仍著俟各處教養局開辦後

另行變通辦理欽此

793 光緒三十四年九月初八日内閣奉

上諭那桐等查驗第二期報到薦舉各員分別加考

開單呈覽一摺所有內閣中書張國淦學習七品

小京官平遠直隸候補知縣洪壽彭湖南郵縣知

縣李見荃候選縣丞朱學程日本畢業生塞念益

著查驗大臣那桐等帶領引見大理院總檢察廳

廳丞王世琪大理院推事董康王儀通郵傳部左

丞李焜瀛陝西陝安道沈潛甘肅新疆阿克蘇道

楊增新前四川建昌道王季寅河南候補道于澹

澗韓國鈞奏留江蘇補用道汪瑞閣山西補用道

張毅安徽試用知府謝宗誠候選知府胡徽元著

自九月初十日起按照名次先後每日二員呈遞

膳牌伺候召見如是日未經召見仍於次日預備

其餘各員以次遞推欽此

794 交理藩外務部軍機大臣面奉

諭旨達賴喇嘛現在到京著派達壽張蔭棠隨時照

料欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月初八日

795 九月初八日引

見人員

查驗大臣帶領四人

796 滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京大年

四品銜在任即選知府選缺後以道員補用章京郎中成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京郎中鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎四品銜章京侍讀裕銘

五品銜額外章京候補侍讀內閣中書海桂

額外章京法部候補員外郎伊密揚阿

漢頭班

花翎領班三品章京劉毅孫

幫領班四品章京胡形恩

章京員外郎劉慶薦

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京五品銜內閣中書蕭端潔

額外章京三品銜 記名繁缺知府陸軍部候補郎中楊希

滿二班

花翎領班三品章京文徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎選用知府章京郎中桂蔭

花翎四品銜章京郎中榮全

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

章京員外郎星路

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京易貞

幫領班四品章京趙廷珍

章京 記名繁缺知府郎中孫奇經

三品頂戴章京員外郎陳鴻真

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部主事雷延壽

額外章京 記名遺缺題奏翰林院編修楊渭

797 光緒三十四年九月初九日內閣奉

上諭楊士驥奏永定河伏秋大汛搶護平穩獲慶安瀾請將出力之員獎敘一摺直隸永定河本年伏秋汛內山水暴發險工疊出經該河道呂佩芬等督率在工各員極力修防卒能化險為夷現在節逾

秋分獲慶安瀾出力各員自應量予獎敘永定河道呂佩芬著交部從優議敘存記道張愷來著仍交軍機處存記分省補用直隸州知州汪廷庚著俟補缺後以知府用南岸同知沈葆恆著俟補知府後在任以道員用山東候補知縣黃亮臣著俟補直隸州後以知府仍留原省補用餘著照所議辦理該部知道欽此

798 光緒三十四年九月初九日內閣奉

上諭前因需才孔亟諭令內外臣工切實保薦經奉那桐等將第一期報到人員查驗詢問出具考語茲已一律召見引見完竣所有單開之分發內閣中書周嵩堯著以內閣侍讀候補翰林院編修記名學部參議袁嘉穀著以學部丞參候補翰林院編修郭則澐著以道員記名簡放翰林院編修林炳章著以四品京堂候補外務部員外郎曹汝霖著以本部參議候補民政部左參議延鴻著以三品京堂候補民政部參事記名參議章宗祥著以本部參議候補民政部郎中記名參議陸宗輿著

以四品京堂候補銀行正監督張允言著以應升之缺交軍機處存記度支部右丞傅蘭泰著以應升之缺交軍機處存記度支部左參議曾習經著以三品京堂候補著度支部右參議程利川著以本部參議候補度支部郎中晏安瀾著以道員記名簡放度支部郎中管象頤著以本部參議候補祿米倉監督陸軍部主事惠崇著以本部員外郎即補在任候選道學部參事官江瀚著以道員交軍機處存記陸軍部軍實司科長同協參領陳祝著以同正參領用截取知府農工商部郎中胡祥傑著以本部參議候補都察院給事中朱顯廷著以道員記名簡放掌京畿道御史補授四川成都府遺缺知府成昌著以道員交軍機處存記候補三院卿內務府郎中農工商部參議上行走譚璋著以三四品京堂候補著理直隸清河道熙臣著以道員記名簡放候選道李熙著以學部參議候補左任候選道山西汾州府知府紹彝著以參議候補河南保送知府胡鼎彝著以道員補用湖南即用知縣熊范興著以直隸州知州發往直隸補用欽此

京外各衙門保薦人才員名單

分發內閣中書周嵩堯

擬請以內閣侍讀候補

翰林院編修 記名學部參議袁嘉穀

擬請以學部丞參候補

翰林院編修郭則澐

擬請以道員 記名簡放

翰林院編修林炳章

擬請以四品京堂候補

外務部員外郎曹汝霖

擬請以本部參議候補

民政部左參議廷鴻

擬請以三品京堂候補

民政部參事 記名參議章宗祥

擬請以本部參議候補

民政部郎中 記名參議陸宗輿

擬請以四品京堂候補

銀行正監督張允言

擬請以應升之缺交軍機處存記

度支部右丞傅蘭泰

擬請以應升之缺交軍機處存記

度支部左參議曾習經

擬請以三品京堂候補

署度支部右參議程利川

擬請以本部參議候補

度支部郎中晏安瀾

擬請以道員 記名簡放

度支部郎中管象頤

擬請以本部參議候補

祿米倉監督陸軍部主事惠崇

擬請以本部員外郎即補

在任候選道學部參事官江瀚

擬請以道員交軍機處存記

陸軍部軍實司科長同協參領陳祝

擬請以同正參領用

薇取知府農工商部郎中胡祥鏞

擬請以本部參議候補

都察院給事中朱顯廷

擬請以道員 記名簡放

掌京畿道御史補授四川成都府遺缺知府成昌

擬請以道員交軍機處存記

候補三院卿內務府郎中農工商部參議上行走誠璋

擬請以三四品京堂候補

署理直隸清河道熙臣

擬請以道員 記名簡放

候選道李熙

擬請以學部參議候補

在任候選道山西汾州府知府紹芬

擬請以參議候補

河南保送知府胡鼎彝

擬請以道員補用

湖南即用知縣熊范興

擬請以直隸州知州發往直隸補用

800

交南書房本日翰林院編修長勵平呈進故員
交四史館本日翰林院編修長勵平呈進故員
魏源重修元史奉

旨著南書房會同國史館詳閱具奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月初九日

801 交理藩部軍機大臣面奉

諭旨九月十二日達賴喇嘛陛見著聽候另行改期

再為傳知欽此相應傳知

貴部欽遵轉傳可也此交

九月初九日

802 交憲政編查館本日都察院代遞中書全案謹

擬八旗生計切實辦法呈一件奉

旨憲政編查館知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交

九月初九日

803 交郵傳部本日

貴部奏壽贖京漢鐵路情形一摺入奏擬借贖

充交通要政用款片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月初十日

804 光緒三十四年九月十一日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

禮部奏萬壽聖節禮儀一摺十月初十日萬壽在

儀鸞殿受賀停止筵宴其在外之公主福晉命婦

著照例行禮餘依議欽此

黃面紅裏

805 光緒三十四年九月十一日內閣奉

上諭會議政務處王大臣奕劻等會同資政院總裁

溥倫等遵議畫一幣制一摺幣制為財政大綱各

國以金幣為主以銀銅各元為輔規制精密流通

便利但須累年經營始克完備皆非一蹴所能幾

及中國財政紊淆幣制亟宜釐定欲以實金為本

位則鉅本難籌若定虛金為本位則危險可慮自

應先將銀幣整齊畫一然後穩慎籌措徐圖進步

將來行用金幣可望妥實無弊茲據該王大臣奏稱中國兩錢分釐習用已久實難廢改從前財政處奏定銀幣重量亦以兩計著即定為大銀幣一枚計重庫平一兩又多鑄庫平五錢重之銀幣以便行用並附鑄減成之庫平一錢暨五分小銀元以資補助其兩種銀幣按九成八足銀鑄造兩種小銀元按八成八足銀鑄造此項銀幣除與外國訂有約文照舊核算外京外大小各衙門庫款收發悉歸一律永不再准有補平補色傾鎔火耗平餘各名目所有地方官及經收官吏辦公經費飯銀並管解川資著各省督撫體察該省情形詳擬辦法咨明度支部彙核釐定應增應減均須明白宣示永絕胥吏隱射侵漁之積弊至各省市面銀錢紛歧成色糅雜奸商市儈藉以折扣盤剝久為商民行旅之害並著度支部詳定章程嚴申禁令計開分年務將通國銀幣統歸畫一不得稍有參差銀幣尚未鑄造充足以前各省舊有大小銀元准其與各種生銀暫時照舊在市面行用至舊日上庫寶銀亦暫准照舊兌交按年搭解銀幣即將寶銀

按年遞減統由度支部隨時酌量情形妥擬辦理將此通諭知之欽此

806 軍機大臣 字寄

兼管順天府府尹陸 府尹凌 光緒三十四年九月十一日奉

上諭有人奏順天武清縣人度支部候補主事曹佑曾濫混捐官改易履歷并被控有案等語著陸潤庠凌福彭按照所奏各節查明具奏原片著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

807 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 光緒三十四年九月十一日奉
上諭有人奏東省練兵宜審度地方一摺著徐世昌按照所陳各節體察情形妥籌具奏原摺著抄給閱看欽此遵
旨寄信前來

808 軍機大臣 字寄

浙江巡撫增 光緒三十四年九月十一日奉

上諭有人奏浙省匪黨藐法妄為等語著增韞按照所指各節嚴行查禁毋任匪徒煽惑滋事原片著

鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

809 軍機大臣 字寄

護理安徽巡撫沈 光緒三十四年九月十一日奉

上諭有人奏安徽潁州府知府聯福包庇劣紳貪婪無厭一摺著沈曾植按照所參各節秉公確查據實具奏毋稍徇隱原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

810 交外務部本日會議政務處會奏請飭專使調

查財政時提議幣制訂入商約片奉

旨外務部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

計粘鈔附行

九月十一日

811 交農工商部本日御史常徽奏宜提倡生計

俾敦禮義而進富強摺奉

旨農工商部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

計粘鈔附行

九月十一日

812 交會議政務處本日

貴處奏會議東三省總督徐世昌奏本省東北

邊境遼闊請添設府治一摺又奏會議御史張

世培奏都察院官制闕略請詳議增訂一出均奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

九月十一日

813 交會議政務處本日

貴處奏議覆御史俾壽奏請重

詔令以肅紀綱摺又奏議覆請特開

制科片又奏議覆請派王公官員出洋遊歷片又奏

議覆請開儲材館廣選材能片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

九月十一日

814

交外務部本日會議政務處會奏議復唐紹儀

奏請實行商約內開六事一片奉

旨該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計結鈔片二件

九月十一日

815 光緒三十四年九月十二日內閣奉

上諭山西汾州府知府員缺著戈炳琦補授欽此

816 山西汾州府知府員缺請

旨簡放

817

交郵傳部本日

貴部奏籌借官款收贖京漢鐵路摺又奏議覆

張鳴岐奏蘆漢幹路試辦公債收回自辦片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月十二日

818 交陸軍部本日軍機大臣而奉

諭旨陸軍部奏已故總兵黃萬鵬卹典聲明請旨一

摺著仍照兵部前奏辦理欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月十二日

819

交度支部本日署江北提督王士珍奏請籌

撥江北陸軍的款一摺奉

旨著度支部酌量籌撥欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月十三日

820

交陸軍部本日署江北提督王士珍奏籌撥

購置軍械經費一片奉

旨著該部酌量撥給欽此相應傳知

貴部督欽遵可也此交

九月十三日

821 交學部本日

貴部奏會考進士館畢業學員事竣摺單一件
又奏學員樓恩誥等就原官酌給升階片人奏
會考游學畢業生事竣摺單一件均奉
旨依議欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交

九月十三日

822 光緒三十四年九月十四日內閣奉

上諭成都將軍綽哈佈由廢生襲職於光緒初年隨
前大學士左宗棠轉戰新疆和闐等處旋從黑龍
江將軍依克唐阿宣力東省出入戎行不避艱險
歷著戰功洊擢令職到任後於所應辦之事皆能
竭力盡心無負委任茲聞溘逝軫惜殊深加恩著
追贈太子少保銜加恩予謚照將軍例賜卹生平
戰功事蹟宣付國史館立傳任內一切處分悉予

開復應得卹典該衙門查例具奏靈柩回旗時沿
途地方官妥為照料賞銀一千兩治喪伊子藍翎
同知銜桂麟著以知府用伊孫藍翎一品廕生崇
祥著以郎中用以示篤念蓋臣之至意欽此

823 光緒三十年正月十四日內閣奉

上諭吉林將軍長順忠勇樸誠勤勞懋著由侍衛隨
同都興阿穆圖善轉戰陝西甘肅克復金積堡等
處疊著戰功歷授烏里雅蘇臺參贊大臣哈密辦
事大臣烏里雅蘇臺將軍在乾清門行走並管理
神機營事務兩任吉林將軍治軍撫民辦理交涉
諸臻妥協前因患病賞假調理旋以時事艱難力
疾銷假方冀醫治就痊長資倚畀遽聞溘逝軫惜
殊深長順著追贈太子少保銜賞給一等輕車都
尉世職加恩予謚入祀京師賢良祠照將軍例賜
卹生平戰功政績宣付國史館立傳任內一切處
分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏靈柩回
旗時沿途地方官妥為照料賞銀一千兩准其入
城治喪伊孫一品廕生崇源著以郎中用用示篤
念蓋臣至意欽此

824 交外務部本日本日

貴部會奏義國農業公院特開大會請派員蒞視摺奉

旨著派出使大臣錢恂在時蒞會欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交

九月十四日

825 交郵傳部本日

旨著郵傳部擬訂匯豐匯理兩銀行借款合同摺奉
貴部欽遵可也此交

九月十四日

826 交郵傳部本日

旨依議欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交

九月十四日

827 交理藩部本日軍機大臣面奉

諭旨達賴喇嘛著於九月二十日已刻在
仁壽殿陸見欽此相應傳知

貴部欽遵辦理可也此交

九月十四日

828 交度支部本日本日都統張德彝奏敬陳管見一摺奉

旨該部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交計粘鈔摺件

九月十五日

829 光緒三十四年九月十六日內閣奉

上諭此次驗看進士館畢業考列最優等之翰林院
庶吉士陳雲詰著授職編修並記名遇缺題奏辦
學期滿翰林院庶吉士譚延闓著授職編修游學
美國大學工程專科畢業胡林朝著給予工科進
士出身欽此

830

交翰林院火部本日翰林院奉旨階升轉宜定限制一

摺奉

旨著照所請該衙門知道欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交計科參照二件

九月十七日

831 奉

旨徐有朋火器殺人例實惟疑賊確屬有因鄧老勾
五即鄧潮逝故殺例實惟死者岡爾伊地串人橫
爭實屬跡近罪人吳仔汝故殺例實惟死者杠幫
竊賊復將伊按毆多傷實屬跡近棍徒楊逢椿竊
賊放火比照圖財放火改實惟究因情急圖脫與
真正圖財放火有間陳險得語言調戲致本婦羞
忿自盡例實惟尚無手足勾引情事楊昏亡即楊
汰馬刀火器殺人例實惟死在正限之外梁潔生
語言調戲致室女羞忿自盡例實惟尚無手足勾
引情事汪占禾語言調戲致本婦羞忿自盡例實
惟尚無手足勾引情事均不無可原俱著免勾餘

均照所擬欽此

九月初三日同朝莊等名黃冊
見面帶上九月十七日
發下由堂交內閣

832 奉

旨徐有朋火器殺人鄧老勾五即鄧潮逝故殺吳仔
汝故殺楊逢椿竊賊放火比照圖財放火陳險得
語言調戲致本婦羞忿自盡楊昏亡即楊汰馬刀
火器殺人梁潔生語言調戲致室女羞忿自盡汪
占禾語言調戲致本婦羞忿自盡均例實俱著予
勾餘均照所擬欽此

九月初三日同朝莊等名黃冊
見面帶上九月十七日
斬破
發下編茲

833

光緒三十四年新擬省秋審常犯情實疏本冊
等二起人犯二名內除舊事常犯情實賈汶詳
一起人犯一名業於上年
免勾時間列榜示外謹將新事常犯情實疏本冊一
起人犯一名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯蒙古蓋木丹

火器殺人法無可寬是以勾決

光緒三十四年雲南省秋審新事服制情實歎

盜才一起人犯一名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯歐盡才

與胞兄歐有沅素睦該犯佃種王金才地畝欠租

未償王金才我向索欠該犯央緩王金才斥騙彼

此爭鬧該犯挈柴斧撲砍王金才閃避不期歐有

沅趕攔攔阻該犯收手不及致誤砍傷歐有沅項

頸倒地當即殞命傷由誤中死出不虞高非有心

干犯情稍可原是以未勾

光緒三十四年雲南省秋審常犯情實張椿潔

等十四起人犯十五名內除舊事常犯情實李

二一起一名業於上年

免勾時間列榜示外謹將新事常犯情實張椿潔等

十三起人犯十四名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯張椿潔

火器殺人法無可寬是以勾決

一起絞犯王甫停

竊匪拔仇放火雖未傷人業已燒房法難寬宥是

以勾決

一起絞犯湯受法

扶恨謀命湯受法造意湯慈高下手加功均法無

可寬是以俱勾決

一起絞犯竇奎燕

糾毆致斃兄弟一家二命業由立法改為監候法

難再寬是以勾決

一起絞犯楊瀆發

挾嫌誣竊糾毆致斃無辜情殊險惡法無可寬是

以勾決

一起絞犯胡沃周

竊盜拒捕致斃事主復另傷二人法無可寬是以

勾決

一起絞犯陳二

挾恨謀命法無可寬是以勾決

一起絞犯李滌滔

致斃兄弟一家二命業由立決改為監候法難再寬是以勾決

一起絞犯羅恆才

挾恨謀命法無可寬是以勾決

一起絞犯徐有朋

火器殺人惟疑賊確屬有因情稍可原是以未勾

一起絞犯李文洸

致斃逾七老人金刃傷多且重法無可寬是以勾決

一起絞犯沈小羅

刃傷要害奇重情兇近故法無可寬是以勾決

一起絞犯馬鈺淋

共毆斃命金刃傷多且重法無可寬是以勾決

光緒三十四年貴州省秋審常犯情實莫仔青

等七起人犯七名內除舊事常犯情實由應發

陳了頭等二起二名業於三十二年三十三年

免勾時間列榜示外謹將新事常犯情實莫仔青等

五起人犯五名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯莫仔青

刁徒平空詭詐致被詐之夫婦同時自盡情殊狡

惡是以勾決

一起絞犯曾瞎仔即曾懶得

致斃父子一家二命業由立決改為監候法難再

寬是以勾決

一起絞犯鄧老勺五即鄧潮逝

故殺例實惟死者鬪霸伊地中人橫爭實屬情近

罪人該犯將其致斃衡情不無可原是以未勾

一起絞犯英仔汝

故殺例實惟死者扛幫竊賊復將該犯按毆多傷

實屬迹近棍徒該犯情急將其戳斃衡情不無

可原是以未勾

一起絞犯楊逢椿

竊盜圖脫放火燒燬事主房屋比照圖財放火問擬

惟究與真正圖財放火有間不無可原是以未勾

光緒三十四年廣東省秋審常犯情實陳樺符等

一起八犯二名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯陳樺符
黃利水

聽從謀殺兄弟一家二命該犯等均下手加功法

無可寬是以俱勾法

光緒三十四年四川省秋審服制情實周信鞍即王

信鞍等七起人犯七名口內除舊事服制情實

張氏等四起人犯四名口業於上年

免勾時間列榜示外謹將新事服制情實周信鞍即王信

鞍等三起人犯三名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯周信鞍即王信鞍

與胞兄周長發素睦該犯自幼出繼王姓為子用

銀佃種周長發熟地嗣周長發欲贖佃自種令該犯

另佃該犯因乏押銀尚未搬遷後該犯在坡執刀收割高

梁周長發踵至催逼交業該犯分辯並索押銀周長發不依

嫂罵該犯聲稱恃長欺凌周長發氣忿一手抓住該犯

衣衿一手用掌向毆該犯站立不穩失足跌地周長

發緊抓胸衿不釋一並帶跌撲墜身上不期該犯

手內刀尖向上誤戳傷周長發肚腹越三日殞命

傷由帶跌誤戳尚非有心干犯情稍可原是以未勾

一起絞犯趙泳棟

與胞兄趙泳幅素睦該犯隨母嚴氏過度趙泳幅曾與嚴氏

擔借錢文無償嗣嚴氏向趙泳幅催還前欠趙泳幅推諉

嚴氏斥說騙賴趙泳幅不服頂撞嚴氏用木棒毆傷其

腦後趙泳幅將嚴氏推跌在地舉拳撲毆該犯拋前攔

住將嚴氏扶起嚴氏欲拉趙泳幅投鄰送究趙泳幅不依嫂

罵嚴氏遞給該犯木棒逼令代毆該犯跪地求饒嚴氏不

依該犯按棒毆傷其左肘趙泳幅罵稱欲將嚴氏騰業

當責嚴氏氣忿逼令復毆該犯入代求饒嚴氏聲稱如不

動手定行碰死該犯無奈用棒向毆適傷其偏右

倒地移時殞命死者罪犯應死毆由迫於母命尚

非無故逞兇干犯情稍可原是以未勾

一起絞犯劉尚直

與胞叔劉澤城素睦劉澤城因過端節邀同該犯飲酒彼此飲醉劉澤城逼令再飲該犯不允劉澤城斥罵狡賴該犯分辯劉澤城不依抓住該犯髮辮搗刀向戳該犯慮被戳傷用手將劉澤城手腕扭轉掙扎欲走因酒醉脚輾失跌倒地劉澤城緊抓該犯髮辮不致被帶跌撲墜身上該犯鬆手不期劉澤城手執刀共向內致自將臍肚戳傷移時殞命傷由帶跌自戳尚非有心干犯情稍可原是以未勾

光緒三十四年四川省秋審常犯情實陳儉得等二十三起人犯二十四名口內除舊事常犯情實張彩亭等二起人犯二名業於免勾時間列榜示外謹將新事常犯情實陳儉得等

二十一起人犯二十二名口

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯陳儉得

語言調戲致本婦羞忿自盡惟尚無手足勾引重

情不無可原是以未勾

一起絞犯陳法帶

假差嚇詐致斃無辜室女法無可寬是以勾法

一起絞犯楊昏亡即楊法馬刀

火器殺人惟死在湯火傷正限以外不無可原是

以未勾

一起絞犯周雙娃

逞忿故殺幼孩法無可寬是以勾法

一起絞犯魏狂性

逞忿故殺法無可寬是以勾法

一起絞犯吳氏

逞忿故殺年甫八齡夫弟法無可寬是以勾法

一起絞犯宋翻法

致斃婦女刀傷要害奇重復另傷其女法無可寬

是以勾法

一起絞犯刁淋泉

致斃幼孩刀傷要害奇重情兇近故法無可寬是

以勾法

一起絞犯郁鉅槐

挾恨謀命法無可寬是以勾法

一起絞犯羅許友

刃傷要害奇重情允近故法無可寬是以勾決

一起絞犯梁濬生

調姦總麻表妹未成致令羞忿自盡惟尚無手足

勾引重情不無可原是以未勾

一起絞犯汪占禾

語言調戲致本婦羞忿自盡惟尚無手足勾引重

情不無可原是以未勾

一起絞犯黃連情

竊匪挾恨謀命法無可寬是以勾決

一起絞犯黎侶惡

連斃應抵二命法無可寬是以勾決

一起絞犯唐英傑

姦匪姦姦連斃應抵二命淫兇難寬是以勾決

一起絞犯楊三耗仔

竊匪拒捕刃斃市主法無可寬是以勾決

一起絞犯強銃潤周披毛

強銃潤刃斃婦女妾奇重周披毛致斃幼孩金

刃傷重均法無可寬是以俱勾決

一起絞犯李雲邨

姦匪拒捕刃斃本夫法無可寬是以勾決

一起絞犯周丙峯

刃傷要害奇重情允近故法無可寬是以勾決

一起絞犯張老九即張從協

姦匪姦姦斃命金刃致命穿透傷重淫兇難寬是

以勾決

一起絞犯王恆滌

父子致斃彼造母子一家二命係各斃各命該犯

致斃婦女他物傷重法無可寬是以勾決

834 軍機大臣面奉

諭旨此次保薦人才所有在京各衙門人員奉旨以

丞參參議三四品京堂候補者均著在任候補欽此

九月十八日

835 皇太后溫諭

問達賴喇嘛由五台山至京一路均好

現時天氣漸涼藏中氣候亦如京中否

京中各廟宇曾否前往瞻仰

皇上溫諭

聞達賴喇嘛由山西來京沿途均好
在五台住錫地方水土可均相宜
到京數日此處天時冷暖相宜否

837 光緒三十四年九月二十日內閣奉

上諭開缺吏部右侍郎張仁黼由翰林入直上書房
游升卿武學問優裕臺掌文衡克勤厥職旋在吏
部右侍郎任內請假回籍省親因病准予開缺茲
聞該逝軫惜殊深加恩著照侍郎例賜卹任內一
切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏欽此

838 光緒二十二年五月二十七日內閣奉

上諭吏部右侍郎王文錦由翰林入直上書房游升
卿武克勤厥職前因患病賞假調理茲聞該逝軫
惜殊深加恩著照侍郎例賜卹任內一切處分悉
予開復應得卹典該衙門查例具奏欽此

839 光緒二十一年十月二十二日內閣奉

上諭禮部右侍郎李文田由翰林入直南書房游升
卿武迭掌文衡學問淵通克勤厥職茲聞該逝軫
惜殊深加恩著照侍郎例賜卹任內一切處分悉
予開復應得卹典該衙門查例具奏伊子李淵碩
著俟服闋後以員外部分部學習行走欽此

840 光緒三十四年九月二十一日奉

旨此次驗看之學部考驗游學畢業生陳振先著
賞給農科進士陳彝著賞給法政科進士王孝綽
著賞給工科進士廉隅著賞給法政科進士彭世
俊著賞給工科進士朱獻文著賞給法政科進士
江順德著賞給工科進士虞銘新著賞給格致科
進士黃德章著賞給法政科進士顧琅章毓蘭均
著賞給格致科進士程樹德李盛銜均著賞給法
政科進士洪鎔著賞給工科進士趙連璧著賞給
商科舉人雷休著賞給醫科舉人潘志悌著賞給
農科舉人程良楷著賞給商科舉人馬德潤著賞
給法政科舉人任允著賞給工科舉人張聯魁著

賞給農科舉人周珍著賞給法政科舉人錢家登
著賞給工科舉人吳炳樞王治輝均著賞給法政
科舉人林先民著賞給工科舉人陳海超著賞給
法政科舉人王永冕著賞給格致科舉人張春濤
著賞給法政科舉人陳同紀著賞給商科舉人黃
汝鑑江庸均著賞給法政科舉人談荔孫著賞給
商科舉人朱孔文著賞給法政科舉人齊鼎頤著
賞給農科舉人范鴻泰著賞給工科舉人劉崇祐
著賞給法政科舉人齊鼎恆著賞給商科舉人彭
敬時著賞給法政科舉人陳承修著賞給工科舉
人黃右昌著賞給法政科舉人陸家鼎著賞給農
科舉人許炳堃著賞給工科舉人汪與準著賞給
醫科舉人胡文藻楊霆垣吳家駒均著賞給法政
科舉人葉子蘭著賞給醫科舉人吳憲仁成運機
均著賞給法政科舉人程蔭南著賞給農科舉人
于錫圭著賞給工科舉人鄧鎔著賞給法政科舉
人曹文淵著賞給農科舉人陳文哲著賞給格致
科舉人李堃圻董榮光王恩博徐世勳羅兆龍均
著賞給法政科舉人于書雲著賞給工科舉人郭

祖培著賞給農科舉人易國霖薛大可王家駒金
慶章姚煥均著賞給法政科舉人李振鐸著賞給
商科舉人鄭文易陳家璿均著賞給法政科舉人
吳炳劉鄭聯鵬均著賞給商科舉人莊澤定著賞
給法政科舉人蔣以魁著賞給商科舉人盧嗣著
賞給法政科舉人陳亮熙著賞給工科舉人方時
翹段樹滋黃炳言孫雲奎王鎮南鄭浩何福麟陳
紹祖徐敬熙陳應龍司克熙趙憲曾張書昭蘇道
衡樊樹勳汪溥區樞卞頌元鄭禮鏗胡國沈朱紹
濂孫成黃成霖吳洪元陳官桃安當世徐鼎元陳
高第均著賞給法政科舉人欽此

841 光緒三十四年九月二十一日內閣奉

上諭此次驗看進士館游學畢業學員所有考列
優等之翰林院庶吉士葉先圻著授職編修並賞
加侍講銜考列中等之翰林院庶吉士吳德鎮周
杰張成棟均著授職編修考列最優等之法部主
事周之楨著以原官留部遇缺即補考列優等之
度支部主事樓思詰著以員外郎留部補用考列

中等之法部主事蕭湘著以原官留部考列中等之內閣中書曲卓新著以主事分部補用欽此

342 交吏部本處繕修清檔完竣請將承辦各員及在館供事等照例酌給獎敘摺奉

旨均著賞給議敘欽此又奏總校章京及充為出力供事懇請獎勵片又奏纂修收掌譯漢字官請獎片均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計稿鈔摺片三件

九月二十一日

343 交內務府本日軍機大臣而奉

諭旨達賴喇嘛著於十月初六日己正在紫光閣賜

宴欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

九月二十一日

844 交陸軍部軍機大臣而奉

諭旨陸軍部奏請派大員會考陸軍游學畢業學生一摺著派醇親王載灃那桐段祺瑞考試欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月二十二日

845 奉

旨徐長汶糾拾得贓逾實例實惟所拾係屬手票究與實贓不同呂向有故殺例實惟喝令跪壓欲其認錯初無致死之心馬五十八火器殺人例實惟確由見父被砍情急救護所致蕭前友謀殺例實惟死者誣竊詐錢並屢向族人訛騙實屬情近棍徒均不無可原俱著免勾餘均照所擬欽此

九月初台同奉大等首黃冊

見面帶上九月二十日

發下由堂交內閣

846 奉

旨徐長汶糾拾得贓逾實呂向有故殺馬五十八火

器殺人蕭前友謀殺均例實俱著予勾徐均照所擬欽此

九月初八日奉天等省黃冊

見面帶上九月二十日

撕破發下歸案

847 光緒三十四年奉天省秋審服制情實房泳法

一起人犯一名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯房泳法

與期親服叔房淋素睦該犯出繼胞叔房喜淋為嗣遺有地畝歸該犯耕種房漬淋私將該地售賣得錢花用該犯查知向索不給隱忍未較嗣該犯復向房漬淋索討地價房漬淋仍不允給該犯當將房漬淋驟馬拉走售賣經房漬淋投營將驟馬給領令買主自索原價後該犯因買主逼索無錢措還往找房漬淋聲稱如不交出地價仍當驟馬作抵彼此爭吵勸散房漬淋氣忿即以該犯如此利害將來必定受害不如一死干淨向其妻高氏

告訴高氏用言解勸詎房漬淋氣忿莫釋自用鎗刃戕傷臍肚倒地移時殞命因事逼迫期親尊長致令自盡情稍可原是以未勾

光緒三十四年奉天省秋審常犯情實張城花

即張小狗仔等二十二起人犯二十二名內除

舊事常犯情實孫九占等二起人犯二名業於

上年

免勾時開列榜示外謹將新事常犯情實張城花即

張小狗仔等二十起人犯二十名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯張城花即張小狗仔

會勇火器殺人法無可寬是以勾決

一起絞犯郝砥蕙即郝喜頭

賭匪逞忿故殺幼孩法無可寬是以勾決

一起絞犯田廣淋

刃傷要害奇重情兇近故法無可寬是以勾決

一起絞犯徐長汶

糾搶得贓逾貫例實惟贓係手票與實贓不同請

稍可原是以未勾

一起絞犯孫幅

賭匪謀斃二命法無可寬是以勾決

一起絞犯崔振幅

火器殺人法無可寬是以勾決

一起絞犯蔣真

逞忿故殺法無可寬是以勾決

一起絞犯劉茂荃

尋勇火器殺人法無可寬是以勾決

一起絞犯史城符

逞忿故殺法無可寬是以勾決

一起絞犯管幅滌仔

逞忿故殺幼孩法無可寬是以勾決

一起絞犯崔源起

逞忿故殺法無可寬是以勾決

一起絞犯梁四

竊盜拒捕鎗斃捕人法無可寬是以勾決

一起絞犯戴巨椿

逞忿故殺婦女法無可寬是以勾決

一起絞犯董滿蓀

逞忿故殺法無可寬是以勾決

一起絞犯李葆莒

巡勇火器殺人復另傷一人法無可寬是以勾決

一起絞犯安鈺椿

帶兵火器殺人法無可寬是以勾決

一起絞犯徐向塗

姦匪拒捕刃斃本夫淫兇難寬是以勾決

一起絞犯傅汰川

賭匪逞忿故殺法無可寬是以勾決

一起絞犯李淦滂

槍奪拒捕鎗傷捕人情殊兇暴法無可寬是以勾決

一起絞犯蔡崧山

姦匪拒捕刃斃捕人淫兇難寬是以勾決

光緒三十四年吉林省秋審服制情實尹果才

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯尹果才

與胞兄尹果并素睦尹果并遊手好閑不聽教訓

時與其父尹詳口角隣里咸知嗣該犯向尹果并借刀割草尹果并聲稱業經分析不能借用尹詳斥說太無手足情分尹果并氣忿回稱偏護尹詳訓罵尹果并不服回罵並用木棒撲毆該犯瞥見慮恐尹詳受傷情切救護用鈔刀掂格致刀桿伸過尹果并身後尹果并仍向尹詳撲毆該犯將刀帶回不期用力過猛致誤撲傷尹果并右後肋倒地當即殞命死者罪犯應死傷由救父情切尚非有心干犯情稍可原是以未勾

光緒三十四年吉林省秋審常犯情實何氏等九起人犯九名口內除舊事常犯情實韓氏等四起人犯四名口業於三十一三十三

免勾時間列榜示外謹將新事常犯情實何氏等五

起人犯五名口勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞婦何氏

因姦謀斃弟妻淫兇難寬是以勾決

一起絞犯呂向有

故殺例實惟喝令跪壓究止欲其認錯初無致死

之心且案係比例定擬衡情不無可原是以未勾

一起絞犯在冰

光緒三十四年黑龍江省秋審常犯情實張有才

才一起人犯一名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯張有才

竊匪挾恨謀命法無可寬是以勾決

光緒三十四年陝西省秋審服制情實楊建明

等四起人犯四名口內除舊事服制情實穆德廷

等二起人犯二名業於上年

免勾時間列榜示外謹將新事服制情實楊建明等

二起人犯二名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起斬犯楊建明

與胞兄楊建教素睦該犯之女楊枝女走入廟在

楊建教瞥見趨進廟門將枝女揪按楊枝女

撐住哭喊楊建教掩住口鼻強行姦污逃逸楊枝

女之母方氏聞聲往看問明情由將楊枝女扶回哭睡牀上該犯回歸查問方氏告知前情該犯忿極以楊建教行同禽獸起意將其致死嗣該犯雇隣婦陳氏在地工作瞥見楊建教從遠處走來央允陳氏幫助該犯藏匿路旁楊建教踵至該犯趕出將其推跌倒地騎坐背上壓在兩手楊建教掙扎該犯令陳氏將繩解下挽成活套遞給伊手自將繩套入楊建教項頸兩手分執繩頭用力拉勒登時氣閉殞命死者淫惡蔑倫殺由激於義忿尚非無故逞兇干犯情稍可原是以未勾

一起絞犯高博娃

與胞叔高澹畛素睦高澹畛平素游蕩不務正業該犯祖母吳氏及父高元珍屢誡不悛嗣高澹畛同高元珍將地畝均分提出吳氏養老地畝交給高元珍耕種高澹畛將分地賣完欲種吳氏膳地吳氏撥給田畝令其按年交租高澹畛兩年未交仍要強種嗣高元珍赴地工作吳氏囑令阻擋高澹畛犁地並令管教高元珍走至地邊見高澹畛正在犁地當向攔阻高澹畛不服斥罵多管高元

珍稱係母命高澹畛生氣拾木概墮撲毆高元珍用鋤將墮格落連砍傷其額門高澹畛拾墮向毆高元珍用鋤背連毆傷其左胳膊高澹畛脚踢高元珍用鋤扎傷其右臙肋高澹畛揪住高元珍髮辮撕扭該犯瞥見哀求釋放高澹畛不聽高元珍喝令毆打該犯未敢動手高元珍被揪情急逼稱如不下手性命難保該犯無奈勉從用刀背毆傷其左臂膊鬆手並勸令高元珍走回高澹畛追趕叫罵高元珍忿極轉身用鋤冒砍致傷其左額角倒地旋即殞命死者理曲犯尊毆由迫於父命尚非無故逞兇干犯情稍可原是以未勾

光緒三十四年陝西省秋審常犯情實吳恆潰等四起人犯四名謹將勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯吳恆潰聽從子謀殺父助逆加功照章由立決改為監候法難再寬是以勾決一起絞犯馮丙丙

語言調戲致本婦羞忿自盡淫兇難寬是以勾決

一起絞犯楊老四即楊祥銀

賭匪聽從謀命下手加功法無可寬是以勾決

一起絞犯晏李塗

刃斃六旬老婦情傷均重法無可寬是以勾決

光緒三十四年甘肅省秋審常犯情實張恆悖

仔等四起人犯四名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯張恆悖仔

竊匪拒捕刃斃捕人法無可寬是以勾決

一起絞犯于蒲沙菴

姦匪因姦聽從謀殺本夫淫兇難寬是以勾決

一起絞犯回民馬五十八

火器殺人例實確由見父被砍情急救護所致

情稍可原是以未勾

一起絞犯柴伏兒

姦匪續姦不遂刃斃悔過拒絕之姦婦法無可寬

是以勾決

光緒三十四年湖北省秋審服制情實游家幗

一起人犯一名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起斬犯游家幗

與胞兄游家長素睦賀氏係該犯之妻該犯時常

在外傭工游家長乘間與賀氏通姦該犯並父游

開全均先不知情旋經游開全查知將游家長訓

責禁止因係醜事隱忍嗣夜該犯回家見賀氏房

門虛掩尚未熄燈聞有男子聲音一時氣忿拔刀

推門進屋見游家長與賀氏同床睡宿上前捉拏

游家長起身欲逃該犯用刀戳傷其心坎右脇倒

地游家長喊救該犯氣忿莫遏起意致死攜斧砍

落其頭顱當即身死賀氏披衣下牀該犯又將賀

氏推倒砍落頭顱亦即殞命死者淫惡蔑倫殺由

激於義忿並非無故逞兇干犯情稍可原是以未勾

光緒三十四年湖北省秋審常犯情實孫傳折

等二起人犯二名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯孫傳折

姦匪因姦聽從姦婦謀殺本夫淫兇難寬是以勾決

一起絞犯胡潤階

假充巡勇嚇詐致被詐之人自盡法無可寬是以勾決

光緒三十四年湖南省秋審常犯情實曹憬旺

等九起人犯九名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯曹憬旺

圖財謀殺年幼族弟業已伊父代首免其立法

難再寬是以勾決

一起絞犯胡椿樞

逞忿故殺法無可寬是以勾決

一起絞犯孔叫化仔即孔庭佳

先犯絞罪援免後復致斃人命實屬怙惡不悛法

無可寬是以勾決

一起絞犯張歲蟻

挾恨謀命法無可寬是以勾決

一起絞犯唐長發

姦匪拒捕刃斃本夫淫兇難寬是以勾決

一起絞犯蕭前友

謀殺例實惟死者誣竊詐錢並屢向族人訛騙實

屬情近棍徒該犯忿激將其致斃衡情不無可原

是以未勾

一起絞犯張滿古仔即張組連

致斃彼造叔姪一家二命係各斃各命該犯金刃

傷多且重法無可寬是以勾決

一起絞犯胡能遠

行竊盜所拒斃捕人復另傷一人法無可寬是以

勾決

一起絞犯陳苟四

共毆斃命金刃穿透傷重情兇近故法無可寬是

以勾決

848 交內閣轉傳值年旗各部院衙門本日軍機大

臣面奉

諭旨本月二十六日選官是日奏事當差執事之王

公文武大小官員均著穿蟒袍補袪欵此相應傳知

貴衙門欵遵轉傳可也此交

九月二十三日

849 九月二十四日引

見人員

查驗大臣帶領六人

850 奉

旨嚴幅催工刃傷家長例實朱二聽從行劫由立法改為監候自應入實李復懼即李鈺謹聽從行劫由立法改為監候自應入實李起明販私拒斃巡勇例實均著予勾餘照所擬欵此

九月十二日同浙江等省黃冊
見西帶上九月二十日
浙破
發下歸撫

851 奉

旨嚴幅催工刃傷家長例實惟該犯服役僅止三月該家長於斥逐後復懸賞購掣亦屬太過朱二聽

從行劫由立法改為監候自應入實惟係始終彼曾並非甘心為盜李復懼即李鈺謹聽從行劫由立法改為監候自應入實惟係始終彼曾並非甘心為盜李起明販私拒斃巡勇例實惟僅止三十餘斤且因情急圖脫所致均不無可原俱著免勾餘照所擬欵此

九月十二日同浙江等省黃冊
見西帶上九月二十日
發下由堂交內閣

852

光緒三十四年浙江省秋審常犯情實李汶則等七起人犯七名內除舊事常犯情實竺保連一起人犯一名業於上年免勾時開列榜示外謹將新事常犯情實李汶則

等六起人犯六名
勾到時所奉
諭旨恭錄於後

一起絞犯李汶則
竊盜拒捕刃斃事主法無可寬是以勾法
一起絞犯張三任
火器殺人法無可寬是以勾法

一起絞犯顧炳滌

逞忿故殺法無可寬是以勾決

一起絞犯葉滌才

聽從謀命下手加功法無可寬是以勾決

一起絞犯徐奎濟

火器殺人法無可寬是以勾決

一起絞犯羅錫奎

勇丁斃命刃傷要害奇重情兇近故法無可寬是

以勾決

光緒三十四年江西省秋審常犯情實王炳幅

等六起人犯十二名謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯王炳幅

逞忿故殺法無可寬是以勾決

一起絞犯劉五淋

劉明應

劉萃發

劉雨買

劉雨賢

劉振士

劉思來

互毆致斃彼造七命該犯等各下手致斃一命情

同械鬪均法無可寬是以俱勾決

一起絞犯劉江蕙

竊盜拒捕刃斃事主復另刃傷其妻法無可寬是

以勾決

一起絞犯蕭糊仔

竊盜護夥拒捕刃斃事主法無可寬是以勾決

一起絞犯黎立荃

姦匪逞忿故殺復致斃姦婦一命淫兇難寬是以勾決

一起絞犯王香彥

逞忿故殺法無可寬是以勾決

光緒三十四年安徽省秋審常犯情實楊琢等

四起人犯五名口謹將

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯楊琢

調姦未成致本夫本婦均羞忿自盡法無可寬是以勾決

一起絞婦葛金氏

貪賄聽從謀命下手加功法無可寬是以勾決

一起絞犯儲汰老

儲小老

圖財害命雖未得財業已殺人儲汰老為首儲小老為從均法無可寬是以俱勾決

一起絞犯王蓋斗

金刃穿透致命傷重情尤近故法無可寬是以勾決

光緒三十四年江蘇省秋審服制情實沈氏等

四起人犯四名口內除舊事服制情實孫守才

賈運修劉導迎等三起業於上年

免勾時開列榜示外謹將新事服制情實沈氏一起

犯婦一口

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞婦沈氏

與胞兄沈二宏素睦該氏因出嫁降服大功沈

二宏性情強橫不務正業時至該氏家借錢該氏並夫蔣二九隨時應酬有時湊手不及沈二宏即向少鬧該氏夫婦未與深較沈二宏胞叔沈喬壽亦屢向戒勸嗣沈二宏稱欲外出覓工復向該氏家借錢蔣二九回覆沈二宏少罵經沈喬壽聞知將耳環付給當錢花用詎沈二宏並未外出又往該氏家借錢未給將伊揪毆該氏情急用拳毆傷其右額角帶傷咽喉沈二宏肆罵蔣二九無法往邀沈喬壽趕至禁阻沈二宏不服將沈喬壽扭毆沈喬壽生氣喝令該氏等捆縛蔣二九將其抱往該氏取麻繩同沈喬壽捆住其兩手沈二宏卧地罵稱將來一併殺害沈喬壽氣忿喝令勒死該氏央情沈喬壽嚇稱如不將其致死將來必被殺害該氏無奈勉從取繩遞給沈喬壽打成活套套入沈二宏項頸沈喬壽逼令該氏分執繩頭一同拉勒沈二宏登時氣閉殞命死者送兇犯尊勒由尊長嚇逼並非無故送兇干犯情稍可原是以未勾

光緒三十四年江蘇省秋審常犯情實嚴幅等

二十二起人犯二十四名口內除舊事常犯情實

魯氏王二朱新有賀錫泉黃錫源張柏年周氏
等七起業於二十八三十三等年

免勾時開列榜示外謹將新事常犯情實嚴幅等十

五起人犯十七名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯嚴幅

雇工刃傷家長例實惟該犯服役僅止三月該家

長於斥逐後復懸賞購拏亦屬太過是以未勾

一起絞犯倪四根即倪荏誌

姦匪逞忿故殺法無可寬是以勾法

一起絞犯朱二

聽從行劫由立法改為監候自應入實惟係始終

被脅並非甘心為盜是以未勾

一起絞犯顧禾尚

妬姦謀殺總麻表弟淫兇難寬是以勾法

一起斬犯李復懋即李鈺堂

聽從行劫業因被逼勉從由立法改為監候自應

入實惟係始終被逼並非甘心為盜是以未勾

一起絞犯倪俊仔
王二

均聽從謀命下手加功法無可寬是以俱勾法

一起絞犯徐葵仔即徐徐

緩決絞犯越獄脫逃被獲法難寬是以勾法

一起絞犯秦阿毛

發塚鑿棺抽竊為首業由立法改為監候法難再

寬是以勾法

一起絞犯陳淋淋
蔣琴泉

聽從夥搶婦女已成均入室幫同架拉法無可寬

是以俱勾法

一起絞犯婁釜寶

姦匪逞忿故殺姦婦淫兇難寬是以勾法

一起絞犯杜育海

因姦聽從姦婦謀殺本夫淫兇難寬是以勾法

一起絞犯呂阿寶即刀疤阿寶

竊匪挾嫌聽從謀命下手加功法無可寬是以勾法

一起絞犯趙蘭波即趙嵐坡

逞忿故殺婦女法無可寬是以勾法

一起絞犯杜昆

火器殺人法無可寬是以勾決

一起絞犯孫渭餘

竊盜護夥拒捕刃傷事主情殊兇暴是以勾決

光緒三十四年河南省秋審服制情實魏花骸

等二起人犯二名內除舊事服制情實杜舍一

起人犯一名業於上年

免勾時開列榜示外謹將新事服制情實魏花骸一

起人犯一名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯魏花骸

與胞兄魏紹筦素睦魏紹筦係該犯前母所生經

繼母王氏撫養愛如己出該犯係王氏所生魏紹

筦平素游蕩不務正業王氏屢誡不悛魏紹筦外

出數月未回嗣該犯赴場打麥王氏在家看門魏

紹筦回歸王氏訓斥魏紹筦不服頂撞王氏用木

棍毆傷其額門倒地魏紹筦滾罵該犯回家問知

情由用言勸解王氏氣忿將棍擲給該犯喝令幫

毆該犯代為求饒王氏聲稱如不代毆即行碰死

該犯被逼無奈拾棍毆傷其右腳腕魏紹筦益肆

辱罵王氏忿極奪棍毆傷其左額角右太陽移時

殞命死者辱罵犯尊毆由迫於母命尚非無故逞

兇干犯情稍可原是以未勾

光緒三十四年河南省秋審常犯情實葉揆等

十二起人犯十三名口內除舊事常犯情實小

石氏等二起人犯二名口業於二十五三十二

等年

免勾時開列榜示外謹將新事常犯情實葉揆等

十起人犯十一名

勾到時所奉

諭旨恭錄於後

一起絞犯葉揆

逞忿故殺幼孩法無可寬是以勾決

一起絞犯薛標即薛錦銘

調姦未成致斃本婦淫兇難寬是以勾決

一起絞犯李起明

販私拒斃巡勇例實惟賣鹽僅止三十餘斤且因

情急圖脫所致是以未勾

一起絞犯郭詳姐

聚眾十人持械販私拒傷捕役一人復共毆致斃

二命法無可寬是以勾決

一起絞犯王恂

金刃傷多且重情兇近故法無可寬是以勾決

一起絞犯金三銘

連斃應抵二命復另傷一人法無可寬是以勾決

一起絞犯宋城雙

挾恨謀命復誤毒其兄平復法無可寬是以勾決

一起絞犯張石頭

貪賄聽從謀命下手加功法無可寬是以勾決

一起絞犯王盤
中老末

挾恨謀命王盤造意中老末下手加功均法無可

寬是以俱勾決

一起絞犯靳學知

逞忿故殺法無可寬是以勾決

853

軍機大臣 字寄

東三省總督徐 光緒三十四年九月二十四日奉

上諭有人奏奉天沿海產鹽請妥訂官督商運章程

等語著徐世昌體察情形酌覈辦理原片著鈔給

閱看欽此遵

旨寄信前來

854 光緒三十四年九月二十四日內閣奉

上諭第二期保薦人才經派那桐等查驗詢問茲已

律召見引見完竣所有單開之內閣中書張國淦

著以侍讀候補學部七品小京官平遠著俟升補

主事後以本部員外郎補用大理院總檢察廳廳丞

王世琪著以應升之缺交軍機處存記大理院推

事董康著以推丞在任候補大理院推事記名御

史王儀通著以推丞在任候補郵傳部左丞李煜

瀛著以應升之缺交軍機處存記陝西陝安道沈

潛著以應升之缺交軍機處存記甘肅新疆阿克

蘇道楊增新著以應升之缺交軍機處存記前四

川建昌道王季寅著以道員歸應補班請旨簡放

河南候補道于澹瀾著仍以道員記名簡放河南

候補道韓潤鈞著以道員發往廣東候補並交軍

機處存記奏留江蘇補用道汪瑞閣著仍以道員
記名簡放山西補用道張毅著仍以道員記名簡
放安徽試用知府謝宗誠著仍以知府發往陝西
缺即補候選知府胡徽元著仍以知府發往陝西
遇缺即補直隸候補知縣洪壽彭著仍以知縣發
往江南遇缺即補湖南鄉縣知縣李見荃著仍以直
隸州知州在任候補候選縣丞朱學程著以知縣
發往安徽候補日本畢業生蹇念益著以七品小
京官分部補用欽此

855

京外各衙門保薦人才員名單

內閣中書張國淦

擬請以內閣侍讀候補

學部七品小京官平遠

擬請俟升補主事後以本部員外郎補用

大理院總檢廳丞王世琪

擬請以應升之缺交軍機處存記

大理院推事董康

擬請以推丞在任候補

大理院推事 記名御史王儀通

擬請以推丞在任候補

郵傳部左丞李焜瀛

擬請以應升之缺交軍機處存記

陝西陝安道沈潛

擬請以應升之缺交軍機處存記

甘肅新疆阿克蘇道楊增新

擬請以應升之缺交軍機處存記

前四川建昌道王季寅

擬請以道員歸應補班請

旨簡放

河南候補道于滄澗

擬請仍以道員記名簡放

河南候補道韓國鈞

擬請以道員發往廣東候補並交軍機處存記

奏留江蘇補用道汪瑞閣

擬請仍以道員記名簡放

山西補用道張毅

擬請仍以道員記名簡放

安徽試用知府謝宗誠

擬請仍以知府仍發原省遇缺即補

候選知府胡薇元

擬請仍以知府發往陝西遇缺即補

直隸候補知縣洪壽彭

擬請仍以知縣發往江南遇缺即補

湖南郵縣知縣李見荃

擬請以直隸州知州在任候補

候選縣丞朱學程

擬請以知縣發往安徽候補

日本畢業生蹇念益

擬請以七品小京官分部補用

856

交郵傳部本日

貴部奏派員勘查各省鐵路摺奉

旨知道了欽此又奏安徽鐵路公司改派總理摺又

奏擴充電政妥議辦法摺均奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月二十四日

857

交會議政務處本日翰林院侍讀榮光奏

開墾富兵於農一摺奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

九月二十四日

858

交在任軍機大臣而奉

諭旨所有單開功勳最著之前雲貴總督劉長佑等

二十三員有無後嗣有何官職著各旗都統各省

督撫查明咨報軍機處彙奏請旨欽此相應傳知

貴督欽遵辦理可也此交

九月二十四日

859

雲貴總督劉長佑 湖南人

臺灣巡撫一等男劉銘傳 安徽人

贈布政使道員王金鑫 湖南人

綏遠城將軍福興 正白旗滿洲人

福建陸路提督一等男蕭孚泗 湖南人

記名提督一等子爵河南歸德鎮總兵李臣典 湖南人

以上六員俾壽原奏所有

浙江提督鄧紹良湖南人

都統銜廣東副都統烏蘭泰正紅旗滿洲人

署廣西提督甘肅肅州鎮總兵張玉良四川人

工部左侍郎呂賢基安徽人

漕運總督袁甲三河南人

都察院副都御史前江西巡撫張芾陝西人

署貴州巡撫韓超直隸人

布政使銜福建督糧道趙景賢浙江人

雲南鶴麗鎮總兵朱洪章貴州人

直隸提督郭松林湖南人

廣東等省巡撫蔣益澧湖南人

布政使銜江南道員溫紹原湖北人

署安徽盛鳳潁道金光節直隸人

護軍統領恆齡鑲黃旗滿洲人

新疆巡撫一等男劉錦棠湖南人

廣西右江鎮總兵記名提督張樹珊安徽人

贈布政使銜升用知府天津縣知縣謝子澄四川人

以上續查十七員

860 交理藩部軍機大臣面奉

諭旨達賴喇嘛著於入宴坐次跪迎跪送欽此相應

傳知

貴部欽遵可也此交

九月二十五日

861 交理藩部軍機大臣面奉

諭旨達賴喇嘛祝

嘏著於王大臣行禮後在景福門外另班行禮欽此相

應傳知

貴部欽遵可也此交

九月二十五日

862 光緒三十四年九月二十七日內閣奉

上諭莊山奏因病懇請開缺一摺鑲白旗漢軍副都

統總管內務府大臣莊山著准其開缺加恩賞食

二品俸欽此

863 光緒三十四年九月二十七日內閣本

上諭景澧著補授總管內務府大臣欽此

864 光緒三十四年九月二十七日內閣本

上諭四川建昌道員缺著黃丙焜調補欽此

865 軍機大臣 字寄

安徽巡撫朱 光緒三十四年九月二十八日奉

上諭有人奏皖南皖北災情並重請飭查明辦理一

摺著朱家寶查明情形據實覆奏原摺著鈔給閱

看欽此遵

旨寄信前來

866 光緒三十四年九月二十八日奉

旨廣州將軍著增祺補授欽此

滿屋結

867 光緒三十四年九月二十八日奉

旨鑲白旗漢軍副都統著馮國璋補授欽此

滿屋結

868 光緒三十四年九月二十八日奉

旨正黃旗蒙古都統著景澧補授欽此

滿屋結

869 交禮部內附 侍衛處 本日軍機大臣面奉

諭旨十月初一日孟冬時享

太廟遣恭親王溥偉恭代行禮欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

九月二十八日

870 交度支部 順天府 軍機大臣面奉

諭旨順天府奏請撥王恕園等處粥廠米石變通辦

理一摺著度支部查業發給欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月二十八日

871 交學部尚書榮慶等本日

貴尚書等奏

文廟工程辦法參稽禮制相度地形擬承九楹三階五

陛之規以期備禮等語摺單各一件奉

旨依議欽此相應傳知

貴尚書等欽遵可也此交

九月二十八日

872 光緒三十四年九月二十九日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨
前據憲政編查館資政院將議院未開以前逐年應
行籌備事宜開單具奏當經降旨諭諭內外臣工依
期舉辦查單開各衙門籌備事宜係就與開設議院
最關切近者而言非謂未列單內之各衙門便可不受
責成道遠事外如外務部職在考查外事作養使才
吏部職在變通選法考覈任用禮部職在修明禮教
移易風俗陸軍部職在鞏固國防振興軍勢農工商
部職在提倡實業保守利權郵傳部職在審度形勢
統籌交通理藩部職在考查藩情整飭邊務皆與憲
政息息相通理應同時並進即已入單內之民政

部度支部學部法部等衙門尚多有未盡事宜若
顧此失彼偏而不全恐屆開設議院之期規模未
備致滋紛擾著各衙門統限六箇月內按照該館
院前奏格式各就本管事宜以九年應有辦法分
期臚列奏明交憲政編查館會同覆覈請旨遵行
以專責成而杜遷延欽此

873 光緒三十四年九月二十九日內閣奉

上諭載瀛等奏請勘修

昭西陵等處工程一摺著派楊士琦前往謹敬查勘

欽此

874 光緒三十四年九月二十九日內閣奉

上諭民政部奏援案請賞掛甲屯教養局米石一摺
所有掛甲屯紳辦教養局加恩著賞給粟米三百
石發交該處紳董覈實經理欽此

875

交學部本日都察院奏代遞吏部員外郎黃
允中條陳保存舊學必開制科設立制科必

著功令呈一件奉

旨學部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計黏鈔摺一件

九月二十九日

876 交會議政務處本日都察院奏代遞廣東試用

直隸州同張如翰呈請於各州縣設立農官

一摺奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交 計黏鈔原呈一件

九月二十九日

877 交國史館本日都察院奏代遞翰林院侍讀學

士惲毓鼎等請將已故道員潘氏表事實

宣付史館呈一件奉

旨著照所請該衙門知道欽此相應傳知

貴館欽遵可也此交 計黏鈔三件

九月二十九日

878 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 光緒三十四年九月三十日奉

上諭有人奏奉天錦州府屬官地請飭遵章清丈以

祛積弊一摺著徐世昌按照所指各節查明情形

妥籌辦理原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

879 光緒三十四年九月三十日內閣奉

上諭前鎮白旗漢軍副都統內務府大臣莊山由內

務府司員存升奉宸苑卿補授內務府大臣克勤

厥職前因患病准其開缺並賞食二品俸茲聞溢逝

軫惜殊深加恩著照侍郎例賜卹任內一切處分

悉予開復應得卹典該衙門查例具奏伊子二品

銜內務府候補郎中恩奎著以郎中即補欽此

880 光緒二十三年九月十一日內閣奉

上諭前任兵部左侍郎巴克坦布由奉宸苑卿補授

總管內務府大臣存升侍郎克勤厥職前因患病

准其開缺茲聞溢逝軫惜殊深加恩著照侍郎例

賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏伊子內務府員外郎繼銘著俟服闋後以內務府郎中即補欽此

881 交理藩部軍機大臣面奉

諭旨達賴喇嘛著准其於十月初九日在勤政殿呈

進貢物欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

九月三十日

882 達賴喇嘛謹

稟恭祝

皇太后萬壽親遞淨水瓶一尊盤一方

長壽丸盛盤內呈

進

吉祥

大

哈達

一方

壽佛

連衣

坐

一尊

菩提

鹿角

一枚

帶哈達

如

意

成

付

黃金

一百封

每重

一兩

藏金

金

緞

五疋

各色

鑾

鑾

十五疋

紅黃

特爾

麻

二十疋

藏頂

香

二十

五把

上用

藏香

六十

把

藏

細香

二百

把

蜜

桃

脯

一匣

藏

甘

杏

一匣

懇乞代

奏

883 交督辦津浦鐵路大臣呂 等本日

貴大臣等奏津浦鐵路經過濟南府勘定黃河

造橋地方一摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴大臣等欽遵辦理可也此交

九月三十日

884 軍機大臣面奉

諭旨禮部奏耆紳鄉舉重逢顯懇恩施一摺前福建永春直隸州州同胡斌加恩著賞給運同銜欽此

十月初一日

885 交陸軍部本日

貴部奏會議張鳴岐奏廣西邊防重要詳陳籌辦大端摺又奏議覆張德彝奏敬陳管見片均奉旨依議欽此又奏續陳辦理秋操情形摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十月初二日

886 軍機大臣 字寄

各直省督撫 光緒三十四年十月初三日奉

上諭本年廣東湖北湖南猝遭水患當經分別頒發帑銀並由該督撫等妥籌賑撫其餘福建安徽直隸黑龍江甘肅等省曾報偏災亦經先後諭令該督撫等籌辦急賑妥為撫恤小民諒可不至失所惟

念來春青黃不接之時民力未免拮据著該督撫

等體察情形如有應行接濟之處即著認真查明據實覆奏務於封印以前奏到候朕於新正降旨加恩此外各該省有無被災地方應行調劑之處並著一體查明具奏前經降旨諭令該督撫等痛除積習飭屬確查毋任豪強胥吏盤剝欺侵該督撫等務當各遵前旨實力奉行不得稍有捏飾以副朝廷實惠及民之至意將此通諭知之欽此

887 光緒三十四年十月初三日內閣奉

上諭袁樹勛奏黃河霜降安瀾一摺山東黃河本年

入秋以來水勢增漲險工林立仰賴

神靈默佑拾護平穩現在節交霜降普慶安瀾寶深寅感著發去大藏香十枝並著南書房恭書願額一方交袁樹勛祇領虔詣

大王廟敬謹懸挂祀謝用答

神庥所有在工出力之二品銜分省試用道邵際昌著仍以道員分省儘先補用並交軍機處存記指分江蘇補用知府施炳燮著免補本班以道員

仍歸原省補用並加二品銜濟南府同知黃篤瓚著以知府在任候補並加三品銜四品銜山東候補直隸州知州周忠清著免補本班以知府仍留原省補用四品銜直隸州用本班先教習補用知縣蕭方駿著歸候補班補缺後免補直隸州以知府補用試用知縣方家永著免補本班以直隸州知州仍留原省補用並加四品銜候補縣丞竇立身試用縣丞汪廷尚陳緒曾均著免補本班以知縣仍留原省補用留直補用副將何東來著免補本班以總兵記名簡放餘著照所議辦理該部知道欽此

888 交度支部本日御史石鏡潢奏印花稅恐多窒礙請

礙請

旨飭部緩行摺奏

旨度支部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

十月初三日

889 交學部本日御史石鏡潢奏學堂畢業拔優貢

擬請援例

制考一摺奉

旨學部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文 計粘鈔摺一件

十月初三日

890 達賴喇嘛恭祝

皇太后萬壽跪捧磁盤內盛黃緞包淨水瓶長壽瓶長

壽丸下觀黃哈達捧經畢呈

遞

891 達賴喇嘛恭祝

皇太后萬壽添

進黃金一百兩

壽佛二尊

892 光緒三十四年十月初四日內閣奉

上諭前以粵漢鐵路最關重要特派軍機大臣大學

士張之洞為督辦大臣近詢該大學士籌辦鐵路情形據稱該路事權紛歧議論淆雜諸多窒礙等語該路交通大有關係詎可長此延緩嗣後該路籌款用人興利除弊各事宜悉責成張之洞通籌全局力任勞怨嚴定期限各就三省情形分別妥訂章程因時制宜主持定斷郵傳部暨湖北湖南廣東各督撫均須實力協助不得掣肘所有各該省原派之總理協理均聽節制在事官紳商董儘有營私舞弊煽惑把持以致妨害路政各情事即著張之洞據實參辦經此申諭後該督辦大臣等務當協力趕辦不准延緩以期事權專一免誤要工欽此

893 交內閣本日軍機大臣而奉

諭旨十月初九初十十一日均著推班欽此相應傳知
貴衙門希即迅速轉傳可也此交

十月初四日

894 交陸軍部本日醇親王等奏會考陸軍游學畢業生情形開單呈覽一摺奉旨知道了欽此相應傳知

貴親王等欽遵可也此交 計粘鈔摺一件

十月初四日

895 交陸軍部本日副都統王英楷奏考驗陸軍竣

事各情形摺奉

旨陸軍部覈覆具奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔摺一件

十月初四日

896 交農工商部本日

貴部奏遵議御史謝遠涵整頓實業摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十月初四日

897 文修訂法律大臣沈等本日

貴大臣等奏遵員派充諮議官摺單各一件又

片奏安徽試用知府謝宗誠留館當差等語奉

旨依議欽此又奏議覆翰林院侍講學士朱福說奏

請慎重私法編別選聘起草容員摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴大臣等欽遵可也此文

十月初四日

898 光緒三十四年十月初五日內閣奉

上諭正黃旗蒙古都統景澧正黃旗漢軍都統李殿

林侍郎俞廉三侍郎銜丁振鐸均著加恩在紫禁

城內騎馬欽此

899 一品大員未經

賞馬名單

正白旗滿洲都統符珍

漢軍都統成章

鑲白旗蒙古都統芬車

正黃旗蒙古都統景澧

正黃旗漢軍都統李殿林

正紅旗漢軍都統色楞額

鑲藍旗蒙古都統張德彝

900 二品大員未經

賞馬名單

吏部左侍郎唐景崇 年六十二歲

禮部左侍郎景厚 年六十二歲

鑲黃旗滿洲副都統希朗阿 年六十五歲

漢軍副都統豐陞阿 年六十二歲

正白旗滿洲副都統兜欽 年六十歲

漢軍副都統慶綿 年六十八歲

鑲白旗滿洲副都統敬昌 年六十九歲

正藍旗漢軍副都統額勒春 年六十歲

鑲藍旗滿洲副都統祥年 年六十九歲

塔克什納 年六十二歲

蒙古副都統玉璋 年七十歲

岳樑 年六十九歲

正黃旗滿洲副都統祥普 年七十二歲
正紅旗滿洲副都統全福 年六十五歲
鑲紅旗滿洲副都統英信 年六十七歲

901 景星

俞廉三

丁振鐸

曹鴻勳

902 光緒三十四年十月初五日內閣奉

上諭奉天旗務使司旗務使著恩志補授欽此

903 交 禮部 御史 御史 御史 本日御史貴秀等奏陪祀參差不齊

請嚴定處分開單呈

覽一摺奉

旨該部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔摺一件

十月初五日

904 交陸軍部本日御史俾壽奏請選派滿漢世職
官員及聽穎子弟分赴東西各國學習海軍一
摺奉

旨陸軍部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔摺一件

十月初五日

905 交會議政務處本日御史俾壽奏西北邊疆禁
種鶯粟花地方宜提倡種植生計摺又奏貴省
學堂等均宜兼習各國語言文字片均奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交 計粘鈔摺片各一件

十月初五日

906 交會議政務處本日御史俾壽奏請嚴訂官紳

設立教養局及工藝廠勸懲章程等語奉

旨會議政務處知道欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交 計粘鈔片一件

十月初五日

907 光緒三十四年十月初六日內閣奉

上諭吳重熹奏黃河霜降安瀾一摺本年大汛期內

河水疊次陡長各工險要環生時有刷墊仰賴

河神默佑得以化險為夷普慶安瀾實深寅感著

發去大藏香十枝交吳重熹祇領虔詣

河神廟恭代祀謝用答

神庥所有辦理河工出力之河南布政使朱壽鏞

開歸道曹福元河北道石庚開封府知府劉更壽

均著交部從優議敘前署開歸道候補道何廷俊

著賞加二品銜餘著照所議辦理該部知道欽此

908 光緒三十四年十月初六日內閣奉

上諭錫良電奏雲南官兵越界滋事一案本年五月

間我兵追逐匪黨不知界綫致釀成焚擾巨案雖

非有意生事但一誤再誤管帶各員弁實屬罪無

可逭除楊清貴因失汛逃退業經軍前正法應無

庸議外毓煥章王開仁情罪較重均著即行正法

王有才許得魁均著監禁五年限滿釋放廣東守

備姜萬隆拔補把總彭開陞均著即行革職姜萬

909

隆並著發往軍台効力贖罪彭開陞並著監禁一
年粵軍管帶四川補用知縣宋智焜滇軍管帶武
生胡天佑均著即行革職宋智焜並著永不敘用
滇軍管帶游擊王洪順著革職留營効力以示懲
儆餘照所議辦理該部知道欽此

滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京文年

四品銜在任即選知府選缺後以道員補用章京崇俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎三品銜章京侍讀裕銘

五品銜額外章京候補侍讀內閣中書海桂

額外章京法部候補員外郎伊密揚阿

漢頭班

花翎領班三品章京劉毅孫

幫領班四品章京胡彤恩

章京員外郎劉慶篤

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許實衡

額外章京五品銜內閣中書蕭端潔

額外章京三品銜 記名繁缺知府陸軍部候補郎中楊蒂

滿二班

花翎領班三品章京文徽

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎三品銜選用知府章京郎中桂陰

花翎三品頂戴章京郎中榮奎

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

章京員外郎星輅

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京易貞

幫領班四品章京趙廷珍

章京 記名繁缺知府郎中孫筭經

三品頂戴章京員外郎陳鴻翼

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣恩

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部主事雷廷壽

額外章京 記名遇缺題奏翰林院編修楊渭

910 溫諭

達賴喇嘛呈

進

萬壽貢品并頌吉祥祝詞甚為嘉悅特頒厚賞以示

優異

911 光緒三十四年十月初十日内閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

達賴喇嘛上月來京陛見本日率徒祝嘏備抒悃忱殊堪嘉尚允宜特加封號以昭優異達賴喇嘛業經循照從前舊制封為西天大善自在佛茲特加封為誠順贊化西天大善自在佛其勅封儀節著禮部理藩部會同議具奏並按年賞給原餽銀一萬兩由四川藩庫分季支發達賴喇嘛受封後即著仍回西藏經過地方該管官派員挨站護送妥為照料到藏以後務當恪遵主國之典章奉揚中朝之信義並化導眷眾謹守法度習為善良所有事務依例報明駐藏大臣隨時轉奏恭候定奪期使疆圉永保治安僧俗悉除畛域以無負朝廷護持黃教綏靖邊陲之至意並著理藩部傳知達賴喇嘛祇領欽遵欽此

912 光緒三十四年十月十四日內閣奉

上諭陸軍部左參議著許秉琦補授欽此

913 軍機大臣 字寄

閩浙總督松 光緒三十四年十月十七日奉

上諭有人奏福建漳州等屬災重地廣待賑孔急一

摺著松壽迅速查明具奏原摺著鈔給閱看欽此
遵

旨寄信前來

914 光緒三十四年十月十六日內閣奉

上諭楊士驥奏東明黃河獲慶安瀾一摺直隸東明黃河南隄本屆三汛各埽壩紛紛蟄陷異常危險經在工員弁竭力搶護現在節逾霜降仰賴

神靈默佑獲慶安瀾實深寅感發去大藏香十枝著楊士驥祇領交大順廣道文冲虔詣李連莊高村黃莊

大王廟敬謹祀謝以答

神庥所有出力員弁著先行存記俟下屆再行照章請獎欽此

915 交學部本日御史葉蒂棠奏赴美游學學生請

按省分派一片奉

旨學部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔片一件

十月十七日

916 文侍郎楊本日

貴侍郎奏查勘要工謹擬分別修緩一摺奉
旨著歲修大臣併案估修欽此相應傳知
貴侍郎欽遵可也此交

十月十七日

917 光緒三十四年十月十九日內閣奉

上諭現在天氣漸寒所有食餉之閑散宗室覺羅人
等生計維艱殊堪軫念著加恩賞給一月錢糧其
宗室覺羅孤寡除有恩賞錢糧外著再加賞半月
錢糧以示體恤欽此

918 光緒三十四年十月十九日內閣奉

上諭現在天氣漸寒京師兵丁當差勤苦殊深軫念
所有八旗及綠步各營官兵均著加恩賞給半月
錢糧以示體恤欽此

919 查食餉之閑散宗室覺羅人等登京師八旗及
綠步各營官兵年例

恩賞錢糧

諭旨各一道向係十月十八日

頒發_臣等援例恭擬

恩旨伏候

頒行謹

奏

光緒三十四年十月十九日奉

旨依議欽此

920

本日代呈趙爾豐電奏裁番調兵備近並
據由土等語擬請

旨著該大臣嚴諭勒令退兵相機防捕餘著理藩部

知道

又松壽電奏接待美艦人員請給獎勵等語擬請

旨飭由該督酌給外獎所請著不准行

又陳慶龍電奏漢口錢商怡和興等三店倒閉

虧欠中外商款二百餘萬請將店東道員黃家

瑋黃宗嶽先行革職等語擬請

旨均著先行革職歸案嚴追是否有當謹請

旨欽遵辦理謹

奏

光緒三十四年十月十九日奉

旨依議欽此

921 外務部奏俄國撤退京津衛隊請

賞給寶星摺單各一件摺擬

批依議單擬

批覽

又奏德國駐京武官差滿回國請

賞寶星一片擬

批依議

廣西巡撫張鳴岐奏廣西軍需支用各款造冊

請銷摺一件擬

批該部知道

又奏本年八月分雨水糧價情形摺單各一件

摺擬

批知道了單擬

批覽

又奏已革興業縣知縣沈祥麟經徵正雜錢糧

延不解清潛行回籍嚴參勒追摺一件擬

批著照所請該部知道

山海關副都統儒林奏補行考驗軍政摺一件擬

批陸軍部議奏

又奏辦理學堂情形片一件擬

批該部知道

又奏辦理禁煙請撥經費片一件擬

批該部議奏

又奏請將防禦恩隆以驍騎校降補片一件擬

批著照所請該部知道

青州副都統英瑞奏得

賞謝

恩一摺擬

批知道了

以上十二件遵

旨擬

批如蒙

俞允是否用

硃筆恭代請

旨遵行謹

奏

與奉事口傳
派解親王恭代批摺

922 光緒三十四年十月二十日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨
醇親王載灃之子 著在宮內教養並在上書房
讀書欽此

是日樞堂已散十二鐘後
皇太后召見於
寢宮特降此
旨

923 光緒三十四年十月二十日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨
醇親王載灃授為攝政王欽此

是日樞堂已散十二鐘後
皇太后召見於
寢宮特降此
旨

924 光緒三十四年十月二十一日內閣奉

上諭自去年入秋以來朕躬不豫當經諭令各省將
軍督撫保薦良醫旋據直隸兩江湖廣江蘇浙江
各督撫先後保送陳秉鈞曹元恆呂用賓周景濤
杜鍾駿施煥張鵬年等來京診治惟所服方藥迄
未見效近復陰陽兩虧標本兼病胸滿胃逆腰腿
酸痛飲食減少轉動則氣壅咳喘益以麻冷發熱
等症夜不能寐精神困憊實難支持朕心殊深焦
急著各省將軍督撫遴選精通醫學之人無論有
無官職迅速保送來京聽候傳診如能奏效當予
以不次之賞其原保之將軍督撫並一體加恩將
此通諭知之欽此

925 現在

謹擬請

皇上聖躬欠安日久前由各省保薦醫生久診無效
明降諭旨飭各將軍督撫再保送良醫聽候傳診如蒙
俞允 臣等遵當恭擬
諭旨一道
呈進伏候

欽定謹

奏

光緒三十四年十月二十一日奉

旨依議欽此

926 光緒三十四年十月二十一日內閣奉

上諭此次驗放陸軍部游學畢業考列優等之礮兵
科畢業生沈郁文周斌史久光李祖植熊祥生成
梳向瑞琮童序鵬李人鐸姜明經劉燮元均著賞
給陸軍礮兵科舉人並著授副軍校考列優等之
步兵科畢業生蔣作賓高佐國金永炎劉一清吳
經明沈尚樸程守箴覃師範王家駒何澄吳祉貞
均著賞給陸軍步兵科舉人並著授副軍校考列
優等之馬兵科畢業生劉嗣榮著賞給陸軍馬兵
科舉人並著授副軍校考列優等之工兵科畢業
生李煒章鄧質儀翁之麟均著賞給陸軍工兵科
舉人並著授副軍校考列上等之步兵科畢業生
趙康時周承莢張承禮張斯慶杜錫鈞裕寬竇洪
勝徐卓張明遠祺昌張學齡饒景華余欽翼均著
賞給陸軍步兵科舉人並著授協軍校考列上等

之礮兵科畢業生翁之毅邵保朱兆熊錦銓噶勒
炳阿李鈞南劉祖堯丁文璽馬祖全均著賞給陸
軍礮兵科舉人並著授協軍校考列上等之馬兵
科畢業生沈細慶芳倪謙解朝東玉琪劉國祥黎
本唐吳連慶繆慶喜蕭安國均著賞給陸軍馬兵
科舉人並著授協軍校考列上等之工兵科畢業
生雙祥張策平陳從義劉繩武那馬善吳保鈞均
著賞給陸軍工兵科舉人并著授協軍校考列上
等之輜重兵科畢業生王占海蕭鴻陞均著賞給
陸軍輜重兵科舉人並著授協軍校該部知道欽此

927 光緒三十四年十月二十一日奉

旨朝會大典常朝班次攝政王著在諸王之前欽此

928 本日

發下驗放王大臣世 等奏驗放陸軍遊學畢業生
分擬出身官階請

旨一摺所有取列優等之沈郁文等_臣等公同商酌

擬請照原議給獎謹候

旨遵行謹

奏

光緒三十四年十月二十一日奉

旨依議欽此

929 本日代呈張人駿電奏請將由蕪湖運米平糶

免納稅釐各節擬請

准著照所請該部知道是否有當請

旨欽遵辦理謹

奏

光緒三十四年十月二十一日奉

旨依議欽此

930 江甯將軍清銳等奏協領傷發成廢懇

予休致摺一件擬

批著照所請該衙門知道

山東巡撫袁樹勛奏籌解新案賠款摺一件擬

批該部知道

又奏東省海防正中馬步兩營餉章片一件擬

批該部知道

又奏解步軍統領衙門經費片一件擬

批該衙門知道

又奏八月分雨糧情形摺一件擬

批知道了單一件擬

批覽

又奏秋禾收數摺一件擬

批知道了

又奏巡閱事竣回省片一件擬

批知道了

殺虎口監督林景賢奏交卸進京摺一件擬

批知道了

奉天旗務使司旗務使恩志奏謝

恩請

陞見摺一件擬

批毋庸來見

以上十件遵

旨擬

批是否有當請

旨遵行謹

奏

光緒三十四年十月二十一日奉

旨依議欽此

931 吏部奏孔同改就教職摺一件擬傳

旨依議

又奏遵議雲貴總督奏滇省添設知縣並改土歸流摺存擬傳

旨依議

又奏議覆貴州巡撫等奏請調請補各缺摺單

各一件均擬傳

旨依議

又奏筆帖式熾昌以堂主事補用片一件擬傳

旨依議

又奏法部主事曾光熾改歸知縣摺一件擬傳

旨依議

又奏議覆雲貴總督錫奏邊省微員調驗變通

辦理一摺擬傳

旨依議

又奏續擬

京察事宜摺單各一件均擬傳

旨依議

又奏法部民政部各廳

京察等員數片一件擬傳

旨依議

慶親王奕劻查驗

善陀峪萬年吉地工程摺單各一件擬傳

旨知道了

又奏各工移交守護大臣等經營片一件擬傳

旨知道了

又奏撥給守護大臣保固銀兩片一件擬傳

旨知道了

又奏安設陳列物件片一件擬傳

旨知道了

溥偉等奏值年旗兵丁得

賞錢糧謝

恩摺一件擬傳

旨知道了

以上十四件遵擬傳

旨是否有當請

旨遵行謹

奏

光緒三十四年十月二十一日奉

旨依議欽此

932 光緒三十四年十月二十一日欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

攝政王載灃之子 著入承大統為嗣皇帝欽此

933 光緒三十四年十月二十一日欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

前因穆宗毅皇帝未有儲貳曾於同治十三年十二

月初五日降旨大行皇帝生有皇子即承祧穆宗毅

皇帝為嗣現在大行皇帝龍馭上賓亦未有儲貳不

得已以攝政王載灃之子 承繼穆宗毅皇帝為

嗣並兼承大行皇帝之祧欽此

934 光緒三十四年十月二十一日欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

著派禮親王世鐸睿親王魁斌喀爾喀親王那彥圖

奉恩鎮國公度支部尚書載澤大學士世績那桐外

務部尚書袁世凱禮部尚書溥良內務府大臣繼祿

增崇恭辦喪禮敬謹襄事欽此

935 光緒三十四年十月二十一日欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

現在時事多艱嗣皇帝尚在沖齡正宜專心典學著

攝政王載灃為監國所有軍國政事悉秉承示之訓

示裁度施行俟嗣皇帝年歲漸長學業有成再由嗣

皇帝親裁政事欽此

936 光緒三十四年十月二十一日

皇帝詔曰朕自沖齡踐祚寅紹丕基荷蒙

皇太后憐育仁慈恩勤教誨垂簾聽政宵旰憂勞嗣奉

慈旨命朕親裁大政欽承

列聖家法一以敬

天法

祖勤政愛民為本三十四年中仰稟

慈訓日理萬幾勤求上理念時事之艱難折衷中外之

治法輯和民教廣設學堂整頓軍政振興工商修

訂法律預備立憲期與薄海臣庶共享昇平各直

省遇有水旱偏災凡疆臣請賑請蠲無不恩施立

沛本年順直東三省湖南湖北廣東福建等省先

後被災每念吾民滿目瘡痍難安寢饋朕躬氣血

素弱自去年秋間不豫醫治至今而胸滿胃逆腰痛

腿軟氣壅哮喘諸證環生迭起日以增劇陰陽俱

虧以致彌留不起豈非天乎顧念神器至重亟宜

傳付得人茲欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿旨

攝政王載灃之子 入承大統為嗣皇帝在朝

皇帝仁孝聰明必能仰慰

慈懷欽承付託憂勤惕厲永固邦基爾京外文武臣工

其精白乃心破除積習恪遵前次諭旨各按逐年

籌備事宜切實辦理庶幾九年以後頒布立憲克

終朕未竟之志在天之靈藉稍慰焉喪服仍依舊

制二十七日而除布告天下咸使聞知

937 光緒三十四年十月二十一日內閣奉

上諭本月二十一日酉刻

大行皇帝龍馭上賓朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后懿

旨入承大統捨地呼天攀號莫及伏念

大行皇帝御宇三十有四年祇承

家法上東

慈謨惕厲憂勤無日不以敬

天法

祖勤政愛民為念簡任親賢變法圖強維新政治中外望

風凡有血氣者罔不悲哀感戀出於至誠朕之泣

血椎心尚忍言乎惟思

付託至重責在藐躬尚賴內外文武大小臣工共夫公

忠弼子郵治各直省督撫務當撫輯斯民整頓吏

治以仰慰

大行皇帝在天之靈朕實有厚望焉至喪服之制欽奉

大行皇帝遺詔令依舊制二十七日而除朕心實有不

忍仍當恪遵古制敬行三年之喪庶幾稍盡哀慕

之忱至於

郊

廟祭祀大典自不應因大喪而稍略其禮其應如何道

官恭代及親詣行禮之處著各該衙門查照向例

集議以聞其天下臣民應持服制仍照定例行將

此通諭知之欽此

938 光緒三十四年十月二十二日內閣奉

上諭朕繼承大統

聖祖母慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后

應尊為

太皇太后兼祧

母后皇后應尊為

皇太后所有應行典禮著該衙門敬謹查例具奏欽此

939 臣等謹按

嗣皇帝承繼

穆宗毅皇帝為嗣兼

大行皇帝之祧理應遵制恭上

皇太后

皇后尊號謹擬

諭旨一道請

旨頒行謹

奏

光緒三十四年十月二十二日奉

旨依議欽此

940 光緒三十四年十月二十二日內閣奉

上諭同治十三年

穆宗毅皇帝大事

大行皇帝曾遵成例停止各省將軍督撫都統副都統提鎮

鹽關織造等來京叩謁

梓宮今

大行皇帝升遐其各直省將軍督撫都統副都統提鎮

城守尉並西北兩路將軍大臣暨藩學臬鹽關織

造等均不必奏請來京叩謁

梓宮致曠職守各該員等惟當竭誠盡職以期無負委

任不在末節虛文也將此通諭知之欽此

941 恭查同治十三年

穆宗毅皇帝大事

大行皇帝諭令各省將軍督撫等不必來京叩謁

梓宮此次請仍遵

成憲辦理候

旨遵行謹

奏

光緒三十四年十月二十二日奉

旨依議欽此

942 光緒三十四年十月二十二日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙太皇太后懿旨

現命攝政王載灃監國所有應行禮節著內閣各部

院會議具奏欽此

943 現奉

懿旨命攝政王監國所有禮節擬由內閣各部院會議

具奏謹擬

諭旨一道請

旨頒行謹

奏

光緒三十四年十月二十二日奉

懿旨依議欽此

944 光緒三十四年十月二十二日內閣奉

上諭道光二十六年三月

宣宗成皇帝特降

諭旨以二名不偏諱將來繼體承緒者上一字仍舊毋

庸改避亦毋庸缺筆其下一字應如何缺筆之處臨

時酌定以是著為令典等因欽此今朕敬遵

成憲將御名上一字仍舊書寫毋庸改避下一字敬缺

一撇書作儀字其奉旨以前所刻書籍俱毋庸議欽此

945 臣等恪遵

成憲擬將

御名上一字仍舊書寫毋庸改避其下一字敬缺一

撇書作儀字如蒙

俞允遵當恭擬清漢

諭旨

呈進伏候

欽定謹

奏

光緒三十四年十月二十二日奉

旨依議欽此

946 光緒三十四年十月二十二日內閣奉

上諭朕欽奉

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙太皇太后懿旨昨經降旨特命攝政王為監國所有軍國政事悉秉承予之訓示裁度施行現予病勢危篤恐將不起嗣後軍國政事均由攝政王裁定遇有重大事件有必須請皇太后懿旨者由攝政王隨時而請施行

947 內務府奏請派瞻禮大臣一摺攝政王恭擬派

出委散秩大臣公錫露

光緒三十四年十月二十二日奉

旨知道了

948 山海關副都統儒林奏逾歲旗員留住供職摺

單各一件擬

批著照所請該部知道單擬

批覽以上二件遵

旨擬

批是否有當請

旨遵行謹

奏

光緒三十四年十月二十二日奉

旨依議欽此

949 恭辦喪禮王大臣世鐸等奏

大行皇帝升入

梓宮後應行焚化紙錄等項照例在

御箭亭焚化一摺等謹擬知道了請

旨遵行謹

奏

光緒三十四年十月二十二日奉

旨依議欽此

950 本日

大行皇帝應行敬奠禮攝政王恭擬派載洋敬謹前往

恭代請

旨遵行謹

奏

光緒三十四年十月二十二日奉

旨依議欽此

951 光緒三十四年十月二十二日

慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙太皇太后詔曰

予以溥德祇承

文宗顯皇帝冊命備位宮闈迨穆宗毅皇帝沖年嗣統

適當寇亂未平討伐方殷之際時則髮捻交訐回苗

俶擾海疆多故民生彫敝滿目瘡痍予與

孝貞顯皇后同心撫訓夙夜憂勞秉承

文宗顯皇帝遺謨策勵內外臣工暨各路統兵大臣指

授機宜勤求治理任賢納諫救災恤民遂得仰承

天庥削平大難轉危為安及穆宗毅皇帝即世今大行

皇帝入嗣大統時事愈艱民生愈困內憂外患紛至

沓來不得不再行訓政前年宣布預備立憲詔書本

年頒示預備立憲年限為幾待理心力俱殫幸手體

氣素強尚可支拄不期本年夏秋以來時有不適政

務殷繁無從靜攝眠食失宜遽延日久精力漸憊備

未敢一日暇逸本月二十一日復遭大行皇帝之喪

悲從中來不能自克以致病勢增劇遂至彌留回念

五十年來憂患迭經兢業之心無時或釋今舉行新

政漸有端倪嗣皇帝方在沖齡正資啟迪攝政王及

內外諸臣尚其協心翊贊固我邦基嗣皇帝以國事

為重无宜勉節哀思孜孜典學他日光大

前謨有厚望焉喪服二十七日而除布告天下咸使聞

知欽此

952 光緒三十四年十月二十二日內閣奉

上諭朕以沖齡仰蒙

大行慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙太皇太后

顧復恩慈情深內極特命入承大統深冀

慈躬康健克享期頤俾朕奉養承

歡恭聆

訓誨以成邦治而固那基乃

宵旰憂勞漸致違和屢進湯藥調理方期日就安痊不

意因二十一日

大行皇帝龍馭上賓哀感過甚病勢陡重遂至大漸遽

於本月二十二日未時

仙馭升遐呼搶哀號為其有極欽奉

遺詔喪服二十七日而除朕心實所難安仍穿孝百日

並素服滿二十七月稍申哀悃至

諭以勉節哀思一以國事為重敢不敬遵

遺命強加抑節以慰

大行太皇太后在天之靈所有

大喪禮制著派肅親王善耆順承郡王訥勒赫都統喀

爾沁公博迪蘇協辦大學士榮慶鹿傳霖吏部尚

書陸潤庠內務府大臣奎俊禮部左侍郎景厚敬

謹管理一切應行事宜並著詳稽舊典悉心覈議

隨時具奏將此通諭中外知之欽此

953

交內務府恭親王溥偉貝勒載洵載濤載潤在
大行太皇太后梓宮前恭代奠酒相應傳知

貴府查照可也此文

十月二十二日

954

交內務府貝子溥倫輔國公溥信鎮國將軍溥

大行皇帝梓宮前恭代奠酒相應傳知

貴府查照可也此文

十月二十二日

955

上諭現遵

大行慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙太皇太

后大事各直省將軍督撫都統副都統提鎮等均

有職守不必奏請來京叩謁

梓宮惟當實心辦事勉盡厥職不在禮節虛文也欽此

956 光緒三十四年十月二十三日內閣奉

上諭著添派恭親王溥偉農工商部尚書溥頤會同

原派王大臣恭辦

大行太皇太后喪禮欽此

957 光緒三十四年十月二十三日內閣奉

上諭禁門重地理宜嚴肅疊經諭令該管大臣申嚴門禁稽察出入不帶三令五申乃近來門禁仍屬懈弛亟宜再申詰責著前鋒統領護軍統領總管內務府大臣嚴飭值班官兵務須認真稽察不准冒充當差人等乘間出入經此次申警後倘再仍前疏忽定將該管大臣嚴懲不貸懷之欽此

958 軍機大臣欽奉

諭旨

大行慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后
母家親屬著穿緇素百日欽此

十月二十三日

交禮部
值年旗

959 交內務府現在恭親王溥偉添派恭牌

大行太皇太后喪禮改派貝勒毓朗在

大行大皇太后梓宮前恭代奠酒相應傳知

貴府查照可也此交

十月二十三日

960 攝政王而奉

皇太后懿旨每日應行在內值班住宿人員著照例輪班住宿其餘各項人員均不准在內住宿欽此

十月二十三日

交內閣
值年旗

961 光緒三十四年十月二十四日內閣奉

上諭伊古神聖之君功德至著必有隆稱懿號昭示來茲典至鉅也欽惟我

皇考大行皇帝潛哲宣聰研精敏學德綏中外道妙化感御宇三十有四年無日不以敬

天法

祖勤政愛民為念每遇

郊壇大祀精誠昭格崇奉我

皇祖母大行太皇太后尊養優隆湖當登極之初上秉

垂簾之訓求謙言而崇節儉察羣吏而戒因循洎乎親

裁大政整飭紀綱咨詢賜雨偏災偶告蠲貸兼施

召對臣工披覽章奏寒暑無間宵旰焦勞書唐大

寶歲於殿壁如木從繩刊承華事略之新圖以古

為鑑至於時局之艱難未列邦之政治舉一切
興學練兵理財造幣鑿荒保商勸工度量權
衡郵船路礦諸要政靡不仰稟

慈謨俯度時勢準今酌古執兩用中而且尊

素王而崇祀典御經筵以益新知訂商約以重邦交本

禮教以修刑律滿漢化除其畛域同

情載之無私勲臣追錄其子孫勵封疆之忠蓋籌備立

憲則於九載告成通變宜民實繫環瀛觀聽宏功

感德海宇同欽予以冲人慕統永懷孺慕益切顯

揚允宜詳考彝章恭上

尊諡

廟號著大學士各部院衙門敬稽典禮具奏以聞欽此

⁹⁶² 光緒三十四年十月二十四日內閣奉

上諭

大行皇帝尚未擇有陵寢著派溥倫陳壁帶領堪輿人

員馳往

東

西陵敬謹查勘地勢繪圖貼說奏明請旨辦理欽此

⁹⁶³ 光緒三十四年十月二十四日內閣奉

上諭豫親王懋林奏歲滿當差一摺定例王公年滿

十八歲由宗人府奏明上朝當差茲該親王尚未

歲滿徑行遞摺請安並請出學當差與定例不合

殊屬冒昧豫親王懋林著交宗人府議處仍俟年

滿十八歲循例由宗人府奏明辦理欽此

⁹⁶⁴ 光緒三十四年十月二十四日內閣奉

上諭太醫院院使張仲元御醫全順醫士忠勳恩報

戴家瑜均著革職帶罪効力欽此

⁹⁶⁵ 光緒三十四年十月二十四日內閣奉

上諭前刑部主事陳東鈞分部郎中曹元恆江西玉

山縣知縣呂用賓江蘇阜甯縣知縣周景濤浙江

候補知縣杜鍾駿江蘇候補知府施煥候選道張

鵬年均著降二級留任欽此

⁹⁶⁶ 光緒三十四年十月二十五日內閣奉

上諭據王大臣等奏三年之喪難以舉行請仍依舊

制一摺覽奏愈增哀痛朕承

大行皇帝付託之重雖終身哀慕尚難仰報

高厚之恩豈持服三年遂謂盡哀盡禮且三年之喪違

乎天子禮經所載敢不恪遵若喪服二十七日而

除於心實有不甘除臣民服制仍各欽遵舊例朕

敬循古制持服三年以冀稍中哀悃至

社 郊

宗廟祀典朝禮仍可於持服中舉行不致偏廢其如何

舉行三年之喪仍著各該衙門詳稽典禮妥議以

奏欽此

967 光緒三十四年十月二十五日內閣奉

上諭

祺貴妃

瑜貴妃

珣貴妃

璿妃

瑾妃侍奉

大行太皇太后歷有年所淑順克昭均宜加崇位號以

表尊崇

祺貴妃謹尊封為

祺皇貴太妃

瑜貴妃尊封為

瑜皇貴妃

珣貴妃尊封為

珣皇貴妃

璿妃晉封為

璿貴妃

瑾妃晉封為

瑾貴妃所有應行事宜著該衙門察例具奏欽此

968 嘉慶二十五年八月二十三日內閣奉

上諭

皇考大行皇帝妃嬪承侍宮闈恪恭淑慎均宜加崇位

號以表尊崇

誠貴妃侍奉

皇考最久年齒亦尊謹尊封為

御筆
如貴妃

誠禧皇貴妃

如妃誕育惠郡王尊封為

如貴妃

信嬪晉封為

信妃

恩貴人晉封為

恩嬪

榮貴人晉封為

榮嬪

安常在晉封為

安嬪所有應行事宜著各該衙門察例具奏欽此

969 道光三十年正月二十一日內閣奉

上諭

皇貴妃侍奉

皇考淑慎素著允宜加崇稱號以申敬禮謹尊封為

康慈皇貴太妃所有應行典禮各該衙門察例豫

備屆期闕吉舉行欽此

970

端懿

順祺

御筆

康慈。

靖溫

971 道光三十年正月二十一日內閣奉

上諭

皇考大行皇帝妃嬪承侍宮闈恪恭淑慎均宜加崇位

號以表尊榮

琳貴妃謹尊封為

琳貴太妃

常貴人晉封為

常嬪

佳貴人晉封為

佳嬪

彤貴人晉封為

彤嬪

成貴人晉封為

成嬪

祥貴人晉封為

祥嬪

順常在晉封為

順貴人

蔡答應

尚答應

李答應

那答應並晉封為常在所有應行事宜著各該衙門察例具奏欽此

972 道光三十年正月二十二日內閣奉

上諭

如皇貴妃承侍

皇祖多年夔經

皇考加崇位號現在年齒最尊允宜特晉隆稱以申敬

禮謹尊封為

如皇貴太妃所有應行事宜該衙門察例具奏欽此

973 皇貴妃

琳貴妃

常貴人

佳貴人

彤貴人

成貴人

祥貴人

順常在

蔡答應

尚答應

李答應

那答應

974 咸豐十一年十月初十日內閣奉

上諭

皇祖宣宗成皇帝嬪御前經

皇考大行皇帝加崇位號茲朕御極之初宜晉

隆稱以申敬禮

琳貴太妃誕育醇郡王鍾郡王孚郡王壽禧和碩

公主謹尊封為

琳皇貴太妃

彤嬪誕育壽莊和碩公主尊封為

彤貴妃

佳嬪尊封為

佳妃

成嬪尊封為

成妃

順貴人尊封為

順嬪

蔡常在尊封為

蔡貴人

尚常在尊封為

尚貴人

李常在尊封為

李貴人

那常在尊封為

那貴人所有應行事宜著該衙門查例具奏欽此

光緒二十九年十月十日

975 咸豐十一年十月初十日內閣奉

上諭

皇考大行皇帝妃嬪承侍宮闈恪恭淑慎均宜加崇位

號以表尊崇

麗妃侍奉

皇考有年誕育大公主謹尊封為

麗皇貴妃

婉嬪晉封為

婉妃

祺嬪晉封為

祺妃

玫嬪晉封為

玫妃

璫貴人晉封為

璫嬪

容貴人晉封為

容嬪

璿貴人晉封為

璿嬪

玉貴人晉封為

玉嬪

吉貴人晉封為

吉嬪

禧貴人晉封為

禧嬪

慶貴人晉封為

慶嬪所有應行事宜著該衙門查例具奏欽此

976 同治十三年十二月十九日欽奉

慈安端裕康慶皇太后

慈禧端佑康頤皇太后懿旨皇后作配大行皇帝懋著

坤儀著封為嘉順皇后皇貴妃侍奉大行皇帝夙昭

淑慎著封為敦宜皇貴妃所有應行典禮各該衙門

察例辦理欽此

977 光緒三十四年十月二十五日奉

皇太后懿旨攝政王載灃穿孝百日欽此

滿慶錄 旨

978 光緒三十四年十月二十五日奉

旨恭辦喪禮王大臣照例穿孝百日外和碩慶親王

奕劻和碩莊親王載功科爾沁親王阿穆爾靈圭

多羅克勤郡王松杰奈曼郡王蘇珠克圖巴圖爾

多羅貝勒載潤載洵載濤毓朗喀拉沁貝勒熙凌

阿科爾沁貝勒阿拉坦鄂齊爾貝勒銜固山貝子

溥倫固山貝子毓楠土默特貝子棍布扎布來恩

鎮國公溥倌科爾沁輔國公達賚貝子銜鎮國將

軍載振鎮國將軍溥侗御前侍衛都統恭芬車色楞

額副都統善豫良奉乾清門行走固倫額駙品級

麟光不入八分輔國公憲章憲德副都統溥倬都

統固倫額駙符珍乾清門侍衛委散秩大臣那那

額駙公松椿那那額駙侯琦瑤軍機大臣大學士

張之洞大學士孫家鼐陸軍部尚書鐵良郵傳部

尚書陳璧理藩部尚書壽耆南書房行走朱益藩

吳士鑑鄭沅袁勵準亦著穿孝百日其餘王大臣

官員均著穿孝二十七日釋服焚燬欽此

滿慶錄 旨

979 攝政王而奉

皇太后懿旨祺皇貴太妃瑜皇貴妃珣皇貴妃璿貴妃
瑾貴妃均著加恩每月賞給公費銀五百兩由內務
府廣儲司交進欽此

十月二十五日

980 交禮部軍機大臣欽奉

諭旨

大行皇帝殷奠禮著派鎮國公載澤恭代致祭欽此相

應傳知

貴衙門欽遵可也此交

十月二十五日

981 恭擬

恩詔建元年號

殊。宣統

憲 昌

憲 治

聖 憲

982 光緒三十四年十月二十六日內閣奉

上諭

皇祖母大行慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后

徽音懋著道協坤元昔奉我

皇祖考文宗顯皇帝淑慎恪恭誕育我

皇考穆宗毅皇帝當

文宗顯皇帝升遐時正值大亂方殷海宇鼎沸條約初

定人心未安經大小臣工疊次籲請

大行太皇太后與

皇祖妣孝貞顯皇后垂簾聽政並曾經祇領

文宗顯皇帝所賜之御賞同道堂五字圖章於押廷片

其時尚

駐蹕灤陽

一德同心

神謨默運還京師以定人心除大慈以收魁柄倚任親

賢勤求治理視民如傷從諫如流慕治平之實繼
 選進講之儒臣政本澄清羣賢彙進當夫寇盜縱
 橫之際民生凋瘵之餘定廟算以授機宜敷惠德
 以格頑梗卒使髮櫛回苗各匪滔天巨浸次第蕩平四
 海化烽燧而為敦槃兆民出水火而登衽席追我
 皇考大行皇帝入嗣大統又蒙

恩勤鞠育慈誨周詳屬以時局愈艱望治尤亟再
 訓大政不惜勤勞時則環瀛大道日新月異外交內治
 無一事不塵

慈懷盱眙宵衣無一日稍存暇逸深惟求器惟新之道
 改絃更化之方酌古準今經文緯武設同文館以
 通重譯創船政製造等局以飭戎備遣各國駐使
 以聯邦交派學生職官游學東西洋以資廣益
 造鐵道而文軌通興礦政而地產阜頒行商律畫
 一幣制以及商輪郵電度量權衡鑿井防災鳴機
 學藝家勤實業野鮮游民靡不創闢九州未有
 之利源破除百代相沿之弊實變科舉開學堂而
 立教必以宗經學古為本廢酷刑禁拷訊而修律
 必以禮教倫紀為先尊

孔聖為大祀所以閉邪而崇正練陸軍以新式所以建

威而銷萌古聖有善取諸人之量故治法兼采東

西帝王具天下一家之心故滿漢化除畛域以及續修

光緒之會典實測行軍之輿圖保護遠及於華僑

振濟推恩於鄰國至其裁抑外家力辭徽號以視

漢之明德宋之宣仁殆遠過之而且天縱多能幾

餘游藝書法繪事靡不精詣入神又於御園造如

意莊以觀稼穡設綺華館以勸蠶桑每遇災沴上

聞望晴閔雨輒爾日食粗糲中夜露禱壺以感格

為度凡此皆勤求民瘼之真誠故能成莫不尊親

之郵治比者頒布立憲年限薄海嶽呼此實遠紹

唐虞三代好惡同民之心傳一洗秦漢以來權術

雜霸之治體敬溯五十年來

仁恩汪濊

功德崇隆實為天下臣民所共知古今史冊所未有朕

仰蒙

憐育寅紹丕基未伸孝養之忱忽遭

上僊之痛緬維

蕤煠奉繪寶難惟有仰晉隆稱略抒哀悃誠宜敬稽

典禮恭上

尊謚垂示無窮以彰

懿範庶稍慰朕尊親之意著內閣各部院衙門會同敬

謹擬奏以聞欽此

983 光緒三十四年十月二十六日內閣奉

上諭禮先報本尊崇當湖厥由來義在制宜孝思必

循夫典則雍正十三年

高宗純皇帝恭加上

列聖

列后尊謚曾欽奉

聖諭崇先特典後世子孫不得奉為成式是以

大行皇帝於同治十三年恭加上

列聖

列后尊謚於

列聖尊謚已加至二十二字者未敢復議加上

列后尊謚已加至十六字者亦未敢復議加上允宜祇遵

憲典敬法

前謨其有

列聖尊謚未加至二十二字

列后尊謚未加至十六字者均應恭議尊崇顯揚

盛美該衙門詳稽典禮敬擬奏聞欽此

984 光緒三十四年十月二十六日內閣奉

上諭各省督撫鹽關向有呈進方物現當哀痛之時

食處皆所不安著通諭各省督撫鹽政織造關差

等一應貢獻概行停止即食品亦不准呈進俟三

年之後再候諭旨欽此

985 光緒三十四年十月二十六日內閣奉

上諭此次

大行太皇太后

大行皇帝大事業經諭令各省將軍督撫等不必奏請

來京叩謁

梓宮其餘開缺告病在籍各大員均無庸來京叩謁

梓宮即於哀詔到日隨同該省地方官舉行成服欽此

986 光緒三十四年十月二十六日內閣奉

上諭王士珍奏雷降安瀾一摺本年五六月間江南

北大雨時行水勢陡漲堤掃各工紛紛整塌入秋

以來水仍未盡減退仰賴

神靈默佑拾護平穩普慶安瀾實深寅感著發去

大藏香十五枝交王士珍祇領恭詣

大王將軍各廟虔誠祀謝用答

神庥欽此

987 光緒三十四年十月二十六日內閣奉

上諭安徽壽春鎮總兵員缺著李定明補授欽此

988 光緒三十四年十月二十六日奉

旨兵丁等借支庫銀應扣本年十二月次年正月利

息銀兩著加恩展限兩箇月欽此

滿屋結 旨

989

交理藩部本日

貴部代奏達賴喇嘛呈請率徒叩謁

大行太皇太后

大行皇帝

梓宮味經應於何日請

旨一摺奉

旨著於二十七日已刻叩謁欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

十月二十六日

990 光緒三十四年十月二十七日內閣奉

上諭本月二十二日欽奉

大行太皇太后懿旨軍國政事均由監國攝政王裁定

是即代朕主持國政黜陟賞罰悉聽監國攝政王

裁度施行自朕以下均應恪遵

遺命一體服從誌親宗族尤應恪守國法於式屏僚嗣

後王公百官倘有觀望玩違暨越禮犯分變史典

章淆亂國是各情事定即治以國法斷不能優容

姑息以致敗壞紀綱庶幾無負

大行太皇太后委寄之重而慰天下臣民之望欽此

991 光緒三十四年十月二十七日内閣奉

上諭

大行慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙太皇太

后菩陀峪萬年吉地今定為

菩陀峪

定東陵著傳知各衙門敬謹遵照繕寫欽此

992 光緒三十四年十月二十七日内閣奉

上諭

大行太皇太后垂簾訓政四十餘年功在

宗

社德被生民所有治喪典禮允宜格外優隆以昭尊崇

而申哀悃著禮部將一切禮節另行敬謹改擬具

奏欽此

993 光緒三十四年十月二十七日内閣奉

上諭邦家不造連遭大喪仰賴

大行太皇太后暨

大行皇帝廟謨宏遠規畫周詳得以宮府又安朝野

翁叔有約各國亦成盡情盡禮並萬邦交乃近有

不逞之徒造言生事煽惑愚蒙更有海隅匪黨潛

謀內渡妄思搆亂若不從嚴查禁深恐擾害治安

著民政部步軍統領順天府各省督撫督飭所屬

文武多派偵巡重懲賞格一體嚴密訪拿勿稍疏

縱遇有緝獲上項匪犯立即訊明就地正法出力

員弁准其擇尤請獎以靖地方而肅國紀欽此

994 軍機大臣欽奉

諭旨

大行太皇太后殷奠禮派貝子銜鎮國將軍載振恭代

致祭欽此

十月二十七日

欽交 禮部 內務府

995 軍機大臣欽奉

諭旨

大行太皇太后初祭禮派貝勒載洵恭代致祭大祭禮

派貝勒載濤恭代致祭欽此

鈔文
禮部
內務府

十月二十七日

996 交內閣王大臣等本日

貴王大臣等會奏顯懇

皇上節哀仰遵

遺命一摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴王大臣等欽遵可也此交

十月二十七日

997 光緒三十四年十月二十八日內閣奉

上諭昨據王大臣等奏三年之喪難以舉行請仍依

舊制業經降旨明白宣諭朕承

大行皇帝付託之重惟有恪守禮經藉申哀悃非以特

服三年遂謂盡哀盡禮也今王大臣等復援引舊

章合詞奏請敬稽道光三十年

宣宗成皇帝大喪

文宗顯皇帝持服百日咸豐十一年

文宗顯皇帝大喪

穆宗毅皇帝持服百日同治十三年

穆宗毅皇帝大喪

大行皇帝亦持服百日俱因臣工等顯請再三未遂

聖志今朕哀慟雖深亦何敢有逾

成憲不得已勉從所請編素百日仍素服二十七月該

王大臣等不必再行瀆請至三年內恭遇

郊

社

宗廟祀典朝禮一切服色著王大臣等均查照成例敬

謹辦理欽此

998 光緒三十四年十月二十八日內閣奉

上諭安徽潁州府知府員缺著鳳林補授欽此

999 交禮部
內務府軍機大臣欽奉

諭旨

大行皇帝初祭禮派員勒載潤恭代致祭大祭禮派員

勒毓朗恭代致祭欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十月二十八日

1000 光緒三十四年十月二十九日內閣奉

上諭山東鹽運使著丁達意補授欽此

1001 光緒三十四年十月二十九日內閣奉

上諭山東兗沂曹濟道員缺著吳永補授欽此

1002 交禮部本日

貴部奏改擬

大行太皇太后喪禮繕單呈

覽一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十月二十九日

1003 光緒三十四年十月三十日內閣奉

上諭袁樹勳奏分別舉劾屬員一摺山東泰安府知

府王構沂州府知府李子錯登州府知府文淇著
曹州府知府候補直隸州知州王慶廷益都縣知
縣李祖年諸城縣知縣李敬修夏津縣知縣張汝
鈞博平縣知縣向植署齊河縣知縣試用同知馮
慶恩署鄆城縣知縣候補知縣潘時琮既據該撫
臚陳政績均著傳旨嘉獎萊州府知府恭曾聲名
貪鄙罔恤民艱前署甯海州知州試用知縣何恩
錫辦案草率幾釀事端調補膠縣知縣前單縣知
縣徐壽彭狡滑鑽營言過其實德平縣知縣沈彭
年辦事怠玩民有怨言堂邑縣知縣蕭漢儒煙瘴
太深性情懶惰前肥城縣知縣童益升貪鄙性成
不知悔改濟陽縣知縣陶緒泰行止不端聲名惡
劣署安邱縣知縣另補知州馬思齊不理民事嗜
好甚深署東平州知州候補知縣鄭觀光操守不
潔噴有煩言鄆城縣典史吳祖培膽大妄為肆行
無忌禹城縣典史沈曾蔭不守官箴聲名甚劣海
豐縣典史張名灝行止卑污不恤人言莘縣典史
王耀宗聲名狼籍卑鄙無恥均著即行革職東昌
府知府宋夢槐貌似有才性情剛愎著開缺以同
知降補該部知道欽此

1004 軍機大臣欽奉

諭旨

大行太皇太后功德昭著震古錄今現查會典所載
后謚崇隆而又切合字樣未用者已屬無多應於會典
帝謚字樣內參酌選擇敬謹恭擬以重鉅典而伸顯揚

欽此

鈔交內閣

十月三十日

1005

交_{度支部}內務府奏恭備要差請撥部

庫銀兩一摺奉

旨著度支部酌量撥給欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

十月三十日

1006 交度支部 本日內務府奏恭辦

大行太皇太后大事請由部先行籌撥銀兩摺又奏恭辦

大行皇帝大事請由部先行籌撥銀兩摺均奉

旨著度支部酌量撥給欽此相應傳知

貴部 欽遵可也此交

十一月初二日

1007 光緒三十四年十一月初三日內閣奉

上諭所有四時祭享祝版內

醇賢親王應稱為

本生祖考醇賢親王

醇賢親王嫡福晉應稱為

本生祖妣醇賢親王嫡福晉一切典禮謹照光緒十

六年欽奉

大行太皇太后懿旨永遠遵守將此通諭知之欽此

1008 軍機大臣欽奉

諭旨朕沖齡踐阼所有

攝政王藍筆改

發下

廟各祀典尚未能親詣舉行應如何由監國攝政王代

詣行禮之處著禮部速議具奏欽此

十一月初三日

鈔交禮部

1009 光緒三十四年十一月初四日內閣奉

上諭國家現遭

大事尚未逾十五日照例不應奏事乃該大學堂總監

督劉廷琛於本日遽行呈遞封奏殊屬不合著傳

旨中飭欽此

1010 光緒三十四年十一月初五日內閣奉

上諭本日禮部奏朕登極事宜一摺覽奏益增感物

惟念

大行皇帝以

祖宗丕緒

傳付朕躬勉從所請以明年為宣統元年依欽天監所

擇吉日於十一月初九日辛卯午初刻舉行登

極頌詔鉅典所有一切應辦事宜各該衙門敬謹

豫備欽此

1011 光緒三十四年十一月初五日內閣奉

上諭

大行太皇太后梓宮暫不奉移即以

皇極殿為

暫安殿所有應行奉移後典禮著於

宮中大事二十七日後敬謹舉行欽此

1012 交禮部本日

貴部片奏

登極前一日

凡筵前告祭事又片奏

先師孔子升為大祀一律告祭事均奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月初五日

1013 光緒三十四年十一月初六日攝政王面奉

皇太后懿旨正月十四日係

宣宗成皇帝忌辰例不升殿受賀皇帝萬壽著俟釋服

後每年於正月十三日行慶賀禮欽此

1014 交禮部本日

貴部奏

皇上登極

頒詔禮節一摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月初六日

1015 光緒三十四年十一月初七日內閣奉

上諭大理院民科推丞著王式通補授欽此

1016 大理院民科推丞員缺請

旨簡放

1017 軍機大臣欽奉

諭旨

大行皇帝梓宮奉移

觀德殿暫安著原派恭代奠酒之貝子溥倫等四

人輪班敬謹行禮欽此

十一月初七日

1018 交恭辦喪禮王大臣恭親王等本日會奏初九日

皇上登極請照舊章停止舉哀一日摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴王大臣等欽遵可也此交

十一月初七日

1019 交恭辦喪禮王大臣禮親王等本日會奏初九日

皇上登極請照舊章停止舉哀一日摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴王大臣等欽遵可也此交

十一月初七日

1020 交禮部本日

貴部奏初九日

皇帝登極請照舊章停止舉哀一日摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月初七日

1021 光緒三十四年十一月初八日内閣奉

上諭錫良奏總兵呈請開缺修墓一摺雲南騰越鎮

總兵張松林著准其開缺欽此

1022 光緒三十四年十月初八日内閣奉

上諭雲南騰越鎮總兵員缺著趙金鑑署理欽此

1023 交禮部軍機大臣欽奉

諭旨

大行太皇太后初祭大祭次日之釋祭

大行皇帝初祭大祭次日之釋祭著原派出恭代奠酒

之員輪班行禮欽此相應傳知

貴王大臣等欽遵可也此交

十一月初八日

1024 交禮部軍機大臣欽奉

諭旨

醇賢親王園寢四時祭享著於原擬派往

東

西陵致祭王公名單外另繕王公名單候圈出一員前

詣行禮欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

十一月初八日

1025

滿頭班

花翎領班三品章京英秀

花翎二品銜幫領班四品章京文年

四品銜在任即選知府選缺後以道員補用章京郎中成俊

四品銜章京郎中榮元

在任即選道章京郎中鍾佩

先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥

花翎三品銜章京侍讀裕銘

五品銜額外章京候補侍讀內閣中書海桂

額外章京法部候補員外郎伊密揚阿

漢頭班

花翎領班三品章京劉毅孫

幫領班四品章京胡彤恩

章京員外郎劉慶篤

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

額外章京學部候補主事許寶衡

額外章京五品銜內閣中書蕭瑞潔

額外章京三品銜 記名繁缺知府陸軍部候補郎中楊蒂

滿二班

花翎領班三品章京文徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎三品銜選用知府章京郎中桂陰

花翎三品頂戴章京郎中榮奎

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

章京員外郎星路

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京易貞

幫領班四品章京趙廷珍

章京 記名繁缺知府郎中孫筭經

三品頂戴章京員外郎陳鴻翼

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴章京員外郎萬雲路

額外章京民政部主事雷延壽

額外章京 記名遇缺題奏翰林院編修楊渭

1026 軍機大臣 字寄

四川總督趙 雲貴總督錫 光緒三十四年

十一月初九日奉

上諭趙爾巽奏川省邊夷猖獗亟宜設法籌辦一摺

猥夷介於川滇之間素不安靜近復勾結匪徒日

肆侵掠著趙爾巽錫良會同體察情形妥籌辦理

原摺著鈔給錫良閱看欽此遵

旨寄信前來

1027 軍機大臣欽奉

諭旨近聞有海外逆黨乘國家多難之際妄思煽亂

肆意捏造謠言其誣妄狂悖直有使君臣上下所

不忍聞者復敢刊印函單分致京外各衙署局所

學堂淆亂是非多方簧鼓居心尤屬險惡著郵傳

部迅電各處郵政局認真揀查遇有自外洋寄來

漢文函件字跡封式在五件以上分致上項各處

者立即拆閱倘語涉悖誕即刻一律焚燬其各埠

外國郵信局社亦由該處地方官統商仿行共保

治安並著民政部步軍統領順天府暨各督撫隨

時派員認真查訪嚴禁傳送悖逆各函件勿得稍

涉疏漏致擾大局此旨由郵傳部寄電各省埠一

體欽遵欽此

十一月初九日

步軍統領
民政部
郵傳部
天府

1028 軍機大臣欽奉

諭旨著南書房翰林恭擬

文廟扁額字樣呈覽欽此

十一月初九日

1029 交理藩部本日

貴部代表

皇上登極連賴喇嘛呈請朝

賀並進

貢物可否准行一摺奉

旨無庸朝賀准其呈進貢品著理藩部查照成案酌

給賞項欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月初九日

1030 光緒三十四年十一月初十日內閣奉

上諭朕續成大統登極禮成追念

前謨彌深乾惕仰維

列聖相傳之治法無非敬

天法

祖勤政愛民凡

先朝未竟之功莫不敬謹繼述本年八月初一日

大行皇帝欽奉

大行太皇太后懿旨嚴飭內外臣工務在第九年內將

各項籌備事宜一律辦齊屆時即行頒布欽定憲

法並頒布召集議員之詔各等諭煌煌

聖訓薄海同欽自朕以及大小臣工均應恪遵前次

懿旨仍以宣統八年為限理無反汗期在必行內外諸

臣斷不准觀望遷延貽誤事機尚其激發忠義淬

厲精神使憲政成立朝野乂安以仰慰

大行太皇太后

大行皇帝在天之靈而萃億萬年郵治之基朕有厚望

焉欽此

1031 交內閣大學堂總監督劉廷琛奏 攝政王貴

任重大宜崇體制一摺奉

旨著內閣各部院衙門併案會議具奏欽此相應傳知

貴閣欽遵可也此交

十一月十日

1032

交內閣御史蔡全臺奏 攝政體制開禁記詞
摺片單各一件奉

旨著內閣各部院衙門併案會議具奏欽此相應傳知
貴閣欽遵可也此交 計粘鈔摺片單各一件

十一月初十日

1033

交理藩部本日
貴部奏達賴喇嘛受

封請變通辦理摺奉
旨依議欽此又奏喀爾喀哲布尊丹巴呼圖克圖等呈
進九白貢物摺奉

旨准其呈進欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交

十一月初十日

1034

交理藩部本日
貴部代表達賴喇嘛藏中奏事權限一摺奉

旨著理藩部查明該達賴喇嘛所稱依照陳例事在
何年有無案據詳細具奏候旨覈奪欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月初十日

1035

副皇帝子臣仰名尚在沖齡未能親行謹由監國攝
政王 恭代昭告

增 大祀攝當日 聖文德輝高書博

1036

軍機大臣欽奉
諭旨本月十五日

大行皇帝几筵前啟奠禮派恭親王溥偉恭代致祭欽此

十一月十一日

字人前
鈔文禮部
內務府

1037

交陸軍部本日御史趙炳麟奏請以攝政王總
統禁衛軍以固根本等語奉

旨陸軍部議奏欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交 計粘鈔摺一件

十一月十一日

1038

交步軍統領衙門本日

貴衙門奏持恭戒煙未淨並臨驗託故不到之

營翼各官請

旨勒令休致一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

十一月十一日

1039

交內務府本日

貴衙門奏太監柳號期滿應否交進當差摺奉

旨著毋庸交進當差欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

十一月十一日

1040

交理藩部本日

貴部奏達賴喇嘛呈請

陸辭據情代奏一摺奉

旨現在

大行太皇太后

大行皇帝之喪未滿百日著毋庸陸辭照例頒賞欽此

又片奏達賴喇嘛回藏日未便設餞等語奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月十一日

1041

交內閣本日給事中忠廉等奏議

監國攝政王禮節一摺奉

旨著內閣各部院衙門併案會議具奏欽此相應傳知

貴閣欽遵可也此交

十一月十一日

1042

交內閣本日御史趙炳麟奏三請規復舊名舊

制一摺奉

旨著內閣各部院衙門併案會議具奏欽此相應傳知

貴閣欽遵可也此交

十一月十一日

1043 交陸軍部本日

貴部奏核明御史傅壽奏請派滿漢世職及聰

穎子弟分赴各國學習海軍一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

十一月十二日

1044 交管理太醫院大臣繼 軍機大臣欽奉

諭旨太醫院右院判姚寶生因病奏請開缺一摺著

仍由管理太醫院大臣請旨辦理欽此相應傳知

貴大臣欽遵可也此文 計粘鈔摺二件

十一月十三日

1045 交 奉旨辦理大臣 本日軍機大臣欽奉

諭旨恭辦喪禮王大臣奏

大行太皇太后大祭後間五日暨百日後間七日是否

按期親奠一摺著前派恭代奠酒之員勒載洵等

四人輪班敬謹行禮欽此相應傳知

貴 王大臣 衙門欽遵可也此文

十一月十三日

1046 交 限軍部 本日鳳山奏赴日觀操完竣陳明參

觀情形一摺奉

旨知道了欽此相應傳知

貴 部 欽遵可也此文 計粘鈔摺二件

十一月十三日

1047 光緒三十四年十一月十四日內閣奉

上諭陝西同州府知府員缺著瑞清補授欽此

1048 交內閣本日御史江春霖奏會議禮節未妥逐

條辯駁開單呈

覽一摺奉

旨著內閣各部院衙門併案會議具奏欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此文 計粘鈔摺單各一件

十一月十四日

1049 交理藩部本日

貴部奏達賴喇嘛可否呈進貢品摺奉

旨准其呈進貢品欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

十一月十四日

1050 交內務府本日

貴衙門奏請派織辦繡片摺單各一件奉

旨依議欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此文

十一月十四日

1051 光緒三十四年十一月十五日內閣奉

上諭內閣各部院衙門會同議上

大行皇帝

尊諡曰

景皇帝

廟號曰

德宗上配

列聖同為百世不祧之廟欽惟

大行皇帝執中御宇

運啟維新

東哲綏猷

恩周無外合環瀛而共戴實

巍蕩以難名今廷臣所議詳慎公允於

大行皇帝誠民敷治之宏謀洵相符合深協朕懷此天

下萬世之公論而非朕一人哀慕尊崇之私願亦

非臣下揄揚頌美之諛詞也謹據所奏恭上

尊諡

廟號所有應行典禮該部敬稽成例以聞欽此

黃而紅裏

1052 光緒三十四年十一月十五日內閣奉

上諭前奉

大行太皇太后懿旨命攝政王監國所有應行禮節著

內閣各部院會議具奏欽此事隔多日尚未覆奏著

各該衙門妥速定議毋再延緩欽此

1053 交內閣本日御史史履晉奏常朝拜跪禮節宜

及時變通摺片各一件又御史葉恭綽奏禮節

未宜謹陳管見一摺又御史謝遠涵奏監國攝

政首重大權一摺均奉

旨著內閣各部院衙門併案會議具奏欽此相應傳知

貴閣欽遵可也此交

計粘鈔摺片四件

十一月十五日

1054 軍機大臣 字寄

東三省總督徐 光緒三十四年十一月十六日奉

上諭有人奏奉天官制宜斟酌損益以節糜費一摺

著徐世昌按照所陳各節體察情形酌覈辦理原

摺着鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

1055

交 大學士張 奏湖北湖南

路工緊要請調員來京議定借款一摺奉

旨依議欽此相應傳知

貴 大學士 衛門 欽遵可也此交

十一月十六日

1056 交宗人府本日翰林院侍讀榮光奏王府太監

護衛通同舞弊請

飭懲辦一摺奉

旨宗人府知道欽此相應傳知

貴府欽遵可也此交

十一月十六日

1057

交郵傳部本日翰林院侍讀榮光奏鐵路與國
會相維繫宜趕緊修築以便交通摺奉

旨郵傳部知道欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

計粘鈔摺一件

十一月十六日

1058

光緒三十四年十一月十七日內閣奉

上諭十一月二十九日冬至大祀

天於

園丘遣莊親王載功恭代行禮

四從壇遣鐵麟承陰錫露霽整各分獻欽此

1059 光緒三十四年十一月十七日奉

旨

列聖御極之初均恭書扁額懸掛

文廟茲朕寅紹丕基敬循舊典命南書房翰林恭書中

和位育扁額交造辦處成造一分敬懸京師太學

文廟其墨筆者俟衍聖公孔令貽到京時由軍機處交

領收謹賞回製造扁額於闕里

文廟恭懸墨筆無庸繳回即於闕里收藏所有各直省

府州縣學著武英殿摹勒頒發一體懸掛欽此

1060 交禮部本日

貴部片奏承祭各員應否薙髮等語奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月十七日

1061 交稅務處本日

貴處奏議覆兩江總督奏上海日輝廠機製糧

呢請完一正稅摺又奏覈覆湖北禮呢廠徵免

稅項分別准駁摺均奉

旨依議欽此相應傳知

貴處欽遵可也此交

十一月十七日

1062 光緒三十四年十一月十八日奉

旨十六日恭請

大行皇帝梓宮之校尉民夫加恩著該衙門按照名數

每人賞給一兩重銀鐐一箇由廣儲司給發欽此

1063 光緒三十四年十一月十八日內閣奉

上諭湖北宜昌鎮總兵員缺著潘瀚調補所遺廣東

南韶連鎮總兵員缺著戴慶有補授欽此

1064 湖北宜昌鎮總兵員缺請

旨簡放

1065 軍機大臣欽奉

諭旨所有派出在

大行太皇太后

大行皇帝凡筵前行初滿月禮著派順承郡王訥勒赫

欽此

十一月十八日

恭辦典禮王大臣
交宗人府
內務府

1066 軍機大臣欽奉

諭旨

大行太皇太后凡筵前行初滿月禮著派睿親王魁斌

恭代致祭欽此

十一月十八日

恭辦典禮王大臣
交宗人府
內務府

1067 軍機大臣欽奉

諭旨

大行皇帝凡筵前行初滿月禮著派順承郡王訥勒赫

恭代致祭欽此

十一月十八日

恭辦典禮王大臣
交宗人府
內務府

1068 交吏部本日

貴部奏病痊之前廣西慶遠府知府全興可否

准其捐免坐補原缺一摺奉

旨著准其捐免坐補原缺仍發往原省遇有該省知

府缺出請旨簡放欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月十八日

1069 光緒三十四年十一月二十日內閣奉

上諭欽惟

大行慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙太皇太后

德涵萬有

澤被羣生

東坤元而協乾元以

母範而兼帝範

垂簾訓政勤勞歷四十七年重譯來賓

聲譽播五洲萬國緬懷

懿徽宜晉

徽稱今據內閣各部院衙門敬謹擬上

尊謹仰維

慈愛追慕無窮謹於

徽號十六字敬謹全留合之恭上

尊謹稱曰

孝欽慈禧端佑康頤昭豫莊誠壽恭欽獻崇熙配天興聖顯皇后

允足昭垂萬禩式表尊崇薄海同欽咸瞻鉅典所

有應行典禮該部敬稽成例具奏欽此

黃面紅衷

1070 光緒三十四年十一月二十日內閣奉

上諭內閣各部院等衙門各具奏謹遵

大行太皇太后懿旨會議

監國攝政王禮節一摺尚屬周妥業由

監國攝政王呈請

皇太后御覽應照所議辦理著各該衙門一體遵行欽此

1071 光緒三十四年十一月二十日內閣奉

上諭陸軍部奏宮禁重地守衛宜嚴稽察宜密一摺

近來門禁日漸懈弛亟應詳定章程嚴申誥誡嗣

後稽察守衛宮禁事宜務須恪守舊規認真辦理

著即派貝勒載濤毓朗尚書鐵良總司稽察守衛

以重宮禁而肅典章餘依議片併發欽此

1072 軍機大臣欽奉

諭旨內閣會議

監國攝政王禮節內有

懿旨及諭旨由

監國攝政王鈐章一節應由禮部鑄造

監國攝政王圖章一方金質漢篆文曰

監國攝政王章迅速呈進以便鈐用其大小式樣

另紙發交欽此

鈔文禮部附圖章式樣一紙 十一月二十日

圖章式樣紙禮部當日送還二十一日繳進

1073 軍機大臣欽奉

諭旨內閣各部院衙門會議奏准

監國攝政王禮節內有召見臣工分別坐立各節

嗣後凡有召見人員文職京官實任三品以上外

官二品以上武職京官實任二品以上外官實任
正二品以上入對時如

監國攝政王命坐則坐如不命坐則立對其餘各
官均立對欽此

鈔文內閣

十一月二十日

1074 軍機大臣 字寄

陝甘總督升 光緒三十四年十一月二十一日奉

上諭據台布志銳奏稱涼州十旗兵丁遺投書生員
連啟等控告副都統玉崑剋扣兵餉等情一案現
據該生員等復以玉崑威逼畫押心不甘服呈控
各節此事無論虛實皆應澈底根究著升允秉公
查辦務得確情據實具奏原摺著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

1075 光緒三十四年十一月二十一日內閣奉

上諭前據松壽電奏福建漳州龍溪南靖廈門等屬
被災當經諭令設法拯濟認真撫輯並將續查情
形具奏茲據查明電奏除廈門被水即退無礙秋

成外其漳州府屬之龍溪南靖等縣均被水沖決
隄岸坍塌房屋淹斃人口衆多哀鴻遍野慘不忍
聞等語覽奏殊堪憫惻加恩著賞給帑銀四萬兩
由度支部發給該督即速派印委委員前往災區
切實散放務令實惠均霑毋任失所用副朝廷軫
念災黎至意餘著照所請辦理該部知道欽此

1076 軍機大臣欽奉

諭旨昨據內閣會議奏准

監國攝政王禮節內閣請於中海迤西集靈園地
方修建

監國攝政王府第另於東華門內三所為
監國攝政王隨時起居休息之所各節著郵傳部
尚書陳璧等繪估承修府第工程其三所工程著
內務府大臣迅即修理欽此

十一月二十一日

交郵傳部
內務府

1077 光緒三十四年十一月二十二日內閣奉

上諭陸軍部奏兩翼牧羣積弊太深擬請變通以資整頓一摺收政關繫重要亟應及時籌辦藉儲軍備張家口外左右兩翼牧羣著派副都統崑源為統轄總管於兩翼適中地方擇要駐紮認真經理仍著陸軍部隨時考察以期收政日有起色餘依議欽此

1078 光緒三十四年十一月二十二日內閣奉

上諭詹昌端方奏遵旨校閱陸軍會操情形一摺據陳此次會操始末情形並披覽單圖於江鄂兩軍部署之方攻守之術頗為完密端方陳夔龍督率將士簡練有方深堪嘉許仍著督飭認真訓練以整戎行用副朝廷整軍經武實事求是之至意欽此

1079 交吏部軍機大臣欽奉

諭旨軍機處領班章京著定為從三品幫領班章京著定為從四品欽此相應傳知
貴部欽遵可也此交

十一月二十二日

1080 查本處奏准變通章程領班章京食三品俸秩視三品幫領班章京食四品俸秩視四品業經聲明在案臣等公同商酌擬將領班章京定為正三品幫領班章京定為正四品或定為從三品從四品臣等未敢擅便為此謹

奏請

旨

交片吏部

1081 交吏部 順天府本日順天府奏請以糧馬通判駱育焜升補西路同知摺奉

旨吏部議奏欽此又奏委涿州牧林際平等著東路同知各缺片奉

旨吏部知道欽此又奏請以南皮令章師程升補東路同知摺奉

旨吏部議奏欽此相應傳知
貴部 貴衙門欽遵可也此交

十一月二十二日

1082 交陸軍部本日閱兵大臣詹昌等奏繳呈關防

片奉

旨知道了欽此相應傳知

貴部欽遵可也此文

十一月二十二日

1083

廣親王等片

查本處額外章京學部候補主事許寶衡民政部主事雷廷壽到班均滿一年照奏定新章均擬銷去本衙門字樣許寶衡作為本處候補主事雷廷壽作為本處實缺主事均充補章京額缺額外章京內閣中書蕭端潔據報病故現在事務較繁擬添傳原工部候補主事曾文玉民政部郎中舒鴻貽在額外行走為此謹

奏

光緒三十四年十一月二十二日奉

旨知道了欽此

1084

光緒三十四年十一月二十三日內閣奉

上諭立國之道以民為本我

孝欽顯皇后

德宗景皇帝宵旰焦勞勤求民瘼無時不以己饑已溺為懷朕御宇方新心存繼述尤當以愛民為首務閭閻謀生終歲勤苦豐稔僅免凍餒荒歉即多流離每念及此良深憫惻倘復擾之以胥吏掠之以盜賊劣紳痞棍又從而魚肉之嗟我赤子其何以堪是全在為民牧者激發天良仰體朝廷惠保之德勉副蒼生望治之心勸善懲惡盡心民事方可云無忝職守今之所謂循吏者大率用心於催科聽斷緝捕等事視為己能盡職而不知牧民之道首在撫字應如何為民興教育應如何為民善生計應如何使游惰習為勤勞使犷悍化為馴良凡此數端皆為治本惟在賢有司悉心規畫實力奉行以期民享康樂國臻治安則上考超遷自當不期而至各直省督撫司道均有察吏之責尤當振刷精神為民造福所屬人員必須認真考察秉公甄別當思得一人而數十萬生民安樂失一人而數百里地方愁苦一家一路孰輕孰重此理諒所

飲聞朕仰承

先志軫念民生如有不肖守令罔恤民隱墮蔽德意
國法具在斷難姑容該管大吏若用人不公率屬
不嚴勸懲不明以致所屬廢弛治理漸失民心亦
不能為爾等宥也將此通諭知之欽此

1085 光緒三十四年十一月二十三日內閣奉

上諭本月二十八日達賴喇嘛出京回藏著派御前
大臣博迪蘇送至保定其經過地方著沿途各督
撫將軍等酌派文武大員妥為護送照料欽此

1086 軍機大臣欽奉

諭旨宗人府奏籌辦高等初等小學堂並設學務處
請派宗室大員總理其事各摺片著派內閣學士
兼禮部侍郎銜毓隆總理宗人府左右翼高等初
等小學堂學務餘依議欽此

十一月二十三日

1087

交大理院本日

貴衙門奏審明攪撥

朝審官犯按例加等定擬請予援免一摺奉

旨著准其援免欽此相應傳知

貴衙門欽遵可也此交

十一月二十三日

1088 一現在奏准章程

監國攝政王應括寫一格今推本此意凡明發電

旨擬在

諭旨之前一行鈐

監國攝政王章於欽此後一行書軍機大臣署名

六字另行照摺奏後銜式自書臣某人名

一外省

廷寄擬於

諭旨前一行鈐

監國攝政王章寄信前來後一行書軍機大臣署名

名六字另行照摺奏後銜式自書臣某人名

過有分寄各省者應將

監國攝政王鈐章軍機大臣署名原件寄交憲綱

在前之省餘均照鈔寄發並註明鈐章署名之

件寄交某省

一文

旨鈐章署名與明發電

旨同

一在京

廷寄交

旨鈐章署名原件均交憲綱最前之衙門餘與外省同

一

懿旨於欽此之後一行抬一格

監國攝政王鈐章軍機大臣署名照前式

監國攝政王署銜仍在面奉之上

1089 光緒三十四年十一月二十四日內閣奉

上諭憲政編查館奏定逐年籌備事宜關係重要

將來頒布欽定憲法並頒布召集議員之詔全視

乎此是以朕登極後特申誥誡期於迅速圖功以

慰薄海臣民之望茲據軍機處王大臣奏請設立

變通旗制處自應簡派大員專司其事著即派員

子溥倫鎮國公載澤大學士那桐侍郎寶熙熙彥

藍筆改

達壽總司變通旗制處會同軍機處王大臣辦理該大臣等務當即行開辦毋稍遷延其餘本年應行籌辦之事各該衙門著一律按照單開各節起緊舉辦以副朕孜孜圖治實事求是之至意欽此

1090 查憲政編查館奏定分年籌備事宜單開本年

應辦之事有設立變通旗制處籌備八旗生計

融化滿漢一條應由軍機處請

旨謹繕具名單恭候

簡員開辦以專責成其餘本年應行籌備各事擬請

飭下各該衙門迅即籌辦以冀如期施行謹

奏

1091 多羅貝勒毓朗

貝勒銜固山貝子溥倫

奉恩鎮國公載澤

1092 大學士孫家鼐

那桐

協辦大學士榮慶

吏部尚書陸潤庠

陸軍部尚書鐵良

郵傳部尚書陳璧

度支部左侍郎紹英

學部右侍郎寶熙

農工商部左侍郎熙彥

署郵傳部右侍郎吳郁生

理藩部左侍郎連壽

1093 光緒三十四年十一月二十四日內閣奉

上諭現值國勢積弱庶政待舉而財用為辦事根本
多一糜費即增一漏卮亦即少一實用朝廷於念
物力躬行節儉為天下先凡屬內外臣工宜如何
仰體時艱力求敦樸乃迭據言官條奏近來任途
習氣踵事增華日益奢侈迨用度不繼則又多方
取盈而一切夤緣奔競之風亦因之百出為長官
者或見好屬僚或瞻徇情面輒聽冗員坐領厚貲
抑知臣工所食之薪俸何莫非國家之帑項何莫

非吾民之脂膏倘浪費滋多則正用必至竭蹶而
要政皆從而廢弛上之何以對國家下之何以對
庶民試使撫衷自問能無慚疚於心朝廷設官詔
釋原使儲廉足以稱事祿入足以養廉並非為調
劑閑冗地步嗣後著京外各衙門長官嚴飭所屬
崇尚節儉屏戒浮華以為澄叙官方之本其有真
能實心任事之人自應優給俸薪以勸賢勞而資
養贍此外凡有挂名津貼之款項以及濫竽充數
之人員均須綜覈名實認真淘汰勿得挾姑息之
私見博寬厚之虛聲致負朝廷整飭任風諄諄誥
誡之至意欽此

1094 軍機大臣欽奉

諭旨第三期查驗詢問保薦人才大臣著仍派那桐
榮慶梁敦彥瑞良嚴修俞廉三欽此

十一月二十四日

交吏部

1095

那桐

榮慶

梁敦彥

瑞良

嚴修

俞廉三

1096 交禮部本日

貴部奏告祭

孔子闕里

歷代帝王陵寢

五嶽四瀆等祀一摺奉

旨著於各本省副都統總兵內擬派就近致祭欽此

相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月二十四日

1097 交禮部本日

貴部片奏冬至今節

凡筵前是否由

監國攝政王代詣行禮等語奉

旨由

監國攝政王代詣行禮欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月二十四日

1098 交禮部本日

貴部奏遵議

壇

廟祭祀

監國攝政王代詣行禮事宜摺單各一件奉

旨依議欽此相應傳知

貴部欽遵可也此交

十一月二十四日

1099 交崇文門監督
度支部本日崇文門監督等奏崇文門第一

季徵收稅課儘徵儘解一摺單一件奉

旨度支部知道單併發欽此相應

貴部欽遵可也此交

十一月二十四日

全原摺單鈔交度支部

1100 交內務府本日御史葉希崇奏電徵方物難昭

大信請仍遵

旨辦理一摺奉

旨各省應進應緩方物著內務府開單咨送軍機處

請旨辦理欽此相應傳知

貴府欽遵可也此文計黏鈔摺一件

十一月二十四日

1101 光緒三十四年十一月二十五日內閣奉

上諭兼祧

母后皇太后孝事

孝欽顯皇后作配

德宗景皇帝宮闈替化懋著徽音今據內閣具奏恭上

徽統曰

隆裕皇太后洵足導揚

懿徽式表尊崇所有一切應行典禮著該衙門敬謹辦

理欽此

鈐章

軍機大臣署名

臣奕

1102 鈐章

光緒三十四年十一月二十五日內閣奉

上諭本年九月二十九日

德宗景皇帝欽奉

孝欽顯皇后懿旨飭各衙門統限六箇月內各就本管

事宜以九年應有辦法分期臚列奏明各等因

聖謨遠大遐邇同欽在廷諸臣均應恪謹遵守實力奉

行著各該衙門懍遵前次

懿旨依限辦理勿得稍涉延誤欽此

軍機大臣署名

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

鈐章

光緒三十四年十一月二十五日內閣奉

上諭錫良奏甄別庸劣不職各員一摺雲南丁憂候補同知鍾鼎銘夸詐貪婪肆無忌憚前代理路南州知州有冒銷科罰濫押斃命之案著永北廳同知准補羅次縣知縣黎肇元貌似有才行實荒謬歷任差缺膽大輕率貽誤甚多署彌渡通判另補同知秦定基庸闇無能懲不知戒縱差釀命與論沸然却署南安州知州准補尋向州知州林堃遇事欺朦操守難信並縱容其子干預公事被控有案邱北縣知縣楊萬選辦事謬戾敢於作偽監獄屢飭改良玩違不遵釀成越獄重案均著即行革職准補威遠廳同知彭祖詒年力已衰難期振作著開缺以原品休致元謀縣知縣郭奎光性情滑瀆辦事玩延著開缺另補餘著照所議辦理該部知道欽此

軍機大臣署名

臣 奕 世

鈐章

光緒三十四年十一月二十五日內閣奉

上諭楊士驥奏查明開州等三州縣災歉情形分別蠲緩糧賦一摺直隸開州東明長垣三州縣濱臨黃河村莊本年被水秋禾歉收若將應徵糧賦照常徵收民力實有未逮加恩著照所請所有開州等三州縣成災五六分村莊應徵本年錢糧著蠲免十分之一成災七分村莊應徵本年錢糧著蠲免十分之二成災八分村莊應徵本年錢糧著蠲免十分之四其成災五六七分村莊蠲緩錢糧著緩至宣統元年秋後起分作二年帶徵成災八分村莊蠲緩錢糧著緩至宣統元年秋後起分作三年帶徵至被災各村莊未完節年錢糧及歉收四分村莊未完本年節年錢糧同歉收三分村莊未完節年錢糧暨出借倉穀等項均著緩至宣統元

臣 張 鹿 袁

年秋後起徵仍減免差徭以紓民力餘著照所議辦理該督卽刊刻騰黃徧行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意該部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1105

鈐章

光緒三十四年十一月二十五日內閣奉

上諭楊士驥奏查明災歉州縣請蠲緩糧租一摺本年順直地方自春徂夏雨澤愆期至七八月間節次大雨河水漲發以致濱臨各河窪地禾稼均多被水並因天時不齊各屬有被雹被蟲被旱之處若將應征錢糧照常征收民力實有未逮加恩著照所請所有武清等十八州縣成災五六分村莊

應征本年錢糧著蠲免十分之一成災七分村莊應征本年錢糧著蠲免十分之二各項旗租著蠲免十分之一成災八分村莊應征本年錢糧著蠲免十分之四各項旗租著蠲免十分之二成災九分村莊應征本年錢糧著蠲免十分之六各項旗租著蠲免十分之四應征屯米穀豆草束竈課學租旗產錢糧河淤海防經費儲備軍餉廣恩庫租通津二幫屯租一併分別蠲緩其陸軍部馬館租鑾儀衛租永濟庫租代征租及出借倉穀籽種口糧牛具等項著一體緩征並分別減免差徭人甯河等二十州縣歉收四分村莊應征本年節年糧租並歉收三分村莊應征節年糧租屯米穀豆草束竈課學租旗產錢糧河淤海防經費儲備軍餉廣恩庫租陸軍部馬館租鑾儀衛租津通二幫屯租永濟庫租代征租並出借倉穀籽種口糧牛具等項均著緩至宣統元年麥後啟征並減免差徭以紓民力餘著照所議辦理該督卽刊刻騰黃徧行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意該部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

1106
鈐章

光緒三十四年十一月二十五日內閣奉

上諭津浦鐵路前經張之洞袁世凱梁敦彥會奏預
定將來官商合股辦法迨至第十年後國家清還
借款之時准令三省紳商自集成本將此項股票
撥與一半任其收回此項津浦鐵路即為官商合辦
之路續據呂海寰奏預籌招股章程因此路南端
經由皖境添入安徽一省共為四省內開十年後
官商合辦無論何年不得退還商股均經允准茲
復據呂海寰代表奏四省津浦鐵路有限公司文稱
羣情疑畏觀望不前等語此路既定為將來永遠
官商合辦自無將商股退還之理經此次明白

宣諭後該大臣務當勸導各省紳商協力相濟籌
集路股俾免贖路時稍有貽誤以薄樂利而昭大
信欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

1107
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨陸軍部會奏議覆趙爾巽等請駐兵巴裏抽撥
川鎮飭部籌餉并先練川省兩鎮以資兼顧一摺
著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張

1108 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨呂海寰代奏四省津浦鐵路商股有限公司請
兼辦轉運一片著呂海寰督飭該公司妥定章程
以期利商便民斷不准違章勒索擾累行旅致妨
路政欽此

臣鹿
臣袁

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

1109 鈐章

光緒三十四年十一月二十六日

監國攝政王面奉

隆裕皇太后懿旨皇帝尚在沖齡一時未能臨幸

隨和園著該管大臣飭令司員等將殿座陳設妥為封
存看守其輪船電燈官役著即撤銷差使所有船燈
各項物件交管理頤和園大臣派員接收看管欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

1110 鈐章

軍機大臣 字寄

兩江總督端 江蘇巡撫陳 光緒三十四年
十一月二十六日奉

上諭有人奏江蘇長洲縣知縣蘇品仁濫膺保薦江
陰縣知縣孫友萇昏惰貪酷各摺片著端方陳啟
泰秉公認真查明據實具奏毋稍迴護原摺片均
著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 袁

1111 鈐章

光緒三十四年十一月二十六日內閣奉

上諭朕入承大統登極禮成已敬謹恭上

皇太后徽號鉅典昭垂允宜阜敷恩澤惟思推恩之序

尤宜首重親賢慶親王奕劻公忠體國懋著賢勞

庚子以來顧全大局殫心輔弼力任其難厥功甚

偉應加優賞用獎勳猷加恩著以親王世襲罔替

王其敬承恩命毋得固辭藍筆諭旨繳進欽此

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 袁

1112 鈐章

光緒三十四年十一月二十六日內閣奉

上諭朕入承大統登極禮成已敬謹恭上

皇太后徽號鉅典昭垂允宜阜敷恩澤軍機大臣世績

等忠清亮直翔贊維勤勞怨不解深堪嘉許世績

著賞加太子少保銜賞用紫韁張之洞著賞加太

子太保銜賞用紫韁鹿傳霖著賞加太子少保銜

賞用紫韁袁世凱著賞加太子太保銜賞用紫韁

藍筆諭旨繳進欽此

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 袁

1113 鈐章

光緒三十四年十一月二十六日內閣奉

上諭朕入承大統登極禮成已敬謹恭上

皇太后徽號鉅典昭垂允宜覃敷恩澤恭親王溥偉著

賞穿帶膝貂鞋貝勒載瀛載潤均著賞食雙俸貝

勒載洵載濤均著賞加郡王銜貝勒毓朗著賞食

雙俸貝子溥倫著賞食貝勒休鎮國公載澤著賞

加貝子銜鎮國公溥信著賞食雙俸貝子銜鎮國

將軍載振著賞食貝子休載溥侗均著賞加不入

八分輔國公銜溥倬著賞給頭品頂戴那彥圖著

賞食雙俸善者著賞給四正龍補服博迪蘇著賞

加貝子銜孫家鼐著賞用紫韉那桐著賞加太子

少保銜榮慶著賞食尚書雙俸奎俊繼祿增崇景

澧均著賞食都統雙俸鐵良著賞穿黃馬褂徐世

昌著賞戴花翎楊士驥端方均著賞穿帶膝貂鞋

藍筆諭旨繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1114 鈐章

光緒三十四年十一月二十六日內閣本

上諭此次驗看進士館畢業學員考列中等之法部

主事馬步瀛著以原官留部補用游學畢業生考

列優等之李鳴謙著賞給商科舉人欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1115 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨內閣奏恭上

皇太后徽號應用清文篆文字樣事單二件知道了欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

1116
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨禮部奏冬至令節

几筵前行禮

監國攝政王及王公百官應穿服色一片著仍服

編素欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十六日

十一月二十五日
字六日發

臣張

臣鹿

臣袁

1117
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨鑾儀衛奏遵擬

監國攝政王與服等項事宜一摺已於單內逐條
批改矣著按照所改各節遵行餘依議單併發藍
筆諭旨繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十六日

1118
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨陸軍部奏遵擬

監國攝政王應增護衛各事宜一摺所有府中官
員除長史現有一員不必再議外其應添之頭等
護衛等項員缺著改為按照親王額設官缺數目

增加一倍餘著照所請行欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十六日

1119 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨稽察守衛事宜貝勒載濤等奏稽察守衛酌擬
辦法摺單各一件又奏擬設幫總辦片又奏鈐蓋
關防片均著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

1120 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨理藩部代奏駐京洞濶爾呼圖克圖請賞朝馬
一摺著照例賞給欽此

十一月二十六日

臣袁

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十六日

1121 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨呂海寰奏陳明津浦鐵路現在南北段辦理情
形並起程赴甯日期一片知道了欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十五日 二十六日發下

1122 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨此次驗放江蘇兩次保薦卓異委用道蘇品仁該員現在有人奏參俟查覆後再行降旨欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

封交吏部

十一月二十六日

1123 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨前據御史葉市崇條陳現當亮陰請免進方物一摺當經降旨飭內務府將前次查照成案奏請各省方物分別應進應緩清單繕呈朕覽茲據開單覽悉除有關於祭祀供鮮貢品仍著准其呈進外其餘一切貢品均著概行停止仍俟三年後再候諭旨藍筆諭旨繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十七日

1124 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨恭親王溥偉奏序爵之典以重紀綱長幼之分

宜分秩序一摺除於朝會大典外其尋常召對內廷宴齊一切班次慶親王奕著在恭親王溥偉之前欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣索

十一月二十八日

1125 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨禮部奏遵擬

監國攝政王冠服體制一摺覽奏均悉除所服補往應用四正龍兩肩前後各加一章即足以昭區別外其餘一切冠服制度仍按親王制度服用藍筆諭旨繳進欽此

軍機大臣署名

1126 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨吏部奏議覆署鄧州知州溫紹標處分一摺著免其置議欽此

十一月二十八日

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣索

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣索

十一月二十八日

1127
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨吏部奏議覆署金匱縣知縣趙謹琪處分一摺
著免其置議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十八日

1128
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨吏部奏議覆趙爾豐處分一摺著准其抵銷欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

1129
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨度支部奏清理財政宜先明定辦法一摺著會
議政務處^{妥速}議奏欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十八日

臣鹿
臣袁

1130

臣等恭查光緒元年祭告

嶽瀆等處係於各本省副都統總兵等內擬派就
近致祭謹遵

十一月二十八日

旨將應祭各處現在應派人員擬開清單並錄光緒

元年擬派原單恭呈

御覽伏候

欽定發下臣等行知禮部令將應備祭文香帛等項

照例備辦由驛發交各該員祇領敬謹致祭禮

畢由各該副都統總兵自行咨覆禮部由禮部

彙齊具奏謹

奏

光緒三十四年十一月二十八日奉

旨依議欽此

鈔同原單文禮部

1131

擬派告祭各處人員名單

山海關擬派副都統儒林

吉林擬派副都統慶祿

錦州擬派 盛京副都統多文

陝西擬派西安副都統承燕

四川擬派成都副都統鍾靈

山東擬派青州副都統英瑞

祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單

江南擬派副都統雙福

浙江擬派杭州副都統德濟

河南擬派南陽鎮總兵郭殿邦

湖廣擬派荊州左翼副都統隆斌

廣東擬派廣州漢軍副都統莊健

直隸擬派宣化鎮總兵黃懋澄

山西擬派大同鎮總兵王得勝

1132

光緒元年擬派告祭各處人員名單

山海關擬派副都統崇禮

吉林擬派副都統奕艾

錦州擬派副都統古尼音布

陝西擬派西安副都統明春

四川擬派成都副都統恆訓

山東擬派青州副都統春福

江南擬派副都統富陞

浙江擬派杭州副都統濟祿

河南擬派南陽鎮總兵趙鴻舉

湖廣擬派荊州左翼副都統穆克德布

祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單
祭禮部開列各處人員名單

廣東擬派廣州漢軍副都統果勒敏

直隸擬派宣化鎮總兵王可陞

山西擬派大同鎮總兵馬陞

發全大明世宗九年
世祖明宣宗皇帝
登其位中項有山西
河清地代多古

1133 鈐章

軍機大臣 字寄

農工商部 郵傳部 督辦津浦鐵路大臣呂

山東巡撫袁 光緒三十四年十一月二十九日奉

上諭都察院奏有人赴院呈稱監司大員開礦築路

藉勢營業侵奪地方生計請飭查辦據情代表一

摺著農工商部郵傳部呂海寰袁樹勛按照所陳

各節會同秉公查明切實具奏毋稍徇隱原呈均

著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

慶親王奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1134 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨民政部奏廳員職司警衛事務重擬請按照

部員京察一律辦理各摺片著吏部議奏欽此

軍機大臣署名

慶親王奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十九日

1135 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨理藩部奏值班蒙古王公等到京時應於何日

帶領叩謁

梓宮並齊集日可否隨同在京王公等行禮一摺著於

照例請安日由恭辦喪禮王大臣帶領叩謁

梓宮並於齊集日隨同在京王公等行禮欽此

軍機大臣署名

慶親王奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十九日

1136
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨都察院代奏員外郎黃允中條陳江甯新設崗
書局請飭延訂通人編纂要籍呈一件學部知道
欽此

軍機大臣署名

慶親王奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十一月二十九日

1137 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨內閣會奏加上

列聖

列后尊諡履奏一摺依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初一日

1138 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨度支部奏遵擬清理財政章程摺單各一件著

憲政編查館迅速覈覆具奏欽此

軍機大臣署名

臣奕

1139 鈐章

光緒三十四年十二月初二日內閣奉

上諭此次驗看之辦學期滿翰林院庶吉士潘浩著

授職編修雷恆著授職檢討欽此

軍機大臣署名

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初一日

1140 鈐章

光緒三十四年十二月初二日內閣奉

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

上諭

几筵前大祭禮節隆重在事人等自應一體嚴肅以昭

哀敬茲據憚毓鼎奏稱冬至

德宗景皇帝几筵前大祭前列諸臣竟笑語諧笑化

冠服時並有轉夫多名橫絕擁擠殊屬不成事體嗣後

凡遇

大祭著派御史二員監禮並著民政部嚴定管束規矩

不得任意混雜用昭肅靜欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1141 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨禮部奏除夕應否頒給外藩蒙古王公等宗張

羊隻一摺著毋庸咨給欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初二日

1142 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨內務府會奏請將沿途照料達賴喇嘛之甘肅

候補知府裕瑞飭回原省可否酌給獎敘一摺裕

瑞應飭回原省著陝甘總督酌給獎敘欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初二日

1143 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨本日陸軍部帶領引見之伊卑協領奇蘭著交軍機處以副都統記名欽此

滿屋路旨

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初二日

1144 鈐章

軍機大臣 字寄

河南巡撫吳 光緒三十四年十二月初三日奉

上諭有人奏河南考城縣王蘭昇等盜案係由蔡姓

通匪此案官幕丁差均有不費不盡等語著吳重憲

按照所陳各節確切查明認真提究毋稍徇隱原

片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1145 鈐章

軍機大臣 字寄

江西巡撫馮 光緒三十四年十二月初三日奉

上諭有人奏江西丁漕押使銀圓請飭查究等語著

馮汝駉切實查明毋稍徇隱原片著鈔給閱看欽

此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1146 鈐章

軍機大臣 字寄

閩浙總督松 光緒三十四年十二月初三日奉

上諭有人奏莆田縣林應同一案官吏通同作弊摺

又片奏請裁興化通判等語著松按照所請各

節確切查明毋稍袒庇據實覆奏原摺片均著鈔

給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 袁

1147 鈐章

光緒三十四年十二月初三日內閣奉

上諭京師自入冬以來尚未得雪農田待澤孔殷朕

心實深寅盼允宜虔申祈禱謹於本月初六日派

恭親王溥偉敬詣

大高殿恭代拈香

時應宮派員勒載洵

昭顯廟派員勒載潤

宣仁廟派員勒毓朗

擬和廟派員于銜鎮國將軍載振同於是日分詣

拈香以迓祥霽而慰農望欽此

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 袁

1148 鈐章

光緒三十四年十二月初三日內閣奉

上諭著派員勒載濤毓朗尚書鐵良充專司訓練禁

衛軍大臣准其酌量由各旗營兵丁內拔取精壯

儘數認真訓練不准疏懈此項禁衛軍專歸

監國攝政王自為統轄調遣俟有成效再候諭旨
藍筆諭旨繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1149 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史謝遠涵奏官祿不均請一財權而除積弊
摺又奏請飭速設審計院片著交會議政務處並
度支部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

十二月初三日

臣袁

1150 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史常徽奏華僑愛國情殷請量加宣慰一摺
農工商部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初三日

1151 鈐章

光緒三十四年十二月初四日內閣奉

上諭設立變通旗制處一事前降諭旨未盡宣示明
白現在朝廷一視同仁勤求治理茲特諭知該處

王大臣等其宗旨在於變通應改之制度盡力妥
籌教養之方及一切生計總期自強自主之意所
有錢糧兵餉仍均照常毋使八旗人等妄生疑慮
持諭知之蓋筆繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1152
鈐章

光緒三十四年十二月初四日内閣奉

上諭袁樹勛奏查明本年山東各屬秋禾被災情形
懇恩分別蠲緩錢漕一摺山東青城等九十三州
縣及收併衛所並鹽場本年六七月間雨水過多
秋禾致被傷損暨沿河一帶被淹村莊若將應徵
錢漕照常徵收民力實有未逮加恩著照所請所
有成災最重之青城縣屬各村莊應徵本年錢糧

漕米漕倉等項全行蠲免其餘成災輕重不等東
平州等州縣應徵錢漕等項按照單開各村莊地
畝分別蠲緩該撫即刊刻謄黃徧行曉諭務使貧
患均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意
餘著照所議辦理該部知道單併發欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1153
鈐章

光緒三十四年十二月初四日内閣奉

上諭李經邁奏滬陳下情懇請開缺一摺浙江按察
使李經邁著准其開缺欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

1154
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史齊忠甲奏財政困難亟宜開源節流以裕
國帑摺交會議政務處併度支部知道欽此

軍機大臣署名

臣張
臣鹿
臣袁

1155
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨法部奏職官報効鉅款協助建築監獄經費接
案請獎各摺片二品銜江西試用道蘇東樞著以

十二月初四日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

四品京堂候補鹽運使銜檣柳嶼副領事戴春榮
著以道員分省補用並賞加二品銜欽此

軍機大臣署名

十二月初四日

臣奕
臣張
臣鹿
臣袁

1156
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨度支部奏議覆岑春煊奏湖南澧州等屬被災
請開辦賑捐一摺依議欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿

臣表

十二月初五日

1157 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨郵傳部奏變通鐵路免價減價辦法擬訂章程
摺單各一件又奏擬訂新奉吉長鐵路借款續約
摺單各一件均著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初五日

1158 鈐章

光緒三十四年十二月初五日內閣奉

上諭浙江按察使著李傳元補授欽此

1159 鈐章

光緒三十四年十二月初五日內閣奉

上諭陳夔龍奏勘明湖北各屬被淹受旱輕重情形
請分別蠲緩新舊錢糧漕南銀米等項開單呈覽
一摺湖北本年入夏以來霖潦為災江河又復成
漲隄埝多有潰決交秋後雨澤愆期高阜之區開
受乾旱收成均形歉薄若將應徵錢糧漕米等項
照常徵收民力實有未逮加恩著照所請將被災
之松滋等各廳州縣村莊應徵新賦錢糧漕米等
項並原緩節年銀米酌量輕重情形分別蠲緩以
紓民力該督即按照單開詳細數目刊刻謄黃備
行曉諭務使音惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷
軫念民艱至意除著照所議辦理該部知道單二
件併發欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1160 鈐章

軍機大臣 字寄

民政部 光緒三十四年十二月初六日奉

上諭有人奏各省巡警專橫無法擾民滋事請通飭

各省照章辦理一摺著民政部通咨各督撫轉飭

所屬巡警官弁嗣後民間事故非違犯警章不得

藉端滋擾任意干涉以安民生原摺著鈔給閱看

欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣表 假

1161 鈐章

軍機大臣 字寄

兩江總督瑞 安徽巡撫朱 光緒三十四年十月督督本

上諭有人奏皖省吏治窳敗民困愈殘請飭查辦嚴

懲一摺著瑞方朱家寶按照所參各員確切查明

據實具奏毋稍徇隱原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣表 假

分寄

監國攝政王鈐章軍機大臣署名原件寄至江甯

1162 鈐章

軍機大臣 字寄

河南巡撫岑 光緒三十四年十二月初六日奉

上諭有人奏駐紮洛陽嵩縣宜陽三縣防營管帶謝

寶勝縱兵擾民較刀匪尤劇等語著岑重懲按照

所參各節確切查明據實具奏毋稍徇隱原片著

鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1163 鈔章

軍機大臣 字寄

四川總督趙 吏部 光緒三十四年十一月初旨奉

上諭有人奏著四川勸業道周善培深刻險詐肆行

跋扈等語著趙爾巽按照所參各節確切查明據

實具奏毋稍徇隱並著吏部查明該道出身有無

捏冒原片均著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

1164 鈔章

軍機大臣 字寄

四川總督趙 光緒三十四年十二月初六日奉

上諭有人奏四川巡警局提調候補直隸州路廣鍾

指揮警兵砍傷學生並有傾陷善良朦混捏稟情

事著趙爾巽按照所參各節確切查明據實具奏

毋稍迴護原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1165
鈐章

光緒三十四年十二月初六日內閣奉

上諭陳夔龍奏鄂境川漢鐵路與粵漢鐵路相輔為用請簡大臣兼充督辦一摺前因粵漢鐵路關繫重要特派大學士張之洞為督辦大臣鄂境川漢與粵漢兩路本屬相輔自應聯為一氣方能交速成功著派張之洞兼為督辦鄂境川漢鐵路大臣會商郵傳部湖廣總督督飭在事官紳認真籌款興辦即責成張之洞力任勞怨剔除弊端嚴定期限因時制宜主持定斷郵傳部暨湖廣總督均須實力協助不得掣肘以一事權而重路政欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

1166
鈐章

光緒三十四年十二月初六日內閣奉

上諭浙江督糧道員缺著王季寅補授欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

1167
浙江督糧道員缺請

旨簡放

1168
鈐章

光緒三十四年十二月初六日內閣奉

上諭湖北黃州府知府員缺著麒麟補授欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世

1169 鈐章

光緒三十四年十二月初七日欽奉

呈下改諭旨內務府奏已酉年大運綢緞等項應否照舊派辦摺著覈實派辦欽此

軍機大臣署名

臣張
臣鹿
臣袁

1170 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史傅壽奏請將邊疆各缺慎重用人摺會議政務處知道欽此

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

全鈔摺交會議處

軍機大臣署名

1171 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史傅壽奏剛後遇有祭祀及朝賀大典擬請嚴訂陪祀及行禮各章程一片著該衙門議奏欽此

軍機大臣署名

十二月初七日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

十二月初七日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

1172 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史俾壽奏請飭各省督撫遇有京控各行業
件務須親提研鞫等語該衙門知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初七日

1173 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史俾壽奏請節減浮費興復海軍一摺該衙
門知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

1174 鈐章

光緒三十四年十二月初八日內閣奉

上諭浙江溫處道員缺著郭則澐補授欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初七日

臣張

臣鹿

臣袁

1175 浙江溫處道員缺請

旨簡放

光緒三十四年十二月初八日內閣奉

上諭那桐等奏查驗第三期報到薦舉各員分別加
 考開單呈覽一摺所有湖南郴州直隸州知州譚
 承元前候補直隸州知州河南鎮平縣知縣徐壽
 茲河南候補知縣陳文藻陝西舉人杜良奎揀選
 知縣周務學安徽廩生胡元吉著查驗大臣那桐
 等帶領引見著外務部右丞外務部右參議張蔭
 棠候補四品京堂渠本翹候補五品京堂梁士詒
 殺虎口監督度支部郎中林景賢法部京師高等
 檢察廳檢察官候選道朱孫第湖南辰沅永靖道
 江毓昌江西補用道曹樹藩湖北候補道錢紹楨
 四川試用道鄧維琪廣西候補道劉人熙在任候
 補道江西撫州府知府王乃徵在任候補道雲南
 雲南府知府秦樹聲吉林補用知府戚朝卿候補
 知府吉林伊通州知州金永湖南候補知府靖州
 直隸州知州金恭鏡著自本月初十日起按照名
 次先後每日三員呈遞膳牌候召見如是日未
 經召見仍於次日預備其餘各員以次遞推欽此

軍機大臣署名

臣 奕
 臣 世
 臣 張
 臣 鹿
 臣 袁

滿頭班

花翎領班三品章京吳芳
 花翎二品銜幫領班四品章京文年
 四品銜在任即選知府選缺後以道員補用章京郎中成俊
 四品銜章京郎中榮元
 在任即選道章京郎中鍾佩
 先換頂戴在任即選知府章京員外郎麟祥
 花翎三品銜章京侍讀裕德
 五品銜額外章京候補侍讀內閣中書海桂
 額外章京法部候補員外郎伊密揚阿
 漢頭班
 花翎領班三品章京劉毅孫
 幫領班四品章京胡彤恩
 章京員外郎劉慶篤

花翎四品銜章京候補主事趙國良

章京候補主事張潤

章京主事宋子聯

章京學部候補主事許寶銜

額外章京三品銜記名繁缺知府陸軍部候補郎中楊華

額外章京前工部候補主事曾文玉

花翎四品銜額外章京民政部郎中舒鴻貽

滿二班

花翎領班三品章京文徵

花翎幫領班四品章京聯綬

花翎三品銜選用知府章京郎中桂蔭

花翎三品頂戴章京郎中榮奎

花翎三品銜即選知府章京郎中常泰

章京候補主事鴻恩

章京候補主事興廉

章京員外郎星格

額外章京法部錄事官松海

漢二班

領班三品章京易貞

幫領班四品章京趙廷珍

章京記名繁缺知府郎中孫荷經

三品頂戴章京員外郎陳鴻藻

章京候補主事盧文明

章京候補主事邢維經

五品銜章京候補主事徐廣思

三品頂戴章京員外郎萬雲路

章京主事雷廷壽

額外章京記名遇缺題奏翰林院編修楊涓

1178 鈐章

軍機大臣 字寄

四川總督趙 光緒三十四年十二月初九日奉

上諭吏部奏查明周善培出身履歷一摺前據趙爾

巽奏請以周善培試著四川勸業道摺內聲稱周

善培係浙江諸暨縣人由舉人知府到省保升道

員茲據吏部奏稱周善培係副貢由雙月選用主

事改捐知縣遞捐道員指分四川試用並非舉人

其道員亦非保升等語著趙爾巽查明該員出身

因何歧異有無捏飾據實具奏原摺著鈔給閱看

欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1179 鈐章

光緒三十四年十二月初九日内閣奉

上諭致任大學士王文韶器識深穩才具優長由部

屬簡授外任受

先朝特達之知洵推兼圻勤勞夙著嗣由直隸總督宣

召來京參預機務晉替綸扉服官五十餘年精敏

勤慎克稱厥職上年因病奏請開缺陳懇懇切准

其致仕馳驛回里本年因鄉舉重逢賞給太子太

保銜方冀長承恩眷克享遐齡茲聞溘逝悼惜良

深著加恩追贈太保照大學士例賜卹任內一切

處分悉予開復應得卹典該衙門查例具奏伊子

農工商部郎中王慶申著以道員用伊孫王任孫

江蘇補用道著交軍機處存記用示篤念耆臣至

意欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1180 光緒二十三年五月十六日内閣奉

上諭致任大學士張之萬老成練達學問淵長由道

光丁未科一甲一名進士授職修撰入直上書房

疊受

先朝知遇之隆洵推兼圻勤勞夙著嗣由直隸總督

後宣召來京簡任正卿參預機務晉替綸扉服官

五十餘年謹慎小心允稱厥職上年因病屢次奏

請開缺懇經寬予假期俾得從容調理刑因陳懇
懇切准其致仕並賞食全體方翼長承恩孝克享
期頤茲聞溢逝悼惜良深加恩著賞給陀羅經被
派郡王銜貝勒載濂帶領侍衛十員即日前往奠
醊晉贈太保照大學士例賜卹入祀賢良祠任內
一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例具奏
靈柩回籍時並著沿途地方官妥為照料伊子刑
部員外郎張瑞蔭著俟服闋後以本部郎中補用
伊孫張元驥著賞給舉人准其一體會試用示篤
念者臣至意欽此

1181 光緒十八年三月初二日內閣奉

上諭致仕大學士閻敬銘清勤直亮練達老成由部
屬於咸豐年間調赴湖北軍營辦理糧臺存計著
臬棠

穆宗毅皇帝特達之知擢任山東巡撫因病乞退放補
授工部右侍郎以舊疾未痊辭不赴職朕御極後
宣召朱京簡授正卿參預機務晉贊綸扉宣力有
年克勤厥職嗣因患病開缺回籍茲聞溢逝悼惜

殊深著加恩追贈太子少保銜照大學士例賜卹
任內一切處分悉予開復應得卹典該衙門察例
具奏用示篤念者臣至意欽此

1182 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨鳳山奏報銷上年分近護陸軍各鎮收支餉單
各款一摺又奏運往軍米請免完稅釐片人奏王
英楷幫辦各鎮應需餉餉奏明辦理片均著該部
知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣袁

十二月初九日

1183 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史傳書奏各省佐臬微員品類不齊宜嚴加
甄別等語吏部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初九日

1184 鈐章

恭擬引

見人員禮節

擬請於

養心殿正中

御座東側設

監國攝政王座西嚮並設案帶領引

見大臣由

殿左門入先向

御座前跪

奏起立於

監國攝政王座側立遞膳牌引

見各員照例分排帶領於光緒三十四年十二月初

九日由軍機處呈

覽奉

旨允准欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1185 鈐章

光緒三十四年十二月初十日內閣奉

上諭前據度支部奏清理財政宜先明定辦法一摺

當經飭交會議具奏茲據覆奏朕詳加披覽與度

支部原奏大致相符更有補原奏所不足之處全

國財政攸關不厭詳求著將原奏覆奏各摺件一併再交度支部妥慎斟酌另行具奏並筆繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1186 鈐章

軍機大臣 字寄

陝西巡撫恩 光緒三十四年十二月初十日奉

上諭都察院代奏陝西京官呈控蒲城縣知縣李體

仁毀學仇路濫刑斃命學司徇庇釀成重案一摺

著恩壽按照所呈各節秉公確查認真究辦據實

具奏毋稍迴護原呈著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕劻

1187 鈐章

軍機大臣 字寄

東三省總督徐 光緒三十四年十二月初十日奉

上諭有人奏東三省鹽務改設官局弊害太深請

定章程一摺著徐世昌體察情形妥定辦法毋令

不肖官吏蠹國殃民原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

1188 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨翰林院侍講阿聯奏預籌八旗生計首重教育
請特設學務處摺又奏請飭學部將普通學年略
為縮短片又奏請將蒙古子弟留學京師特設一
班以宏造就片會議政務處議奏欽此

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初十日

1189 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨翰林院侍講榮光奏變通旗制預備立憲基礎
摺變通旗務處大臣知道欽此

軍機大臣署名

1190 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨都察院奏代遞山東湖南貴州三省京官等呈
稱已故雲貴總督張亮基功德在民請援案代奏
籲懇加恩予諡一摺張亮基著准其予諡該衙門
知道欽此

十二月初十日

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初十日

1191 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨會議政務處奏議覆錫良奏連請一律改縮集
煙期限一片又奏請派勞乃宣等充幫提調片均
著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕 倣

臣世

臣張

臣鹿

臣袁

十二月初十日

1192 鈐章

光緒三十四年十二月十一日內閣奉

上諭外務部會辦大臣大學士那桐著在軍機大臣
上學習行走藍筆繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕 倣

臣世

1193 鈐章

光緒三十四年十二月十一日內閣奉

上諭載澍著賞給乾清門頭等侍衛藍筆繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕 倣

臣世

臣張

臣鹿

臣張

臣鹿

1194 鈐章

光緒三十四年十二月十一日內閣奉

上諭軍機大臣外務部尚書袁世凱夙承

先朝屢加擢用朕御極後復予懋賞正以其才可用俾
効馳驅不意袁世凱現患足疾步履維艱難勝職
任袁世凱著即開缺回籍養病以示體恤之至意
藍筆繳進欽此

軍機大臣署名

臣奕 做

臣世

臣張

臣鹿

1195 鈐章

光緒三十四年十二月十一日內閣奉

上諭御史崇興奏請整頓京控辦法一摺京控章程關係民命豈容任意遲延嗣後凡由都察院奏交咨文各案件著各督撫恪遵舊例辦理儘有逾限不結或該督撫不將承審銜名送院等情即由都察院奏參懲處以警疲玩而恤民瘼欽此

軍機大臣署名

臣奕 做

臣世

臣張

臣鹿

1196 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨憲政編查館會奏遵設專科考核議院未開以前逐年籌備事宜酌擬章程摺單各一件又會奏議覆陳啟泰奏編修蔣炳章充諮議局籌辦處協理請免扣資俸摺均著依議欽此

交憲政編查館

軍機大臣署名

臣奕 做

臣世

臣張

臣鹿

十二月十一日

1197 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史崇興等奏請飭吏部嚴定京察截取章程等語著吏部議奏欽此

交吏部

軍機大臣署名

臣奕 做

1198
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨此次驗看州縣事暫列入最優等知府用特用
儘先補用直隸州知州軍機處存記山東益都縣
知縣李祖年著在任以知府即選欽此

交內閣

軍機大臣署名

十二月十一日

臣世
臣張
臣鹿

十二月十一日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿

1199
鈐章

光緒三十四年十二月十二日內閣奉

上諭外務部尚書會辦大臣著梁敦彥署理欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

1200

尚書等名單

協辦大學士尚書鹿
吏部尚書陸潤庠
民政部尚書善耆
度支部尚書載澤
禮部尚書溥良
學部尚書榮慶
陸軍部尚書鐵良
法部尚書戴鴻慈
農工商部尚書溥頤
郵傳部尚書陳璧
理藩部尚書壽耆

1201

都察院都御史張英麟
尚書呂海寰

侍郎等名單

外務部左侍郎聯芳

右侍郎梁敦彥

吏部左侍郎唐景崇

右侍郎于式枚

民政部右侍郎趙秉鈞

度支部左侍郎紹英

右侍郎陳邦瑞

禮部左侍郎景厚

右侍郎郭曾忻

學部左侍郎嚴修

右侍郎寶熙

陸軍部左侍郎壽勳

右侍郎蔭昌

法部左侍郎紹昌

右侍郎沈家本

農工商部左侍郎熙彥

右侍郎楊士琦

郵傳部左侍郎汪大燮

右侍郎盛宣懷

理藩部左侍郎達壽

右侍郎恩順

倉場侍郎桂春

林紹年

大理院卿定成

1202
鈐章

光緒三十四年十二月十二日內閣奉

上諭本年十二月二十九日歲暮祫祭

太廟遣載功恭代行禮二十八日告祭

太廟後殿派載功行禮

中殿派毓楠行禮二十九日祭

太歲壇派毓歧行禮兩廡派祺德瑞豐各分獻欽此

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

1203 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨將來

皇考德宗景皇帝奉安

山陵擇定佳壤應擬陵名字樣著內閣敬謹撰擬進呈

請旨欽此

臣張

臣鹿

臣那

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

做

十二月十二日

1204 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨貝子溥倫等奏查勘

陵寢地勢招知道了同說留中又片奏所用川資等項

請作正開銷等語著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

做

十二月十二日

1205 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨

大行太皇太后几筵前行二滿月禮由

監國攝政王代詣行禮欽此

軍機大臣署名

1207 鈐章

光緒三十四年十二月十三日內閣奉

上諭前因京師入冬未經得雪曾派恭親王溥偉等

恭代拈香虔中祈禱旬日以來尚未得有雪澤允

宜再申禱顯著於本月十六日仍派恭親王溥偉

敬詣

大高殿恭代拈香

時應宮仍派貝勒載洵

昭顯廟仍派貝勒載潤

宣仁廟仍派貝勒毓朗

凝和廟仍派貝子銜鎮國將軍載振同於是日分

詣拈香欽此

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1206 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨

大行皇帝几筵前行二滿月禮由

監國攝政王代詣行禮欽此

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十二日

十二月十二日

1208
份章

光緒三十四年十二月十三日內閣奉

上諭軍機大臣上學習行走大學士那桐差務較繁
著開去步軍統領差使步軍統領著毓朗補授欽此

軍機大臣署名

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1209

尚書等名單

署外務部尚書梁敦彥

吏部尚書陸潤庠

民政部尚書善耆

度支部尚書載澤

禮部尚書溥良

學部尚書榮慶

陸軍部尚書鐵良

1210

法部尚書載鴻慈

農工商部尚書溥頤

郵傳部尚書陳璧

理藩部尚書壽耆

都察院都御史張英麟

侍郎等名單

外務部左侍郎聯芳

吏部左侍郎唐景崇

右侍郎于式枚

署右侍郎瑞良

署民政部左侍郎烏珍

右侍郎趙秉鈞

度支部左侍郎紹英

右侍郎陳邦瑞

禮部左侍郎景厚

右侍郎郭曾忻

學部左侍郎嚴修

右侍郎寶熙

陸軍部左侍郎壽勳

右侍郎蔭昌

法部左侍郎紹昌

右侍郎沈家本

署右侍郎王璟

農工商部左侍郎熙彥

右侍郎楊士琦

郵傳部左侍郎汪大燮

署左侍郎吳郁生

右侍郎盛宣懷

署右侍郎沈雲沛

理藩部左侍郎達壽

右侍郎恩順

倉場侍郎桂春

林紹年

都察院副都御史伊克坦

陳名侃

1211 八旗都統名單

那彥圖

禮親王世鐸

符珍

恭親王溥偉

睿親王魁斌

順承郡王訥勒赫

溥倫

博迪蘇

增崇

景澧

奎俊

繼祿

芬中

葛寶華

壽蔭

張德彝

鳳山

李殿林

八旗副都統名單

成章

色楞額

桂祥

崇勳

奎順

明啟

希明河

秦綬章

祥普

秀吉

兜敏

景恩

全福

毓秀

伊立布

敬昌

英信

善豫

烏珍 署民政部侍郎

誠全

祥年

塔克什訥

文泰

春祿

善旌

王士珍 署江蘇提督

溥偉

王英楷

吉陞

達春

瑞啟

恆順

瑞豐 內閣學士

承祐

棍布扎布

常山

玉璋

岳樑

豐陞阿

段祺瑞

卓凌阿

都凌阿

蘇嚕岱 尚未到京

慶綿

澄深

希璋 假

顧璜

馮國璋

志鈞

連魁

訥欽泰

額勒春

文樸

良泰

1213 鈴章

軍機大臣欽奉

諭旨陸軍部會奏議覆端方奏改編長江要塞扼重

江陰請籌撥底款一摺又議覆要塞專門人員監

視工程片均著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十三日

1214 鈴章

軍機大臣欽奉

諭旨太醫院奏請簡放左右院判一摺著仍由管理

太醫院大臣請旨辦理欽此

軍機大臣署名

臣奕 假

1215
鈐章

軍機大臣 字寄

法部 大理院 直隸總督楊 光緒三十四年

十二月十四日奉

上諭有人奏京津密判廳弊竇甚多請嚴定章程揀
選判員一摺著法部大理院直隸總督按照所參
各節確切查明據實具奏並著嚴定章程力除積
弊原摺均著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

十二月十三日

臣世 臣張 臣鹿 臣那

1216
鈐章

軍機大臣 字寄

直隸總督楊 光緒三十四年十二月十四日奉
上諭有人奏東鹿縣知縣閻駿業在

國服期內為伊妻做壽並有信用門丁招搖索詐等情

事著楊士驥按照所指各節確切查明據實具奏

毋稍徇隱原片著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣那

臣鹿 臣那

1217
鈐章

軍機大臣 字寄

湖廣總督陳 光緒三十四年十二月十四日奉

上諭有人奏兩淮運司趙濟彥威權自擅縱勇殃民

一摺著陳夔龍按照所參各節秉公確查據實具

奏毋稍迴護原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1218 鈐章

軍機大臣 字寄

兩江總督端 江蘇巡撫陳 光緒三十四年

十二月十四日奉

上諭有人奏江蘇丹徒縣知縣王得庚迴護劣紳欺

法使已等語著端方陳啟泰按照所參各節確切

查明據實具奏毋稍徇隱原片均著鈔給閱看欽

此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕 假

臣世

臣張

臣鹿

臣那

鈐章署名原件寄交兩江總督

1219 鈐章

光緒三十四年十二月十四日內閣奉

上諭前經降旨派貝子溥倫等於

東陵

西陵附近地方敬謹相度

皇考德宗景皇帝山陵昨據溥倫等奏稱謹看附近

西陵之金龍峪地勢寬平係屬上吉之地等語金龍峪

謹定為

崇陵即行擇吉興工著派載洵溥倫載澤鹿傳霖敬謹

承修並著慶親王奕劻會同辦理一切事宜欽此

軍機大臣署名

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1220 鈐章

光緒三十四年十二月十四日內閣奉

上諭著派總管內務府大臣景灃在

大行太皇太后几筵前恭辦喪禮協辦大學士鹿傳霖

改派在

大行皇帝几筵前恭辦喪禮欽此

軍機大臣署名

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1221 鈐章

光緒三十四年十二月十四日內閣奉

上諭寶茶奏查明陽曲等廳縣被災地畝請分別蠲

緩錢糧一摺山西省南北各屬本年春雨愆期夏

秋以後又復雨暘不特兼以冰雹為患成災歉收

暨水冲沙融不能墾復地畝若將應徵新舊糧賦

照常徵收民力實有未逮加恩著照所請所有陽

曲等十四廳縣應徵新舊錢糧著按照成災分數

分別蠲緩遞緩停徵展停以紓民困該撫即將單

開詳細數目刊刻謄黃徧行曉諭務使貧患均沾

毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意餘著照

所議辦理該部知道單併發欽此

軍機大臣署名

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1222 鈐章

光緒三十四年十二月十四日內閣奉

上諭湖南常德府知府員缺著汪鳳瀛補授欽此

軍機大臣署名

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1223 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨周爰誦奏請端學風以遏亂萌一摺著學部知

道欽此

軍機大臣署名

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十四日

1224 鈐章

軍機大臣 字寄

湖廣總督陳 光緒三十四年十二月十五日奉

上諭有人奏鄂省被淹清隄請飭速籌修固以工代

賑一摺著陳夔龍按照所陳各節體察情形妥為

辦理原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕劻

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十五日

1225 鈐章

光緒三十四年十二月十五日內閣奉

上諭第三期保薦人才經派那桐等查驗詢問茲已

一律召見引見完竣所有單開之著外務部右丞外務

部右參議張蔭棠著以外務部左右丞引見簡放

候補四品京堂渠本魁著以三品京堂候補記名
 丞參候補五品京堂梁士詒著仍以丞參記名請
 旨簡放殺虎口監督度支部郎中林景賢著以道
 員記名簡放法部京師高等檢察廳檢察官候選
 道朱孫第著以道員記名簡放湖南辰沅永靖道
 江毓昌著以四品京堂候補江西補用道曹樹藩
 著仍以道員記名簡放湖北候補道錢紹楨著
 以道員記名簡放四川試用道鄒維琪著以道員
 仍發原省選缺即補廣西候補道劉人熙著以道
 員記名簡放在任候補道江西撫州府知府王乃
 徵著以道員記名簡放在任候補道雲南府知府
 秦樹屏著以道員記名簡放吉林補用知府戚朝
 卿著以知府記名簡放候補知府吉林伊通州知
 州金永著在任以知府儘先即補湖南候補知府
 靖州直隸州知州金蓉鏡著在任以知府儘先即
 補湖南郴州直隸州知州譚承元著在任以知府
 候補前候補直隸州知州河南鎮平縣知縣徐壽
 茲著以直隸州知州儘先即補陝西舉人杜良奎
 著以知縣分省即補揀選知縣周務學著仍以知

縣分省即補安徽廬生胡元吉著以知縣分省補
 用欽此

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

1226 鈐章

光緒三十四年十二月十五日內閣奉

上諭徐世昌奏查明奉省新民錦縣廣甯綏中四府
 縣被災地畝懇恩蠲緩錢糧一摺奉天新民等處
 各項地畝本年夏秋間被水被雹傷毀田禾淹斃
 人口沖坍民房該省兵燹之後連年荒歉尚未復
 元茲復被災實堪軫念加恩著照所請所有新民
 錦縣廣甯綏中四府縣並巨流河等界旗民地畝
 本年應徵錢糧著按照各村屯被災分數分別蠲
 緩如未經奏請以前業經完戶長完者准其流抵
 次年正賦其未被災之錦屬各州縣秋成歉薄並

著將歷年民欠緩徵以紓民力該督即刊刻曉諭
編行曉諭務使資惠均霑毋令吏胥舞弊用副朝
廷軫念民艱至意該部知道欽此

〔軍機大臣署名〕

臣奕 倣

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1227
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史涂國威奏湖北賑捐收數有限請准代收

免保費銀一摺著度支部議奏欽此

〔軍機大臣署名〕

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十五日

1228
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨所有五等世爵及各項世職均著由今日派出
驗放之大臣於十六十七日在內閣驗看欽此

〔軍機大臣署名〕

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十五日

1229
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨郵傳部奏滬甯鐵路工程完竣情形摺入奏請
銷京漢鐵路借款行車各合同並接收情形摺的

知道了又奉派候選道鄒清濂充總辦並刊發閱防片依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十五日

1230 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨憲政編查館奏議覆度支部奏清理財政一摺著仍交度支部詳慎妥酌再行具奏單併發欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

另鈔交憲政館

十二月十五日

臣那

1231 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨郵傳部奏收回東清全路日俄電報訂立合同繕單呈覽一摺著外務部知道單四件併發欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十五日

1232

京外各衙門保薦人才員名單

著外務部右丞外務部右參議張蔭棠

擬請以外務部左右丞請

旨簡放

候補四品京堂乘本魁

擬請以三品京堂候補

記名丞參候補五品京堂梁士治

擬請仍以丞參記名請

旨簡放

殺虎口監督度支部郎中林景賢

擬請以道員記名

簡放

法部京師高等檢察廳檢察官候選道朱孫第

擬請以道員記名

簡放

湖南辰沅永靖道江毓昌

擬請以四品京堂候補

江西補用道曹樹藩

擬請仍以道員記名

簡放

湖北候補道錢紹楨

擬請仍以道員記名

簡放

四川試用道鄧維琪

擬請以道員仍發原省遇缺即補

廣西候補道劉人熙

擬請以道員記名

簡放

在任候補道江西撫州府知府王乃微

擬請以道員記名

簡放

在任候補道雲南雲南府知府秦樹聲

擬請以道員記名

簡放

吉林補用知府戚朝卿

擬請以知府記名

簡放

候補知府吉林伊通州知州金永

擬請在任以知府儘先即補

湖南候補知府靖州直隸州知州金蓉鏡

擬請在任以知府儘先即補

湖南郴州直隸州知州譚承元

擬請在任以知府候補

前候補直隸州知州河南鎮平縣知縣徐壽茲

擬請以直隸州知州儘先即補

陝西舉人杜良奎

擬請以知縣分省即補

揀選知縣周務學

擬請仍以知縣分省即補

安徽廩生胡元吉

擬請以知縣分省補用

1233 鈐章

光緒三十四年十二月十六日內閣奉

上諭外務部右侍郎著鄒嘉來署理欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1234 鈐章

光緒三十四年十二月十六日內閣奉

上諭恭修

崇陵工程著派慶親王奕 總司稽查毋庸會同估修

欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1235 鈐章

光緒三十四年十二月十六日內閣奉

上諭袁樹勛奏參劾戒埋不力各員一摺鴉片久懸

厲禁凡屬臣庶皆應被滋自新茲據奏稱同知蔡

思榮等自甘沈痾肯難稍事姑容山東武定府同

知蔡思榮署蒲台縣知縣候補知縣蔡敦仁金鄉

縣知縣署陽信縣知縣陳冠霖化縣知縣鍾樹森

館陶縣典史韓珠森煙癮均未斷淨聲名亦復平常候補知府穆文開候補同知李友鑫候補通判楊浚基候補知縣徐受謙兆蘭張祖謙郭鴻賓王乃禎黃乃漢劉邦彥候補府司獄錢煜齡候補監大使朱光翼試用從九楊慎修候補典史史書雲試用典史楊維翰候補守備高岱齡張殿英均屬嗜好甚深或巧為掩飾或情形顯著均著一併革職黃乃漢劉邦彥曾充禁煙檢查委員有意欺朦大員職守並著永不敘用候補知府唐式邨荆震生候補知州謝瑞候補通判孫震候補知縣范文華姚近曠候補布經歷陶元錦試用縣丞王毓華試用典史郭慶溥等煙癮未除精神短少著以原品休致候補知府謝錦甲候補直隸州知州陳爾廷等沾染嗜好不知振作著勒令回籍餘著照所議辦理該部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張

1236 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨前出使德國大臣孫寶琦奏保堪勝使才人員片沈瑞麟著交軍機處存記欽此

軍機大臣署名

臣鹿
臣那

1237 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨前出使德國大臣孫寶琦奏請賞德員寶生摺著照所請外務部知道單併發欽此

十二月十六日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 那

十二月十六日

1238 鈐章

光緒三十四年十二月十七日內閣奉

上諭明年正月初十日孟春時享

太廟遣載澗恭代行禮

後殿派毓楠行禮欽此

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 那

1239 鈐章

光緒三十四年十二月十七日內閣奉

上諭朕兼祧

皇考德宗景皇帝梓宮奉移

山陵著欽天監於宣統元年三月內敬謹選擇吉期其奉

欽此

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 那

1240 鈐章

光緒三十四年十二月十七日內閣奉

上諭外務部左丞著張蔭棠著理吳宗廉著署理右

丞左參議著周自齊著署理曹汝霖著署理右參議

欽此

軍機大臣署名

1241
鈐章

軍機大臣而奉

諭旨都察院代遞江西舉人候選鹽大使彭天爵條
陳時勢艱難請先策勵人心以激公忠而維大局
呈一件著會議政務處知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

十二月十七日

1242
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨度支部奏議覆端方等奏請將前緩舊摺免其
補運並提存腳價撥解部庫一摺著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

十二月十七日

1243
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨都察院代遞侍衛王兆基條陳請推廣武員選
舉資格呈一件著憲政編查館知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世

十二月十七日

臣張
臣鹿
臣那

1244
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨都察院代遞吏部員外郎黃允中條陳新政綱
要呈二件均著會議政務處知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

十二月十七日

1245
十二月十五日引

見人員

查驗大臣帶領六人

理藩部二人

共八人

1246
鈐章

光緒三十四年十二月十八日內閣奉

上諭安徽皖南道員缺著李清芬補授欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

1247
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨日勒載濤等奏遵擬詳細稽察章程並人員執
事薪費數目一摺單二件又奏籌撥開辦經費片
又奏整頓內務府三旗護軍驍騎等營辦法片均

著依議又奏列用闕防日期片知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十八日

1248 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨會議政務處奏議覆端方奏敬陳軍政大綱請
擇要施行一摺又議覆徐紹楨奏請實行徵兵制
度並建設軍諮府一片均著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

十二月十八日

臣那

1249 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨此次驗看州縣事實列入最優等直隸高陽縣
知縣暢文藻著在任以直隸州知州候補欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月十八日

○ 1250

旨著在任以直隸州知州候補

加發欽州縣卡等因奉旨

因出發下隨卡候選

1251 志本處前領班章京候補五品京堂楊壽振跪

已服闋處仍在領班章京上行走謹

奏

光緒三十四年十二月十八日奉

旨知道了欽此

1252 鈐章

光緒三十四年十二月十九日內閣奉

上諭

皇祖妣孝欽顯皇后梓宮奉移著欽天監於宣統元年

九月內敬擇吉期至

永遠奉安吉期著於十月內敬謹選擇具奏欽此

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

1253 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨吏部奏覈給恭修

玉牒出力各員議敘繕單呈覽摺著依議單併發欽此

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

十二月十九日

1254 鈐章

軍機大臣 字寄

河南巡撫吳 光緒三十四年十二月二十日奉

上諭有人奏前調署河南鄆州知州原武縣知縣溫

紹梁辦理操切等語著吳重憲按照所察各節確

切查明據實具奏毋稍徇隱原片著鈔給閱看欽

此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1255 鈐章

光緒三十四年十二月二十日內閣奉

上諭前據憲政編查館奏議覆度支部奏清理財政章程當以財政關係重大不厭求詳仍飭度支部妥酌具奏茲據度支部奏稱該館議覆章程增益條文益加周密妥善可行等語方今財政艱難內外交困必以廓清積弊確定豫算為先全賴部臣疆臣和衷共濟各飭所屬共夫公忠按照所擬章程實力奉行認真辦理用副朝廷慎重度支之至意單併發欽此

軍機大臣署名

臣奕

1256 鈐章

光緒三十四年十二月二十日內閣奉

上諭湖北漢陽鎮總兵員缺著張有亮補授欽此

軍機大臣署名

臣世

臣張

臣鹿

臣那

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1257 鈐章

軍機大臣署名

諭旨內務府會奏豫備達楠刺嘛差竣用過銀兩摺單各一件知道了又片奏照料達楠刺嘛及繕譯

等官津貼等項請飭度支部照數籌撥等語著依
議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十日

1258 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史王履康奏振興絲業請先於上海地方創
設生絲檢察所一摺著農工商部議奏欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

1259 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨鳳山奏請速行普通教育的擬大略辦法各摺
片均著學部議奏單一件片二件併發欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十日

臣那

1260 鈐章

光緒三十四年十二月二十一日內閣奉

上諭

菩陀峪

定東陵應修

神路營房工程著派紹英耆齡敬謹估修欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1261 鈐章

光緒三十四年十二月二十一日內閣奉

上諭明年三月十二日飛祀

皇考德宗景皇帝梓宮奉移

山陵暫安所有應行典禮並一切事宜著各該衙門及

直隸總督敬謹豫備欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

1262 鈐章

光緒三十四年十二月二十一日內閣奉

上諭馮汝駉奏查明江西被災各屬分別緩徵災緩

新舊錢漕等項開單呈覽一摺江西南昌等府各

屬本年春夏間雨水過多入秋以後又復亢旱被

災情形輕重不同收成均甚歉薄著將應徵新舊

錢漕等項照常徵收民力實有未逮加恩著照所

請所有勘實被災新建等廳縣並九江府同知所

轄之南九二衛及勘未成災民困未蘇之南昌等

縣併安義壽建昌等縣均著將應徵新舊錢漕

蘆課七餘分別緩徵遞緩以紓民力該撫即按照

原單所開各廳縣村莊頃畝分數暨應緩銀兩米

石各數刊刻謄黃編行曉諭務使實惠均霑毋任

吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意該部知道單

併發欽此

臣鹿

臣那

軍機大臣署名

1263 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨寶熙等奏

雍和宮大和齋工程應否緩修抑仍及時興辦一摺著
展緩數年再行修理欽此

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

十二月二十一日

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

1264 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨理藩部奏年例十二月二十三日常蒙古王公
及喇嘛等瓷器等物並帶領外邊行走蒙古王公
等引見一摺著於二十三日在養心殿帶領引見
停止筵宴照例頒賞欽此

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

十二月二十一日

1265 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史傅壽奏請嚴禁各省督撫濫保附保積弊
一摺著會議政務處知道欽此

軍機大臣署名

1267 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史俾壽奏局卡抽收稅釐請飭詳列告示及
罰款章程等語著度支部稅務大臣知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十一日

原件交度支部
鈔交稅務處

1268 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史俾壽奏外銷款項請歸度支部撥辦並酌
量加增督撫將軍津貼等語著度支部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

1266 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史俾壽奏請飭內外臣工用人不可稍存瞻
徇等語著吏部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十一日

十二月二十一日

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1269
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨郵傳部奏報京漢鐵路行車第二年收支各款
大概情形一摺知道了又奏遵設統計處擬定章
程表式並請刊本暫閱防摺單各一件著依議欽此

軍機大臣署名

十二月二十一日

臣張
臣鹿
臣那

十二月二十二日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

1270
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨農工商部奏職商創辦漢口水電各公司照章
懇請獎勵一摺著依議欽此

軍機大臣署名

十二月二十二日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

1271
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨內務府奏恭製
監國攝政王金冊應用若干頁數一摺著用六百
欽此

軍機大臣署名

臣奕

1273 十二月二十三日引
見人員

理藩部十人

1274 鈐章

軍機大臣 字寄

大學士孫 大學士那 光緒三十四年十二
月二十三日奉

上諭有人奏大臣虛糜國帑徇私納賄一摺著派大
學士孫家鼐那桐秉公查辦毋稍徇隱據實具奏
原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

原件交大學士孫

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

1272 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨義國南境地震災情甚重朝廷深為憫惻著頒
發帑銀五萬兩由外務部交義國駐京使臣迅速
匯寄災區以資拯濟而篤邦交欽此

軍機大臣署名

十二月二十二日

臣世 臣張 臣鹿 臣那

十二月二十二日

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

1275 鈐章

光緒三十四年十二月二十三日內閣奉

上諭明年九月二十七日

皇祖妣孝欽顯皇后梓宮奉移十月初四日

永遠奉安所有應行典禮並一切事宜各該衙門及直

隸總督敬謹預備欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張
假

臣鹿

臣那

1276 鈐章

光緒三十四年十二月二十三日內閣奉

上諭前因京師入冬未經得雪疊派恭親王溥偉等

恭代拈香虔中祈禱半月以來雖經得有微雪尚

未渥沛祥霽允宜再申禱額著於本月二十六日

仍派恭親王溥偉敬詣

大高殿恭代拈香

時應宮仍派員勒載洵

昭顯廟仍派員勒載潤

宣仁廟仍派員勒載朗

凝和廟仍派員于銜鎮國將軍載振同於是日分

詣拈香欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張
假

臣鹿

臣那

1277 鈐章

光緒三十四年十二月二十三日內閣奉

上諭明年正月二十日祭

祈穀壇遣莊親王載功恭代行禮欽此

軍機大臣署名

臣奕

1278 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨歲暮元旦

大行太皇太后

大行皇帝几筵前行禮

監國攝政王及貴冑百日孝之王公百官著仍服

縞素欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十三日

臣世
臣張
臣鹿
臣那

1279 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨

大行太皇太后几筵前歲暮禮由

監國攝政王代詣行禮欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十三日

1280 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨

大行皇帝几筵前歲暮禮由

監國攝政王代詣行禮欽此

軍機大臣署名

1281 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史謝堯誥奏吏治廢敗請嚴飭整頓一摺著
會議政務處會同吏部議奏欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

十二月二十三日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

1282 御史謝堯誥片奏一件於所請

諭旨內漏未繕寫謹擬將一摺二字改為各摺片字

奏 樣謹

1283 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨憲政編查館奏京旗選舉請歸順屬辦理並請
飭府尹充複選監督摺又奏請增設本館提調片
又奏請派本館參議等官片又奏請飭民政部劄
令內外城總廳派總管理員會辦初選事宜片均
著依議欽此

軍機大臣署名

十二月二十三日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

十二月二十三日

1284
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨陸軍部奏議復趙爾巽奏邊藏練兵請令遵議
復前奉先練川省應練兩鎮招著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十三日

1285
鈐章

軍機大臣 字寄

兩廣總督張 光緒三十四年十二月二十四

日奉

上諭有人奏廣東水師副將楊洪標貪婪索賄一摺
著張人駿按照所參各節確切查明據實具奏毋
稍徇隱原摺著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1286
鈐章

軍機大臣 字寄

安徽巡撫朱 光緒三十四年十二月二十四日奉

上諭有人奏極上縣知縣宋毓衡等與劣紳河南候
補同知許秉彝及府縣幕友丁役勾串用事濟總
行私等語著朱家寶按照所參各節確切查明據
實具奏毋稍徇隱原片著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

1287
鈐章

軍機大臣 字奇

安徽巡撫朱 光緒三十四年十二月二十四日奉

上諭有人奏皖省積荒待闕亟宜籌設公司推廣開

墾以興農業一摺著朱家寶按照所陳各節體察

情形酌量辦理原摺著鈔給閱看欽此

旨寄信前來

臣 鹿
臣 那

軍機大臣署名

臣 奕
臣 世
臣 張
臣 鹿
臣 那

1288
鈐章

光緒三十四年十二月二十四日內閣奉

上諭給事中朱斯廷奏清釐蠲緩積弊中明例章以

廣皇仁一摺我朝宗法以愛民為本遇有災歉立

沛恩施豈容不肖官吏任意舞弊若如該給事中

所奏張貼謄黃遲早無定緩徵逾緩弊弊不清種

種弊端殊負朝廷體恤民間之意凡遇有蠲緩恩

旨著各督撫速飭藩司電知各州縣迅貼謄黃毋

任延擱其蠲緩及帶徵分數均於中票內註明正

年年刊板不得任意朦混其已輸在官准流抵次

年正賦僅該州縣次年依舊催徵立予究辦以期

痛除積弊實惠及民欽此

軍機大臣署名

臣 奕
臣 世
臣 張
臣 鹿
臣 那

1289
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨理藩部奏本年來京之御前行走乾清門行走之蒙古王公台吉等領隨銜名可否照案呈遞一摺著照案呈遞欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十四日

1290 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨葉蒂索奏禁煙宜絕根源請分別辦理一摺該衙門知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

做

全鈔葉蒂索摺文 外務部 呈原大臣

十二月二十四日

臣鹿 臣那

1291 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨趙炳麟奏滿漢服制請飭催議覆一摺禮部議奏欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十四日

1292 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史趙炳麟奏條陳西南馬政一摺著陸軍部議奏欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張
假

臣鹿

臣那

十二月二十四日

1293 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史常徽奏整頓宗室旗產以固根本摺該衙門知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張
假

臣鹿

十二月二十四日

臣那

全鈔中微摺交宗人府
核辦處

1294 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨常徽片奏前法部奏改良監獄經費不敷請將哈薩克應領銀四萬兩悉數撥用應請查核布多參贊大臣詢問哈氏是否果領報効等語法部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張
假

臣鹿

臣那

十二月二十四日

1295 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨慶綿泰八旗生計敬陳管見一摺陸軍部議奉
欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張
敬

臣鹿

臣那

十二月二十四日

1296 鈐章

光緒三十四年十二月二十五日內閣奉

上諭載洵等奏請定

崇陵規制一摺著奉照

惠陵規制敬謹興修欽此

軍機大臣署名

臣奕

1297 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨貝勒載洵等奏

崇陵工程重要遠派監督各員以資查辦一摺著依議
又奏請頒發關防片知道了欽此

軍機大臣署名

臣世

臣張

臣鹿

臣那

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十五日

1298
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨鹿傳霖等奏兩案要工木料運齊分別報銷開
單呈覽一摺又奏派曾毓雋接充監督片又奏分
發四川知縣鄭寶麟留工當差片均著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十五日

1299
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨憲章奏請自備資斧前往西洋留學一摺著照
所請該衙門知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

1300
鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨吏部奏軍機處領班章京幫領班章京應否比
照三四品京堂一律給廕及民政部內外城總務
處僉事是否毋庸給廕一片軍機處領班章京等
著准其給廕內外城總務處僉事毋庸給廕欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十五日

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十五日

1301 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨度支部奏妥議清理財政辦法一摺著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十五日

1302 鈐章

光緒三十四年十二月二十六日內閣奉

上諭吳重熹奏勘明豫省被災各州縣請蠲緩舊欠錢漕一摺本年河南開封等府州所屬地方春夏以來雨澤稀少入秋後又復霖雨為災以致早晚秋禾收成歉薄若將新舊錢漕同時並徵民力實有未逮加恩著照所請所有祥符等四十五州縣民欠舊賦著分別展緩以紓民力該撫即按照單

開各州縣村莊頃畝銀兩米石各數刊刻謄黃編行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意該部知道單併發欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1303 鈐章

光緒三十四年十二月二十六日內閣奉

上諭陳啟泰奏舉劾正佐教雜各員一摺江蘇太倉直隸州知州姚炳熊署泰州知州朱枚准補上元縣知縣署江都縣事袁國鈞長洲縣知縣署上海縣事李超瓊太倉州州同傅振海青浦縣教諭陳志堅以上各員既據該撫臚陳事蹟均著傳旨嘉獎高瀆縣知縣馬枚年老才庸難期振作豐縣知縣王之全疲軟無能事多廢弛松江府管糧通判

劉興基辦楚蘇混才質庸滑蘇州布政司理問姚
 永福擅理民事行止不檢候補知縣孫鼎陞控報
 夫竊行同無賴候補知縣富光祖藉差需索不顧
 聲名溧陽縣教諭顧懋熙不安本分訟師仗倚金
 壇縣教諭顧澤亮袒護劣生干預公事前署寶山
 縣訓導委用訓導楊錫章言動乖謬誣讎長官前
 署武進縣典史試用典史汪懷擅縱押犯頗滋物
 議均著即行革職吳縣知縣金元娘久病不愈難
 膺首劇著勒令休致碭山縣知縣秦獻祥年力就
 衰諸事頗廢惟文理尚優著以教職歸部銓選該
 部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
 臣世
 臣張
 臣鹿
 臣那

1304 鈴章

光緒三十四年十二月二十七日內閣奉

上諭前因京師入冬以來雪澤稀少曾派恭親王溥

偉敬詣

大高殿恭代拈香並派員勒載洵等分詣

時應宮等處拈香虔申祈禱仰荷

昊蒼眷佑迭沛祥霏朕心實深當感允宜敬謹報謝用恭

天庥本月二十八日著仍派恭親王溥偉敬詣

大高殿恭代拈香

時應宮仍派員勒載洵

昭顯廟仍派員勒載潤

宣仁廟仍派員勒毓朗

凝和廟仍派員子銜鎮國將軍載振同於是日分詣

拈香恭行報謝仍冀頻邀

鴻貺膏澤應時以慰農望欽此

軍機大臣署名

臣奕
 臣世
 臣張

臣鹿 臣那

1305 鈐章

光緒三十四年十二月二十七日內閣奉

上諭憲政編查館奏議民政部奏城鎮鄉地方自治並另擬選舉章程一摺地方自治為立憲之根本城鎮鄉又為自治之根基誠非首先開辦不可著民政部及各省督撫督飭所屬地方官選擇正紳按照此次所定章程將城鎮鄉自治各事宜迅即籌辦實力奉行不准稍有延誤尤須將朝廷忠愛閭閻官民共濟之意剴切曉諭使知地方自治乃輔官治之所不及仍統於官治之內並非離官治而獨立之詞周之比閭族黨漢之三老耆夫其來自古惟選舉自治之職負責在州縣而選擇州縣責在督撫官紳皆得其人方能有資效而無流弊此外憲政館奏定各衙門應歸第一年籌辦之事現已據陸續具奏至明年以後所有分年應行籌備各事並著內外各衙門按限妥籌次第舉辦

毋得始勤終懈疲緩延擱以致貽誤實行立憲之期用昭大信而慰民望欽此

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

1306 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨總理外務部事務慶親王奕劻著賞給頭等第二寶星外務部會辦大臣大學士那桐署外務部尚書會辦大臣梁敦彥均著賞給頭等第三寶星外務部左侍郎聯芳署外務部右侍郎那嘉來均著賞給二等第一寶星出使德國大臣蔭昌著賞給頭等第三寶星出使英國大臣李經方出使俄國大臣薩蔭圖出使法國大臣劉式訓出使美國大臣伍廷芳出使日本大臣胡惟德出使和國大

臣陸徵祥出使奧國大臣雷補同出使義國大臣錢恂出使比國大臣李盛鐸均著賞給二等第一寶星欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十七日

1307 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨憲政編查館片奏編輯光緒政要請派館員兼充總纂各差又片奏政治官報局請派編輯校對科員均著依議欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

1308 鈐章

軍機大臣 字寄

兩江總督端 光緒三十四年十二月二十八日奉
上諭有人奏請將湘岸淮鹽加復錢價提充路川作
為湘省公股並減去加價等語著端方按照所陳
各節體察情形妥籌辦理原片著鈔給閱看欽此遵
旨寄信前來

十二月二十七日

臣張

臣鹿

臣那

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

軍機大臣 字寄

著綏遠城將軍信 伊犁將軍長 副都統

廣 副都統札 定邊左副將軍瑩 參贊大

臣車 烏里雅蘇台參贊大臣奎 科布多參

贊大臣溥 辦事大臣錫 庫倫辦事大臣廷

幫辦大臣綱 西甯辦事大臣慶 光緒三十

四年十二月二十八日奉

上諭著歸化城副都統三多奏西北各邊蒙民不識

漢文交通不使請編設半日學堂以開蒙智等語

著信勤長庚廣福扎拉豐阿墮岫申登崇諾木奎

煥溥錫錫恆廷祉綱楚克申林慶恕等體察情形

妥籌辦理原片均著鈔給閱看欽此遵

旨寄信前來

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張 假

臣鹿

鈐章署名原件寄綏遠城將軍信

臣那

光緒三十四年十二月二十八日內閣奉

上諭未蒙寶奏查明各屬秋禾歉收請分別徵緩漕

糧一摺本年安徽省各屬被水被旱被風田畝收

成歉薄本日業經降旨將錢糧分別徵緩以示體

恤若將應徵漕糧照常徵收民力仍有未逮加恩

著照所請所有被災較重之五河縣通境新漕並

泗州之舊虹鄉通境新舊漕糧同盱眙等三十一

州縣應徵新漕及節年災緩舊欠漕米均著分別

流抵緩徵以紓民力餘著照所議辦理該撫即一

併刊刻謄黃並將各該州縣區圖村莊分晰徵緩

詳細刊明徧行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞

弊用副朝廷軫念民艱至意該部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

1311
鈐章

光緒三十四年十二月二十八日內閣奉

上諭朱家寶奏查明安徽各屬秋禾歉收請分別緩徵錢糧一摺本年五河等三十九州縣被水被旱被風秋禾收成均形歉薄若將應徵民衙丁漕各款照常徵收民力實有未逮加恩著照所請將被災各州縣分別輕重緩徵以紓民力該撫即刊刻騰黃偏行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱至意餘著照所議辦理該部知道單併發欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

臣張
臣鹿
臣那

1312
鈐章

光緒三十四年十二月二十八日內閣奉

上諭陳夔龍奏考察屬員分別舉劾一摺湖北江漢關道齊耀珊署武昌府事鄧陽府知府黃以霖署漢陽府事襄陽府知府曹允源署漢陽府事長樂縣知縣李曾麟署黃岡縣事應補知縣熊省署應山縣事漢陽縣知縣滕松署保康縣知縣曹元鼎署天門縣事前署興國州知州羅慶昌既據該督臚陳政績均著傳旨嘉獎署遠安縣知縣周旭祖庇丁役侮辱學界補用同知黃中之戒煙不力巧為掩飾試用知縣譚文定行止不端聲名甚劣署漢陽縣茶甸巡檢東陽縣平林店主薄楊岳芬不知自愛通城縣典史劉雲駒煙癮太重漢陽縣教諭李克欽病癮皆深襄陽縣雙溝巡檢劉廷枋性情暴戾沔陽州鍋底巡檢王旭操守難信漢川縣劉家隔巡檢趙文寶妻靡昏庸江陵縣沙市巡檢李德悅固識廉隅試用典史張圻行止有虧均著即行革職候補知府丁柔克年力衰邁聲名平常著勒令休致公安縣知縣濟生庸懦無能難膺民

社署通山縣事殺城縣知縣陳思象吏治廢弛罔
知振作擬任竹山縣知縣陳瑜瑛聽斷不明才具
竭蹶以上三員文理尚優均著開缺以教職改選
京山縣知縣張受中迂懦無能既視學務麻城縣
知縣劉炳南延勒學款意不在公均著開缺另補
餘著照所請辦理該部知道欽此

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 那

1313 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨明年正月元旦辰初三刻

大行太皇太后几筵前由

監國攝政王代詣行禮王公百官均齊集欽此

軍機大臣署名

1314 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨明年正月元旦辰正一刻

大行皇帝几筵前由

監國攝政王代詣行禮王公百官均齊集欽此

軍機大臣署名

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 那

十二月二十八日

臣 奕

臣 世

臣 張

臣 鹿

臣 那

十二月二十八日

1315 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨禮部奏萬壽聖節

皇極殿

觀德殿是否親詣行禮抑或欽派王公分詣恭代一摺

皇極殿著派恭親王溥偉恭代行禮

觀德殿著派貝勒載潤恭代行禮欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十八日

1316 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨禮部奏

皇太后萬壽聖節服色比照成案請

旨一摺是日朕仍服縞素詣

皇太后前請

安所有王公百官服縞素者仍服縞素其餘均服青長袍

袷欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十八日

1317 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨禮部片奏元旦進內當差之王公大臣文武官

員應穿服色等語現在百日內應縞素者仍服縞

素應青長袍袷者仍服青長袍袷欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世
臣張
臣鹿
臣那

十二月二十八日

1318 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨理藩部奏章嘉呼圖克圖呈請叩謁

大行太皇太后

大行皇帝梓宮並呈進貢物率徒諷經一摺著於正月

初三日叩謁

梓宮呈進貢物在

景山關帝廟諷經欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿

1319 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨理藩部片奏洞闊爾呼圖克圖左人呈進貢物等語著於正月初三日呈進欽此

軍機大臣署名

十二月二十八日

臣那

1320 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨理藩部奏哲布尊丹巴呼圖克圖差人呈進貢物一摺著於正月初三日呈進欽此

十二月二十八日

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十八日

1321 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史徐定超奏振興實業一摺著農工商部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十八日

1322 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨御史黃瑞麒奏興築鐵路徵收各款宜明定期限作為股本一摺著郵傳部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

十二月二十八日

1323 鈐章

光緒三十四年十二月二十九日內閣奉

上諭景厚奏查勘

昭西陵等處工程請派大臣擇要興修一摺著派林紹年敬謹水修欽此

軍機大臣署名

臣奕

假

臣世
臣張
臣鹿
臣那

1324 鈐章

光緒三十四年十二月二十九日內閣奉

上諭恩壽奏特參庸劣不職各員一摺陝西准補佛坪廳同知中庭樞性情褊急縱役虐民於署理富陝廳任內苛罰濫刑屢被控計漢中府經歷楊瑞春嗜好不除故違功令韓城縣教諭郝宗魯品行不端被控有案隴州學正程學孔聲名平常不堪司鐸靖邊縣典史許英啟濫用非刑酷虐自謂宜君縣巡檢童藻任意妄為性非安靜中部縣典史李鑑清扶私妄稟不守官箴臨潼縣丞徐本枝恠率任意久曠職守著一併革職管帶巡防第一隊補用遊擊焦仁常紀律不嚴爭賭釀案袒護哨弁逃匿抗延著暫行革職仍責令將哨長何質彬交出歸案實訊留埔廳同知王懋昭精力就衰難期

振作汧陽縣知縣裴作則年老有疾事多廢弛洋縣知縣朱祖綬懦弱顛預不勝煩劇試署平利縣知縣劉璋毓衰邁顧唐辦事迂緩陽平關州同年炳南小有才能不知檢束著佛坪廳訓導阮大振聲名平常著甘泉縣訓導王棟榮性情懶惰著一併開缺留省察看餘著照所議辦理該部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世

臣張
臣鹿

臣那

1325 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨達壽奏請賞日員寶星一摺著照所請外務部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣

十二月二十九日

臣世
臣張
臣鹿
臣那

1326 鈐章

軍機大臣欽奉

諭旨景厚奏查驗補種行樹相符一片知道了欽此

軍機大臣署名

臣奕
臣世
臣張
臣鹿
臣那

十二月二十九日

1327 鈐章

光緒三十四年十二月三十日內閣奉

上諭增韞奏甄別屬員分別獎懲一摺浙江杭州府

知府卓孝復嘉興府知府楊士燮署湖州府本任

嚴州府知府錫綸署甯波府本任湖州府知府夏

孫桐署台州府同知試用同知吳世欽署海甯州

知州味縣知縣張懷信署龍游縣大挑知縣馮金

恩常山縣知縣王社松署奉化縣試用知縣王蘭

芳署鎮海縣昌化縣知縣鄒鎔署象山縣西安縣

知縣程蘇天台縣知縣杜先佑奉順縣知縣程濟

瀛既據該撫陳政績均著傳旨嘉獎王環廳同

知范慶頤才力竭蹶聲名平常著臨安縣即用知

縣蕭逢源剛愎自用民怨沸騰著太平縣試用知

縣羅濟美辦事操切不洽輿情歸安縣知縣林基

遠嗜酒任性不理公事正任長興縣知縣丁惟晉

性情躁戾措置乖方前在任內濫刑釀命匿不報

案龍泉縣知縣陳海梅操守難信庸懦性成聲名

尤為狼藉著緡雲縣山陰縣知縣葉大章信任丁

胥市權旁落署慶元縣候補知縣涂道康聽斷無

才固知民隱署宣平縣甯海縣知縣張煊才庸識

闇差役弄權候補知縣李如金貪鄙近村辦理海

門楚局縱子苛擾試用府經歷歐珽任性妄為前
 充巡警局差擅作威福桐鄉縣青鎮巡檢趙惟清
 聲名甚方正任歸安縣疎濠巡檢朱為章老而務
 得著太平縣松門司巡檢試用從九品程鵬萬濫
 差滋擾仁和縣典史方奎元辦市租疏臨安縣典
 史陸榮被控有案滔安縣典史熊維翰貪嗜無厭
 遂安縣典史范宗蓮肆行無忌樂清縣典史張廷
 藻受賄有據均著即行革職著定海廳同知石浦
 廳同知龔泰尚年力就衰辦市場贖甯波府通判
 兼署鄞縣知縣蕭福清嗜好甚深難期振作均著
 原品休致青田縣調補蕭山縣知縣李彥銘才具
 平庸難勝繁劇著開缺另補安吉縣知縣鍾大焜
 居心近厚吏事未諳惟文理尚優著以教職歸部
 銓選著孝豐縣候補知縣陳壽彤識短才庸難膺
 民社著以府經歷縣丞降補餘著照所議解理該
 部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

1328
 鈐章

光緒三十四年十二月三十日內閣奉

上諭馮汝駁奏考察屬員賢否據實舉劾一摺江西
 廣饒九南道文炳署吉南贛甯道俞明震署鹽法
 道南昌府知府徐嘉禾南康府知府朱錦署餘十
 縣知縣俞省三署臨川縣知縣毛宗澄署豐城縣
 知縣王濟道署宜春縣知縣王慶大署贛縣知縣
 金保權署上猶縣知縣張元義既據該撫臚陳政
 績均著傳旨嘉獎前署定南廳同知候補通判夏
 濟安工於鑄營大滋物議候補通判高維棟不知
 自愛聲名平常與國縣知縣秦鎔不洽輿情擅離
 職守著廣豐縣試用知縣王萬青乘庚任性苛暴
 擾民試用知縣梁世綸不知檢束有玷官箴試用
 知縣許大綸習為浮滑性耽矜誇候補府經歷李
 長泳謬妄糊塗署萍鄉縣盧漢司巡檢黃德祐屢

臣 張
 鹿
 那

經被控樂安縣招撫司巡檢莫明錡信用丁役著
一併革職上猶縣知縣陳壽琳辦事迂緩難勝邊
要著開缺另補該部知道欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1329 鈐章

光緒三十四年十二月三十日內閣奉

上諭岑春煊電代奏青州按察使常裕在辰州逢次

因病懇請開缺等語常裕著准其開缺回旗調理

欽此

軍機大臣署名

臣奕

臣世

臣張

1330 鈐章

光緒三十四年十二月三十日內閣奉

上諭江西巡撫道員缺著張檢補授勸業道員缺著
傅春官補授欽此

軍機大臣署名

臣鹿

臣那

臣奕

臣世

臣張

臣鹿

臣那

1331 鈐章

光緒三十四年十二月三十日內閣奉

上諭雲南臨安開廣道員缺著易鼎補授欽此

軍機大臣署名

1332 鈐章

光緒三十四年十二月三十日內閣奉

上諭江西饒州府知府員缺著王祖同補授欽此

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

1333 鈐章

光緒三十四年十二月三十日內閣奉

上諭貴州按察使著王正雅補授欽此

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那

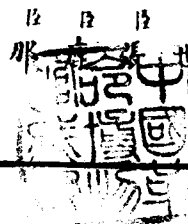
1334 鈐章

光緒三十四年十二月三十日內閣奉

上諭馮汝駿奏查明戒煙不力各員據實糾參一摺
據稱江西撫州府通判宋維英武甯縣典史徐家
駿訪查明確嗜好甚深試用通判濮維巧為檢師
候補直隸州知州胡國春試用知縣周行祐試用
按司獄姚德峻試用府經歷黃毓瑋試用縣丞王
邦瑞葛瑞夏仁澍程世綸補用府照磨黃克章興
國縣衣錦司巡檢張靖傳驗不到有意規避試用
知縣王瑞同補用府經歷范而韓候補從九張葆
和不服檢查肆言無忌著一併革職試用同知戴
鴻達另補知縣周寶琦試用縣丞嚴天驥試用巡

軍機大臣署名

臣奕 臣世 臣張 臣鹿 臣那



檢熊瑞徵精神頹敗難期振作均著以原品休致
餘著照所議辦理該衙門知道欽此

軍機大臣署名

臣 奕
臣 世
臣 張
臣 鹿
臣 那